

2007年度  
日本語教育実習報告書

愛知県立大学日本語教員課程

## 本書刊行にあたって

2007年度の愛知県立大学日本語教員課程の日本語教育実習は、さまざまな意味で特別なものとなった。地域社会で、地域日本語ボランティアとして活動することが授業の基本であることは、従来通りであったが、担当教員の転出により、前期のみ、非常勤講師として、NPO法人保見ヶ丘国際交流センターのメンバーでもある米勢治子先生に急遽お願いした。2名で運営している日本語教員課程の専任教員のうち1名が不在という状況であったため、実習授業担当者ではない東弘子も直接実習の運営に関わった。そのことで、日本語教員課程のありかたも変化したかもしれない。後期になって、新任の宮谷敦美が実習を担当することとなり、学生は実習先での経験のみならずいろいろな形の刺激を受けたのではないかと思う。

また、2007年度は大学が独立法人となったことで、新制度が次々と試行された年でもあった。その中の一つとして「学生自主企画研究」の募集があった。トレリス型の学生自主研究グループとして実習履修生の多くのメンバーによるチームが「相互学習型日本語教育活動が生み出すもの—日本語教育実習の活動から考える—」という研究を提案し採択された。この研究活動では、「労」も「涙」も「叫び声」も「冷や汗」も多くして、絶大な学習成果が得られたはずである。

本書は8冊目の実習報告書である。担当者が変わり新体制となった中で、より一層、地域社会に資する人材育成をめざすものとして、この日本語教育実習を位置づけていきたいとわれわれは考えている。学生に常に「自ら判断する」という課題をつきつけて、報告書の作成をめざした。形式もあらたにし、刊行も年度内へと変更することとした。

本書は以下の4部により構成される。

- 【第1部】 日本語教育実習の記録
- 【第2部】 実習生レポート
- 【第3部】 学生自主企画研究報告
- 【第4部】 私たちの思い

2008年3月

日本語教員課程担当教員 東 弘子

## 謝辞

愛知県立大学日本語教員課程の日本語教育実習の実施にあたり、機関見学および実習生として学生を受け入れて下さったNPO法人保見ヶ丘交際交流センター、(財)海外技術者研修センター(AOTS)、豊田市教育委員会(教育委員会主催「ことばの教室」、豊田市立西保見小学校、豊田市立東保見小学校)、名古屋工業大学国際交流センターのみなさま方、また、学生をボランティアの一員として認め、共に活動する中で学生を育成してくださった地域社会のすべての方々に、心より感謝いたします。

愛知県立大学日本語教員課程担当教員 東 弘子  
宮谷敦美

# 日本語教員課程履修規程

**第1条** 本学学則第47条の規程により、本学の学生で日本語教員課程の履修を希望する者の履修科目及び履修方法は、別に定めがあるもののほか、この規程による。

**第2条** 日本語教員課程を修了するためには、別表の全ての基幹科目の25単位、関連科目のⅠから8単位以上、関連科目のⅡから4単位以上の計37単位以上を修得しなければならない。

**第3条** この課程の授業科目の履修により修得した単位のうち、各学部履修規程により当該学科の授業科目と同一の場合は、卒業単位に算入する。

**第4条** 日本語教育実習の授業に参加するには日本語学8単位以上及び日本語教授法8単位の取得が必要である。

## 附 則

- この規程は平成14年4月1日から施行する。
- 改正後の日本語教員課程履修規程は、平成14年度の入学者から適用し、平成14年3月31日に在学する者については、なお、従前の例による。ただし、再入学、転入学又は編入学をした者については当該者の属する年次の在学者の例による。

## 附 則

- この規程は平成19年4月1日から施行する。

別 表

| 区 分              |   | 授 業 科 目                 | 必要単位数 |   |   |
|------------------|---|-------------------------|-------|---|---|
| 基<br>幹<br>科<br>目 |   | 日 本 語 学 (1)             | 4     |   |   |
|                  |   | 日 本 語 学 (2)             | 4     |   |   |
|                  |   | 日 本 語 学 (3)             | 4     |   |   |
|                  |   | 言 語 生 活                 | 2     |   |   |
|                  |   | 日 本 語 教 授 法 (1)         | 4     |   |   |
|                  |   | 日 本 語 教 授 法 (2)         | 4     |   |   |
|                  |   | 日 本 語 教 育 実 習           | 3     |   |   |
| 計                |   |                         | 25    |   |   |
| 関<br>連<br>科<br>目 | Ⅰ | 国 語 学(注1)               | 4     | 8 |   |
|                  |   | 言語研究入門 (外国語学部共通開設)      | 4     |   |   |
|                  |   | 音声学 (外国語学部共通開設)         | 4     |   |   |
|                  |   | 言語学 (外国語学部共通開設)         | 4     |   |   |
|                  | 計 |                         |       | — | 8 |
|                  | Ⅱ | 日本史学 (近代・現代) (日本文化学科開設) | 4     | 4 |   |
|                  |   | 日 本 文 学 (注2)            | 4     |   |   |
|                  |   | 地 誌(注3)                 | 4     |   |   |
|                  |   | 比較文化 (外国語学部共通開設)        | 4     |   |   |
|                  |   | 日本の政治と経済 (外国語学部共通開設)    | 4     |   |   |
|                  |   | 日 本 文 化 史(注4)           | 4     |   |   |
|                  |   | 心 理 学(注5)               | 4     |   |   |
|                  |   | 社 会 学(注6)               | 4     |   |   |
|                  | 計 |                         |       | — | 4 |

注1 「国語学」に該当するのは、次の授業科目である。国語史、国語概説、国語学各論、国文法論（以上国文学科開設）、日本語学（日本文化学科開設）

2 「日本文学」に該当するのは、次の授業科目である。国文学史、国文学概論、国文学各論（以上国文学科開設）、日本文学（日本文化学科開設）、国語国文学（英文学科開設）及び教育内容論（国語）（児童教育学科開設）

3 「地誌」に該当するのは、次の授業科目である。地誌（日本文化学科開設）、教育内容論（社会）（児童教育学科開設）

4 「日本文化史」に該当するのは、次の授業科目である。日本文化学概論、日本文化史（日本文化学科開設）

5 「心理学」に該当するのは、発達心理学である。（児童教育学科開設科目）

6 「社会学」に該当するのは、次の授業科目である。現代社会論、家族社会学、地域社会学（社会福祉学科開設科目）及び現代日本社会論（日本文化学科開設）

# 目次

本書刊行にあたって

|             |    |
|-------------|----|
| 謝辞          | i  |
| 日本語教員課程履修規定 | ii |

## 【第1部】日本語教育実習記録

### 1. 実習概要

|                          |       |    |
|--------------------------|-------|----|
| 保見が丘日本語教室参加記録            | 伊藤萌   | 2  |
| (財)海外技術者研修協会中部研修センター実習報告 | 金丸和可奈 | 3  |
| 名古屋工業大学日本語教室授業記録(前期)     | 宮崎愛   | 11 |
| 名古屋工業大学日本語教室授業記録(後期)     | 川口美緒  | 12 |

### 2. 見学・特別授業

|                            |       |    |
|----------------------------|-------|----|
| 保見が丘日本語教室見学                | 小谷貴美子 | 16 |
| 学びたい人・伝えたい人・楽しみにしてくれる人がいる！ | 坂田雪恵  | 17 |
| 東保見小学校「ことばの教室」を見学して        | 岩原えり菜 | 18 |
| ことばの教室を見学して                | 篠澤綾香  | 19 |
| (財)海外技術者研修協会中部研修センター訪問記    | 畔柳友香  | 21 |
| AOTSを見学して                  | 北島由衣  | 22 |
| AOTSの見学感想                  | 波多野敦子 | 23 |
| 愛知県国際交流協会日本語教育リソースルーム見学    | 武田由佳  | 24 |
| 日本語教育リソースルーム見学記            | 堀江春奈  | 25 |
| 西保見小学校実践報告会に参加して           | 三品よし子 | 26 |
| 西保見小学校実践報告会の感想             | 長谷川知南 | 27 |

### 3. 実習生の感想

#### 3.1 保見が丘日本語教室

|                        |       |    |
|------------------------|-------|----|
| 実習に大切なこと、伝えたいこと        | 三品よし子 | 31 |
| 保見が丘日本語教室に参加して(子どもクラス) | 岩井朋美  | 31 |
| 保見が丘日本語教室に参加して         | 藤森優   | 33 |
| 保見が丘日本語教室「子どもクラス」に参加して | 森本久美子 | 35 |
| 保見が丘日本語教室に参加して         | 高倉由紀  | 36 |
| コミュニケーションが生まれる場所       | 桑原知恵  | 37 |

#### 3.2 名古屋工業大学日本語教室

|                    |      |    |
|--------------------|------|----|
| 名古屋工業大学の日本語教室に参加して | 中山由美 | 40 |
|--------------------|------|----|

|                                |       |     |
|--------------------------------|-------|-----|
| 名古屋工業大学家族向け日本語教室実習の感想          | オウシン  | 41  |
| 名古屋工業大学で実習して                   | 夏目寿三代 | 42  |
| 3-3. (財)海外技術者研修協会中部研修センター日本語教室 |       |     |
| AOTSの実習に参加して                   | 金丸和可奈 | 45  |
| 3-4. 東保見小学校「ことばの教室」            |       |     |
| 「ことばの教室」に参加して                  | 神谷美法  | 46  |
| 【第2部】実習生レポート                   |       |     |
| 日本語母語話者の言い換えについての分析            | 伊藤萌   | 49  |
| ボランティアの説明のしかたについて              | 岩井朋美  | 55  |
| 相手に伝えるために何をしているかーボランティアの言い換えー  | 岩原えり菜 | 60  |
| トピックおよび会話の流れによる学習者の発話量         | オウシン  | 63  |
| 学習者のコード・スイッチングー母語、媒介語への切り替えー   | 金丸和可奈 | 66  |
| ボランティアは学習者が理解していないとき言いかえをしているか | 神谷美法  | 72  |
| なぜ「繰り返し」は起こるのか                 | 河口美緒  | 77  |
| よりわかりやすく伝えるために                 | 北島由衣  | 82  |
| コミュニケーション・ストラテジーとティーチャートーク     | 畔柳友香  | 85  |
| 学習者の発話を促す聞き方は何か                | 桑原知恵  | 90  |
| 自分の発話の特徴                       | 小谷貴美子 | 93  |
| 会話における学習者の聞き返しから見る話題への興味       | 坂田雪恵  | 96  |
| どんなときに媒介語を使っているか               | 篠澤綾香  | 101 |
| 話題が移り変わる際に見られる特徴について           | 高倉由紀  | 104 |
| ボランティアと学習者はどのように伝え合うのか？        | 武田由佳  | 107 |
| 学習者にわかるように伝える方法                | 中山由美  | 111 |
| コミュニケーション・ストラテジーの使用について        | 夏目寿三代 | 114 |
| 使う人と対象・状況によって生じる語尾の違い          | 長谷川知南 | 118 |
| 日本語実習の音声分析ー訂正の必要性和そのデメリットー     | 波多野敦子 | 123 |
| 入門クラスにおける交流活動ー失敗から見えてくるものー     | 藤森優   | 127 |
| 話題の移り変わり                       | 堀江春奈  | 131 |
| ボランティアのコミュニケーション・ストラテジー        | 三品よし子 | 135 |
| 入門クラスにおける話題シラバスによる進行           | 宮崎愛   | 140 |
| 創作活動をメインとした教室活動                | 森本久美子 | 144 |
| 保見が丘日本語教室の会話分析                 | 山田めぐみ | 146 |

### 【第3部】学生自主企画研究報告

|                                                |     |
|------------------------------------------------|-----|
| 相互学習型日本語活動が生み出すもの -日本語教育実習の活動から考える-            | 150 |
| (『平成 19 年度愛知県立大学学生自主企画成果報告書』 pp. 591-631 より転載) |     |

### 【第4部】私たちの思い

|                                |     |
|--------------------------------|-----|
| 実習をふりかえって                      | 182 |
| 私の異文化体験                        | 184 |
| 実習生川柳 ～よみがえる記憶～                | 185 |
| 実習生に聞きました「この 1 年の実習を漢字一字で表すと？」 | 186 |
| この実習で出会った学習者やボランティアの出身は？       | 188 |

# 【第1部】 日本語教育実習記録

## 1. 実習概要

保見が丘日本語教室参加記録

伊藤萌

(財)海外技術者研修協会中部研修センター実習報告

金丸和可奈

名古屋工業大学日本語教室授業記録(前期)

宮崎愛

名古屋工業大学日本語教室授業記録(後期)

川口美緒



# 保見が丘日本語教室参加記録

外国語学部フランス学科 伊藤萌

## 1. 見学説明会

見学説明会は、2回にわけて行なわれた。

4月15日 16名参加

4月22日 11名参加

## 2. 月ごとの参加人数

| 月   | 教室開催回数 | 参加人数：延べ数 | 月あたり平均参加回数／1人 |
|-----|--------|----------|---------------|
| 4月  | 2回     | 26人      | 0.96回         |
| 5月  | 4回     | 55人      | 2.12回         |
| 6月  | 4回     | 60人      | 2.31回         |
| 7月  | 4回     | 44人      | 1.69回         |
| 8月  | 3回     | 26人      | 1回            |
| 9月  | 5回     | 40人      | 1.54回         |
| 10月 | 3回     | 25人      | 0.96回         |
| 11月 | 3回     | 28人      | 1.08回         |
| 12月 | 2回     | 23人      | 0.88回         |
| 1月  | 4回     | 26人      | 1回            |
| 2月  | 4回     | 21人      | 0.81回         |
| 合計  | 38回    | 374人     | 14.4回（通年あたり）  |

## 3. イベント参加人数

- ・七夕祭り（7月8日実施） 15人参加
- ・富士山登山（8月26日実施） 1人参加
- ・防災祭り（10月21日実施） 11人参加
- ・ふれあい祭り（11月11日実施） 12人参加
- ・AED講習（12月9日実施） 6人参加
- ・クリスマス会（12月23日実施） 13人参加

# (財) 海外技術者研修協会中部研修センター実習報告

外国語学部フランス学科 金丸和可奈

## 1. 概要

2007年12月5日(水)から12月24日(月)の間7回にわたり、AOTSのボランティア日本語クラスで実習を行なった。この実習は、まず、各グループがそれぞれのテーマに沿って教案を作成し、自ら90分間のクラス活動を作り上げることから始まった。またAOTSの研修生(日本語学習者)が、普段の授業とは異なる、教科書を使わない自由会話のスタイルの活動を行うことにより、日本人ボランティアと交流できることが企図されていた。

活動に際し、AOTSボランティア日本語クラス担当者より期間内で活動日を6~7回に分けること、また各回のおおまかな活動内容をあらかじめ知らせてほしいとの希望があった。そこで3名から5名の実習生を1グループとし、活動のアウトライン作成に取りかかった。このとき、研修生の日本語レベル、国籍、性別等の情報がなかったために、後で柔軟に対応できるような活動内容に設定することを心がけた。そしてコーディネーターが各回の授業計画を担当者に連絡した後、各回の参加予定研修生の人数、国籍が知らされたので、活動当日にむけて教案の見直しや教材作成を進めた。

## 2. 日程

| 日時                       | 担当                      | テーマ                |
|--------------------------|-------------------------|--------------------|
| 12月6日(木)<br>19:00~21:00  | 小谷貴美子、北島由衣、岩井朋美         | お正月 その1            |
| 12月7日(金)<br>19:00~21:00  | 神谷美法、堀江春奈、畔柳友香          | 音楽について             |
| 12月8日(土)<br>14:00~16:00  | 高倉由紀、長谷川知南、山田めぐみ、伊藤萌    | 生活に役立つ便利グッズ・発明品    |
| 12月11日(火)<br>19:00~21:00 | 桑原知恵、波多野敦子、金丸和可奈        | ディベート<br>~おしゃべり戦争~ |
| 12月17日(月)<br>19:00~21:00 | 河口美緒、王シン、坂田雪恵、三品よし子、宮崎愛 | 結婚式について            |
| 12月22日(土)<br>14:00~16:00 | 藤森優、岩原えり奈、篠澤綾香、中山由美     | 一日の過ごし方            |
| 12月24日(月)<br>10:00~12:00 | 森本久美子、夏目寿三代             | お正月 その2            |

## 3. 活動報告

### ① 12月6日

担当：小谷貴美子、北島由衣、岩井朋美

日本語学習者：タイ人 2 名、ベトナム人 2 名

テーマ：お正月 その 1

活動内容

- ・ 自己紹介
- ・ お正月の説明と日本のお正月の過ごし方の紹介
- ・ タイ・ベトナムのお正月の過ごし方の紹介
- ・ 「お正月は特別な日」ということで、各国の特別な日(祝日・お祭り etc.)を模造紙に書いて発表：各国の特別な日にまつわる慣習やしきたりを紹介

担当者の感想

- ・ しまったと思ったのは、模造紙に書くときに漢字を使っていたことです。あとで振り仮名をふりましたが、もっと気にしなければ、と思いました。読めなくて「なんて書いてあるの？」という反応があったので。あっというまの 2 時間でした。最後に「楽しかったです、ありがとう」と言ってくださいました。私も、タイ、ベトナムのことを知ることができ、すごく楽しい時間をすごせたので嬉しかったです。学習者が 4 人というのもあり一人一人の声が聞けてよかったです。最後に記念撮影をしたので現像して渡したいと思います。またいろいろ話したいなと思いました。(小谷)
- ・ とても楽しい雰囲気でした。学習者の方は 4 名とも日本語が上手で、私の言うことをほとんど理解していました。ずっと笑っぱなしで、学習者の方同士も打ち解けていたようで本当に楽しい 2 時間でした。あまり仕切ろうとせず自然の流れに沿って活動を進めていったので話が途切れることがなく、私はこれがよかったのではないかと思います。交通の便がよければぜひまた参加したいです・・・。(北島)
- ・ 18 時半過ぎに AOTS に着き、3 人でドキドキそわそわしていましたが、19 時ちょっと前に学習者の方たちが続々とやってきて、19 時には時間通り始められました。ホワイトボードに普通のマジックで書いてしまうというアクシデントもありましたが、私自身も本当に楽しいクラスでした。教案どおりにはできなかつたり、一生懸命作った教材も使わなかつたりしましたが、学習者が少なかったこともあって、みなさんたくさん話してくれましたし、たくさんメモを取りながら話していたので、きっと多くのものを学んでくれたと思います。(岩井)

## ② 12 月 7 日 (金)

担当：神谷美法、堀江春奈、畔柳友香

日本語学習者：タイ人 9 名、中国人 4 名

テーマ：音楽について

活動内容

- ・ 自己紹介
- ・ 日本の音楽紹介 (邦楽 CD を聴く)
- ・ 小グループに分かれてのフリートーク

担当者の感想

- ・ 人数が多く、また、予想していた反応（知っている歌手など）が違っていたので、最初はあせりましたが、ボランティアが3人ということで、少人数でフリートークになりました。内容はグループで異なっていましたが、とても盛り上がっていたと思います。指導案どおりにはいきませんでした。結果的には、私たちも学習者も、お互いの国についてなどいろいろ話すことができ、楽しい時間が過ごせました。（神谷）
- ・ AOTS の学習者は学習意欲がとても高く、「先生」という存在であることを望まれている気がしました。けれど、教案通りに授業を進めることができなかつたことで焦りと緊張を感じて、戸惑ってばかりいて、学習者と向き合うことを一番に考えられなかつたということが反省点です。しかし、学習者の方が日本語で沢山話しかけてくれたおかげで、フリートークは楽しく会話できました。学習者の方が楽しそうに話してくれたことが印象に残っています。（堀江）
- ・ 教案は用意して行つたのですが、人数の多さと大勢の人前に立つた緊張もあり、全く教案どおりに進めていくことができず、焦ってしまいました。「学習者は、いくつかの活動テーマの中から私たちのテーマを選んでくれたのだから、このテーマからはずれてはいけない」と必死になっていましたが、結局小グループのフリートークに切り替えることで学習者と話す機会が増えて、テーマに関わらず楽しい時間が過ごせたと思います。時には教案に忠実になるよりも臨機応変に対応することも大切だと思います。（畔柳）

### ③ 12月8日

担当：伊藤萌、高倉由紀、長谷川知南、山田めぐみ

日本語学習者：中国人4名、タイ人4名、ベトナム人4名

テーマ：お正月

活動内容

- ・ 用意したグッズを見せ、何に使うものなのかを考えてもらう
- ・ 実際に使ってみてもらう
- ・ 何が一番欲しいと思ったかを言ってもら

担当者の感想

- ・ 私達のグループは技術を学びに来た人たちだから技術系に興味があるのではないかとということで「生活に便利なもの」というテーマでクラス活動をしました。私達が持ってきた便利グッズを見て、どう使うものか実際に使ってみようというものでしたが、私が想像していた以上に多くの人が集まってくれたので、最初は緊張して何を話していいのかわかりませんでした。しかし参加してくれたみなさんがすごく興味深そうに私達の話にうなずいたり質問したりしてくれたのでよかったと思います。何人かの人に話を聞いたところ、日本に来る前に日本語の勉強をしていた人が多いみたいでみなさん日本語がとても上手でした。説明に困った単語は「角質」ぐらいで他は大体通じていたと思います。途中で休憩時間を取りましたがそのときに「あなたは何を勉強していますか？」とか「遊びに行くのはどこがいいですか？」などの質問をされましたが、あまり時間がなかつたのできちんと答えられなかつたのが残念でした。私自身ももっと日常会話をしたかったなあと少し思いました。でも私達の持ってきたもの

を見てすごく驚いていたり「欲しい！」という言葉聞いてとてもうれしかったし、私自身楽しい時間を過ごせました。(高倉)

- ・ テーマは「生活に役立つ便利グッズ・発明品」でした。わたしたちが日本にある便利なものやアイデア商品を持って行って、何に使うか考えてもらったり、実際に使ってみるというものでした。いろいろなものをボランティアの4人で分担して持って行きました。小物用の洗濯物干し、ホッカイロ、冷えピタ、洗濯ネット、シュレッダーばさみ、ストロー付きのペットボトルのふた、入浴剤、糸ようじ、圧縮袋、かかとの角質取り、布団用の洗濯ばさみ・・・など、たくさんの物がありました。ボランティアが交代で、一つずつ順番に物を見せて、考えてもらったりしながら説明していました。そして、学習者が手にとって見られるように回していってもらいました。学習者の人は日本がとても上手な人が多かったです。実際に物を見ながらだったこともあって、まだそこまで日本語ができない人にもちゃんと言いたいことが伝わっていたと思います。一人のタイの人は、100円ショップで日用品を見るのが好きでよく行くようで、何でも分かってしまいました。でも、その人以外は、意外にどれも知らないようでした。みんなとても興味を持ってくれました。特に圧縮袋は、自分の国に帰るとき便利だから欲しいと言っていた人がたくさんいました。ホッカイロは、これから日本は寒くなるので便利だから欲しいと言っている人がいました。また、あるタイの人は、タイは暑いので冷えピタを持って行きたいと言っていました。お土産の参考にもなったみたいで良かったです。入浴剤のときに温泉の話になりました。ほとんどの人がまだ行ったことがないと言っていました。でも興味があって行ってみたいようで、温泉の行き方を聞かれました。机は「ロ」の字に並べて、みんなの顔が見られるようにしました。いつもの保見の教室での話し合いとは違って、学習者・ボランティア合わせて16人もいたので、初めは一人ひとりがちょっとしゃべりにくい感じかなあと思いましたが、始まってみるとそうでもありませんでした。最後の方に15分くらい休憩を取りましたが、「前にいろんな物が置いてあるので、興味ある人は見に来てください。」と言ったら、全員がいろんな便利品が置いてある前の机の所に集まってきました。相手の国のことや仕事のこと、日本での生活についてなど、たくさん話もできて良かったです。最後に感想を聞いたら、日本のいろんな便利なものを知ることができて面白かった、と言ってくれる人がたくさんいて良かったです。私自身とても楽しかったです。(長谷川)

- ・ 私たちのテーマは「生活に役立つ便利グッズ・発明品」でした。持参したグッズのほとんどが100円で手に入る身近なものでした。参加者が次々と集まってくる中、緊張も増していきました。簡単にみんなで自己紹介をした後、クイズ形式で何に使う物なのかを当てていってもらいました。分かった人が発言をする形式だったので、参加者の発言量にばらつきがおきてしまいました。発言することをためらっている人もいたようです。参加者がいちばん興味を持ってくれたグッズは圧縮袋だと思います。空気が戻らない仕組みが不思議なようでみなさんいじっていました。帰国時には買いたいといってくれた方も何人かいます。誰も正解が分からなかったのはかかとの角質をとる商品です。これは私が持っていったのですが、他のボランティアの方も分からず、難問でした。女性の参加者に人気でした。入浴剤や寝ながらにして電気を消す為の紐

は生活スタイルの違いから、すぐには答えが分からなかったようです。今回のテーマのメインはグッズ紹介でしたが、それに付随して日本の文化も紹介することができました。温泉にはぜひとも行ってもらいたいです。最後に参加者の皆さんに感想を一言ずつ伺いました。「楽しかった」「これを機に、日本のいろんなものをみていきたい」などと言ってくれました。振り返ってみれば2時間はとてもあっという間でした。日本滞在中に技術だけでなく、自分の国とは違った生活を楽しんでもらえたと思います。(山田)

- ・ 2時少し前から学習者の方が少しずつ来てくださり、名札を用意したり、とても日本語が上手だったので「いつ日本にきたんですか？」とか「日本語をどれくらい勉強されたんですか？」という質問をしたりしつつ、全員が集まるまでの時間を過ごしました。一つずつ用意したグッズを紹介していったのですが、1人すべてを知っている方がいて、ちょっと焦りました。わかった方には申し訳なかったですが、他の方に考える時間を取っていききました。人によって話してもらう機会が思ったより少なくなっただけでしたが、感想や欲しいと思ったものを聞いたときには自分なりに答えてくださったので良かったのかな、と思いました。私達が便利だと思ったものを紹介したのですが、学習者の人達の生活には合っていないものもあり、そういう点で私の勉強にもなりました。寝たまま電気を消せる延長コードを紹介したときに「なまけもの」という言葉が出てきて、思わず笑ってしまいました。確かに、何でもあつて便利＝怠け者なのかも知れません。学習者の人に逆に「日本になくて不便な物はありませんか？」と聞いたところ、中国の方は「餃子を作る道具」(日本にも大きいお店にはありますが…)で、他の方は「特にない」とおっしゃっていました。とっさに思いつかなかったただけなのか、本当に何でもある「なまけもの」の国なのか…と考えてしまいました。休憩時間にはいろいろなお話もできて、全体的にとっても楽しい時間でした。本当にいい体験ができたと思います。(伊藤)

#### ④ 12月11日

担当：桑原知恵、波多野敦子、金丸和可奈

日本語学習者：タイ人1名、中国人2名、ベトナム人3名

テーマ：ディベート ～おしゃべり戦争～

活動内容

- ・ 自己紹介
- ・ イヌ派 VS ネコ派の例でディベートの説明
- ・ アンケートをとり、お題を「都会暮らし派 VS 田舎暮らし派」に決定
- ・ チームで作戦会議
- ・ ディベート開始
- ・ 自由会話
- ・ 授賞式

担当者の感想

- ・ 私たちの当初の心配（意見がでるか、難しくないか など）を吹っ飛ばす、学習者のかたの活発さに圧倒されました。それから6名中2名の女性陣、強し。男性にも反

論して、どこでも今は「女は強いなー」と思いました。あっという間に時間が過ぎ、最後にアオザイを着た女性のキーホルダーをいただきました。(桑原)

- ・ディベートがスタートし、初めは挙手をしてもらっていましたが、途中から学習者同士がディベートをする形となり、とても盛り上がりました。想像以上にボランティアのレベルは高く会話が尽きることはありませんでした。楽しいひと時を過ごせ参加できてよかったです。(波多野)
- ・ディベートでのおもしろい意見としては、田舎派の「田舎には名医がいる！」(本当にすごい医者は大きな組織に属さず、田舎で開業をするそうです)や、都会派の「夢が実現できる場所だ！」(ちょっと詩的です。)といったものがありました。ただ意見を言うだけでなく、みんな自然と相手の意見に質問したり、反論したりしていました。おかげで始終笑ったり、ブーイングしたりとワイワイ話し合うことができました。(金丸)

#### ⑤ 12月17日

担当：河口美緒、王シン、坂田雪恵、三品よし子、宮崎愛

日本語学習者：中国人6名、タイ人8名

テーマ：結婚式について

活動内容

- ・全員で自己紹介(名前・出身・既婚か未婚か・好きなタイプ)をする
- ・プリントを配り、隣の人同士で質問しあう
- ・プリントは既婚者用・未婚者用に分け、どこで結婚したか・いつ結婚したか・ハネムーンはどこに行ったか・子供は何人欲しいか・結婚後奥さんは働いて欲しいか(未婚者は自分の希望)を質問しあう
- ・名札を混ぜて5つのグループで自由に会話をする
- ・コブクロの「永遠にともに」を流し、サビの部分の説明して全員で歌う
- ・グリーンの「愛唄」をかけながら記念撮影をする

担当者の感想

- ・授業は夜7時から9時で、遅くにも関わらず参加してもらって本当嬉しいです。ボランティアのみなさん、時間ギリギリだったり、プリントに不備があったり、ペンを間違えたり、授業中ばたばたしてしまって本当にすいませんでした。(河口)
- ・最初私たち5人のボランティアが自己紹介しました。授業は「結婚」というテーマで、学習者たちに「未婚か、既婚か」について聞きました。そのあと、グループ分けして、事前に用意した調査表に、お互いのことを質問しあったことを書きました。各グループは楽しそうに話していました。AOTSの学習者たちはみんな仕事をしている方なので、フリートークになると、やはり仕事の話が多かったです。そのあと、学習者に発表してもらいました(相手について)。最後に、日本の結婚式で人気の歌、コブクロの「永遠にともに」を聞きました。学習者たちもその素敵な歌にひかれたようでした。AOTSでは、構造シラバスの授業が多いので、学習者たちが喋る機会は少ないようです。今回の授業でフリートークや発表などを設けたことで、好評を得ました。すごく励ましてくれました。(王)

- ・私が印象的だったのは「働いて欲しいですか」という質問で、中国の男性の方は奥さんにも働いて欲しいという方が多く、タイの男性の方は働いて欲しくない、とか相手の意 思を尊重する、という方が多く感じたことです。日本もそうですが、国によって違いがあるな、と思いました。みなさんかなり勉強していらっしやって、楽しい時間を過ごすことができました。少しでも日本語を「使う」時間を提供するお手伝いになったのなら、よかったかなと思います。(坂田)
- ・みんな男性かと思っていたのですが、女性も2人いたことが意外でした。そのうち1人の方は、「子どもは何人ほしいか？」という質問にサッカーチームを作りたい(11人)と答えてくれました。世界中にそういう方がいるのかとも思いました。レベルにバラつきはあるものの、質問シートには、みんな全項目に答えてくれていたし、賑やかで楽しく活動できたのでよかったです。タイは、とても美しい場所だと聴き、お勧めスポットも教えていただいたので、すごくタイに行ってみたくまりました。(三品)

## ⑥ 12月22日

担当：藤森優、岩原えり奈、篠澤綾香、中山由美

日本語学習者：ベトナム人4名

テーマ：一日の過ごし方

活動内容

- ・自己紹介
- ・「一日の過ごし方」の導入
- ・一日の過ごし方を全員で話す
- ・質問を書いて箱に入れ、ひいた質問に答える

担当者の感想

- ・学習者の皆さんが毎日19、20時位から0時、遅い時は深夜2時位まで宿題をしているときいて、毎日日本語漬けで勉強している皆さんに頭が下がりました。そして自分もそんな風に頑張らなければ！と思いました。学習者の皆さんは、ボランティアが答える時はかなり質問攻めでした。「何ですか?」「どこですか?」「誰と行きますか?」等つつこんだ質問に、ボランティアがとまどってしまうくらいに…。私達も気づいてないけど、学習者をそんなふうに質問攻めにしていたのかな…。でも、わきあいあいと楽しくお話できました。みなさんが家族思いだというのがよくわかりました。ベトナムのこともたくさん知ることができて良かったです。(藤森)
- ・学習者の方は日本にきてあまり時間がたってないのに、みなさん日本語のレベルが高いことにびっくりしました。また宿題を夜遅くまでやっていると聞いて、仕事のために毎日必死で勉強していて、すごいと思いました。始まる前、2時間は長いと思っていましたが、学習者の方からもいろいろ質問してくれて、話が途中で止まってしまうということがありませんでした。気づいたら終わりの時間も過ぎてしまっていて、2時間がすごく短く感じました。ベトナムについてもたくさん聞くことができて、すごく楽しい時間でした。(篠澤)
- ・導入の際、こちら側の発信だけになってしまうのでは…と心配でしたが、学習者の方からも途中でたくさんの質問をしてもらい、お互いいろいろ聞きながら楽しく進める



ことができました。全員が全員に質問しあっていて、和気あいあいとして良かったと思います。始まる前は2時間も何をすればいいんだろうと不安でしたが、学習者の方はとても積極的で、話が途切れることもありませんでした。また、私も普段ベトナムの方と接する機会がないので、ベトナムのことについてたくさん聞くことができました。気づいたら終わりの時間も過ぎてしまって、あっという間の2時間でしたが、新しい話がたくさん聞けてとても楽しかったです。（岩原）

- ・みなさんは「こういうとき日本語ではどうなのか？」とかよく質問したり、会話中でも知らない表現があるとノートにメモをしたりしていて、本当に勉強熱心だなあと感心しました。だから学習期間が短くてもこれだけ習得できたのだろうと思いました。学習者の方の一人に、「日本では何歳くらいから新聞が読めるのか？」と質問され、どうしてかなあと思ったら、言語習得の難易度を、新聞が読めるようになる年齢で判断していました。それが印象的でした。2時間のクラスなんて、時間をもてあますのではないかなと思っていましたが、休憩を挟んで、ちょうどいいくらいでした。沈黙の時間があつたら…と心配もしていたけれど、会話もとぎれることなく進んでいったので、良かったと思います。学習者の4人が楽しかったと思ってくれたのなら嬉しいです。（中山）

#### ⑦ 12月24日

担当：森本久美子、夏目寿三代

日本語学習者：中国人1名、ベトナム人3名

テーマ：お正月 その2

活動内容

- ・ 自己紹介  
出身地(ベトナムのホーチミンやハノイ)の気候、食べ物について  
会社や仕事について
- ・ 日本の年末ジャンボ宝くじ、年賀状のお年玉くじについて
- ・ 自由会話

担当者の感想

- ・ 今までベトナムについては、旅行のパンフレットに載っている写真のイメージしか持っていなかったことに気付きました。南北に長いベトナムでは、南部のホーチミンと北部のハノイとでは気候だけでなく、味の傾向も違うようです。考えてみれば日本も同じですが、直接話してもらえると、印象に残りますね。皆さん、日本語の勉強は1年位なのに本当に上手で、いったいどれ程の努力をされたのだろうと思いました。連休中に、たくさん宿題が出ているようで、忙しそうでしたが、皆さん明るく、楽しい会話ことができました。（森本）
- ・ 宝くじの話では、みなさん、2億円があたったら、家や車を買おうとおっしゃっていました。ベトナムでは、車を買おうと100パーセント課税されるそうで、とても高い！と言っていたのが印象的でした。また、車関係の仕事をしていらっしゃる方に、エンジンや車のフォルムについて質問すると、詳しく説明してくれ、車への情熱が伝わってきました。「言葉」だけではなく、「気持ち」があれば言いたいことは相手に伝わる、と実感できた場面でした。

みなさん、日本語の勉強を初めてまだ数ヶ月とおっしゃっていましたが、本当に日本語が上手で、ものすごく勉強していらっしゃるんだろーなと思いました。みなさん優しい方で、緊張することなく、あっという間の2時間を過ごすことができました。(夏目)

## 名古屋工業大学日本語教室授業記録（前期）

外国語学部英米学科 宮崎愛

### 1. 実習の概要

期間：2007年5月14日～7月9日

時間：毎週月曜日 10:30～12:00

担当者：夏目寿三代、王シン、河口美緒、宮崎愛

学習者：6人（インドネシア1人、インド1人、エジプト1人、中国3人）

### 2. 活動報告

| 月日<br>テーマ       | 目標                                     | 授業内容                                                                          | 教材・教具                |
|-----------------|----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| 5月14日<br>自己紹介   | スーパーで買いたいものを入手することができる                 | 野菜などの一般食品の名前を覚える<br>スーパーでのお買い物時の疑問を解決する                                       | チラシ                  |
| 5月21日<br>病院へ行く  | 体の部位を覚える<br>病気やけがを説明できる<br>診察券・薬の袋が読める | 病状を絵カードで説明する<br>問診表を配り、その語彙や定型文を説明する<br>診察券・薬の袋を見せて、その語彙を説明する<br>問診のロールプレイをする | 自作プリント<br>診察券<br>薬の袋 |
| 5月28日<br>電話をかける | 電話で言いたいことが言える<br>伝言ができる                | 場面を想定し、学校のことについてのよくある話を書き出し、プリントにする<br>電話を取る練習をするロールプレイをする                    | 自作プリント<br>絵カード       |

|                 |                                 |                                   |                   |
|-----------------|---------------------------------|-----------------------------------|-------------------|
| 6月4日<br>道の尋ね方1  | 道が尋ねられるようになる                    | 道を尋ねるときに使えるような言葉を覚える<br>ロールプレイをする | 手書き地図<br>自作プリント   |
| 6月11日<br>道の尋ね方2 | 道の尋ね方を復習する<br>簡単な形容詞で自分の気持ちを表せる | 道案内の語彙を復習する<br>ロールプレイをする          | 自作プリント<br>(道の尋ね方) |
| 6月18日<br>家族     | 自分の家族について話せる                    | 写真や絵カードを使い、自分の家族を紹介する             | 写真<br>絵カード        |
| 6月25日<br>地図を描く  | 自分の家への道案内ができる                   | 家の近所の地図を描き、行き方を説明する               | 地図                |
| 7月2日<br>七夕の話    | 七夕の行事を知る                        | 七夕の話をして、短冊を作り、願いごとを発表する           | 短冊                |
| 7月9日<br>休みの日    | 自国の休日の過ごし方を紹介できる                | 夏休みで、各自の予定について話し合う                | なし                |

## 名古屋工業大学日本語教室授業記録（後期）

外国語学部英米学科 河口美緒

### 1. 実習の概要

期間：2007年10月15日～2008年1月27日

時間：毎週月曜日 10:30～12:00

担当者：夏目寿三代、中山由美、河口美緒

特別参加 桑原知恵（11月5日）、伊藤萌（11月19日）

学習者：8人（アフガニスタン2人〔A・B〕、インド2人〔C・D〕、イギリス1人〔E〕、中国3人〔F・G・H〕）

使用教科書：『Japanese for Busy People Kana Workbook』 講談社インターナショナル  
『旅の指差し会話帳』 情報センター出版局

### 2. 活動報告

| 月日<br>テーマ             | 目標                                                                                                          | 授業内容                                                                                           | 教材・教具                                                                             |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 10月15日<br>自己紹介        | 簡単な自己紹介ができる                                                                                                 | 自己紹介<br>夏休みの思い出を話す                                                                             | なし                                                                                |
| 10月22日<br>日本語使用       | 授業でよく使う言葉<br>が言える（例：わかり<br>ましたか？）<br>ひらがなが読める<br>夏休みの話ができる<br>日常生活の話ができる<br>簡単な日本語が言え<br>る（例：おはようご<br>ざいます） | 全員：プリントを読む<br>学習者A：ひらがなの練習<br>学習者F：夏休みにしたことを<br>話す<br>学習者D、G：日常生活につい<br>て 話す<br>学習者B：会話帳を使って話す | 自作プリント（よ<br>く使う言葉）<br>写真カード（日常<br>生活）<br>指差し会話帳（ダ<br>リ語）<br>ひらがな教科書               |
| 10月29日<br>買い物         | 買い物について話せ<br>る                                                                                              | プリントを中心に話す<br>学習者A：ひらがなの練習<br>挨拶・数の導入                                                          | 自作プリント（買<br>い物）<br>チラシ<br>エコバック<br>ポイントカード<br>カレンダー<br>ひらがな教科書<br>絵カード（朝・昼・<br>夜） |
| 11月5日<br>料理<br>/先週の復習 | 料理について話せる<br>先週の復習をする                                                                                       | 学習者C、D、E：料理について<br>話す<br>学習者A・B：ひらがなテスト、<br>会話帳を使って話す                                          | 自作プリント（ひ<br>らがな）<br>指差し会話帳（ダ<br>リ語）                                               |
| 11月12日<br>旅行          | 道を尋ねることがで<br>きる<br>旅行について話せる                                                                                | ロールプレイ<br>（例：〇〇はどこですか）<br>旅行について話す<br>（例：今年どこに行きました<br>か）                                      | 自作プリント（道<br>の尋ね方）                                                                 |
| 11月19日<br>病院/風邪       | 病気/風邪の症状を<br>伝えることができる                                                                                      | ロールプレイ<br>（例：〇〇が□□んです）<br>病気について話す<br>（風邪のとき、どうしますか）                                           | 自作プリント<br>（症状・医者との<br>会話）                                                         |
| 11月26日<br>電話          | 緊急時に電話をかけ<br>られる                                                                                            | ロールプレイ（例：火事です）<br>緊急時について話す<br>（防災グッズは家にあります）                                                  | 自作プリント<br>（緊急時の会話・<br>防災グッズ）                                                      |

|                            |                                |                                            |                                                   |
|----------------------------|--------------------------------|--------------------------------------------|---------------------------------------------------|
|                            |                                | か)                                         |                                                   |
| 12月3日<br>料理・助数詞            | 料理について話せる<br>助数詞が言える           | プリントを中心に話す<br>(先週みんなで食べた蒸しパン、覚えていますか)      | 自作プリント<br>(蒸しパンのレシピ)<br>助数詞のプリント                  |
| 12月10日<br>今年の思い出<br>/来年の予定 | 今年の思い出・来年<br>の予定を話せる           | プリントを中心に話す<br>(例:○月は何をしましたか)               | 自作プリント<br>(今年の出来事)<br>カレンダー                       |
| 12月17日<br>年末・年始            | 日本の大晦日とお正月<br>を知ってもらう<br>年賀状作成 | プリントを中心に話す<br>(例:お正月にすること・神社に行く)<br>年賀状を作る | 自作プリント<br>(大晦日・元旦に<br>すること・干支)<br>年賀状 色鉛筆<br>スタンプ |
| 1月7日<br>おしるこ作り             | おしるこ作り                         | 冬休み中の話をする<br>おしるこを作る                       | 自作プリント<br>(おしるこのレシピ)<br>おしるこの材料<br>調理器具           |
| 1月21日<br>100均グッズ           | 100均グッズについて話せる                 | 100均グッズについて話す                              | 100均グッズ<br>(ソックタッチなど)                             |
| 1月28日<br>料理                | 自国の料理について話せる                   | 自国のレシピを紹介し合う<br>日本料理を食べる                   | 自作プリント<br>日本料理<br>(漬物など)                          |

## 2. 見学・特別授業

保見が丘日本語教室見学

小谷貴美子

学びたい人・伝えたい人・楽しみにしている人がいる！

坂田雪恵

東保見小学校「ことばの教室」を見学して

岩原えり菜

ことばの教室を見学して

篠澤綾香

(財)海外技術者研修協会中部研修センター訪問記

畔柳友香

AOTS を見学して

北島由衣

AOTS の見学感想

波多野敦子

愛知県国際交流協会日本語教育リソースルーム見学

武田由佳

日本語教育リソースルーム見学記 堀江春奈

西保見小学校実践報告会に参加して

三品よし子

西保見小学校実践報告会の感想

長谷川知南

# 保見ヶ丘日本語教室見学

外国語学部フランス学科 小谷貴美子

私が初めて保見ヶ丘日本語教室を訪れたのは2007年4月15日だった。保見ヶ丘日本語教室のある保見団地が外国人集住地域であることは授業で聞いて知っていたが、私はこれまでに外国人集住地域に行ったことはなく、具体的なイメージはなかった。テレビのニュースなどで伝えられる情報や授業で見たビデオから、外国人集住地域に対して抱く印象はプラスのものよりもマイナスのものが大きかった。例えば、ゴミや騒音の問題など、日本人との習慣の違いから生じるトラブルが挙げられる。

この日は、保見駅で下車し、友達と二人で歩いて保見団地を目指した。初めての場所だったため、これから行く場所はどんなところだろうかと思いながら、周りの看板などの情報に注意して歩いていった。歩いていると外国の方とすれ違うことが多く、外国人集住地域なのだなと実感した。それから、団地の近くにあった大きな看板に目を奪われた。英語ではなかったで、その時は勝手にこれがポルトガル語なのだと思い込んでいた。すれ違う人や目にする看板からまるで海外にいるかのような感覚になった。

しばらく歩くと、保見団地の案内を見つけた。団地に入ると、たくさんの棟が並んでおり、「団地」というのはこういうものなのだなと改めて思った。日本語教室が行われている集会所の隣には、ブラジルのお店があり、外観も日本のものとは違い、目新しく感じた。後でこの店に入ってみたのだが、品揃えが日本の店と少し違っていた。一番驚いたことは、売られている肉の量だった。大きめのウィナーが袋にたくさん入れられており、業務用スーパーのものに近いと感じた。お菓子のパッケージなどが外国のもので、見ていて楽しかった。

私たち実習生は、保見団地を案内してもらい一周することになった。まず、ゴミ収集所を見て驚いた。すごくきれいなのだ。日本語だけでなく、ポルトガル語や中国語で書かれた掲示板があった。私の頭の中には、ゴミの分別が不十分で、散らかっていきそうなイメージがあった。しかしここを見て、日本人だけの地域でもルールを守らない人がいて汚くなることを思い出し、日本人と外国人のくくりで判断していた自分の思い込みが偏見であったのではないかと思った。ルールを知っていても守れない人と、知らないから守れない人では全く違う。ゴミ収集所を後にして歩いていると、歩道橋の下にポルトガル語で書かれた標語があるのを発見した。近くには小学校や幼稚園があり、ここでも外国人児童が多いのだなと感じた。

団地を一周し、教室にもどりクラス活動を見学した。教室風景を見て、「教えている」というよりも楽しく「話している」という雰囲気が伝わってきた。クラス活動が終わった後、みんなで輪になってそれぞれのクラス活動を報告する全体会に私たちも参加した。楽しそうに話す学習者とボランティアの姿が印象的だった。冗談を言ってみんなを笑わせた人もいた。笑顔が印象的な和やかな時間だった。私たち実習生が自己紹介をすることになり、みんなの前で最初に作った名札を手にとって緊張しながら名前を言った。恥ずかしい気持ちもあり、周りの人と目を合わせることはできなかったが、みんなが真剣に聞いてくれた。

私は、これからこの教室に来てみんなのように仲良く楽しそうに話せるようになりたいけれどできるのだろうかという少し不安な気持ちと、たくさん新しい発見をしたいという気持ちになった。

## 学びたい人・伝えたい人・楽しみにしてくれる人がいる！

外国語学部中国学科 坂田雪恵

これまでは大学の講義でのビデオや模擬授業を通してしか想像できなかった保見ヶ丘日本語教室の現場に行けるということで、当日の朝は楽しみな気持ちと共に緊張していた。

初めて教室に入るという行動は勇気がいることだった。私たちは同じ大学の実習生と不安を共有できたが、日本語学習者の中には一人で来る方もいらっしゃるだろうと思う。今回感じた緊張を通して、そんな方の不安を取り除くようなあたたかい雰囲気のアナウンサーになろうと思った。

オリエンテーションでは、保見ヶ丘日本語教室の活動内容の説明が行われた。そこでの話を通して、実習生ではなく、一ボランティアとして活動するという立場に責任を感じたが、同時に、自分次第という環境に身を置けるというチャンスを十分に生かして、積極的に活動していこうと決意した。

その後団地を見学し、本当に広いと感じた。日本語教授法の講義で見た日本人と外国人の住民間の溝を取り上げたニュース映像とはずいぶん違った、清潔で住みやすそうな印象を受けた。騒音問題などの住民の決まりや、ゴミ集積所といった看板表示がきちんと、ポルトガル語や中国語、英語、日本語でされており、共生しているという印象を受けた。しかしこれは私の垣間見た一部でしかない。これからの教室活動を通して、実際に住んでいる方の抱える問題も見えてくるであろうし、知りたいと思った。

その後、教室活動の全体会に参加させて頂いた。全体会といっても気負うような難しい報告ではなく、本当に今日話した話題の展開を簡単に報告しているもので、早く来週から活動したいと楽しみになった。学習者の方にも笑顔が見られ、楽しく活動している雰囲気を感じた。

全体会終了後、ちょうど月末に故郷であるブラジルに帰国するというPさんの送別会があったので参加させて頂いた。思いがけなく交流することのできる機会だったので、積極的に何名かと会話をした。しかし、楽しみに思っていたにも関わらず、会話に自分の緊張が解けない部分があり、大変もどかしく感じた。自分が緊張していれば必ず相手にも伝わってしまうと、頭では分かっているがなかなか行動に移せなかったため、次回からの教室活動では素直にお互いのことを伝え合えるように、そして考えすぎずに会話できるように、私自身がリラックスしていこうと思った。



送別会で仲良くなり、早速帰りにお昼を一緒に食べた学習者のSさんは、毎週日本語教室を楽しみにしているとおっしゃっていた。それを聞き、今回は自分の交流姿勢に対する反省しかなかったが、活動을続けて視野を広げ、この日本語教室をさらに盛り上げていきたいと強く思った。

## 東保見小学校「ことばの教室」を見学して

外国語学部英米学科 岩原えり菜

2007年5月30日に日本語教育実習の授業の一環で、豊田市立東保見小学校(以下、東保見小)を見学することになった。東保見小は愛知県豊田市の外国人集住地区である保見団地に隣接しており、生徒の半数近くが外国人児童である。そのため、国語・算数など普通の授業についていくことができない子ども達を対象として、特別にサポートするための国際学級が行われている。また、東保見小の一室では来日間もない外国人児童を対象にした、「ことばの教室」が豊田市教育委員会によって運営されている。「ことばの教室」では、集中的な日本語指導や適応指導、給食・清掃を行うことにより、外国人児童が日本の学校にスムーズに編入できるよう援助が行われている。東保見小の外国人児童に対する取り組みや「ことばの教室」を通じて、日本に住む外国人児童が抱える問題について少しでも理解できればと思い、見学に参加した。

その日は学校内を自由に見学していいということだったので、はじめに「ことばの教室」を見学した。私が見学したときは、ひとつの教室内で3つのグループに分かれて日本語指導が行われていた。どのグループの子ども達も楽しそうに日本語を勉強している様子だった。日本の生徒と同じように授業中は子ども達の集中力がすぐになくなってしまうので、先生達はたくさんの絵カードやゲームを使って子ども達の興味を引いており、子ども達も積極的に発言していた。休憩の時間に先生に話を聞かせていただいたところ、子ども達は来日して間もないということもあり、頭の中ではまだ彼らの国のことばで考えているので日本語への切り替えが難しいとおっしゃっていた。私が英語の勉強のために留学していたときも、はじめのころはまず日本語で考えて英語に変えるという作業をされていて、すごくもどかしい気持ちだったのを思い出し、ここの子ども達もきっと同じ思いをしているのだなと感じた。

次に、東保見小の国際学級を見学した。算数の授業では1人の先生と2人のアシスタントの3人体制で行われており、問題の答え合わせなどは手分けしてひとりひとりに行き届いた指導が行われていた。しかしそれ以外の国際学級では、だいたい10人前後の生徒に対し先生1人だけだったので、生徒を丁寧に見ていくのはとても難しい状況であった。3年生の国語の国際学級を見学していたとき、先生に「もし間違いやおかしい文章があったら

教えてあげてください」と言われ、実際に授業に参加させてもらった。ある男の子が「ぼくわ」と書いていて、先生に注意されていた。最初は「あっ…」と言って書き直そうとしていたが、何で間違っているのか分からず、また先生を呼ぼうとしていた。しかし先生は他の子のところにいたのですぐに聞くことができず、代わりに私が、お手本の「わたしは」というところとくらべてみてと教えてあげたところ、彼はすぐに分かって書き直すことができた。他にも漢字の書き順がまったく違っているなど、見落としそうな間違いがたくさんあり、ひとりずつよく注意して見てあげないといけないのだけれど、先生1人ではとても難しいということを実感した。

最後に普通学級の家庭科の授業を見学した。日本人生徒も外国人生徒も同じクラスで勉強していた。私が見学したのは5年生の調理実習の時間で、子ども達はブラジルのお茶を入れていた。先生がブラジルのお茶の文化などをブラジル人の子ども達にも聞きながら簡単に説明して、ブラジルのお茶菓子も用意されていた。お茶菓子は先生がクラスのブラジル人の子どもの親と一緒に買いに行ったという話を聞いて、教師と保護者の交流もあることもうかがえた。この家庭科の授業のように、先生が授業を通じて子ども達に他の国の文化を身近に体験させることで、子ども達は異なる文化を理解し、お互い理解しあっているのだと思った。

国際学級で教えている先生が、外国人児童を抱えた学校は表面だけ見ても分からない、奥のほうに問題があるとおっしゃっていた。たった1回の見学で私がどれだけ学校の状況を把握できたのか分からないけれど、今回の見学で学校全体が外国人生徒の支援に一生懸命取り組んでいること、その中で子ども達が自然に国際交流をしていることを知ることができた。外国人の数がどんどん増えていく今の日本の中で、多文化共生について考えることが大切だと言われているが、東保見小の子ども達は誰かに教えてもらったわけでもなく、この多文化共生を実践していたのが印象的であった。子ども達はお互い違う国やことばや文化を理解しながらみんな一緒に学校生活を送っている。それは私達大人も見習わなくてはいけないところだと考えさせられた。

## ことばの教室を見学して

外国語学部中国学科 篠澤綾香

ことばの教室は豊田市教育局主催で、豊田市立東保見小学校の余裕教室で行われている。日本に来て間もない児童生徒を対象としていて、3ヵ月を目途に日本語の初期指導を行なっている。日本語の初期指導だけでなく、日本の学校生活に慣れるように給食や掃除の指導も行なっている。

ことばの教室にはいろいろな学年の子どもがいた。日本語の授業ではそれぞれの日本語

レベルにあわせて、レベル別に3つのグループに分かれて勉強していた。ひらがなを勉強している子もいれば、漢字を勉強している子もいた。ひらがなを勉強しているグループの子は4人いて、先生が1人ついてた。4人の中でもレベルが少し違うので2人ずつに分かれて違うことをやっていた。2人を先生が指導している間、他の2人はプリントをやっていて、ほったらかしという感じだった。先生がもうひとりいれば、2人ずつ交互にではなく、児童2人のことをずっと見ていられるのにと感じた。ほかのグループでは、先生が言った単語を聞き取って書くといったことをやっていた。身近な単語を出していて、ひらがなを使って書くのかカタカナを使って書くのか、伸ばす音も「う」を使うのか「ー」を使うのかということも問題にしていた。

ひらがなや漢字は書き順から丁寧に何回も繰り返して教えていた。カ行の練習なら「か、き、く、け、こ」が頭につく単語を絵カードを使って練習したり、絵カードにあるもの以外でも身近にある「か」のつく言葉を出していた。漢字の練習でもその漢字を使う単語を例にだしたり、簡単な文を例にあげたりしていた。最後にはその日に習った漢字を使って自分で文を作るという練習をしていた。

この教室では日本語の指導だけでなく、算数や国語も教えている。でも小学校3年生レベルまでしか指導しないそうなので、小学校1年生の児童なら普通の教室でやっているところまで指導をすればいいが、6年生の児童は普通教室に戻されてもついていけないのではないかと感じた。

この教室で日本語を話せるようになって普通教室に戻っても、算数や社会など他の教科の中でも日本語の文章が出てくるから、ただ日本語を話せるだけでは学校生活に困らないだけではないかと思った。日本人であれば漢字を見れば大体の意味はわかる。でも外国人児童にとってそれはすごく難しいことだと思った。授業で日本語の意味がわからなかったところは、日本語指導の先生や巡回指導員の先生に聞けばいいと思う。しかし親も日本語があまりわからない場合、宿題で日本語の意味が理解できない言葉があっても、誰にも聞けないので、なかなかできないと思う。外国人児童は日本人児童と同じように授業についていかなければならないので、ことばの教室を出た後が、最も頑張らないといけない時なのではないかと思った。

ことばの教室へは保護者や本人が希望すれば、どこの学区の児童でも入れるが、保見に住んでいる子以外は保護者の送迎が条件となる。保護者の仕事の都合などで、送迎ができない子は日本語がよくわからないまま、普通の教室に入れられてしまう。いきなり普通教室に入れられても、日本語もわからないし日本の学校生活のこともわからないので、すごくストレスになると思う。

ことばの教室は日本語だけでなく、給食や掃除の指導も行なっているので、来日してすぐの子供たちが日本語を勉強しながら、日本の学校生活のことも勉強できる。日本に来てすぐの子は言葉も分からないし、日本の学校生活になれるまでいろんなことで大変な思いををすると思う。現在、外国人労働者が増えていて外国人児童も増えているので、もっと日本語教師が増えて、東保見小学校にあることばの教室のような、日本語の初期指導をする教室がたくさんできるといいと思った。このような教室が増えれば保護者の送迎という条件もなくなるだろうし、条件に合わなくていきなり普通教室に入れられてしまう外国人児童もいなくなると思った。

# (財) 海外技術者研修協会中部研修センター訪問記

外国語学部フランス学科 畔柳友香

私が財団法人海外技術者研修協会中部研修センター（以下、AOTS）を見学させていただいたのは6月25日であった。AOTSは、海外から技術研修のためにやってきた研修生が、企業での研修の前に日本語を学ぶための施設である。AOTSは全国に4ヶ所研修施設があるが、私はその中で愛知県豊田市にある中部研修センター（以下、CKC）を訪問した。私が見学させていただいたクラスの学習者の国籍はタイ、インドネシア、中国で、見学した授業は「～ています」を学習していた。

授業の最初にはまず課題の提出があり、その後聞き取り形式の復習テストが行なわれた。最初の1時間ぐらいはほとんど前回までの内容の復習であり、自分が小学校から高校まで受けてきた授業と似たような印象を受けたのと同時に、学習事項のしっかりした定着を図っているのだろう、と思った。そしてその後、絵カードで「て形の動詞」の復習を行なった。絵カードは授業内でしばし使われたが、絵カードを使うところを見ていて、ところどころで分かりにくい絵（「電気を消す」の絵が「電気をつける」の絵と混同しやすい、など）もあったが、難しい言葉は言葉で導入するより絵で示すことの方が簡単そうだ、ということに改めて思った。

2時間目以降は新しい課の授業で、会話練習も交えて行なわれた。会話練習の時には、会話の例文が提示されていたが、何人かの学習者は自分たちで自主的に場面設定を変えたり、名前を入れ替えたりして練習・発表を行なっていた。先生はそれを「〇〇さん、いいですね。そうですね。」とほめ、ときどき学習者が出したオリジナルの例文を学習者全員で復唱していた。このやり方は学習者の励みになると思った。また、テキスト通りに例文を復唱するだけでなく学習者が自分の状況に近づけて文章を変える（例：「会社の電話番号を知っていますか」→「CKCの電話番号を知っていますか」）ことは、自分で言いたいことを言える力を養うことにつながっていき、実生活での会話に生かせるのではないだろうか、と思った。同時に、自主的にオリジナルの文章をつくって発表するAOTSの学習者の学習意欲の高さを感じた。

会話練習を見ていて、もう一つ思ったことは表情の大切さである。私も会話練習に参加させていただいて、何人かの学習者の方と一緒に練習した。提示された例文の中に「すみません」と言う場面があった。私は学習者を緊張させないように、表情をずっとにこにこさせたまま会話練習を進めていたが、途中、学習者が「すみません」のところは「申し訳ない」という表情を浮かべながら発話していることに気づいた。今回は「すみません」は明るい気分で発する言葉ではないということを学習者がきちんと理解していたが、もし「すみません」という言葉がどのような時に発せられる言葉かまだあまりよく分かっていない入門レベルの学習者と接するときに、先生や進行役、ボランティアが笑顔で「すみません」と言ったら混同してしまうのではないかと、という点に気がついた。このことは、今後自分がボランティアとして教室活動に参加していく中で、特に入門クラスの活動で留意すべき点であると思った。

今回の見学で気づいたことを、今後ボランティアとして参加する活動にぜひ生かしていきたいと思う。

## AOTS を見学して

外国語学部フランス学科 北島由衣

日本語教育実習の一環として、私たちは豊田にある AOTS（海外技術者研修協会）の日本語教育センターの見学に行きました。AOTS では研修生が海外の企業に技術を伝えるため、また日本で技術研修を行うための日本語教育を行なっています。日本語教育コースには 6 週間と 13 週間のものがあり、研修生は施設に備え付けの寮に泊まりこんで 1 日中日本語の勉強をします。短期間で日本語を習得できるよう、カリキュラムは濃密に組まれています。教室は学習者の日本語レベルによって分けられ、使用する教材は海外から来た研修生のために AOTS が独自に作成したものです。

ここでは構造シラバスに基づいた学習法で授業が行われています。私が参加した教室では、最初にその日に学ぶ単語や文型が含まれる文章が示され、その文章を使用した会話を研修生たちが読んでいました。次に先生が研修生に質問をしたり、研修生同士で質問をしたりと会話中心で進んでいきました。またテープに流れる日本語の内容と合う絵はどれかを当てたり、絵の人物が何をしているのかを習得済みの日本語で表現したりと、様々な教材を使って学習が進められていました。

教材の中に登場する単語や文章、表現は、研修生の生活環境に合わせたものが多く見られました。ビデオでは日本に来た外国人技術者が工場見学をしている映像が流れ、まさに研修生の必要に直結した学習内容だと感じました。研修生の滞在期間が限られているため、必要最低限の日本語を厳選して習得させているようでした。そのため、私が話した研修生は日本に来て日が浅いけれども自己紹介や自分の仕事内容については細かく説明できていました。

AOTS の日本語教育は学習者のニーズが明白でみな共通しており、教える側がそれに合わせて学習内容を準備できるというのが、保見が丘日本語教室のような地域の日本語教室とは異なる点です。学習者の習得が早いのは、カリキュラムが密に組まれていること、ニーズに合わせて学習内容を厳選していることはもちろん、学習者の目的が共通しているということも大きな要因ではないかと私は考えます。企業の発展を目差す者同士で仲間意識が生まれ、助け合ったり競い合ったりすることで学習意欲を互いに高め合いながら学習が進められているのだと感じました。

# AOTS の見学感想

外国語学部英米学科 波多野敦子

豊田市にある AOTS (The Association for Overseas Technological Scholarship 財団法人 海外技術者研修協会) 中部研修センターの日本語教室に参加して、まず目に入ってきたのは、ふんだんに準備された教材、そして日本語教師ひとりに対し、少人数の生徒といった語学学校で見られるような風景だった。構造シラバス (文法項目・文型・語彙など言語の構造の観点から分析して構成された教授法。現在最も標準的に用いられているタイプで、オーディオ・リンガル法の中心となるシラバスとして知られている) に基づく教授法で教師の指示に従いパターンプラクティスが行われ、学習者は細かい助詞の間違いを指摘されながらテンポよく授業が行われていた。宿題もあればテストもある。保見が丘日本語教室での実習に参加していた私にとって、その違いには大きなインパクトがあった。学習者にとってストレスにはならないのかと思ったが、休憩時間には学習者とコミュニケーションをとることができ、楽しんで参加しているといった印象を受けた。同じ環境で生活している学習者には当然連帯感もあり、過密なスケジュールの中でも和気あいあいとした雰囲気を作り出しているのだと感じた。

私だけでなく、保見と AOTS を比較した実習生には様々な思いがあったと思う。環境の違い、モチベーションの違い、そして一番大きな違いは、AOTS ではこの授業が仕事の一環として行われていることだと思った。AOTS の学習者は、自分の語学能力の上達度を、様々なタスクを通して実感できそれがやる気にもつながっているような気がした。保見での自由な参加型の話題シラバスによる教室活動と AOTS での計画的な短期のスケジュールによる教授法は、一見正反対にも思えるが、共通点は楽しい雰囲気、そして学びたいという学習者の気持ちだと思う。

この見学を通して私にとっては保見での実習を再考するよい機会となった。それぞれの教授法、そして学習の形態には、長所、短所があると思うが、どちらの学習法もその成果を感じる。ただ保見での実習はその成果を形として立証することが難しいと思った。

現在、県大の日本語教育実習生は、数人のボランティアが中心となって保見での実習の成果というものを様々な観点から見つめなおし、今後の活動へとつなげていけるよう努力している。AOTS への参加は私にとってはよい刺激になった。保見での実習が終わりに近づいてきている現在、保見での実習の成果を立証することは、学習者、ボランティア共に達成感を実感でき、保見での今後の活動の飛躍につながると考えるようになった。

AOTS の体験を経て、教室活動にもいろいろな形があること、そして学習者の環境やニーズなど様々なことを考えた場合、教授法にも様々な形があつていいと思うと同時に臨機応変な対応の必要性を感じた。

AOTS の訪問を経て、いかに学習者が達成感を味わいそれをボランティアが認識できるかが、保見においての今後の課題だと思った。AOTS に限らず、他教室から学ぶ点が多いと思う。現在の活動に満足することなく、常に自分たちの活動を内省し、前向きな姿勢で今後の活動へとつなげていきたいと思う。

# 愛知県国際交流協会日本語教育リソースルーム見学

外国語学部フランス学科 武田由佳

日本語教育リソースルームの見学に行った。このリソースルームは、地域日本語支援活動の拠点として、2000年5月に、あいち国際プラザに開設されたものである。その開設の背景として、この地域にブラジル人をはじめとする多くの外国人住民がますます増えていること、それに伴い外国籍児童生徒も増えていること、しかし、日本語教育に関する専門書店がないことから、児童の教育に対する情報が非常に不足している、という現状があげられる。このリソースルームでは、地域の日本語や学校現場などで作成されたオリジナル教材を閲覧することができ、日本語教育についての情報提供がされている。また勉強会や日本語教室の調査も実施されている。

リソースルームの見学で、現在の外国人の日本語教育の課題は、「子供向けの日本語教育」であるという話をきいた。保見が丘の日本語教室の子供クラスで、教科書のルビふりが、なかなかの一仕事であることを思い出した。

案内してくれたボランティアの男性の話では、一昔前は、日本語教育の対象は主に日本にやってきたばかりの「大人」であったそうだ。このリソースルームで、『山形県の中国人対象の日本語教室』の資料を見つけた。山形出身の私は、農家の嫁不足を解決するために中国やフィリピンなどのアジアの女性と集団でお見合いし、嫁に来てもらい、嫁不足の問題解決を図る、といったような一種の流行のようなものと、田舎では大変珍しかった外国人を、実際、私の実家の辺りで最近頻繁に目にするようになったことを思い出した。彼女達を対象に市が日本語教室を開講していた。そう思い返してみると、やはり少し昔の日本語教室は大人だけを対象としていたような記憶がある。

しかし現在では外国人の「子供」を対象とした様々なサポートに力を入れているということだ。その子供たちというのは、親の来日にあたり家族と一緒に日本へ移り住んできたというケースの他に、一昔前に日本に移り住んだ人たちの子供、つまり日本で生まれたというケースがある。いずれのケースにせよ、外国人ということで日本において教育の義務はない。となると、親の教育に対する考えで、子供が学校に通うか通わないかが決定されることになるが、教育費や生活環境の問題で学校に通わず、教育を受けないで育つ子供が増え、またそのことがますます地域の日本人との接点を薄れさせる、という悪循環を招いているようだ。リソースルームには、確かに児童生徒向け日本語教材が多く取り揃えられており、高校受験の試験対策のために使用している子供もいる。教材だけでなく、学校に入学するための手続きに必要な書類を、各国語に翻訳された資料も用意されている。子供が学校に通いたくとも、また子供を学校に通わせたくとも、手続き方法を知らなければならない。直接日本語を教えるサポートではないが、こうした活動が教育を受けるための環境作りにとって、重要なサポートになるだろうと思う。

これら全ての活動が、ほぼ全てボランティアによって行われていることを知り、ボランティアの必要性を再確認した。「助けてあげる」ではなく、「助け合う」気持ちが重要だ。

# 日本語教育リソースルーム見学記

文学部日本文化学科 堀江春奈

日本語教育リソースルームは、日本語教育に関する資料の提示・情報提供など、愛知県の日本語教育支援を行っているところである。ボランティア支援をはじめ、日本語教育のボランティアの育成や、外国人に対する支援（相談会や日本語教室）も行われている。「ボランティアが集う場所」、「愛知県の日本語教育の拠点」と説明を受け見学したリソースルームは、まさにその通りの印象だった。

最初、リソースルームのスペースの狭さに正直驚いたのだが、しかしそこには沢山の資料が整理されていて、その内容・充実さにも驚かされた。日本語の教科書から、教授法についての論文、外国人児童教育に関する本・参考書など多数あり、実際に日本語教室で使われた教材や教案なども集められていた。特に、こうした実際にボランティアが作成し、使用された教材にはなかなか触れることができないので貴重な参考資料が置いてある場所だと思った。ボランティアが作成した教材が共有できる場所として、また、専門的な文献から実用の教材まで幅広く揃っている場所でもある。これがリソースルームの役割であり、こうした充実した資料がもととなって実際の支援を行うことができるのだと感じた。

リソースルームの隣の教室では日本語教室が開かれており、私たちにリソースルームの案内をして下さったボランティアの方からこの教室の様子をうかがった。私たち実習生が実習をさせてもらっている保見が丘日本語教室では、自己表現型話題シラバスで行なわれ、学習者の定員・参加人数等はあらかじめ決められていない。しかし、リソースルームで開かれている日本語教室では週5回開催されている教室のうちの一つは、すでに定員がいっぱいになっているほど学習者は多く、この教室にやってくる学習者の方は、名古屋市内在住という環境上、普段の生活に必ず日本語が必要であり、クラスを掛け持ちする人もいるほど学習意欲は高い。そこで授業も学習者の学習目標に沿ってグループを作り、シラバス・学習内容をグループ別で決めているという話をうかがった。学習者に合わせた対応が行われている、保見が丘日本語教室とは違った環境にある日本語教室のことを知った。

このリソースルームの日本語教室のことを説明くださった方も、愛知県のある地域の日本語教室でボランティアをされているそうで、その地域でも外国人は増加の傾向にあり、日本語教室を開くことで、地域での共生を図りたいという考えを持っているということ話を話してくださった。その他にも、授業の進め方や日本語教室の雰囲気、環境などについて色々な話をし、有益な情報交換をすることができた。こうしたボランティア同士の交流ができるのもこの場所の魅力のひとつであり、リソースルームが持つ重要な役割だと思った。

愛知県では日本語教室が75ヵ所、ボランティアで運営されている。その教室がいつ・どこで開かれているかという情報がリソースルームで把握されており、そうした情報提供もリソースルームは行なっている。充実した資料を閲覧することができ、ボランティア対象の勉強会なども開かれている。このリソースルームという場所で各日本語教室が繋がっているのだという印象を強く受けた。見学を通して拠点となる理由とその重要性を知ること



ができた。

外国人の増加・定住に伴い、外国人・日本人共に様々な問題が発生する中で、さまざまな課題を超えて多文化共生を考える場所として重要な役割を持ち、各地域で行われている日本語教室を繋ぐことで、ボランティア・外国人支援を効果的に行うことができる。リソースルームはそんな場所なのだ。

## 西保見小学校実践報告会に参加して

外国語学部ドイツ学科 三品よし子

体育館に入ると、まず、多くのパネルが迎えてくれた。「きらきらドリーム部会」や「わくわくステップアップ部会」など、興味が沸く名前の部会が印象的で、それぞれの部会では、子どもの進路を支援したり、子どもの頑張りを評価するなどの活動をしていた。これらの活動を通して、地域や学校が一体となって子どもをサポートしていることが紹介されていた。参加者は本当に多く、体育館が8割ほど埋まっている印象だった。中にはオランダの人もいて、その人も熱心にパネルを見ていて、私は漢字の読みを尋ねられたりもした。

報告会が始まり、これまでの取り組みについて、見学する授業の概要（授業内容、教室で工夫していること、生徒の特徴など）が説明され、その後実際に教室を見学させていだいた。

私はまず、日本語教室1に行った。日本語教室とは、サポートが必要な外国人生徒に対し取り出し指導を行っている教室だ。事前に学習指導案が配られており、単元の目標や単元設定の理由、生徒に関する情報が書かれていたので、授業を把握しやすかった。国語科の授業だったのだが、一年生ということで絵が多用されており、視覚で理解できるように工夫されていた。また、生徒の人数も8人と少人数で、担当する教師も2名いることで目も行き届くだろうと感じた。言葉の配慮としては、まずポルトガル語で理解させてから日本語での説明をする形をとっていた。

次に、日本語教室に対応する、1年1組の国語科の授業を見学した。同じ時間に同じ教科、単元の授業を通常のクラスと日本語クラスで行っているのだ。このように対応させていることは、教室は違っても同じ仲間だという意識を生徒に持ってもらうための大きな役割を果たしていると感じた。

そこでは、授業で取り扱ったお話の劇の練習をしており、愛知県立大学の学生も教育サポーターとして子ども達を指導していた。

その後も日本語教室3などを見学してきたが、全体的に感じたことは、子ども達はとても元気で積極的だ、ということだ。また、これは校長先生がおっしゃっていたのだが、本当に「当たり前のように」日本人と外国人が共生していると感じた。例えば、日本人の生

徒にポルトガル語の意味を教えることを普通に行なっていたり、注意しなければならない生徒に対し、日本語が分からないときには母語を介して注意し、平等に扱っていることだ。

これまで教師の立場から学校の授業を見ることはなかったので、とても新鮮で、貴重な体験をさせてもらったと思う。

この実践報告会や、西保見ふれあい祭りにも参加して、私は小学校に興味をもつようになり、現在はサポーターとして西保見小学校に行っている。とても元気でかわいい生徒達や、熱心な先生方と関わる中で勉強させてもらうことが多い。

## 西保見小学校実践報告会の感想

外国語学部中国学科 長谷川知南

西保見小学校へ行くのは初めてでしたが、保見駅から 25 分ほど歩いて、無事たどり着くことができました。小学校に入るとすぐ、教室で子どもたちが授業を受けている姿が窓の外から見えました。その中にはブラジルの国籍と見える児童もたくさんいて、その時、わたしが通った小学校とは違うなぁと感じました。

早めに着いたので、報告会が始まる前に、体育館の後ろに展示してあるパネルを見た。学校の行事や授業の様子についての写真だった。その後、西保見小学校で普段行なっている授業や、外国人児童に対しての取り組みについての説明を聞きました。外国人児童が学級での授業を理解できるようになるための言語面でのサポートや、日本の学校生活に適應できるような精神面でのサポートが行なわれていることを知ることができました。日本語指導員やボランティアの人が授業中に援助したり、必要な生徒には日本語教室での指導を行なったりしているそうです。また、保見には、保見ヶ丘国際交流センター、トルシーダ、子どもの国、保見ヶ丘ラテンアメリカセンター、という NPO 法人があり、子どもたちの手助けをしていることも知ることができました。公立の小学校で、これだけの取り組みが行なわれていることに驚きました。その時、私は、日曜日の保見ヶ丘日本語教室のことを思い出しました。何人かの中学生が来ていますが、その数人の援助だけでも、ルビを振ったり日本語を教えたり、勉強を教えたりと、とても時間のかかるものです。このような取り組みが活発になされているとはいえ、やはり十分な援助が受けられていない児童たちが、この学校の中にはたくさんいるんだろうなあと感じました。

それから、体育館を出て自由に授業を見て回りました。初めに日本語教室 1 年の国語の授業を見せていただきました。日本語教室は、日本語による授業を理解することが困難な児童を対象としています。児童たちが、自分の在籍する学級の授業と並行して受けているようで、「取り出し指導」と呼ばれていました。この日本語の理解が不十分な生徒が在籍学級で授業を受ける際には、「入り込み指導」と言う形で日本語指導員やボランティアが援助

をしていました。1年生の日本語教室に入ると、初めに日本語指導員によるポルトガル語での授業が始まり、びっくりしました。前回の復習をしていましたが、生徒たちもポルトガル語で話していました。その後、県から派遣されている加配教員に交代して、日本語での授業になりました。今度は生徒たちが日本語で答えていて、とても不思議な感じがしました。次に行った教室は、2年生の生活科の授業でした。フェスティバルの準備を生徒たちは黙々としていました。大学生のボランティアの人もありました。ボランティアの人の協力がとても大きな助けになっているようでした。それから、日本語教室6年生の数学の授業を見ました。生徒たちは3人だけでした。加配教員と日本語指導員の人が協力して授業が行なわれる様子を見せていただきました。最後に見学した5年生の社会科の授業は、トヨタ自動車についての授業で、トヨタで働いている人を招き、話をさせていただくという内容でした。この方はアメリカにあるトヨタの工場で働いて技術指導をした経験があり、そのときの仕事や苦労について話してくださいました。一番苦労したのが、アメリカの人々と仕事に対する考え方が違ったことだそうです。工場が片田舎にあったこともあって、人々はとてもものんびりしていて、それに初めはものすごく驚いたとおっしゃっていました。日本人は前もって決められた場所に全員集まるのに、アメリカ人は15分、遅い人は30分も遅れてやってきて、それなのに悪そうにもしないそうです。それで、ある日、みんなどうせ遅く来るからと思って、この方が15分くらい遅れて行ったら、そういう時に限ってみんな時間通りに来ていて、「遅い」と逆に言われてしまったことを、笑いながら話してくださいました。それから、どうして外国に工場を移転するのかを説明してくださいました。私にとっても難しい話だったので、6年生の子たちには難しすぎる部分もあったように思いましたが、みんな真剣に聞いていました。そして、たくさん挙手しているのがとても印象的でした。授業参観の時間が45分間だったのですべての教室の授業を見られなかったのが残念でした。

その後、体育館に戻って、全校児童による合唱を聞きました。「あっ！あの子さっき教室で見た！」「あのいっぱい発言してた子だ！」などと思いながら、一人ひとりの顔を見ていました。時にポルトガル語の歌詞を交えながら、とても楽しそうに「WAになっておどろう」を歌っていたのがとても心に残っています。

その後、体育館に戻り、西保見小学校の概要や取り組みについての話を聞きました。2007年9月の時点で、全校児童数が197名で、そのうち88名が外国人児童であるとのことでした。外国人児童が全校児童の45%を占めているという状況にとても驚きました。保見団地は日本人の数が減少していき、外国籍の方が増えていっています。西保見小学校の児童数も外国籍の児童の割合がどんどん増えていっているそうです。それに対応するために、ますます多くの人の協力が必要になっていきます。

今回の実践報告会を通して、西保見小学校と、地域の機関やボランティアの人々の連携が本当によく図られているなあと強く感じました。日本語が十分にできない生徒が授業に遅れないように、学校の中でも、そして放課後も様々なサポート体制ができていることに驚きました。見学する前は、こんなに外国籍の児童が多いと、授業が思い通り進まず、日本人の生徒たちも学力が落ちてしまうのではないかと考えていましたが、全然そんなことはないようでした。むしろ、国際色豊かな学校の中で過ごすことで、広い視野が持て、柔軟な考え方ができるようになると思います。わたしが小学生の頃学べなかった、たくさ

んのことを学べると思います。こんな環境の中で学校生活を送れて、子どもたちは幸せだなあと思いました。でも、やはり日本語を十分にできない児童の中には、勉強についていくのがやっとの子もいて、辛いだろうなあと思いました。なかなか授業を見せていただくという機会はないので、とても貴重な経験をさせていただきました。

### 3. 実習生の感想

#### 3-1. 保見が丘日本語教室

実習に大切なこと、伝えたいこと      三品よし子

保見が丘日本語教室に参加して(子どもクラス)

岩井朋美

保見ヶ丘日本語教室に参加して

藤森優

保見が丘日本語教室「子どもクラス」に参加して

森本久美子

保見が丘日本語教室に参加して

高倉由紀

コミュニケーションが生まれる場所

桑原知恵

# 実習に大切なこと、伝えたいこと

外国語学部ドイツ学科 三品よし子

私は、「その場に応じて、臨機応変に動くこと」「楽しむこと」が大切だと感じています。まず実習では、状況がその時その時によって違います。また、参加している人はみんな立場が同じボランティアであるため、上の人が下の人を指示するということはありません。知っている人は知らない人に教える、知らない人は誰かに聞く、自分で考えてやるべきことを考える、お互いが協力しあう、そのように運営されている場所だと感じています。また、話し方に関しては、学習者の日本語の習得のレベルに合わせて伝わるように話すことが大切です。これは、私が一対一など少人数のときは自然にできても、全体会など多くの方の前で話すときに忘れてしまいがちでした。レベルが最も初歩の方にあわせるべきだと感じました。その際に教えてもらったのが、多くの方の前で話すときでも、レベルが初歩の学習者の方を見ながら話す、ということです。これはとてもいい方法だと思ったので、良ければ試してほしいです。

次に、実習は「自由な楽しいおしゃべり」を中心に進められていくので、緊張や不安に思うことのない、ということです。初めは少しびくびくしながら実習に向っていましたが、だんだんとそんな必要はないと分かってきました。困ったことがあれば、必ず誰かが助けの手を伸ばしてくれます。それに、緊張していても、自分から誰かに話しかけたり一歩近づくこともできないです。また、自分自身が楽しむことで、学習者の方も楽しんでもくれるのではないかと考えます。

# 保見が丘日本語教室に参加して（子どもクラス）

外国語学部フランス学科 岩井朋美

2007 年 4 月から愛知県豊田市の保見団地で開かれている保見が丘日本語教室でボランティアをしていた。月 3～4 回のペースで参加しており、私は主に子どもクラスを担当した。

子どもクラスは大人の会話のクラスとは異なり、別室でほぼマンツーマンの形態で学校での英語・数学の勉強の予習・復習のサポートをしていた。2007 年 9 月頃から中学校卒業程度認定試験を受ける子も加わったりもしたが、主にペルー人の H ちゃんを担当していた。H ちゃんは中学 2 年生で、もうすでに志望校も決まっており、将来は弁護士になりたいそう。

今ではずいぶん子どもクラスの担当を楽しんでいるが、そもそも私がこの子どもクラス

を担当するようになった経緯はというと、オリエンテーションで初めて教室に参加するときに「来週も再来週も教室に来る人いますか」と聞かれ、挙手をしたところ、「では、子どもクラスをお願いします。」と言われ、あまりよく分からないまま担当することが決まってしまったのである。これまでずっと H ちゃんの勉強をサポートしてきたボランティアの M さんも「H ちゃんのためにも、また H ちゃんの勉強状況を把握するためにも、なるべく決まった人が交代で担当するようにしてほしい」と言っていたので、総勢 6 人のボランティアで順番に担当することになった。

普段の教室活動の中では進行役の人が学習者について勉強のサポートをし(学習者が多いときは進行役以外もついた)、記録係が教科書のルビ振り(漢字にふりがなを振ること)をするというものだった。ルビ振りは簡単なようだが、意外と時間のかかる作業で、また学校の授業で進むペースも速いので、なかなか教室活動の中だけでのルビ振りでは追いつくことができなかった。勉強のサポートのほうはというと、単に教科書に沿って勉強していくだけではなく、教科書に出てくる用語(例:連立方程式、対頂角、肯定文、否定文など)や説明文はどういう意味なのかということまできちんとチェックしていった。漢字を熟知している日本人であれば多少の用語や熟語が分からなくても漢字から大体の意味は推測できるだろうが、H ちゃんにはなかなか意味の推測までは難しいようだった。H ちゃんは日本語で日常会話をするには問題もないので、ついつい見逃してしまいがちだったが、なるべく噛み砕いた日本語で説明をしてあげるようにしていた。

勉強に集中できなかったり、数学の計算間違いやイコール付け忘れ、英語のスペルミスやピリオドの付け忘れなどが多かった H ちゃんだったが、日本語教室は学習塾ではないし、楽しんで勉強してほしいかったので厳しく注意したりせず、H ちゃんにヒントを与えるようにしてあげたり、また H ちゃんのペースに合わせて休憩を挟んだりして雑談も交えながら進めるようにした。H ちゃんは、10~12 時までの 2 時間、一生懸命勉強していた。

時間ばかりかかって効率があまり良くない勉強だと思う人もいるかもしれないが、小さなことの積み重ねで将来きちんと力になっていくであろうし、また勉強だけでなく、勉強の合間に和気あいあいと家族のことや学校のことなど普段の何気ないことを話していたが、そのようなおしゃべりの中でも分からないことがあると、H ちゃんのほうから「それ何?」と聞いてきたり、こちらから「〇〇って分かる?」と聞いたりしていたので、きっと楽しんでくれただろうし、いろんなことを学んでくれたと思う。

子どもクラスでは大人の会話クラスと異なり、中学校の数学や英語を教えなければいけなかったのも、私にとっても中学校の頃の知識をもう一度フル活用させたり、また勉強の面だけでなく、日本語の熟語をどのように説明したら理解してもらえるかと試行錯誤したりと、私もたくさんのことを学ばせてもらった。

外国人の子供たちにとって日本語で勉強するというのはとても大変なことだろうし、また日本人の子どもたちと同じ立場で受験をしなければならないとなると、そのための努力は並大抵のものではないと思う。しかしそれでも頑張っている H ちゃんたちの姿勢を見ていて、こちらもしっかりとその想いに応えてあげなければと必死になり、とてもいい刺激を受けた。

最初は何も分からず、私が日本語教室に参加する前からいたボランティアの方に言われたままにバタバタと動いていたが、今では H ちゃんが笑顔で来るのを楽しみに待っていた

り、「今日は何を話そうかな」と考えたり、教室が始まるまでの間に「今日は何を勉強するのか」と考えながら教科書を見て予習したりする余裕まで出てきたのだが、そろそろ実習が終わってしまうのがとても残念である。卒業後はどうなるか分からないが、機会があればまた是非とも保見が丘日本語教室に参加したいと思う。

## 保見が丘日本語教室に参加して

外国語学部英米学科 藤森優

### 1. はじめに

日本語教育実習として、保見ヶ丘日本語教室（以下、保見）でボランティア活動を行ってきた。今まで、こんなにボランティア活動に、真剣に向き合ったことはなかった。この一年を、私の思いと共に振り返ってみることにする。

### 2. マイナスからの出発

初めて、保見を訪れた時、期待よりも不安の方が大きかった。私は人見知りをする方なので、初対面だと緊張して上手く話せない。それに加えて、外国人に対する恐怖感もあった。この教室にうまく溶け込めるという自信もなく、積極的に学習者やボランティアと関わらずに、どう接したらいいのかわからなかった。日本語云々より、対人コミュニケーションについて思い悩んでいた。

そんな私の保見でのボランティア活動は消極的だった。日本語教員課程の単位を取る為に最低限のラインで参加しようとして決めていた。理由はわからないが、ボランティア活動にはまっぴらはいけない気がして、ずっと抵抗していた。

### 3. モチベーションアップ

そんな私に転機が訪れた。愛知県立大学で「共生と地域連携をテーマとした学生自主企画研究」というものが公募された。私達は大学から助成を受けて、保見の協力を得て、保見の教室活動について研究することになった（第3部参照）。

「自分たちの活動を自分たちが深く考え、研究とか、そのための報告とかいう意識ではなく、保見での活動をよりよくする為に、自分の活動を深く振り返るという態度で臨もう。」そう誓った。この研究が始まってから、私の意識は確実に変わり、保見への私の参加も一気に増えた。きっかけは何でも良かったのかもしれない。これで、心置きなくボランティア活動を楽しめる。そして今まで以上に、保見の皆のことを知りたい、私のことを知って欲しいと思うようになった。少し前までは人の目を見て話せず、話しかけるのに躊躇していたはずなのに、いつの間にか対人コミュニケーションの悩みも消えていた。



#### 4. ボランティアとは

ボランティアを始めた頃の私は、「ボランティア」という言葉は「偽善」とか「奉仕してあげている」という悪いイメージしかなかった。今までボランティア活動にどっぷり浸かったこともないのに、そういうイメージだけはしっかりと持っていた。

ある日のボランティア研修会で、ボランティアのKさんが「ボランティアを始める動機なんて何でも良い。それが不純な動機だとしても。活動していくうちに何か変わるかもしれないから。」とおっしゃった。ボランティアをする目的や動機をはっきり提示してから始めなければいけないと思っていた私にとって、その話は衝撃だった。「でも待てよ。私がここでボランティアを始めた動機は、単位の為の『最後の砦』だから仕方なくやってたけど、変わったもんな。」そんなことを考えていた。もちろん、しっかりした動機があるに越したことはないのだろうが、最初から身構えなくていいのだと心が少し軽くなった。

保見での活動をしていけばいくほど、「ボランティアの役割」について考えるようになった。保見では、学習者もボランティアも対等に学び合いながら、お互いに理解を深め、地域の共生をめざしている。私はいつも「何かしてあげたい」と思っていた。でもそれはもはや対等ではなく、憐れみにも似た同情だったのかもしれない。まさに、小さな親切、大きなお世話である。そんなもどかしい気持ちでいた時、ボランティアのKさんが「ボランティアがめざすものは、ボランティアが必要とされなくなる社会です。」とおっしゃった。その言葉は、それまで悩んでいた私に一番しっくりきた。「その人の為に何をしてあげられるか」ではなく、「ボランティアが要らなくなる社会にするには、何をすればいいか。私にできることは何か。」と考えるようになった。

地域の共生についても改めて考えさせられた。保見の日本語教室に来ている保見団地の住民はあまり多くはない。ソトから来た私達では越えられない見えない壁をいつも感じていた。そして私は私で、「自分の住んでいる地域を無視するわけにはいかない。自分の足元を見ずして、保見のことをあれこれ言えない。」と思った。卒業後は、自分の地域の日本語教室でボランティア活動を行うことに決めた。

#### 5. おわりに

今年度は、私のボランティア元年であった。たった一年で、保見やボランティアのことを知ったかぶりするつもりはないけれど、ボランティアとして活動してきた「初心」を忘れずにいようと思う。ボランティアをすると、自分のことがよくわかる。私の良い所も嫌な所もみえた。プラスやマイナスの感情も広がっていった。自己実現への道はまだ遠いが、今後もボランティアを続けていきたい。

この一年を振り返ると、私は誰かに背中を押してもらってばかりだった。何かをするか否かをいつも天秤にかけていた。そんな時は誰かに相談し、背中を押してもらって、する方を選んできた。「人間はやってしまったことよりも、やらなかったことをいつまでも後悔する」と聞いたことがある。「やらずに後悔するより、やって後悔したほうがいい。」そう言い聞かせてきた私は、間違っただけでいいなかつたと確信している。

今度は、私が誰かの背中を押してあげられたら、と思う。

# 保見が丘日本語教室「子どもクラス」に参加して

文学部日本文化学科 森本久美子

参加回数は少なかったが、「子どもクラス」では、今まで気付かなかった様々な体験ができた。特に印象に残った3人について感想を述べたいと思う。

まず、中学2年生のHちゃん。彼女の指定する教科書の来週学習予定のところに、赤いボールペンでルビをふるという作業を何度か経験した。集中してやった割には5、6ページしか進まず、一週間分できているかどうかはいつも心配だった。なぜ赤ペンなのかと聞けば、後から透明の赤の下敷きを上にのせれば、ルビが消えて読む練習になるからだという。確かにグッドアイデアだが、長時間読むのは眼が疲れて辛いのではないだろうかと思った。私はピンクとオレンジのボールペンしか持ってなかったので、彼女の許しを得てピンクでルビ振りをしたのだが、赤よりもピンクの方が、書いたり読んだりするのに眼にやさしいような気がした。中学生の教科書の文字は意外に小さくギッシリと並んでいるので、超極細 0.28 のボールペンが見た目にも読みやすいように感じた。理科、社会、数学、英語は横書きで、気がつかなかったのだが、国語の教科書だけは縦書きで行が右から左へ進んでいる。右からルビを振っていくと、書いた直後に手で触って教科書が汚くなってしまう。しかし、左のページから右のページへルビ振りをするという工夫でこの問題は解消できた。

最初、「外国人生徒のために教科書のルビ振り」と聞いた時、国語、社会、理科だけで、英語と数学は必要ないと思っていた。英語は、日本人の中学生と同レベルで始まるので、日本人より楽に勉強できるだろうし、数学は数字と記号だけで問題を解くのでルビ振りは必要ないと勝手に思い込んでいた。しかし教科書を見てその考えは吹き飛んだ。英語の「動詞」「形容詞」「現在形」「過去進行形」「現在完了」「不定詞」「疑問文」「否定文」などの用語は、すべて漢字で書いてある。単語だけではない。試験の問題文は日本語で書いてあり、英文の訳、単語、熟語の意味は当然日本語で書かなくてはならない。ブラジル、ペルーの生徒は、英語と日本語を同時に勉強し、両方を理解しなければならない。数学についても然りである。子どもたちから話を聞いている限りでは、彼らが母国で受けてきた教育と日本の教育とはズレがあるようだ。筆算の方法も私が小学校で習ったやり方とは違っていた。

日本語が話せても、読み書きができるとは限らない。英語が読めて意味が理解できても、それを日本語の文章に訳せなければ和訳問題はできない。ボランティアによる日本語教室でどこまでサポートすべきか、何ができるかということに限界を感じている。

次に、15才のUくん。勉強熱心な努力家という印象を持っている。中学校には通わず、高校受験資格を得るための試験を受け、それに合格したと今年のクリスマスパーティーの時に聞いた。彼なら大丈夫だろうと思ってはいたが、報告を聞き本当にホッとした。愛知県には外国人生徒を受け入れる高校が3校あるが、豊田周辺の生徒は距離的にもK高校だけである。外国人特別枠があるといっても、高校進学を望む全ての外国人生徒に門戸が開かれているわけではない。試験に合格しないと入学できないし、入学後にも中退等の問題があると聞いている。

県大生として保見へ通い始める数年前から、自宅近くの日本語教室のボランティアをし

ているが、ブラジルやペルーの子どもたちに接する度に思うことがある。彼らは日本の小中学生に比べ大人びて見えるのだが、本当に無邪気で素直で「いい子だなあ」「やっぱりハグされて育つと違うのかな」といつも思う。日本にもハグの習慣があれば、最近頻発している家庭内暴力や少年犯罪が半減するのではないかとすら思えてくる。2回ほど担当した中2のSくんもそのひとりで、そういう印象を初対面の時から持った。スペイン語と日本語を使つての英語の勉強は大変そうだが、学校は楽しい、友だちと毎日サッカーをしていると嬉しそうに話してくれる。学校でできないことの補助を保見でサポートできればいいのだが、そのためには学校の各教科担任との連絡が必要になってくる。現段階では中学校の先生にそこまで期待するのは無理なのだろうか。前期に、西保見小学校と東保見小学校の見学をさせてもらったのだが、豊田市は私が住んでいる三好町に比べ、外国人児童生徒に対するサポートが格段に進んでいると感じている。しかし、高校進学を希望する生徒に対するサポートや、高校側の受け入れ体制はまだまだ不十分であるようだ。

サンパウロ大学教授で弁護士でもある、二宮正人氏は「子どもの教育が大問題」として、「外国人にも日本人同様、義務教育を実施してほしい」「サンパウロ州は教師派遣を計画しているが受け入れ先がない。両国の協力が必要」(『朝日新聞』2008年1月14日)と述べている。日本もブラジルも子どもの教育を「大問題」として捉えているのに、制度改革が遅々として進まないのは何故だろう。そうこうしているうちに子どもたちは日本語も母語も不十分なまま成長してしまう。ボランティアのできることを改めて考えてみたい。

## 保見が丘日本語教室に参加して

外国語学部フランス学科 高倉由紀

日本で外国人がどのような生活をして日本人とどのような交流があるのか、そんな軽い興味から私は日本語教育教員課程を履修した。そして教授法の授業で私がビデオで見た日本語教室では、先生と生徒が向かい合うように座っていて、日本語文法について学び、学んだ文法を使って学習者が自分なりに文章を作成する。そしてその文法を自分で吸収していくという日本の学校の授業と変わらないスタイルがほとんどだった。私も今まで同じようなスタイルで授業を受けてきてそれが当たり前のよう考えていた。そんな私にとって保見が丘日本語教室の経験は貴重なものになった。私は初めて保見が丘日本語教室を訪れた時「ボランティアとして今日この教室に来てよかったと思われるような活動内容にしないといけない。」と考え緊張していた。しかしいざ教室に入ると学習者が黒板のある方向を向いて座っているのではなく、日本語習熟度で分かれたグループごとに会話をしていた。机の上に世界地図や愛知県の観光ガイドなどが置いてあり、みんなとても楽しそうに話していて、私から見ると教室とっていいのかわからないという雰囲気を感じられた。私も

参加して学習者の人と話をしたが、その日は昨日見たテレビの内容や買い物の話など、普段私が友達と話すのと変わらない内容の会話だった。私としては会話も弾みとても楽しかったと満足していたが、よくよく考えると学習者のためになるような活動だったのかと考え、悩むようになった。そしてその次に保見が丘日本語教室の活動に参加した時は、一緒に話をした相手の人はほとんど日本語の喋れないブラジル人の方で、私が質問したらポルトガル語の辞書で調べて、それを更に日本語の辞書で調べて私に伝える、という作業の繰り返しになってしまった。その途中で私は「これって会話になっているのか」と思い、会話が弾まなくなってしまった。もうこの人が来なくなったら自分のせいだ、と落ち込み、日本語教室にボランティアとして参加することの責任の重さを感じ、ボランティアとして参加することが怖くなった。しかしある学習者の人に「なぜこの教室に毎回来ているの?」と聞くと、「楽しいし友達に会えるから」と言われ、保見が丘日本語教室はただ日本語を学ぶだけではなく友達に会う場所でもあるということに気づかされた。保見が丘教室は毎回来なければならない決まりもないし、途中参加する人も多い、誰もが会話を楽しむ場所であったことを、今まで私はボランティアという名前にこだわりすぎて気づいていなかったのだ。私は自分がいつも何かを与える立場だと考え、相手を満足させることばかり考え会話の途中でも沈黙にすることが怖く、質問攻めにしてばかりいた。会話をする上で私は相手のことを知りたいとか楽しみたいという気持ちはなく、ただ「次は何を話そう」と考えてばかりいてそれが相手に伝わり、上手く会話ができなかったのだ。このことに早く気づいていればもっと楽しい教室活動ができたと思う。保見が丘日本語教室では日本語の文法や構文を教えているわけでもなく、見る人によってはただ会話を楽しんでいるだけのように見えるかもしれない。しかし大抵の日本人は、隣の家にとえ外国人がいてもきっと交流はないし分かり合おうとする人はきっと少ない。保見が丘という外国人集団居住地区においては、ただ日本語を教えるだけでなく、相手のことを知りたい、理解したいという、人とかかわるときに一番大切なことを再認識させてくれた。あまり活動に参加することはできなかったがこの教室で学んだこと、会話をする上で相手を理解しようとする気持ちは忘れずにいたいと思う。

## コミュニケーションが生まれる場所

外国語学部スペイン学科 桑原知恵

私たちが参加した保見が丘日本語教室は、保見団地の中にある。保見団地は全住民の40%以上が外国人という、いわゆる外国人集住地域である。この教室は、外国人と日本人との交流を目的とし、そのために日本語教室という形をとっているのである。

私は夏休み明けに4人のペルー人の兄弟に出会った。夏休みの間、私は短期留学し、ス

ペイン語を学んだ。前よりスペイン語を話すことに多少の自信がついており、夏休みごろから参加し始めた彼らと話すのを楽しみにしていた。

留学から帰ったあと、すぐに保見の教室活動に参加した。初めて彼らに会ったとき、スペイン語で少し話しかけてみた。しかし恥ずかしいのか、なかなか話してくれなかった。しかし、時間が経つとともにすぐに私は彼らと仲良くなることができた。やはりスペイン語を話せたということが、話すようになる良いきっかけになってくれたと思う。最初はスペイン語でしか話してくれなかったのが、そのうち日本語でも話そうとしてくれるようになった。私のスペイン語もよくなったとはいえ、わからない単語もたくさんある。すると、彼らは私に日本語で説明してくれるようになった。「ともえにスペイン語を教える、ともえは僕らに日本語を教える」そう言って笑った。

それから 12 月に行われた学習者の R さんの日本語スピーチのサポート役になった。R さんのサポートは私が当初考えていたよりずっと難しく感じた。R さんの言いたいことを日本語にする、というのは簡単なようで難しいことである。私にどこが足りないか、どうしたらいいか聞かれても、私もどうしたらいいかわからなかった。どこまで私が直すのか、まず R さんが何を言いたいのか、それがわからなかったからだ。私は先生ではないから、「うまく」直すことなんてできないと感じていた。しかし、他のボランティアと一緒に R さんと話していくと、R さんの言いたいことが徐々に形になっていった。ボランティアの勝手な解釈でもなく、R さんが納得しながらの原稿作成であった。時間はかかることだったが、決して難しいことではなかった。もっと R さんと時間をかけて、聞き方も工夫しながら作り上げていけばよかったのだ。私は R さんの話が終わる前に勝手な解釈をしていたように思う。こうではないか、ああではないかと結局私が作ろうとしていたのだと気づいた。これが相手とコミュニケーションをとる、ということなのだとはつとした。最近 R さんは私に「去年スピーチありがとう」と新年のあいさつのメールをくれた。私のほうが彼に「ありがとう」を言いたかった。

ペルー人の兄弟とは日本語とスペイン語、両方での会話だった。日本語教室だから日本語を話さなければ、と思ったことが何度もあった。でも、お互いつたない言葉だったが、精一杯わかろうとしていた。今でもそこに多少抵抗はあるが、わかろうとする姿勢が一番大切だと感じている。R さんとは、時間はかかるけれども、じっくり向き合えば「伝わる」ことを実感した。私はコミュニケーションをとるということに対してこれほど考えたことはなかった。そして、これほど楽しいと思ったことはなかった。ブラジル人とか日本人とか、教える教えられる、日本語がうまい下手、そんなものは関係ない。保見で出会った人たちがみんな、私にコミュニケーションの楽しさを教えてくれた。団地の 40%が外国人、そこで行われる日本語教室は教科書を使わない、保見は特殊な場所だと思っていた。けれど、それは間違っていた。決して特殊な場所ではなく、ごく自然な人と人とのコミュニケーションが生まれる場所だったのだ。

### 3. 実習生の感想

#### 3-2. 名古屋工業大学日本語教室

名古屋工業大学の日本語教室に参加して

中山由美

名古屋工業大学家族向け日本語教室実習の感想

オウシン

名古屋工業大学で実習して

夏目寿三代

# 名古屋工業大学の日本語教室に参加して

外国語学部英米学科 中山由美

## 1. はじめに

名古屋工業大学（以下、名工大）では留学生の家族を対象に日本語ボランティアクラスが開設されている。

私は2007年度の日本語教育実習の一環として、前期は金曜日に、後期は月曜日の日本語クラスに参加した。クラスには、インドネシア、エジプト、インド、アフガニスタン、中国、イギリスと、さまざまな国から来た人たちと知り合うことができた。

日本語、または他の言語を介して相手の国・文化・生活様式のみならず、その人自身のことについても知ることができた。その過程は私にとっても、良い経験となり勉強にもなった。ここで、その名工大での活動を振り返ってみようと思う。

## 2. なぜ留学生の家族なのか？

日本語ボランティアクラスは、留学生の家族向けである。なぜ家族向けなのかというと、留学生の家族として来日したものの、言葉もわからず、地域と接触することもなく閉じこもりがちになることもあるという。そうならないように、学生ボランティアが留学生の家族に日本語を教えながら交流しようという趣旨だ。

外国から来て、部屋に閉じこもるなんて寂しい。何かきっかけさえあれば、留学生の家族も外部との交流ができると思う。そのきっかけとなれるのであれば、ぜひ参加したいと思った。

## 3. 活動

私たち愛知県立大学の学生は、前期月曜日と金曜日のクラスを受け持つこととなり、私は他3名の実習生と一緒に金曜日のクラスに参加した。後期は月曜日のクラスのみとなり、他2名の実習生と参加した。

学習者は、インドネシア、インド、エジプト、アフガニスタン、中国、イギリスといった国から来ており、みな女性だった。学習者もボランティアも全て女性ということで、クラスの内容には、買い物や、道の聞き方、病気の症状や料理など生活に密着した話題についてよく取り上げた。またクラスの中では、「だんなさんとは、どうやって知り合ったのか」という話になったり、「日本では、眉毛はどこで手入れしてもらうのか」と質問がでたり、お互いが自国の料理を振舞ったりと、日本語クラスを通して楽しい時間を過ごせた。

話を聞きだしたい時、または伝える時に、最初思うように通じなくても、絵をかく、違う言い方をする、媒介語を使うなど試行錯誤の後、何とかコミュニケーションを図ることができた。相手が何を言っているのか理解したい、相手に伝えたいと思う気持ちが、お互いの関係をぐっと近づけてコミュニケーションを可能にしたのだと思う。

## 4. 最後に

前期・後期と日本語ボランティアクラスを担当して、本当にいろんなことを得た。自分が何気なく使った一言が、学習者には分からないというような、日本語に関すること。母語話者であるがゆえに、気に留めなかった文法や、いいまわし、異文化、慣習など。私も多くのことを得たが、学習者も私たち実習生から何か得たと信じている。何よりもクラスに来てくれることが嬉しかった。日本滞在期間が短い人、長い人とそれぞれだが、日本の生活を少しでも楽しく快適に過ごして欲しいと思う。

名工大での活動が終わっても、地元の日本語教室などへ参加できたら、進んで参加したいと考えている。そんな気持ちになったのは、名工大での一年があったからだと思う。

## 名古屋工業大学家族向け日本語教室実習の感想

文学部児童教育学科    オウシン

私は名古屋工業大学国際センター家族向け日本語教室（以下「名工大」）の前期の実習に参加させていただきました。名工大は保見ヶ丘日本語教室の状況と違って、日本語学習を求めて来る方は、名工大の留学生の家族です。彼女らは大体ある程度の学歴を持っていて、学習意欲が高いです。その中で、私たち実習生は本当に戸惑いながら実習をやってきました。

これまで日本語教員課程を通じて、日本語の文法や成り立ちなどの基礎知識をはじめ、教授法などを学び、自分たちで教案を作って模擬授業を行うことがありましたが、実際に外国人の方々に日本語を教えるということは、思っていた以上にとても大変なことでした。人にもものを教えることの難しさを痛感しました。私自身は留学生として、日本語学校の授業と大学の講義で、日本語を教えてもらう側を経験しました。日本語教育に関しては、決して不案内ではないです。「自分が経験した日本語の授業を思い出しながら実習をやっていけば問題がないだろう」と最初の頃に思いました。しかし、実際に教える側になってみると、そういう経験は確かに貴重なものですが、すべてはそのままに使えるわけではないことが分かりました。日本語教育の多様性もしみじみ感じました。「十人十色」のように、その人にあった日本語教育を行わないといけません。コミュニケーションというのは、もし相手が必要でないものをいくら発信しても、成り立たないと思います。

前期の名工大の学習者の中には、大学院を目指している方もいるし、お子さんがいらっしゃる主婦の方もいます。彼女たちそれぞれ求める日本語が違うと思います。実際の生活の中ですぐ使える日本語を教えてもらいたい方もいれば、きちんとした単語、文法をはじめ、書面的知識を教えてもらいたい方もいます。その中で、私たち実習生4人はそれぞれの考えを持ち、頭を抱えながら、ぶつかりながら、日本語教育そのものが分かり、成長して来ました。本当にいい経験でした。



# 名古屋工業大学で実習して

外国語学部フランス学科 夏目寿三代

私は、毎週月曜日の午前 10 時 30 分から 12 時まで、ボランティアとして名古屋工業大学（以下、名工大）国際交流センター家族向け日本語教室に参加している。この教室は、名工大に勤務、または籍を置くご主人を持つ、外国人配偶者を対象にしたものである。学習者の国籍は、中国、インドネシア、イギリス、アフガニスタン、インド、エジプトとさまざま、使っている言語もさまざま、在日期间、日本語能力もさまざまである。媒介語として私は主に英語を使用しているが、英語を使えばすべて意味が通じるというわけではなく、実際は、絵とジェスチャーと情熱で言いたいことを伝え、学習者との意思疎通を図っている。

この教室の中での私の役割は、毎回の活動内容の提示、進行、展開を行うことである。同じように名工大日本語教室にボランティアとして参加している県大日本語実習生と一緒に、クラス活動として何をするか、どのように進めるか、毎週教案を考えなければならない。

私自身、日本語についての知識は低く、文法などを教える技術はほとんどない。そのため、教室活動は、会話を中心とした活動になる。学習者が今一番知りたい日本についての情報は何か、どのような日本語を知っていると便利であるか、そして私たちが学習者に伝えたいことは何かなどを考え、学習者が効率的に日本語を習得できるように工夫する必要があった。これが、想像以上に難しかった。

特定の教科書などを使うのではなく、ほとんどが手作りの教案だった。ローマ字ルビやひらがなルビのレジュメを作り、イラストを添えたり、写真や実物を持って行くなど、できる限りの工夫をした。しかし、すべてが満足の行くクラス活動ではなかった。

ある日、「電話」というテーマで教室活動を行い、電話をかけるとき、受けるときはどのような日本語を使うかを知ってもらおうという教案を作った。電話かける場面では、電話をかけようとした相手は知っている人なのか知らない人なのか、電話をとった人物は電話をかけようとした人物なのか、そしてその人物がいなかった場合伝言を頼むのか、間違い電話をかけてしまった場合はどうするのか…など、様々な場合が想定される。電話を受ける側になった場合も、同様に様々な状況が起こりうる。その全てを網羅することができず、かえって学習者を混乱させてしまった。

教室活動終了後、私は本当に反省した。自分でもきちんと使い分けが理解できていないのに、学習者に不完全なことをやらせてしまったという後悔で胸がいっぱいになった。学習者が、時間を割いて、日本語を学びたいと思って教室に来てくれているのに、その貴重な時間を無駄な時間にしてしまったことを、本当に申し訳なく思った。

後日、先生からどのように「電話」の場面を想定した日本語教室活動を行えばよかったのかを教えていただき、自分の未熟さを痛感した。

このようなことがあってからも、幾度となく私は、完全ではない教案でクラスを進行してしまっただけである。完璧な教案を作ったと思っていても、実際に教室でやってみると、

意味が通じなかったり、説明が足りなかったりと、学習者を混乱させてしまった。

私は、この名工大日本語教室に参加することで、「伝えることの難しさ」を学んだ。せっかく「日本語を学びたい」と思って参加してくれている学習者に、どう説明すればいいのか分からなくなり、混乱してしまう私の情けない姿を見せるだけで時間が過ぎていってしまうことが、とても悔しく、申し訳ないと感じる。

しかしその反面、私の言いたいことを学習者が理解できない時、何とか伝えようと日本語や英語だけではなく、他の表現に言い換えたり、絵やジェスチャーを使うなど、時間をかけることで意思疎通が出来た時の感動を味わうこともできた。「ことば」は、相手とコミュニケーションをとるための一つの道具にすぎず、それが使えなければ、他の部分で補うことが充分可能である。そして、そのようにして、互いの言いたいことを分かり合えると、より大きな感動を味わえる。実体験として、この感動を得られたことは、私にとって驚きでもあり、喜びであった。

このような体験ができたのも、日本語教育実習に参加することができたからであり、そして名工大日本語教室に関わってくださったセンターの方、ボランティア仲間、そして優しく笑顔が素敵な学習者のおかげである。

日本語教室のボランティアは、ふだんの私の生活では、決して経験することができない辛さや悩みを感じる経験であり、そしてそれをかき消すぐらいの大きな感動や喜びや達成感などの様々な感情を味わうことができる、素晴らしい経験である。

### 3. 実習生の感想

#### 3-3. (財)海外技術者研修協会中部研修センター日本語教室

#### 3-4. 東保見小学校「ことばの教室」

AOTS の実習に参加して

金丸和可奈

「ことばの教室」に参加して

神谷美法

# AOTS の実習に参加して

外国語学部フランス学科 金丸和可奈

わたしは12月11日に（財）海外技術者研修協会の中部研修センター（以下 AOTS）での実習に参加した。AOTS は、民間企業の技術研修生（発展途上国の研修者）の受け入れ事業を行なっている。豊田市貝津町にある中部研修センターでは、日本語学習がカリキュラムに組み込まれており、さらにそこで日本語を学んでいる研修者を対象に、ボランティア日本語クラスも設けられている。2007 年度の愛知県立大学日本語教育実習生は6月に授業を見学し、そして12月にはこのボランティア日本語クラスで実習を行なった。

個人的に、AOTS には少し特別な思い出があった。それは、6月に授業見学に伺ったときに研修者の方々が言った「日本人と話す機会がない」という言葉が私の頭から離れず、私たちに何かできることはないか、とずっと考えていたからだ。その後、何度か保見の活動に参加しているうちに、AOTS の研修生が私たちに求めていることは、保見のような「対等で自由な人間関係」なのではないかと感じるようになった。教科書にしばられるのではなく、自由に自分を表現する会話を楽しめたら、と思った。

わたしのグループは、活動テーマを「ディベート大会」に設定した。7名の研修者の方々は「都会暮らしと田舎暮らし、どちらが良いか」というテーマで激しい討論を繰り広げた。「田舎のほうが、腕のいい医者が多い」といった、時には文化の違いを感じさせる意見もあったりして、とても有意義な時間となった。また、休憩時間や余った時間には自由に会話する機会もつくって、できるだけみんなが自然体で話せるように心がけた。ベトナム人の研修生が、もうすぐ神奈川の会社へ研修に行くので、横浜で花火が見られるところがあるか、と聞いてきた。研修生は日本の花火文化に大変興味があるようだった。また、皆が口をそろえて「日本のテレビはコメディ（バラエティ）ばかりで、日本語が理解できない」と言っていたので、NHK の日本語講座や、ニュース番組を見ることを勧めた。後でよく考えてみると、たしかにバラエティ番組で使われている日本語は研修者が耳にする日本語とは全く異なっていた。それでもバラエティ番組を見ようとする心がけは、日本人との話のネタにもなるのでとてもいいことだ、と思った。

そうしてあっという間に2時間が過ぎ、最後には、みんなが笑顔になっていて、非常にいい雰囲気ができていた。わたしにとっては緊張が一気に解けた瞬間だった。

いろいろな日本語教育機関に見学にいたり、活動に参加したりしているうちに、「どのような授業スタイルが最良か」という疑問が生まれ、なかなか答えが出せずにいた。特に、教科書を使いながらの講義スタイルをとっている AOTS の授業を見たときには、「これこそ、日本語教育」という印象を受け、その後、普段から参加していた保見ヶ丘日本語教室に行くと、自分たちの活動が学習者のためになっているのか不安になっていたことを今でも覚えている。

しかし今回実習に参加して、「どのスタイルが最良か」という問いに対する答えは、学習者のニーズによって変わるということがわかった。わたしたちは、それをくみ取るためにボランティア活動をしている。ボランティアという立場にいるからこそ、その穴を埋め

られるんだ、と自信が持てるようになった。そしてわたしたち実習生も、その積み重ねがあってこそ学習していくのだと思う。

また、わたしは 11 月から 12 月の間コーディネーターとしても AOTS に関わった。コーディネーターの役目は主に実習生のグループ編成、スケジュール管理、先方と実習生との連絡だが、どれも一人では決してこなせなかったことばかりで、AOTS の方々、先生、県大実習生と多くの方々と交流ができ、非常に貴重な体験となった。

今回の AOTS の活動では、コーディネーターとして、ボランティアとして、そして実習生として本当に多くのことを学んだ。機会があれば、また参加したいと思う。

## 「ことばの教室」に参加して

文学部児童教育学科 神谷美法

私は 2007 年度の後期から、毎週金曜日に「ことばの教室」でボランティアをしている。

ことばの教室（以下、教室）とは、日本語の能力が十分ではない外国人児童生徒のために、2000 年 9 月に豊田市教育委員会によって同立東保見小学校内に設置された教室で、日本の学校に編入予定の豊田市在住の外国人児童生徒を対象に、給食などの実費を除き、無料で一定期間（約 4 ヶ月間を目安）日本語指導、適応指導（給食や掃除などの生活指導を含む）、教科補習などを行なっているところである。教室は、室長 1 人と指導員 3 人で運営され、室長は元小学校教員が務め、指導員のうちの 2 人はブラジルで教員の経験があるバイリンガルの日系人で、残る 1 人は日本の教員免許を持つ日本人である。教室では日本語、ポルトガル語、スペイン語、英語に対応することができ、保護者との連絡も密に行なっているが、ほかの母語を持つ児童生徒の入室も可能である。2008 年 1 月 18 日の時点では、ブラジル国籍 15 人、ペルー国籍 1 人、フィリピン国籍 1 人、ガーナ国籍 1 人の計 18 人が在籍している。

教室でのボランティアは、思っていた以上に楽しいものであった。私は、教室の先生方に無理を言って、朝からではなく 3 時間目からの参加にしてもらい、3、4 時間目の日本語の時間と、給食、掃除に参加している。日本語の時間は、レベル別で子どもたちを 3 つのグループに分け、少人数で授業を行なっている。私たちボランティアは、どこか一つのグループに入り、子どもたちと一緒に授業を聞きながら全体的にサポートしたりし、来日直後の子や、まだ一斉授業にはついてこられない子に対して、マンツーマンでひらがなや単語指導を行なう。そして給食を一緒に食べ、掃除をし、休み時間などには、宿題のチェックやプリント類の採点の手伝いをしたり、教室にいる子どもと絵カードなどで遊んだりして過ごしている。私は週に一度しか教室に行っていないが、いつも子どもたちは温かく迎えてくれる。私がいつも驚かされるのは、子どもたちの適応と言語習得の早さだ。低学年

の子たちは1週間もすればすっかり生活に慣れてしまい、ところどころ日本語もわかるようになってきている。1日3時間半ぐらいのボランティアだが、いつも新しい発見ができ、異国で大人同様にがんばっている子どもたちの姿を見るたびに、私自身もいつも励まされている気分になる。

私は、スペイン語を学習した経験があったため、前職で日系人と関わることがよくあり、以前から日系人児童生徒の教育に興味があった。そのため、教育について勉強しようと県大の児童教育学科に3年次編入をし、入学後に全学部共通の日本語教員課程があることを知り、迷わず履修を決めた。学科の講義でも、外国人児童に関するものをいくつか履修していたので、教室の存在はすぐに知り、授業の一環として、見学も入学してすぐにさせてもらえた。その時から漠然と教室に興味は持っていたが、編入1年目の昨年度は所属学科の必須単位修得に追われ、これといって行動には移せていなかった。そして今年度に入って、掲示で「ことばの教室ボランティア」の募集を知ったのだが、教室の1時間目から通うには地理的に大変で、また、今年度は前期に1ヶ月の小学校での教育実習があり、確実に3分の1は欠席せざるを得ない状況であることがわかっていたため、希望を申し出なかった。しかし、後期になって、東先生から「ことばの教室ボランティアが足りない」ということを伺い、また、偶然友人も他の曜日に教室でボランティアをしていたので、卒業まで残り半年ではあったが、私もやらせてもらうことにした。このような経緯から始まったボランティアだが、今はボランティアができたことをとても感謝している。私は卒業後、民間企業への就職が決まっているが、やはり編入学前に思っていたように、いつかは教室のようなところで、外国人の子どもたちに対する指導に関わる仕事がしたいと思っている。そう思わせてくれたのが、「ことばの教室」だ。昨年末、6人の子どもたちが教室を立派に巣立っていった。私ももうすぐ教室とお別れである。とても短い間だったが、とても充実した刺激的な時間だった。これからも陰ながら外国人の子どもたちを応援していきたいと思う。「ことばの教室」のみなさん、先生方、本当にどうもありがとうございました。

Muito obrigado! ¡Muchas gracias!

## 【第2部】 実習生レポート

第2部は、実習生が提出した学年末レポートを掲載しています。自分が参加しているコミュニケーションを見直すことを目的として、教室活動で実習生が話している日本語の特徴や、お互いが意思疎通をするために使っている方法など、さまざまな観点から分析を試みました。

# 日本語母語話者の言い換えについての分析

外国語学部フランス学科 伊藤萌

## 1. 目的

日本語母語話者が、学習者に対して日本語を使用するときに、どのような言い換えを行っているかを調べる。どのような方法があるのか、無意識のうちにどの方法が選択されているのか、トピック・語彙によって特徴があるのか。また、どのような言い換えを選択した場合に、学習者にとってよりわかりやすい表現となっているのかを分類し、その傾向を分析する。それにより、学習者にとって理解しやすいであろう方法を検証し、より「わかりやすい話し方」を模索する。

## 2. データ

学習者 1 人とボランティア 1 人で活動を行い、その会話を録音した。

|       |                                                     |        |             |
|-------|-----------------------------------------------------|--------|-------------|
| 日時    | 2007 年 11 月 19 日                                    |        |             |
| 場所    | 名古屋工業大学 日本語教室                                       |        |             |
| データ時間 | 46 分 41 秒                                           |        |             |
| 使用教材  | プリント「風邪 (kaze)」 (名工大ボランティア作成)                       |        |             |
| 補助教材  | 辞書 Hindi-English English-Hindi<br>旅の指差し会話帳 (ヒンディー語) |        |             |
| 学習者   | P さん (女性)                                           | 出身     | インド (ヴァラナシ) |
|       |                                                     | 母語     | ヒンディー語      |
|       |                                                     | 英語力    | 高           |
|       |                                                     | 日本語学習歴 | 無           |

## 3. 言い換え例

### 3. 1 インプット：学習者の未知語の導入のための言い換え例

#### ① ジェスチャー

「頭痛」

学：あたまがいたい means?

ボ：(こめかみを押さえる)

学：Headache.

ボ：うん。

#### ② ジェスチャー＋母語／媒介語

「手洗い」

ボ：手洗い。手、洗います。

(手をこすり合わせる)



手（手を見せる）

学：手。Means・・・

ボ：Hand

学：Hand, 洗い・・・

ボ：Wash.（手をこすり合わせる）

学：Wash.

### ③ 媒介語

「小児科」

学：This means Child? しょうに・・・。

ボ：うーん、For child.

学：For child

ボ：科は・・・。

学：小児科に行きます、Child.

ボ：Child go to this...

学：Child hospital.

ボ：うーん。おっきい病院には、大きい、Big.

学：Big hospital.

ボ：おっきい病院には、Section.

学：はいはい。わかります。

ボ：内科、外科、小児科。

学：はい。

### ④ 媒介語＋母語

「食べます」

ボ：食べます、は…（：食べる）

学：…take.

ボ：Take.

### ⑤ 言い換え

「薬局に行きます」

ボ：薬局に行きます。

学：…行きます。

ボ：薬局は、薬を扱う…、薬があるところ。

学：薬？

ボ：薬。

学：Medicine?

Medical shop? Shop.

学：Shop.

⑥ 反意語

「大人と子ども」

学：し、にかに行きます。

ボ：小児科は、子どものための・・・

学：こども？

ボ：子ども。

学：？

ボ：大人と、子ども。私達は大人です。Adult.

学：うーん、わからない。

ボ：Adult, Adult....Adult.

学：Adult. はい、Adult.

ボ：小児科は、子ども。

学：Child.

⑦ 図

「いますか」

学：います means ?

ボ：うーん、妊娠している、いない。

うーん、状態・・・今、अब (：今)

学：状態 means...

(中略)

ボ：(図を描く) 時間です。

Time. Now, Future.

いますは 続きます。

妊娠、Pregnant が、続きます。

学：Growing...

ボ：ううん。Pregnant が、続く、Continue.

学：Continue.

いますか means Continue?

ボ：ううん、Continue すること。

これは、Happen. Something happen.

学：Yes, happen.

ボ：で、Continue.

学：Oh, はいはい。いますか means...

ボ：妊娠は、長いです。その間。

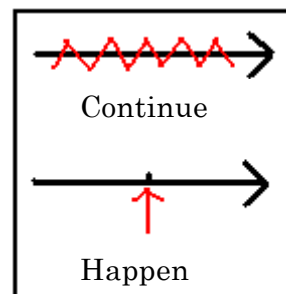
学：はい。 (中略)

学：ん？

(「：妊娠しています」を指して)

ボ：うん、そう。妊娠しています。

図



### 3. 2 アウトプット：学習者が言いたいことを推測するための言い換え例

例1：お茶

ボ：へえ。生姜と胡椒を、  
ジンジャーとペッパーを一緒に？

学：Mix. And water, and tea powder.

ボ：ふーん、紅茶ね、あ、お茶？

学：Tea, tea tea.

ボ：お茶？ あれ、お茶じゃない？

学：No, お茶ない。(辞書を調べて)  
ん。Tea.

ボ：うん。Tea. (?)

例2：どういたしまして。

ボ：ありがとうございました。

学：あー、what to... You told me now  
ありがとうございます。 Me...

ボ：うん？शुकरिया ? (: ありがとう)

学：शुकरिया 、ない。

ボ：ん？

学：んー、OK。

ボ：ああ、答え、答え？

学：はあ。

ボ：うんと、「ありがとうございました—どういたしまして」？

学：はい。どういたしまして。

## 4. 分析

### 4. 1 インプット

①のジェスチャーという伝達方法は、語彙の導入において有効なものではないかと考えていた。しかし、実際に音声聞き返してみると、ジェスチャーで伝えることができるのは、ごく一部の語彙であることがわかった。具体的に一つの語彙に対して一つの動きで伝えられるものでないと、正確に伝わらない。頭痛と眩暈など、ジェスチャーだけでは意味の違いが把握しにくい物もあり、それだけで伝えることには危険性がある。また、ジェスチャーは文化によって違うものだということを、忘れてはいけないと再確認した。

②のジェスチャーにプラスして母語、又は媒介語で伝えることは、正確さが増すといえる。しかし③、④の母語や媒介語は、今回のように日本語母語話者の媒介語や学習者の母語能力が高くない場合や、媒介語がない場合は、こちらも誤解を生じる可能性がある。実際、今回も日本語母語話者の語彙が適切でなかったために、上手く伝わらない場面があった。媒介語や母語に頼りすぎることは、語の見方を限定してしまい、導入を困難にしまう危険性があることがわかった。

⑤の言い換え・例示は、語彙の選択が重要である。「薬局→薬のあるところ」という言い

換えは、それ以前の活動で薬＝Medicine という導入が済んでいたために可能だったが、それ以外の場合では、次々と新出の語彙を提示してしまい、余計に学習者を混乱させてしまった。

⑥の「内科と外科」、「大人と子ども」のように、対立する言葉を同時に導入することが、とても効果的だということがわかった。内科については、言い換えでは上手く導入することができなかったが、対立する「外科」を同時に導入することで、わかってもらうことができた。また、「大人」を導入できたことで、自動的に「子ども」を導入することができた。形容詞などはよく反対の意味と同時に導入されることを知っていたが、その理由をよく理解することができた。

⑦図の使用については、今回「状態」を説明するために使用したが、学習者にきちんと意味が伝達されたかを確認することができなかった。その後、学習者が母語の語彙帳を開いて、母語でのその言葉を指してくれた。学習者の母語（ヒンディー語）にはコピュラ動詞という英語の Be 動詞に相当する動詞がある。こういった場合は下手に説明するよりも、母語で相当するものを提示した方が、理解がしやすかったかもしれない。母語の知識を効果的に使う必要があることがわかった。

今回の活動では、「しっかり」という語の導入が、上手くいかず断念してしまった。抽象的で、複数の意味がある言葉の概念を伝えることはとても難しい。自身の日本語能力をもっと高めなければならないと強く感じた。

学習者のアウトプットの言い換えについても、同様のことが言える。ジェスチャーはこちらが推測することで理解することが可能だが、そういった方法で伝えられない場合は、学習者がそれらをアウトプットできる方法を準備することが必要である。また、「ありがとうございます—どういたしまして」のような表現は、学習者が定型文として覚えていることが多い。学習者がどのように日本語を学ぶのかをあらかじめ知っておくことも、学習者のアウトプットを手助けすることになるとわかった。

## 4. 2 アウトプット

今回、私が「Tea powder」という語に対して「お茶」という言葉を使ったところ、学習者の方は違うとあって、辞書を開いて「Tea」を指して見せてくれた。そのときは何が言いたかったのか、「お茶」と「Tea」がなぜイコールではないのか判らなかつた。しかし後になって考えてみると、学習者の中で「日本人が日本語でお茶といたらそれは緑茶を指す」という考えがあったのではないかと気づいた。その場ではそのまま流してしまったが、こういったところに注意をして話を深めると、学習者はもちろん、自身の語に対する捉え方などがわかり、語に対する知識を深めることができたのではないかと思う。新出の語彙を導入することも重要だが、時には一つの語について考えてみることも大切なことなのだと気づくことができた。

## 5. まとめ

今回の分析の結果として、

1. 一つの動作で表すことのできる、状態を表す語はジェスチャーを使う
2. 対立する概念を持つ語は反対語も同時に導入する

### 3. 学習者の母語の知識（特に文法など）は有効に使う

ことが効果的であることがわかった。

学習者の未知語を導入しようとするとき、特にそれが具体的な動詞の場合は、注意も必要だが、まずジェスチャーが有効だった。抽象的な語彙でも、一対一で対応しているような簡単なものは媒介語、母語での導入が比較的わかりやすいようである。しかし、媒介語や母語がどのような場合も使えるとは限らない以上、日本語でいかに導入するかが重要になってくる。その点で、反意語の同時導入や、学習者が覚えやすい定型文としての導入の知識が必要であると感じた。

どのようなトピック・語彙でも、様々な方法によって学習者の背景的知識を活性化することが重要であることがわかった。一つの説明にこだわることなく、一つの語彙に対していろいろな方面からアプローチし、すこしでも学習者の既存の知識に接触できるようにすることが、学習者にとっての「わかりやすい話し方」なのだと考えた。

# ボランティアの説明のしかたについて

外国語学部フランス学科 岩井朋美

## 1. データ

2007 年 11 月 18 日 保見が丘日本語教室初級クラス

進行：高倉由紀

学習者：R (ブラジル人・初級レベル)、F (ペルー人・中上級レベル)

ボランティア：H、豊田いずみ、長谷川知南、岩井朋美

テーマ：「鍋」

## 2. 分析

ボランティアである私自身がどのような説明をしているのか、下に記述する。

| 時間   | トピック       | 発言                                                                                | 誰に対しての発言か  |
|------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 0:01 | 味噌キムチ鍋     | ボ：味噌キムチ鍋…。                                                                        |            |
| 0:21 |            | 岩：でも日本料理だよ。                                                                       | ボランティア     |
| 0:30 |            | 岩：向こう(韓国)も何か、チゲとかありますよね。                                                          | ボランティア     |
| 0:35 | 鍋          | ボ：鍋しましたか？                                                                         |            |
| 3:00 |            | 岩：鍋しました。この前。もう2回くらいしました。お家で…なんか、ホットプレートみたいなのあるじゃないですか？分かりますか？ホットプレート、コンセントでつないで…。 | 学習者&ボランティア |
| 3:22 | 電気鍋の説明     | 岩：電気で温める。                                                                         | 学習者        |
| 3:30 | ホットプレートとは？ | 学：ホットプレートはなんですか？                                                                  |            |
| 4:05 |            | 岩：電気で…、温かく…段々なってくるんですよ。                                                           | 学習者&ボランティア |
| 4:20 |            | ボ：それは最高 150℃くらい？                                                                  |            |
| 4:21 |            | 岩：200℃…260℃とか…250～260℃くらいはいくと思うんですけど。                                             | ボランティア     |
| 4:34 |            | ボ：大体いくらくらい？                                                                       |            |
| 4:37 |            | 岩：分からないです。                                                                        | ボランティア     |
| 4:45 | 岩井の鍋事情     | 岩：で、こゝろ食卓の上に乗っけて、食べるときも温かいままで食べれるんで、みんなでホットプレートの鍋を囲んで、それでキムチ鍋をしました。キムチを入れ         | 学習者&ボランティア |

|       |            |                                                                      |            |
|-------|------------|----------------------------------------------------------------------|------------|
|       |            | たりとか、モヤシ、豚肉…。                                                        |            |
| 5:03  |            | 学：食べ物…自分でみんな食べますか？                                                   |            |
| 5:09  |            | 岩：もう全部入れて、グツグツ煮ている状態で、みんなで「わあ〜」って食べるんですよ。                            | 学習者&ボランティア |
| 5:14  | バーベキュー     | 学：バーベキュー、何で作りますか？                                                    |            |
| 5:52  |            | 学：バーベキューは何で作りますか？                                                    |            |
| 5:59  |            | 岩：えっと外？え、外で焼くときとかは炭！                                                 | 学習者        |
| 6:02  |            | 学：公園で何で作りますか？                                                        |            |
| 6:03  |            | 岩：そのときは炭でやりますけど。                                                     | 学習者        |
| 7:14  | 鍋          | ボ：キムチ鍋って味噌入れますよね？                                                    |            |
| 7:17  |            | 岩：入れないよ！                                                             | ボランティア     |
| 7:36  | 「鍋食べる」って？  | ボ：「鍋食べる」って変だよね？日本語として…。                                              |            |
| 7:42  |            | 岩：「鍋しましたか？」とか…。                                                      | ボランティア     |
| 7:53  |            | 岩：でも今、鍋って自分で味付けする人はあまりいないですか？今なんかストレートつゆでなんか売ってるじゃないですか？もう何種類も何種類も…。 | ボランティア     |
| 10:46 | 電気鍋        | ボ：夏はこれでお好み焼き作ったり…。                                                   |            |
| 10:51 |            | 岩：え、ホットプレート？鍋用に深いやつもありますよ。                                           | ボランティア     |
| 10:56 |            | 岩：それで煮物も焼き物も何でもできるみたいな。                                              | ボランティア     |
| 12:28 | 電気鍋の材質について | 学：入れ物…鍋？鉄？                                                           |            |
| 13:07 |            | 岩：アルミじゃないよ。アルミはなんか壊れちゃいそう。                                           | 学習者&ボランティア |
| 16:20 |            | ボ：ペルーで「これはおいしい」っていう料理はありますか？                                         |            |

|         |           |                                                                                    |            |
|---------|-----------|------------------------------------------------------------------------------------|------------|
|         |           | 学：牛の心臓？                                                                            |            |
| 16 :57  |           | 岩：だって日本人もハツって食べるじゃん。                                                               | ボランティア     |
| 17 :04  |           | 岩：生で？ 怖い。                                                                          | ボランティア     |
| 18 :42  | 牛の腸を食べること | 岩：え、焼いてそのまま？                                                                       | 学習者        |
| 19 :45  | ハツって？     | 岩：焼肉屋さんで出てくるハツって何の心臓？牛の心臓じゃないの？                                                    | ボランティア     |
| 19 : 50 |           | 岩：ホルモン中に、ホルモンという種類の中にハツって言うものがあるわけだから、アレは牛の心臓じゃないんですか？                             | ボランティア     |
| 20 :02  |           | 岩：ハツ、私もあまり食べたことない。                                                                 | ボランティア     |
| 20 :13  | 珍しい食材について | ボ：スズメの頭ってありますよね？                                                                   |            |
| 20 :21  |           | 岩：私、スズメの丸焼き食べたことある。                                                                | 学習者&ボランティア |
| 20 :40  |           | 岩：鳩より小さくて、本当になんか…茶色くて。                                                             | 学習者        |
| 21 :03  |           | 岩：え、なんか、うちは父がどこかのおみやげで買ってきた。焼いたやつを。                                                | 学習者&ボランティア |
| 21 :25  |           | 岩：なんかもう剥いだ後で、なんかもう肉のみ、見たいな感じなんですよ。ちょっと生々しいんですよ。                                    | ボランティア     |
| 21:40   |           | 学：ペルーで鳩食べたことある。                                                                    |            |
| 22 :07  |           | 岩：フランス人はウサギ食べるよね？                                                                  | ボランティア     |
| 22 :12  |           | 岩：ウサギってわかります？                                                                      | 学習者        |
| 22 :15  |           | 岩：食べますか？                                                                           | 学習者        |
| 27 :24  |           | ボ：私、蛇食べたことがあります。鰻に似てる。                                                             |            |
| 27 :43  | 鰻         | 岩：形、似てますもんね。ニョロニョロしてて。                                                             | ボランティア     |
| 27 :53  |           | 岩：鰻って分かります？鰻って分かりますか？魚で、蛇みたいにニョロニョロしてて、よく日本人はゴハンの上に載せて蒲焼き…焼いて甘い、甘辛いタレをかけて食べるんですけど。 | 学習者        |
| 28 :52  |           | 学：ブラジルでは「アリゲート」食                                                                   |            |



|        |                  |                                               |            |
|--------|------------------|-----------------------------------------------|------------|
|        |                  | べます。                                          |            |
| 29 :00 |                  | 岩：ワニ？                                         | 学習者        |
| 29 :10 |                  | 岩：ワニのお肉、おいしそうじゃない？                            | ボランティア     |
| 30 :20 | 虫は食べる？           | 学：子供の頃、私はたくさんの虫食べました。                         |            |
| 30 :26 |                  | 岩：それは遊びながらこうやって食べた？                           | 学習者        |
| 31 :07 |                  | 岩：蜂の子。                                        | ボランティア     |
| 31 :32 |                  | 学：ゴハン…普通のゴハンとかチキンとか食べますか？食べたことありますか？          |            |
| 32 :09 |                  | 岩：いつもワニ食べてないですよ。                              | 学習者        |
| 32 :18 | ねずみに似た動物について     | 学：似てる動物？ねずみ？2kg ある。                           |            |
| 32 :35 |                  | 岩：2kg あるんですか？                                 | 学習者        |
| 32 :43 |                  | 岩：モルモット？ ハムスター？                               | 学習者        |
| 34 :21 | サボテンについて         | ボ：サボテンって食べたことありますか？                           |            |
| 35 :27 |                  | 岩：え、もちろん外側のアレは硬いし、とげがあるからアレは全部取って…中は柔らかい…たぶん。 | ボランティア     |
| 35 :50 | てんぷらについて         | 学：日本人がてんぷらが大好きでしょ？でもすごい油入ってる。どこがおいしいかな？       |            |
| 36 :10 |                  | 岩：サクサクサクって…。                                  | 学習者        |
| 36 :44 |                  | 岩：え、フライドポテトはあんまり好きじゃないですか？嫌いですか？              | 学習者        |
| 36 :51 |                  | 岩：揚げてますよ、あれも。                                 | 学習者        |
| 37 :10 |                  | 岩：でもフライドポテトは好きじゃないんですよね？                      | 学習者        |
| 37 :42 | アイスクリームのてんぷらについて | ボ：うちね、バナナのてんぷらとアイスクリームのてんぷら食べたことがあります。        |            |
| 37 :47 |                  | 岩：アイスクリーム。                                    | 学習者        |
| 37 :54 |                  | 岩：溶けちゃう！                                      | 学習者        |
| 38 :00 |                  | 岩：え、なんか、テレビで見たことあるん                           | 学習者&ボランティア |

|       |             |                                                                                     |            |
|-------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------|------------|
|       |             | ですけど、アイスクリームを…パンあるじゃないですか？パンで挟んで熱を伝わりにくくして、食パンでアイスクリームを包んで、衣をつけて、揚げて、揚げたらすぐ食べるみたいな。 |            |
| 38:21 |             | 岩:食パンだからそのまま。                                                                       | ボランティア     |
| 39:32 | 2 つの言語の mix | ボ:今、何語で話しました？                                                                       |            |
| 39:34 |             | 学:ポルトニョール                                                                           |            |
| 39:42 |             | 岩:スペイン語とポルトガル語が混じってる。                                                               | ボランティア     |
| 39:54 |             | 岩:ポルトニョール。                                                                          | 学習者&ボランティア |
| 42:40 |             | 岩:でもたまに「ジャングリッシュ」って聞きますよ。Japanese、English で「ジャングリッシュ」。                              | ボランティア     |
| 42:50 |             | 岩:英語の言葉をいっぱい混ぜて話してる。長嶋さんみたいな…。                                                      | ボランティア     |
| 43:03 |             | 岩:英語の単語をいっぱい織り交ぜながら、でも日本語はなしてるから、「ジャングリッシュ」。                                        | ボランティア     |

# 相手に伝えるために何をしているか

## ーボランティアの言い換えー

外国語学部英米学科 岩原えり菜

### 1. はじめに

保見が丘日本語教室に参加し、日本語学習者と会話をしていると、私は彼らの知らない日本語を使うときがある。そこで私はもっと分かりやすい説明をしようとしたり、絵やジェスチャーを使ったりして、相手にどうにか理解してもらおうと努力する。それで相手に自分の言いたいことが分かってもらえたときは、自分の中でとても嬉しい気持ちと、達成感を味わうことができる。私にとってこれが、保見が丘日本語教室に参加して楽しいと思うことのひとつである。また、逆に学習者の方が何か伝えようとして、同じように様々な表現方法をし、私も相手が何を言おうとしているのか必死で読み取ろうとする。このようなやりとりをすることによって、学習者が日本語を学ぶだけではなく、私自身も自分の会話力も知ることができ、足りない部分に気づいて改善することもできる。これは保見が丘日本語教室に参加しているからこそ得ることができたのだと思う。そこで今回、自分が実際に会話の中でどのような工夫をしているのか知りたいと思い、私を含め、ボランティアから学習者への言い換え中心に、実際に自分達が学習者に分かりやすく伝えるために、どのような表現の仕方や努力をしているのかを知るために、音声データを使い分析してみる。

### 2. 分析方法

保見が丘日本語教室の1日の音声データをICレコーダーで録音する。それを聞き直して文字起こしをし、分析する。

[音声データについて]

日時：2008年2月3日 10:00～11:30

場所：保見が丘日本語センター

クラス：入門クラス

テーマ：節分について

学習者：L1（ブラジル人、日本語初級レベル）

：L2（ブラジル人、日本語入門レベル）

ボランティア：A（進行役）、B、C、D、E、岩原えり菜（岩）

### 3. 分析結果

例1 「習慣」の言い換え

|    |                     |
|----|---------------------|
| A  | 豆まきをする…習慣…って分かりますか？ |
| L1 | 習慣…                 |

|   |                             |
|---|-----------------------------|
| A | (他のボランティアに向かって)習慣、分かりやすく言う？ |
| 岩 | 伝統？みたいな。                    |
| B | 文化、文化。                      |
| 岩 | 日本人の文化。                     |

この後、ボランティアの間で、「文化」と「習慣」は違うという話になり、L1 もはっきりとした意味の違いが知りたいようであったので、最終的に L1 には辞書で二つの意味をそれぞれ確認してもらうことになった。辞書で調べた結果、L1 は二つの意味の違いを知ることができたようである。

この「習慣」の言い換えとして、私達ボランティアは「伝統」や「文化」など、私達にとってなじみのある他の語で置き換えようとした。しかし、学習者にとっては知らない単語が増えただけで、その違いもはっきりと分からず、さらに混乱させてしまったようであった。もしこの学習者が日本語上級レベルであったら、今回のような類義語で説明しても良かったのかもしれないが、入門クラスでは少し難しかったのではないかと思う。

## 例2 「日本の季節」の説明

A: 節分は、季節を分ける日で…冬、分かります？ 冬…今冬です。冬…寒い、うん、これ日本の四季です(四季の絵一覧を見せる)。今は冬です。寒い。冬、寒いです。で、春になるとあったかい。ぽかぽか。春です。春…2月、3月、春、春です。7月くらいから夏です。はい、夏、暑い感じで(他のボランティアで、扇いで暑いジェスチャー)。で、9月くらいから秋ですね。秋、秋どぞ(他のボランティアに秋の説明を促す)。秋は…魚。さんま。台風。なんだろ、ハリケーン、ごおお〜。これが秋で、12月から冬。今は冬です…。

日本の季節を説明するために、まず進行役 A は四季の絵の一覧を見せた。しかし、その絵だけでは四季を理解するのは難しかった。なぜなら、春は入学式、冬はお正月など日本の行事や概念の絵が使用されていたからである。ことばを使わずに「絵」を使って見せるという一番シンプルな方法でも、その絵を使えばどんな人が見ても分かる、万国共通のものであるのか注意しなくてはならない。その後も、その季節をイメージするものを挙げているが、さんまや台風、春の暖かさを「ぽかぽか」と表すなど、これらもまた日本独自の観念であり、それについてさらに説明が必要になってしまい、学習者に分かってもらえたのか不安が残ってしまった。

## 例3 「手をにぎる」と「手をつなぐ」の違い

|    |                                    |
|----|------------------------------------|
| B  | お寿司をにぎる…でもこれにもにぎるだよ。(ボランティアが手をにぎる) |
| 岩  | 手をにぎる。                             |
| L1 | あー、みんなで手をにぎる。                      |
| B  | そうそう。                              |

|   |                                         |
|---|-----------------------------------------|
| C | でも、手をにぎるよりも…ふたり…つなぐって言うほうが多いかな。<br>みんな… |
| 岩 | あー、確かに。みんなだと手をつなぐ。恋人同士は手をにぎる？           |

|    |                                                                  |
|----|------------------------------------------------------------------|
| 岩  | つなぐとにぎるって何が違うんだろう。                                               |
| B  | にぎるって、なんかこう、目を見つめ合ってる感じ。ぎゅって(手をにぎる)。こっち(つなぐ)は友達にも使うし、でも彼女にも使うかな。 |
| C  | なんか、にぎるの方が密着度が…                                                  |
| 岩  | うん、もっと近いね。                                                       |
| L1 | もっと近い？あつ、そうか。                                                    |
| 岩  | うん、近くて強い。                                                        |

これは、「手をつなぐ」と「手をにぎる」のについて、私達ボランティアがその違いを考えながら学習者に説明していた場面である。私達もこの二つのことばの定義がはっきりせず、辞書に載っているような定義を説明することができなかつたため、実際に自分達が普段使っている例文をたくさん出して、そこから違いを探ろうとしていた。このようにたくさん例文を挙げることは、自分達にとっても学習者にとっても分かりやすかつたのではないかと思う。ジェスチャー、例文、そしてその違いの説明の3方向からの説明方法によって、学習者への理解がより助けられたのではないだろうか。この3つの説明方法のうち、どれかに偏りすぎては不十分であつたかもしれない。この例③では、誰が、どのような場面で使うのか、どんな気持ちがかめられているのかなどをまず自分達が明らかにし、それを学習者にもはっきりと伝えることができたので、納得のいく説明ができたのだと思う。自分なりに意味の違いを解明して、それを自信を持って自分のことばで説明することが大事だと思う。

#### 4. まとめ

私達が日本語学習者と会話をしていて彼らが知らないことばを使ったときに、私達は様々な方法で、自分達が一番分かりやすいと思う説明をしようとする。それは、ジェスチャーや絵など、ことばを使わなくても良い方法もあれば、類義語を出したり、別のことばや文章での言い換えをしたり、例文を提示してみたりするなど、たくさん方法があつた。今回のように入門クラスではことばの使用を極力さけ、絵やジェスチャーに頼りがちであつたが、ひとつの方法に頼るのではなく、それに例文や用例をつけたり、類義語を出してみたりするなど、他の手段をプラスすることでさらに学習者への理解を促すことができることができ、より効果的であるということが分かつた。また、今回のように教室内で学習者に彼らが知らない日本語を説明するためには、私達が普段から使っている日本語に気をつけて、疑問を持ち、その意味を探ってみることが大事であると気づいた。私は保見が丘日本語教室に参加し、日本語学習者に分かりやすい日本語で伝えようとすることで、普段の日本語話者同士の会話でも、できるかぎり分かりやすく説明しようと会話の工夫をするようになった。私は保見が丘日本語教室は、私達日本人が日本語を教える場というのでは

なく、教室内での様々な人との会話を通じて、自分の会話力を見直すことができる場であると思っている。

# トピックおよび会話の流れによる学習者の発話量

文学部児童教育学科 オウシン

## 1. 分析の概要

目的：どのような質問をされるとき、どのような会話の流れ方になるときに、学習者の発話量が多いのかを把握すること

方法：Ⅰ ボランティアの質問の型を分類する

- ① 日本について教える
- ② 言葉の理解の確認
- ③ 学習者のことを知るため

結論：①②の場合：学習者は簡単な答えだけをする

③の場合：やや多めに話してくれる

Ⅱ 話がやや多めの時の会話の流れ方を分類する

①ボ→学→ボ→学 ②ボ→学→学→ボ（ボ：ボランティア、学：学習者）

結論：①と比べたら、②の場合学習者の発話量が多い

## 2. データについて

1月27日、保見が丘日本語教室

学習者2人：学習者A（ブラジル）、学習者B（中国）

ボランティア5人

## 3. 分析結果

例1：教室活動開始

ボA：時間になりましたので、はじめたいと思います。おめでとうございます。

日本では新しい年になると、このような言葉を使います。今年いい年になりますように、たくさんいいことがありますように。

学習者A&B：……………

ここでは、「日本について教える」になる。ボランティアが一方向的に話し、学習者の発話はほとんどない。

例2：オリンピックの話

ボA：ブラジルはまだそういう話はないですか。

学A：ああ、まだまだね。今カップ、ワールドカップ、2014年。

下線は「学習者のことを知る」ための質問である。下記の会話を見るとわかるように、その後の学習者Bの発話量は非常に多く、活発な会話になっている。

ボ B : 今度ブラジルだったっけ。2014 年

学 A : うん。ブラジル。オリンピックにはちょっと無理と思うよね。100 年ぐらい？

ボ A : そんなことはないだろうね。

学 A : まだ危険すぎるね。まだ、危険

ボ C : 危険って。なにが危険？

治安が悪いってということですか。

学 A : テロじゃないね。

ボ B : 治安が悪い。「治安」がわかる？

学 B : 治安…

ボ B : だから、要は強盗だとか、事件が多い

学 B : ……

下線に部分は、「言葉の理解の確認」のための質問である。学習者 B の答えはとても簡単になっている。

学 A : 中国ではどうですか。

学 B : 今は、治安は厳しい。今、オリンピックは近いから、だから。

ここでは、学習者から学習者への質問になる。全体的に話が少ない学習者 B も、自分なりに話そうとしていることが分かる。

### 例 3

ボ A : 中国ではね、今、お巡りさん、警察官、ポリスとても強いって聞きましたけど、日本のポリスとどう違いますか。

学 B : でも同じよ。

ボ A : なんかとても厳しいですってね。

ボ D : しゃべり方が違うかな。

学 B : ああ、しゃべり方、たぶん。

ボ D : 日本の警察って何があっても、しゃべり方結構やさしいですね。(中略)

ボ A : ブラジルは？

学 A : そう、そうだね。あのう、丁寧な言葉を使うし、あのう、時間が違うんだったら、夜中だったら、すごく厳しい。何も言わないの、こうやって「バン」(パンチ)

学 B : 誰でも？あやしいから？

学 A : 女性には、そんなことをやらないけど。

学 B : うん…

ボ D : ええ、怪しいって思ったら「バン」？

下線を引いている部分は「ボ→学→ボ→学」、ボランティアと学習者それぞれの発話量を見ると、ボランティアの方が圧倒的に多い。後半においては、「ボ→学→学→ボ」とい



う形になっている。学習者 A と学習者 B の発話量も均等になっていて、会話らしい形になっている。

#### 4. まとめ

この三つの例から、下記の結論になる。

- ① ボランティアが質問をする時に、「日本についての教える」と「言葉の理解の確認」の時に、学習者の発話はあまり多くない。「学習者のことを知るため」の質問の場合、学習者の発話量は比較的が多い。
- ② ボ→学→ボ→学という形よりボ→学→学→ボのふうに進行するときに、学習者たちの会話は対等になり、発話量は比較的多くなる。

# 学習者のコード・スイッチング

## ー母語、媒介語への切り替えー

外国語学部フランス学科 金丸和可奈

### 1. はじめに

様々な日本語教室活動を通して、ボランティアや日本語学習者が日本語以外の言語を使用する多くの場合、日本語ではどうにも理解できない、あるいは相手に理解を促せない状況に立たされているということに気づいた。そこで、ある活動の一コマを録音して得た音声データを用いて、学習者およびボランティアが日本語で伝える、あるいは理解することが難しいのはどのような場合なのかを分析してみたい。また、コード・スイッチングが起きなかった類似ケースと比較すれば、どうしてコード・スイッチングが起きたのかを考察する手がかりにもなると思われる。

この分析を行うことで、自分自身が今後外国人学習者と触れ合うなかで会話の行き詰まり状態に遭遇したときに、言語の切り替えが共通理解を生むためにどのような役割を果たすのかを明らかにしたい。

### 2. 分析概要

[分析対象]

2008年1月13日(日) 保見が丘日本語教室中・上級クラス 90分間データ

日本語学習者 2名(中国人「X」、ブラジル人「Y」)

進行役 A

記録 金丸(以下「金」)

ボランティア B、C、D、E(「E」は中国語母語話者)

[分析手順]

- i. 教室活動 90分を IC レコーダーで録音する。
- ii. 音声データ全体を聞き返し、コード・スイッチングが起きている箇所、あるいは起きると予測されたが起きなかった箇所を文字に起こす。その際、各箇所の前後で関係する発言等も文字化しておく。
- iii. そして、文字起こしした発言の行われたシーンを回想し、ジェスチャーがあった等の詳細情報を書き加える。
- iv. コード・スイッチングの全箇所をまず、ボランティアの発言と学習者の発言に分け、次に類似項目ごとにグループ化する。
- v. グループ別に分析をし、どのような特徴が見られるかを挙げる。
- vi. コード・スイッチングが起きると予想されたが、起きなかった箇所を比較し、なぜ起きたのかを分析する。

### 3. 分析結果その1 コード・スイッチングの特徴

分析データより、コード・スイッチングの起きた箇所を取り出して、まず、ボランティアの発言と学習者の発言に分ける。その後、それぞれ性格別に細分化したものを分析する。

(注) 1つのデータ内に、複数のコード・スイッチングが起きている場合があるが、**ゴチック**で示している事象を参照するものとする。

#### ① ボランティアの発言

- a. 英単語に置き換えているが、その英単語自体がコード・スイッチングというよりは、外来語として普遍化していると考えられる場合。

#### [企業体制についての会話]

|                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------|
| A : 自分なんか、もの作る会社におりましたからね。品質管理…<br>これはもうしっかり勉強させられましたよ。英語で言うと…<br><b>クオリティー…?</b> |
| D : <b>クオリティーコントロール。</b>                                                          |
| Y : 品質?                                                                           |
| ボラ : そう。                                                                          |
| D : <b>クオリティー。</b> (英語発音で言った)                                                     |
| X&Y : <b>クオリティー。</b> (学習者も復唱)                                                     |

#### [ボランティアの進路についての会話]

|                                              |
|----------------------------------------------|
| A : どんな会社に入られるのですか?                          |
| C : わたしは、物流関係です。                             |
| B : 運送だとか、運ぶ…                                |
| D : <b>ロジスティクス。</b><br>(最近よく使われる物流業をあらわす英単語) |
| Y : ロジ… あー、理科?<br>(おそらく物理と勘違いしているようだ)        |

- b. 音声では伝わりにくいために、文字表記と併せて理解を促そうとしている場合。

#### [ボランティアの進路についての会話中の「物流」の説明]

|                                |
|--------------------------------|
| D : <b>ロジスティクス。</b>            |
| Y : ロジ… あー、理科?                 |
| 金 : あー、ちがう。 (紙に「物流」と書きながら)     |
| B : もののながれ。                    |
| Y : うん、もののながれ。                 |
| E : あれ、中国語と一緒に。                |
| X : 漢字一緒。 (文字情報により意味を理解できたようだ) |

[企業理念についての会話]

A： 自分たちは、創意工夫つちゅう制度があってね。これはもう職場の中まで浸透してましたけどね。中国でもこういう言葉をさかんに使うんだそうです。…ね？（紙に「創意工夫」と書いて見せた）

X： どういう意味？

[企業理念「創意工夫」の説明]

金： んー創意は・・・どういったらいいんだろう。創る・・・工夫っていうのが・・・

E： （中国語で「工夫工夫」と言っている）

金： アイディア。創るためのアイディア。（「idea」と書く）

D： クリエイティブのほうだね。（「creative」と書く）

- c. 言葉の意味が抽象的で伝えにくく、一切の説明を母語で行っている場合。

[「治安」の説明]

X： んー、チアン？

E： （中国語で「治安」の意味を説明）

[マフィアの実在についての会話]

A： どの国にもマフィアはいますね。あの一中国でもマフィアはいるでしょ？

X： マフィ・・・

E： （中国語で訳している）

X： あー。（中国語で確認している）

②学習者の発言

- d. 前に出た英単語（媒介語）を派生させて理解を促している場合。

[ブラジルの治安についての会話]

B： ドラッグも多い。

Y： ドラッギー…（麻薬常用者を指す英単語）

B： ん？

Y： あの…ドラッグのやくざ。

- e. 伝えたいものを表す語彙が、自分の知っているボキャブラリー範囲外であり、より具体的に説明したいがために母語を使用している場合。

[「白＝善、黒＝悪」の説明]

Y： ブラジルでもね、これ（首を巻くようなジェスチャー）、コラリーニョ？

|                                                                                |
|--------------------------------------------------------------------------------|
| 金： ネックレス？                                                                      |
| Y： んー、じゃなくて。                                                                   |
| B： ハイネック？えり？                                                                   |
| Y： でも…あの、教会の偉い人 パドーレー？がコラリーニョ<br>使うでしょ、白い…コラリーニョブランコ、白いネックレス。<br>一緒。それで黒はマフィア。 |

まず、ボランティアのコード・スイッチングについて考えてみたい。aでは、「クオリティーコントロール」や「ロジスティクス」といった今日日本社会でもよく用いられるいわゆる外来語を用いての説明を試みている。したがって、完全なコード・スイッチングとは言いがたいが、「品質管理」や「物流」といった日本語が難しいとボランティアが判断してうでで使っている、これも一種の言語切り替えと言えるであろう。bの例では、文字表記の助けを借りて理解を得ようとしているが、これは学習者に漢字のわかる中国人学習者がいたということが大きな要因であろう。しかし「創意工夫」という四字熟語は漢字で書いても伝わらなかった、日本語での説明を試みたがうまくいかず、最終的には英単語に頼って理解を求めた。そしてcの場合は、中国語母語話者のボランティアEと学習者Xの間に限って行われた会話であるが、上記の a、b のような方法が成功しなかった場合に最終手段としてとられた完全なコード・スイッチングであるように思われる。母語で説明を受けた際、学習者Xも母語で確認をとっている。

次に、学習者のコード・スイッチング現象をみてみたい。dの「ドラッギー」の例は、既出の「ドラッグ」という単語の影響でそのまま英語表現になった可能性がある。また、学習者Yは、ボランティアが理解を示さなかった、後に「ドラッグのやくざ」と言い換えている。Yは正確には「麻薬常習者：ドラッギーの訳」を意味していたのだが、ボランティアはおそらく「ドラッグのやくざ」という曖昧な意味でしか理解ができなかった。eは、学習者Yが母語のポルトガル語で「コラリーニョブランコ」を伝えようとしている例だ。説明の途中までは日本語であるところを見ると、なにか特定の物体を正確に伝えようとして日本語での説明を試みたものの相応しい単語が見つからなかったと思われる。そのことは、ボランティアが「ネックレス」や「襟」と言い換えても、Yが納得できなかったことからわかる。結局、教会の偉い人「パドーレー」がつけている白い「首に巻くもの」（ジェスチャーにより判断）ということは分かったが、正確には理解できなかった。

#### 4. 分析結果その2 コード・スイッチングが起きる理由

今度は、上記の一連のコード・スイッチング現象と、コード・スイッチングが予想されたが実際には起きなかった場合（学習者が理解に苦しんだ場面等）を挙げて比較してみたい。

f. 具体例を挙げることで日本語での説明に成功している例。

[現在の北京の様子についての会話にて]

|     |                                                       |
|-----|-------------------------------------------------------|
| C : | でも今はオリンピックがあるから、 <b>工事</b> ばっかってこの前<br>テレビで見たんですけど・・・ |
| X : | <b>コウジ</b> ？                                          |
| C : | <b>うん、建物…ビルをつくったり…</b>                                |
| X : | あー。わたしが来る前にもう建っている。                                   |

g. 複合語を切り離して、更に簡単な言葉で言い換えている例。

〔「住みやすい」の説明にて〕

|     |                                         |
|-----|-----------------------------------------|
| A : | きっとオリンピックが終わったらね、<br><b>住みやすくなりますよ。</b> |
| X : | <b>スミ・・・？</b>                           |
| C : | <b>すみやすい。</b>                           |
| B : | <b>住むのが（に）良くなる。</b>                     |
| X : | あー。そうそう。                                |

該当箇所は少ないが、学習者が困惑した場面でもコード・スイッチングが起きなかった場合に共通して言えることは、ボランティアの日本語での言い換えによる再説明が成功しているということだ。fの事例は、「工事」という上位概念を「ビルをつくる」という下位語の例を引き出したことで、学習者の理解を促したものだ。また、gのケースは、一度「すみやすく」を「すみやすい」という形容詞に置きなおし、さらに「住む」と「やすい」の個別説明を試みた例である。

コード・スイッチングが起きた事象にくらべると説明目的の単語の概念が簡単であること、またボランティアが瞬時に行き詰まりの原因を究明し、相応しい言い換えを準備できたことが、コード・スイッチングが起きずに理解が得られた理由のひとつであると考えられる。

## 5. まとめ

普段の教室活動では注意していなかったが、以上の分析と考察により、ボランティア、および学習者のコード・スイッチングには複数の性格があるということが分かった。コード・スイッチングは、互いの理解を促す一つの手段であって、母語の違う者がコミュニケーションをとる際に有効であるとおもわれる。しかしながら、日本語での説明を端折って即座に母語や媒介語での説明を試みようとする、理解の度合いに差ができてしまったり（漢字表記の例がそれである）、言葉の意味の具体性が低下して完全な共通理解が生まれないう危険性があることもわかった。

理解ができずに会話が行き詰ってしまったら、まずは、なにが分からなかったのかを突き止めることである。それからd、eの場合のように、学習者の日本語レベルを考慮しながら、なぜ分からなかったのか、どうすれば分かるのかを判断して、まずは下位概念の語彙を使って日本語での説明をこころみるのが良いと思われる。それが顕著にあらわれているのが、コード・スイッチングが起きなかったdのケースである。それでも伝わらないと

きに、コード・スイッチングが役に立つ。コード・スイッチをして説明するさいも、極端に抽象的な表現に切り替えるのではなく、相手が理解しやすいように、具体的に例を挙げたりしながら説明するとより良い解決につながる。

この分析をするまでは、日本語教室では日本語しか使ってはいけないという先入観から、外国語使用に抵抗があった。これは、実習生の間でも何度も話し合ってきた問題でもあった。しかしながら、教室活動を改めて振り返ると、外国語を用いることが日本語での説明・理解を放棄しているとも言いがたい。重要なのは、どのようにコード・スイッチングを取り入れるか、である。会話を有意義なものにするためのひとつの手段としてコード・スイッチングを行うのならば、それは非常に意味のあることだと考える。

# ボランティアは学習者が理解していないとき

## 言いかえをしているか

児童教育学科 神谷美法

### 1. はじめに

本分析を試みようと思ったきっかけは三つある。一つ目は、自主研究でも言いかえに着目しており、筆者自身も自分の言いかえ能力について知りたいと思ったからである。二つ目は、調査対象としている保見が丘日本語教室の授業形態が会話型であるため、会話がスムーズに流れることが大切であり、そのためにはボランティア側がいかに相手にわかりやすく伝えるかが重要であると筆者は考えるからである。三つ目は、筆者自身が外国語を学んだ際、ネイティブの先生方はいろいろな言いかえを使って説明をしてくれ、それによって理解ができていた。そのため、自分の経験からもやはり言いかえ能力は大切だと考えているからである。

以上のようなきっかけで始まったこの分析の目的は次の三つである。一つ目は筆者自身の言いかえ能力がどうなのかをみるためである。二つ目はどのような言いかえが学習者にとってわかりやすいのかをみるためである。そして三つ目は辞書や母語を使わずに、どの程度学習者がわかるのかをみるためである。

本分析の調査方法は、2007年12月2日の保見が丘日本語教室の中上級クラスでの活動をICレコーダーに録音し、約1時間のデータを文字起こしして分析を進めた。この日は学習者3名（中国人女性2名、ブラジル人男性1名）、ボランティア5名（男性3名、女性2名）で、テーマは「年賀状について」（その後、話がクリスマスや旅行に発展）、録音と分析の中心は筆者（神谷）とブラジル人男性Rさんの会話である。

### 2. 分析

文字起こしの中で、多くの言いかえが出てきた。その中のいくつかを取り上げて、以下で詳しくみていく。

例1：年賀状の話をしながら

神谷：年賀状知ってますか？

R：年賀状？

神谷：うん、年賀状。知ってますか？①日本で、お正月に、毎年、知り合いに書く手紙です。

R：知り合いに、お正月だけ？

神谷：そう、お正月だけ！

R：旅行して…

神谷：旅行して？ あ、それも書くけど、年賀状はお正月だけ。

R：あー、そう。旅行して書くカード… 名前は何ですか。



神谷：あー、②旅行で出すやつは一…なんていうかな…特に特別な名前はなくて…

R：うん。

神谷：(Rさんにもわかるようにゆっくり大きな声で他のボランティア H さんに尋ねる) 旅行とかで出すハガキは、普通にハガキって言いますよねー？

これは一、特別に年賀状。あとはハガキ、絵葉書、手紙…いろいろ言うけど…旅行はああいう写真 (写真つきの年賀状を指差して) とかつけれるけど…

R：うーん…

①年賀状について日本語で説明をした。続いて R さんが「お正月に知り合いだけなのか」という質問をしている点から、年賀状についての筆者の説明を理解し、その上でこのような疑問がわいたと考えられる。

②説明が不十分であり、R さんが理解できたのか未確認であった。筆者自身も旅先で出すハガキに別名があるのかが、わからなかった。結果的に R さんは「旅行先で出すハガキは何というのか」という疑問をこの時点で解決できなかったと考えられる。

例 2：年賀状の実物を見ながら

R：ほんねん？

神谷：うん、①本年。

R：ほんねんもよろし…より…

神谷：ううん、①本年もよりよい年でありますよう、お祈り申し上げます。

R：(苦笑しながら) あー。

①まず、R さんが何に疑問を持っていたのかを筆者はきちんと把握していなかった。筆者は読み方がわからないと勝手に判断をしたので、読み方を教えたのだが、実際には R さんは読み方ではなく、この文章の意味が知りたかったのかもしれない。だが、筆者が長い文章を一気に読んだことで、R さんは意味を確認するのをためらった可能性があると考えられる。おそらく「本年」の意味もわかっていなかったであろう。

例 3：年賀状からブラジルのクリスマスは夏であるという話になって

神谷：夏？

R：とても暑い。

神谷：えっ、じゃあサンタクロースは半そで？ (①ジェスチャーを加える)

R：そう。××× (聞き取れないが、半そで短パンをジェスチャーで表す)

神谷：赤と白？

R：そうそう。

①筆者はジェスチャーを用いて説明をしたが、実際に R さんが「半そで」という単語を知らず、ジェスチャーが必要であったのかどうかは未確認である。しかし、会話はスムーズに流れていた。

例4：サンタクロースはどこにプレゼントを置くのか

神谷：ブラジルのサンタクロースは、プレゼントはベッドのところに置く？

R：ベッド？

神谷：寝る（①ジェスチャーをする）。ベッド。

R：ああ。

神谷：どこに置きますか？

R：クリスマスツリーの…（ジェスチャー）

神谷：②下？クリスマスツリーの下に置くの？

R：下です。時々プレゼント、下、します。

神谷：ふーん。靴下とかは？

R：ん？

神谷：日本は、あの一寝るところに靴下…

R：くつ…

神谷：③靴下（自分の靴下を触りながら）、靴下。靴下をぶらさげて、そこにサンタクロースが入れていくの。だから大きな靴下がいるの。

R：（笑い）

- ①筆者はジェスチャーと言いかえを用いて説明をした。その前に R さんが「ベッド？」と聞き返したことで、筆者は R さんが「ベッド」という単語がわからないと判断をし、「寝る」をジェスチャーと言葉で、「大きな四角」をジェスチャーで表現した。それにより、R さんは「ベッド」がどのようなものなのか、理解できたと考えられる。
- ②R さんのジェスチャーから「下」ということを意味しているのだろうと判断をし、筆者はそれを、床を指差しながら「下」のジェスチャーをつけて文にし、Yes-No 疑問文で聞き返し、R さんに確認をした。
- ③実物を指して説明し、単語を2回繰り返した。その後 R さんが笑う反応をしたことで、意味を理解したと考えられる。

例5：大学の夏休みはいつからなのかという話になり、大学によって違うという話をした。

しかし、R さんはよくわからない様子

神谷：①これは、私の大学（簡単な絵と夏休み期間を紙に書いて説明）。

R：はい。

神谷：けど。隣の大学は違う。

R：あー。全部大学違いますか。

神谷：うん。

- ①まず簡単な絵で「私の大学」と「隣の大学」を示し、「私の大学」の下に夏休み期間を数字で書いて説明をした。そして、「隣の大学」は違うということを、口頭で説明した。結果、R さんが「全部の大学が違うのか」と質問してきたことで、「大学によって違う」ということが理解できたと考えられる。

例6：夏休みに何をしたか

神谷：今年の夏はヨーロッパ行ったの。

R：どれくらい？

神谷：10日間（とおかかん）。

R：ん？

神谷：①10日（じゅうにち）。

R：あー、10日間？

神谷：うん、10日間ぐらい。

R：どこに行きましたか？

神谷：ドイツ、チェコ…

R：チェコ？

神谷：②República Checa.（スペイン語）

R：あー。

- ①「とおかかん」という日本語では通じなかったため、「じゅうにち」と言いかえた。しかし、その後、Rさんから「10日間（とおかかん）」という確認の意味をこめた質問がされたため、Rさんは「10日間（とおかかん）」という単語は知っていたものと考えられる。何らかの理由（筆者が早口だった、文ではなく、単語として「10日間」を用いたためわからなかった、など）で、Rさんはこの時「10日間」が理解できなかったと思われる。しかし、確認のため、筆者はその後もう一度「10日間」と言っている。
- ②「チェコ」では通じなかったため、媒介語（スペイン語）を使用した。地図を持っていたので、地図を用いて場所で説明してもよかったが、国名の説明なので、一番早いであろう媒介語を用いた。ただ日本語で「チェコ」ということを覚えてもらえたかは未確認であるが、結果的に会話を途切れさせることなくすぐに理解してもらえ、それほど使用頻度の高い単語でもないため、この場はこれでよかったのではないかと思う。

例7：筆者がどうしてドイツに行ったのか

神谷：いところ、私のいところがドイツに住んでるの。だからドイツ行ったの。

R：だれ？

神谷：ん？いところ。私のいところ。

R：…

神谷：いところ、わかりますか？

R：いえ。

神谷：いところ…①私のお父さんの妹の子ども。

R：…

神谷：うーん…②いところ、Primo（スペイン語）、いところ。

R：うーん…

神谷：③いところ…（日葡辞書をひく）

- ①「いところ」という単語をRさんが知らなかったため、最初は日本語での説明を試みた。

実例をあげ、噛み砕いたわかりやすい説明だと思ったのだが、Rさんは理解できなかった。

②媒介語（スペイン語）で説明した。だが、これも通じなかった。

③筆者が持っていたポルトガル語辞書で調べた。結果、スペイン語と同じ **Primo** であった。この前にスペイン語でも説明したが、発音が悪かったのか、通じなかった。辞書使用では、実際に「いとこ」が書かれているところを R さんに見せ、理解してもらった。

### 3. 分析結果・考察

以上の結果から、筆者が行った言い換えは、次の 5 種類であった。

- a. 日本語で、簡単な単語に置き換えて説明する
- b. ジェスチャーを用いて説明する
- c. 絵や図を用いて説明する
- d. 媒介語を用いて説明する
- e. 辞書を使用して説明する

この中で、R さんにとって理解しやすかった言い換えは、b～e であったと思われる。

b は最も簡単でわかりやすいもので、実際の会話の場面でもよく用いられる手段である。

c もよく使われる手段であろう。しかし、筆記具が必要になるため、日常会話場面では使えないこともある。

d に関しては、媒介語のつもりで用いたものが、実は R さんの母語と同じであった場合もあるので、媒介語使用とは言えない場面もあった。

e の辞書使用については、「言い換え」とは言いがたい。辞書に頼りすぎるのは会話としてよくないが、辞書は会話を円滑に進めるにはとても便利なツールであると思われる。しかし、個人的には辞書は最終的なコミュニケーション手段として用いたいと思っている。R さんの場合は中上級クラスということもあって、約 1 時間の会話のうち、辞書を使用したのは 2 回程度であった。これはとても少ない方ではないだろうか。同様に母語（媒介語）使用も 2～3 回程度であった。これは R さんの日本語能力の高さを表していると考えられる。

最後に a であるが、今回の分析においては期待していたほどの結果は得られなかった。それは筆者自身の語彙力不足と、説明がうまくなかったのが原因と考えられる。a ができるようになると、もっと外国人との会話が円滑にできるようになるであろう。

本分析で、無意識のうちに自ら様々な言い換えをしており、中でも視覚的に捉えやすいもの (b と c) が学習者には理解しやすいことが明らかになった。様々な言い換えを使うことで、コミュニケーションがとりやすくなり、互いの理解を大きく助けるものになるであろう。そして、この言い換えは、外国人との間だけでなく、日本人同士でも世代や生活環境の違う者同士がコミュニケーションをとる際に、無意識に使っているのではないだろうか。例えば、幼児と話す際はなるべく簡単な単語や幼児語を使い、自分の仕事内容を他人に紹介する際も業界用語は使わず、わかりやすい表現に直して説明するであろう。「言い換え」とは、国籍や言語に関わらず、人々が他人とコミュニケーションをとる上で、無意識に行っている重要なコミュニケーション手段の一つなのではないだろうか。

# なぜ「繰り返し」は起こるのか

外国語学部英米学科 河口美緒

## 1. 概要

このレポートでは、学習者とボランティアが話の中で行った繰り返しについて分析する。このテーマを選んだきっかけは、教室活動での会話を文字起こしした際に、自身の繰り返しの多さに気づいたからである。そして繰り返しを行う時と行わない時とでは、自分の話し方には違いがあった。なぜ自分は繰り返しを多用したのか、今後どのように繰り返しを使用すればよいのか、自分の話し方の向上を目的とし、これらの点について、本レポートでは論じたい。

## 2. 分析対象・手順

本レポートで扱うデータは、2007年11月4日の保見ヶ丘日本語教室初級クラスの音声である。クラスは学習者1名、ボランティア1名で、テーマは「学校について」である。学習者は日系ブラジル人のAさんで、来日は2004年、日本語教室には1年以上の長期に渡り通い続けている。

分析手順は、90分間の教室活動を文字起こしし、ボランティアと学習者が繰り返しを行なった部分を抜粋する。それらを分類し、前後の会話を参照に、なぜ繰り返しを行ったのか、そしてどのような効果があったのかを分析する。

## 3. 分析結果 ～繰り返しの種類と実例～

分析を行った結果、以下の繰り返しが挙げられた。分類は繰り返しを行ったものがボランティアである自分か、学習者かに分けた後、繰り返しが行われたきっかけが自分の発話からか、相手の発話からかによって分類する。実例において、ボランティアは「ボラ」、学習者は「学」と表記する。

### 3. 1. ボランティアの繰り返し

#### 3. 1. 1 ボランティア自身の発話に反応して

##### A 学習者に困難な文法だと判断した

|    |                               |
|----|-------------------------------|
| 学  | 名古屋・・・近く？名古屋駅の近く・・・           |
| ボラ | うん、名古屋・・・はい、名古屋の、北の方。名古屋の北の方。 |

この場合、ボランティアは「〇〇の〇〇の方」という句を最初に続けて言うのではなく、語と語の間を空けることで、より学習者にとって語の繋がりがわかりやすくなるだろうと判断した。語と語の接続が多くなるなど、文法が複雑化する際に、繰り返しを用いている。

##### B 学習者に困難な語彙だと判断した

|    |                            |
|----|----------------------------|
| ボラ | これは、文化祭、文化祭です。文化祭・・・お祭りです。 |
|----|----------------------------|

|    |                  |
|----|------------------|
| 学  | あー、そう。           |
| ボラ | これは高校のお祭りです。文化祭。 |

この場合、ボランティアは「文化祭」という語が学習者には難しいだろうと思い、適切なコミュニケーション・ストラテジーを探す間に繰り返しを行った。そして自分の説明が不十分だと感じる際に、話し方は不明瞭でティーチャートークとは異なったものとなった。この後、学習者が「文化祭」という語を理解したのか、確認が取れずに次の話題に移行している。確認を取るか、その語が学習者にとって重要でないならば、過度に繰り返しを行う必要もなかったと考えられる。

### C 強調したい部分を繰り返した

|    |                                                                                  |
|----|----------------------------------------------------------------------------------|
| ボラ | (しばらく卒業アルバムを見た後) 私の学校は、普通の、普通の勉強と、ファッション、服の勉強をしている人が分かれていて・・・で、服のファッションショーをしました。 |
|----|----------------------------------------------------------------------------------|

ここでは、ボランティアは高校に普通科とファッション科があったことを説明しようとしている。そこで違いを表す部分を強調するため、繰り返しを行った。

## 3. 1. 2 学習者の発話に反応して

### A 学習者のストラテジー（言い換え）に反応した

|    |                  |
|----|------------------|
| ボラ | 学校のことを話します。      |
| 学  | あー、はいはい。         |
| ボラ | これ、私の学校です。       |
| 学  | 大学。              |
| ボラ | 大学、大学。これ、私の大学です。 |

|    |                     |
|----|---------------------|
| ボラ | で、服のファッションショーをしました。 |
| 学  | デザイナー。              |
| ボラ | そう、デザイナー。           |

学習者が言い換えを使って話を展開させた時、ボランティアは繰り返しを行っている。これは自分がこれから話したいことを相手から言い出してくれた、つまり自分の期待していた答えが返ってきた時である。「相手が自分の発話を理解してくれた」というサインから繰り返しが行われている。

### B 学習者の発話内容がわからなかった

|    |            |
|----|------------|
| ボラ | 来たことありますか。 |
| 学  | えー・・・来ない。  |
| ボラ | 来ない？       |
| 学  | ない。        |

相手の話していることがわからない時に繰り返しは用いられる。これは相手に「相手の話していることが自分はわからない」という意思表示であると考えられる。それにより、

相手は別の方法、つまり何らかのストラテジーを用いて解決しようとする。

### C 学習者の質問に答えた

|    |                   |
|----|-------------------|
| 学  | 高校？ どこ？           |
| ボラ | これは、名古屋、名古屋の高校です。 |

|    |                                          |
|----|------------------------------------------|
| 学  | ん～何ですか？                                  |
| ボラ | これ（障害物リレーのラムネの一気飲みの写真）は、早く飲む。走って、早く飲みます。 |

学習者の質問へ答える際に繰り返しは用いられる。一つ目の例では、学習者の質問の核となる部分を先に答え、その後、文の形にして答えを述べている。これははじめに一番重要な情報について答えることで学習者にとってわかりやすい答えにし、その後文法など付属の情報を付け、正しい答え方を示している。二つ目の障害物リレーの説明も同様である。

|    |              |
|----|--------------|
| 学  | あなたは絵を描きますか。 |
| ボラ | 描けません、描けません。 |

|    |                                 |
|----|---------------------------------|
| 学  | 美緒さんは（クラスは）どこ？                  |
| ボラ | 私は違います。これはAクラス。Aクラス。私はAではありません。 |

三つ目の例は強調を意図して行われた。質問の「描きますか」に対して可能形の「描けません」を繰り返すことによって、「描かない」のではなく「描けない」、自分は全くそのような技術が無いことを示そうとしている。次の四つ目の例も同様に、10クラス中、自分はA組ではないことを強調している。

|    |                              |
|----|------------------------------|
| 学  | （バスケットボールの試合の写真を指して）どこ？      |
| ボラ | これは、体育館。体育館・・・これはスポーツのお祭りです。 |

この場合、学習者の質問に答えた後、その語が学習者にとって難しいのではないかと判断し、写真の状況の説明をしている。その後、学習者の答えに対する反応を見ないまま話題は変わっており、学習者が理解したか確認が必要であったと考えられる。

### D 話を盛り上げようとした

|    |                                   |
|----|-----------------------------------|
| ボラ | 髪が短い。                             |
| 学  | そう、髪が短いです。（Aさん笑う）あ、笑った！髪がすごい短いです。 |

|    |                             |
|----|-----------------------------|
| ボラ | ここにいます？                     |
| 学  | いません。I。J、Jです。J、J・・・ABCD・・・。 |
| ボラ | あーいた！J！                     |
| 学  | J、J。                        |
| ボラ | J。                          |

これらの場合、話が盛り上がった際に繰り返しが行われている。話が盛り上がるということは緊張のほぐれる時でもあり、繰り返しを用いることでさらにそれを強めようとしているのではないかと考えられる。

#### E 自分の質問に対する学習者の答えに反応した

|    |               |
|----|---------------|
| ボラ | A さんは何が好きですか？ |
| 学  | サッカー。         |
| ボラ | サッカー！         |

これは自分の質問が学習者に伝わったことを確認するために行った。このような際により正しい答え方を加えることができたと考えられる。(例：「サッカー！A さんはサッカーが好きなんですね。」)

### 3. 2 学習者の繰り返し

#### 3. 2. 1 学習者自身の発話に反応して

##### A 文法を直した

|    |                         |
|----|-------------------------|
| 学  | 彼たち、彼女たち、勉強した？ 一緒に勉強した？ |
| ボラ | うん、一緒に勉強した。             |

この場合、語と語の接続が無かった前者に比べ、繰り返し後の後者はよりわかりやすい質問文となっている。このように学習者は語の繰り返しを行いながら、より正しい日本語へと言い換えている。

##### B 強調したい部分を繰り返した

|   |                                                   |
|---|---------------------------------------------------|
| 学 | (ブラジルの SNS の説明で) でも、私の名前探しますね。私の名前。A。あの、お名前を探します。 |
|---|---------------------------------------------------|

これはボランティアと同様、自分の説明で相手に一番理解して欲しい部分の繰り返しを行っている。

#### 3. 2. 2 相手の発話に反応して

##### A 知らない語を言い直した

|    |                              |
|----|------------------------------|
| ボラ | この、これ、わかりますか？                |
| 学  | う〜ん、英語で？                     |
| ボラ | ううん、日本語で。これはルーズソックス。         |
| 学  | ルーズソックス。                     |
| ボラ | ルーズソックス。すごい、流行りました。人気がありました。 |

|    |                              |
|----|------------------------------|
| 学  | あの〜、これは、これは日本語で？             |
| ボラ | ズボン。                         |
| 学  | ズボン？ズボンはありました。でも学校のシャツ履きました。 |



|    |                 |
|----|-----------------|
| ボラ | (漢字の)「緒」は紐。紐。   |
| 学  | 紐。              |
| ボラ | だから、長く長一くって意味で。 |

学習者にとって新しい語彙、普段使わない語彙が出てきた際に繰り返しは用いられている。その語を繰り返すことで、ボランティアは自分が話したことが理解されていると知ることができる。そして繰り返しその語を使用することで、その使い方が間違っていないか確認することもできる。

#### B 相手の発話内容に関して確認した

|    |                              |
|----|------------------------------|
| 学  | (「双子」という漢字を見て) これ、わからない。ぬぬ子？ |
| ボラ | ううん、これ(「双」という字)は漢字です。        |
| 学  | 漢字？！                         |
| ボラ | 漢字。                          |

この場合、学習者は「双」という漢字を片仮名だと捕らえていた。ボランティアは、学習者が繰り返しで確認を求めてきた際に、説明で補うことができたと考えられる。(例:「漢字。「ヌ」という片仮名と、「双」という漢字があります。片仮名は「ぬ」、この漢字は「ふた」と読みます。)」

#### 4. まとめ

分析結果からわかるように、繰り返しが行われた原因は状況によって様々である。そして、その中から反省点もいくつか挙げられる。まず、ボランティアが自分の発話を意識して繰り返しを行った多くの場合は、学習者へよりわかりやすい発話にしようとした結果だと考えられる。意図的にゆっくり、はっきり行なった繰り返しはわかりやすいが、うまく説明ができない時の繰り返しは良い話し方ではないと考えられる。このような場合を無くすため、臨機応変に別のコミュニケーション・ストラテジーに切り替えられるように心がけるべきである。

次にボランティアが相手の発話に反応して繰り返しを行った場合は、学習者の理解度の確認や、学習者のコミュニケーション・ストラテジーを引き出すきっかけとなる。また繰り返しの後により適切な表現方法を示すことで、学習者に見本を示すこともできる。これらをうまく利用すると、学習者の日本語を向上させることができる。

一方、学習者が行った繰り返しは、ボランティアと同じ原因で行われたものや、日本語習得のためのものであったりする。ボランティアは繰り返しが行われた際になぜそれが行われたかを理解し、同様に繰り返しを行い、学習者の日本語理解を助けることができる。

このように、繰り返しは会話の中で、自分の意思表示や発話能力の向上のために非常に重要なものである。発話ごとに繰り返しを行う必要はないが、繰り返しが持つ役割を理解し、相手の発話を引き出す、説明を付け加えるなどして、それらをうまく利用することが大切である。

# よりわかりやすく伝えるために

外国語学部フランス学科 北島由衣

## 1. はじめに

私は保見ヶ丘日本語教室に参加し、もどかしい思いをしたことがある。私は話を膨らませるのが苦手なのだが、この教室で学習者の方々と会話する際にも、思ったように話を発展させることができなかったのだ。

そのときの学習テーマは年間行事で、進行役が季節ごとの行事や花、食べ物などの絵が描かれたプリントを用意していた。私はある学習者とそのプリントを見ながら会話をした。私は学習者の出身地ではどうか、今はどうかなど学習者自身の話を聞きたかったが、学習者はプリントに描かれた花や食べ物が何なのかを沢山質問してきた。そこから話を発展させようとしたが、質問され答える、というやり取りしかできなかった。ところがもうひとりのボランティアが私たちのグループに入り、行事にまつわる彼女の経験を話し学習者に質問したところ、学習者は経験や日本の行事の感想などを沢山しゃべりだした。私はこの時、何がきっかけで流れが変わったのだろうか、どのようにしたら話を自然に膨らませることができるのだろうか、と強く思った。

この日の活動から、私は会話の中で人が自然に使う表現について興味を持った。話す内容はもちろんだが、聞き手の注意を引く話し方、分かりやすい言い方を身につけることが、会話を発展させる上で必要なのではないかと考えた。ボランティアが学習者と会話をする際、より分かりやすく伝えるために、どのような工夫がなされているのか調べてみたい。

## 2. 分析方法

保見ヶ丘日本語教室の1回分の音声データを聞き、ボランティアの特徴的な話し方を取り上げる。活動の中で、その特徴がよく現れる場面と、その前後の流れを分析し、どういった状況で特徴がより現れるのか、ボランティアのどのような気持ちが反映されているのかを調べる。

[音声データについて]

日時 2007年12月2日 10:30~11:30

場所 保見ヶ丘日本語教室

参加者 ボランティア4名（データ中「ぼ」と表記）

学習者5名（データ中「が」と表記）

テーマ 音楽について

## 3. 分析結果

強調して話している部分は**ゴチック**。ポーズは白丸○で表現した。

①活動序盤のやり取り（～008:30）

| 時間    | トピック       | 発言 |                                                                                                            | 特徴                                              |
|-------|------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 00:40 | ギターの話      | ぼ1 | えと、○が1さんは、確かギター、○ギター弾けますよね。                                                                                | ポーズが多い<br>(計2秒)                                 |
| 00:45 |            | ぼ1 | えと、○音楽、音楽、○どんな音楽が好きですか？                                                                                    | ポーズが多い<br>(計2秒)                                 |
| 00:58 |            | ぼ1 | えと、ほかに、知ってる曲ありますか。                                                                                         | アクセントあり                                         |
| 01:23 | 好きな音楽      | ぼ1 | えと、私は、この人たちが好き。                                                                                            | アクセントあり                                         |
|       |            | ぼ1 | 私は、この人たちの、音楽が好きです。                                                                                         | アクセントが多い                                        |
| 03:08 | 楽器の説明      | ぼ1 | ベース。音が、低い。                                                                                                 | ゆっくり言う                                          |
| 03:20 |            | ぼ1 | 音楽は、演奏するのと、聴くの、どちらが好きですか。                                                                                  | アクセントあり。<br>ゆっくり言う                              |
| 04:11 | クリスマス会について | ぼ1 | 今度、クリスマス会に、 <u>あの、なんだろう</u> 、クリスマス会の時に、ギター弾きませんか。みんなの前で。                                                   | 下線部ポーズ<br>3秒                                    |
| 06:37 |            | ぼ2 | ぼ1さんが好きな、○CD。                                                                                              | ポーズ0.5秒                                         |
| 06:40 | クリスマス会について | ぼ2 | 今度、○今度、12月23日に、○クリスマスパーティやるじゃない。クリスマスパーティここで。○それで、○あの、○みんなでなんか、歌ったり、楽器演奏したり、しようかなって考えてるんですけど、何かやりませんか、あはは。 | ポーズが多い<br>(計8秒)<br>アクセントが多い<br>ゆっくり言う<br>(計27秒) |
| 07:58 |            | ぼ2 | ぼ1さんは、これを、クリスマス会で、やります。                                                                                    | アクセントが多い                                        |
| 08:00 |            | ぼ1 | うん、私は、楽器、うん吹けます。                                                                                           | アクセントが多い                                        |

②活動中盤のやり取り（31:50～34:20）

| 時間    | トピック       | 発言 |                                                                     | 特徴                              |
|-------|------------|----|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 31:57 | 楽器の話       | ぼ1 | が1さんは、ギターが弾けます。                                                     | アクセントあり                         |
|       |            | ぼ1 | 弾けます。みんな、楽器は弾けますか。                                                  | アクセントあり                         |
| 32:00 |            | ぼ2 | ピアノとか、○バイオリンとか。                                                     | ポーズ1秒                           |
| 32:32 |            | ぼ2 | じゃ今度の、○クリスマス会で、○やりませんか？                                             | アクセントが多い。<br>ポーズ計2秒             |
| 33:01 | クリスマス会について | ぼ2 | 今度ね、12月23日に、ここで、クリスマス会やるんですよ。○そのときに、○みんなでね、歌をうたったり、こう、○その踊ったり、したいね。 | アクセントが多い。<br>ポーズ(計3秒)<br>発話16秒間 |

|       |  |     |                                                       |         |
|-------|--|-----|-------------------------------------------------------|---------|
| 33:20 |  | ぼ 2 | じゃあそのときにヒップホップ？ヒップホップ。ううん、ここ。23日で、えーっと、え、が1くんギター？あはは。 | アクセントあり |
|-------|--|-----|-------------------------------------------------------|---------|

#### 4. 結論

活動全体を通して、ボランティアに見られる特徴として、以下のものがあつた。

- ・ 言葉の切れ目を強調して話すことが多い
- ・ ポーズを多用している
- ・ ゆっくり話す

また、活動序盤に見られる特徴として、以下のものがあつた。

- ・ 「えと」、「あの」、「それで」などのつなぎの語の使用が多い
- ・ 発話と発話の間の間が長い

活動全体を通して見られる特徴としてあげた3点は、活動序盤により多く表れていた。音の強調は質問するときや説明するとき特に多く見られ、話し手の強調したい部分、より伝えたいと思う部分に無意識につけられていることがわかった。ポーズはアクセントと併用されていることが多く、この場合も単語や文をより強調するという効果がある。別の場合には、ポーズは「えと」、「それで」などのつなぎの語と併用されている。この場合、話し手が話す内容を考えているか、整理しているので、その間を持たせるためにつなぎの語が同時に使用されていると考えられる。このつなぎの語の使用は活動序盤に多く見られた。導入部分ではまだ話題が安定せず、話しながら話題の発展の仕方を頭の中で模索しているため、このような特徴が見られたのだと私は考える。活動序盤では発話と発話の間の間が長いという特徴もあつた。これも次の発話を考えているためだと言える。また、学習者とのやり取りと、ボランティア同士のやり取りでは発話と発話の間に大きな差があつた。ボランティア同士では、間がとても短い。ボランティアは学習者と話す際には、無意識のうちに学習者の発話のペースに合わせて間を取っていることが分かった。話すスピードにも同じ特徴が見られ、学習者とのやり取りではポーズがない場合でも話すスピードは遅い。一方、ボランティア同士のやり取りは聞き取りにくいほど早口で、ポーズがなく一気に言い終わっている。

私はボランティアが意識的に、あるいは無意識に行っているこれらの工夫を、学習者に対してはもちろん、普段のやり取りの中にも取り入れていきたいと思った。分かりやすく伝えるということは、伝え合う上でとても大切なことだが、意識をしていないと忘れてしまう。会話を発展させるためには、おもしろい話題を準備することよりも、今回見られた、様々な基礎的な工夫を取り入れることが大事だと感じた。

# コミュニケーション・ストラテジーと

## ティーチャートーク

外国語学部フランス学科 畔柳友香

### 1. はじめに

保見での活動、また自主研究の活動を通し、私が注目したのはコミュニケーション・ストラテジーである。自主研究では「自分の発話の調整（他の表現への言い換え、説明、母語使用）」を多く取り上げて例を挙げたが、私は発話調整だけでなく「相手への援助要請（聞き返し、相手への協力を求める）」の例にも触れ、さらに会話中でどのコミュニケーション・ストラテジーがどの程度の頻度で使われているのか調べたいと思う。また、ボランティアの発話の中には、「分かりますか」と確認しながら会話を進める場面がしばしばみられる。今回はコミュニケーション・ストラテジーと分けて、ティーチャートークの場面にも焦点を当てて調べてみる。そして、それらの結果を基に、活動の改善策を考える。

### 2. 分析方法

2007 年 12 月 2 日の保見ヶ丘日本語教室入門クラスの会話を聞き、文字起こしを行う。その後コミュニケーション・ストラテジー、ティーチャートークを分類し、回数を調べる。

#### 2. 1 分析対象のクラスの内訳

学習者：6 名（ブラジル人学習者 2 名、ペルー人学習者 4 名）

ボランティア：2 名

### 3. 分析結果

#### 3. 1. 学習者について

学習者のコミュニケーション・ストラテジーを発話調整、相手への援助要請に分けて分類する。

##### 3. 1. 1 発話調整

発話調整を、さらに置き換え、媒介語使用、辞書使用、ジェスチャー使用、絵使用に分類する。今回の会話の中では、学習者の発話調整には媒介語使用、辞書使用があった。

##### ① 媒介語使用

今回の会話の中で、学習者の媒介語使用場面は 5 か所あった。

例 1（V：ボランティア、B：ブラジル人学習者、P：ペルー人学習者）

P1：踊る練習

V1：外で？

B1 : (通訳)

V1 : これが終わってから？

P1 : 瀬戸、うち

V1 : これが終わってから？ 終わって誰かのおうちとかで、お兄さんがぐしぐしぐしやって、(ターンテーブルの真似)

P2 : あの一、車ミュージック

V1 : 車で音楽？ で練習？ あ、いいねえ。楽しみ。

## ② 辞書使用

今回の会話中に辞書の使用箇所は1か所見られた。

### 例2

V2 : え、IさんはSEAMO好きですか？SEAMO、SEAMO、それ歌ってる人。

B1 : SEAMO？この、SEAMO、歌手？

V2 : 歌手の名前。

B1、B2 : (母語で会話)

V2 : 歌手の名前、SEAMOって言う。

B1、B2 : (母語で会話)

B2 : (辞書を引いたがみつからず) ごめんなさい、SEAMO。

V2 : SEAMOは人の名前。

B2 : あー、人の名前か。(B1に通訳) ごめんなさい。

SEAMO、人の名前。

B1 : あー。

## 3. 1. 2 相手への援助要請

学習者の相手への援助要請として、会話中に使われたコミュニケーション・ストラテジーを、聞き返し、通訳、相手への協力を求める、の3つに分類する。

### ① 聞き返し

今回の会話中には、聞き返しの場面が1か所見られた。

### 例3

V2 : ドラムで、歌歌う人で、そう、この人ベースギター。

B1 : ベース？

V2 : ベース、音が低い。

B1 : あー。

### ② 通訳

今回の会話中には通訳の使用場面が6か所見られた。

### 例4

V1 : 瀬戸に住んでるんですか。瀬戸？

P3 : ハイヤマ。

V1 : ハイヤマ？  
P3 : ハイヤマ。  
V1 : 近く？  
B1 : (Pに通訳) 近く。  
V1 : みんな一緒に来たの？ 車で？  
B1 : (Pに通訳) 30 分。電車。  
V1 : ふーん。一緒に来たのみんな？車？  
B1 : (Pに通訳) 車。  
V1 : ふーん。

③ 相手への協力を求める

今回の会話中には、学習者が相手への協力を求める場面が 1 か所あった。

例 5

B1 : (カレンダーを見ながら) あの今日、次 9 (日) でクリスマスパーティー。  
今週、来週、再来週、(3 週間後の日付に目を移し) …来週？  
V2 : 分かんない。  
B1、V2 : 今週、来週、再来週…  
V2 : (3 週間後に来たところで) 知らない、分かんない。  
B1 : あー、知らない？  
V2 : だから、うーんと…わかんない。  
ねえねえ、来週の次は、…え、再来週の次って何って言うんですか？  
V1 : 言わん。  
B1 : ない、日本語？  
V2 : うん。今週、来週、再来週、三週間後。

3. 2 ボランティアについて

3. 2. 1 発話調整

ボランティアの発話調整として、会話中に出てきたコミュニケーション・ストラテジーを、置き換え、媒介語使用、ジェスチャー使用、絵の使用、辞書使用について分類した。今回の会話中、ボランティアの発話調整には置き換え、媒介語使用があった。

① 置き換え

今回の会話中、ボランティアの置き換えの場面は 4 か所あった。

例 6

V2 : ドラムで、歌歌う人で、そう、この人ベースギター。  
B1 : ベース？  
V2 : ベース、音が低い。

B1 : あー。

## ② 媒介語使用

今回の会話中に、ボランティアの媒介語使用場面は3か所あった。

### 例 7

V2 : あ、映画の音楽？

B1 : あ、映画？

V2 : 映画、movie。わかんない？

## 3. 2. 2 相手への援助要請

今回の会話中にはボランティアが学習者に対し通訳、聞き返し、相手に協力を求める場面はなかった。

## 3. 2. 3 ティーチャートーク

会話を聞き返してみると、ボランティアが「分かりますか」といった確認のような言葉を使う場面がところどころにあった。このようなティーチャートークをコミュニケーション・ストラテジーと分けて分類する。日本語教師のページというホームページでは、以下のように述べられている。

第2言語学習中の外国人に対する母語話者の話し方。1 ゆっくりした話し方で、単語を分離した注意深い発音。2 使用頻度の高い語彙の使用。3 短く、構造の簡単な文の多用。4 相手が理解したか確認する。5 相手の言ったことを確認する、などが特徴。教師が第2言語学習者に用いる話し方も共通点が多いが、ティーチャートークはさらに6 非文法的な文を避ける。7 答えの明らかな明示的質問（ペンを指して「これは何ですか」と尋ねる、など）が多い。

日本語教師のページ

([http://www.nihongokyoshi.co.jp/manbou\\_data/a3310040.html](http://www.nihongokyoshi.co.jp/manbou_data/a3310040.html)) 2008/02/19

## ① 相手が理解できたか確認する

今回の会話中、相手が確認したか確認する場面が3か所あった。

### 例 8

V2 : この人が、そう、歌うたって、この人がギター弾いて、

B1 : ギター？

V2 : うん、ギター。うん、この人がドラム、ドラム分かりますか。

B1 : ドラム？

V2 : ドラムは・・・これ。（写真を指差す）

## ② 相手の言ったことを確認する



今回の会話中、相手の言ったことを確認する場面が 12 か所あった

例 9

V2：えっとね、この人たち見たことありますか。

B1：男？

V2：男。みんな男。知らない？ 知ってますか。

B1：あー、知らない。

V2：ああ、知らない？ そうか。

#### 4. まとめ

以上の結果から、学習者が多く使用するコミュニケーション・ストラテジーは媒介語使用、通訳であることが分かった。今回は学習者がブラジル人 2 名、ペルー人 3 名で、それぞれの母語はポルトガル語、スペイン語で、別の言語ではあったものの、この 2 つの言語は似ているため、時々ブラジル人学習者がペルー人学習者に対し通訳をしている場面があったのは興味深かった。実際に、今回一緒に活動したブラジル人学習者に「スペイン語分かりますか」と聞いてみたところ、「はい、同じ、ポルトガル」と言っていた。

またボランティアが多く使用するコミュニケーション・ストラテジーには置き換え、媒介語使用が挙がっていた。ボランティアはコミュニケーション・ストラテジー以上にティーチャートークを用いている箇所が多かった。私は特に学習者が確認したことを確認するティーチャートークを多用していた。今まで保見ヶ丘日本語教室での活動は「ボランティアと学習者の関係は先生と生徒の関係とは違う」と思っていたが、そんな自分が思ったより頻繁にティーチャートークを使っていたことに驚いた。私自身はかなり入門クラスの学習者は日本語があまり分からない、と意識してしまっているのではないかと思う。気づかずに意識していたことを直すのは難しいかもしれないが、今後はできるだけ入門クラスの学習者の日本語レベルを意識せず、普通の会話をし、学習者とより自然な会話ができるようにしたい。そして、転ばぬ先の杖としてティーチャートークを用いるのではなく、コミュニケーションに「転んで」からでいいのでコミュニケーション・ストラテジーを用いて活動していきたいと思う。

# 学習者の発話を促す聞き方は何か

外国語学部スペイン学科 桑原知恵

## 1. はじめに

私がこのテーマに取り組もうと思ったのには理由がある。学習者 R さんとスピーチ用の原稿を作成していたときである。大筋を書いてきてもらったのだが、そこからの推敲がとても難しく感じた。R さんの言いたいことがわからず、何度説明してもらっても理解できなかったのだ。しかし私でなく、他のボランティアと一緒に作り始めると一転してスムーズに行っているように感じた。それがどうしてなのか様子を見てみると、違いは明らかであった。私の場合、わからないと「これはどういう意味？」と聞いてしまう。しかし、そうではなく「誰が、これをしたの？」「あなたがしたの？」というようにピンポイントに、そしてかなり具体的に聞いているのである。

私は今回、どんなことを質問するのか、またどのように質問するかによって学習者の理解が促され、発話の増減が左右されるのではないかという疑問を分析することにした。さらにどのようにボランティアが学習者との話を展開しているのかを詳しく確認する。

## 2. 調査方法

教室活動を IC レコーダーで録音し、疑問文が使われた前後の発話を文字起こした後、分析を試みた。

|     |                             |
|-----|-----------------------------|
| 日時  | 11 月 18 日（日） 10 : 00～ 79 分間 |
| クラス | 入門クラス                       |
| テーマ | 昨日したこと                      |
| 参加者 | ボランティア 3 名、学習者 4 名          |

\*以下ボランティア：桑原、V1、V2、 学習者：P1、P2、B3、B4 と表記する。

## 3. 分析結果

### 3. 1 疑問文の形式

ボランティアが使っていた疑問文には以下のようなものがあった。

#### A) yes-no クエスチョン

|     |                         |
|-----|-------------------------|
| V 1 | おはようございまーす。今日は車で来たんですか。 |
| P1  | （うなづく）                  |
| V 1 | うん                      |

#### B) 疑問詞疑問文

|    |                        |
|----|------------------------|
| 桑原 | 誰が作りましたか。<br>お昼ごはんを作る。 |
|----|------------------------|

|    |                    |
|----|--------------------|
| P1 | ・・・（お父さんと答えたと思われる） |
| 桑原 | お父さん？              |

今回の会話の中ではyes-no クエスチョンは全体の質問の約半数を占めていた。しかし、それから学習者の発話につながるものはほとんどなく、うなづくことが多かった。Aの場合、この後「誰が運転したのか」「誰の車か」「どこから来たのか」などの会話が続けられることが考えられる。また5W1Hの場合では理由を聞く「なぜ」は見られなかった。行動の理由を説明ことは学習者にとって比較的困難であると考えられる。入門クラスでの活動において、よりわかりやすく具体的な表現にすることに気をつけなければならない。

### C) 選択疑問文

|    |                                          |
|----|------------------------------------------|
| V1 | B2 さんは？<br>9時？ 10時、11時…どれ？<br>何時に起きましたか？ |
| B2 | …（時計の図を指さす）                              |
| V1 | 12時？ ははは だから言いたくなかったんだあ。                 |

選択肢を用意することによって理解をうながすことができたように思う。最初B2は答えようとしなかった。B2は挨拶程度の日本語を話すことしかなく、会話中はほとんど通訳に頼っていた。よって、最初答えなかったのは「理解できていない」のだと思ったが、B2は「理解できていない」のではなく、単に「言いたくなかった」のだと気づく。発話がないのは一概に「理解できていない」のだと決め付けてはいけない。

## 3. 2 複合型の疑問文

以下のような、疑問詞疑問文とyes-no クエスチョンの組み合わせも見られた。

### D) 質問の範囲を狭める

|    |                     |
|----|---------------------|
| 桑原 | どこに住んでるんだっけ？<br>豊田？ |
| P1 | …（聞き取れず）            |

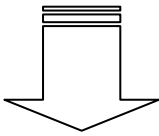
この場合、「どこに住んでいるのか」を聞き、その後「場所（豊田）」に限定した質問(yes-no)にシフトしており、より具体的な例を出している。一見答えやすいような印象を受けるが、今回の音声でははっきりとした反応の違いがわからなかった。私が一回目の「どこに住んでいるか」の質問の際に学習者の発話を待たず、学習者のリアクションがある前に具体例を出してしまっていることが原因と考えられる。本当に最初の質問がわからなかったのか、もう少し待たなければいけなかった。

## 4. 会話を発展させる方法

## E) 掘り下げ型

|    |                                                    |
|----|----------------------------------------------------|
| V2 | 映画見ました？ 何の映画ですか。                                   |
| B1 | はい、パイシャウン デ クリスト                                   |
| V2 | ブラジルの？                                             |
| B1 | ブラジル…日本…パイシャウン デ クリスト。<br>たぶんこれかな（タイトルを紙に書く）。かみさま。 |
| V2 | 神様？ブラジルの映画？ 面白いですか。                                |
| B1 | 面白い、あー、悲しい、悲しいストーリーね。                              |

## F) 横とび形

|    |                                   |                                                                                                         |
|----|-----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| B1 | かみさまの子供                           | 映画の<br>タイトル<br><br> |
| V1 | 神様の子供の話？                          |                                                                                                         |
| 桑原 | みんなカトリコ？カトリック？                    |                                                                                                         |
| B1 | みんなカトリックだね<br>私はクリスチャン            |                                                                                                         |
| 桑原 | 違うよね。カトリックとクリスチャン。<br>違いがわからないんだ。 |                                                                                                         |

FはEからの会話の続きである。太線のところで「映画のタイトル」から「宗教」の話にシフトしていることがわかる。Eでは映画のことを深く聞いているのに対してFの場合は映画から関連したワードに注目して話題が転換している。このように会話の発展の仕方にも2種類存在していることがわかった。

Eは自然な会話の流れができているのに対して、Fは学習者を混乱させてしまうかもしれないと感じた。実際私が宗教の話をし始めているけれど、その後他のボランティアはまだ「映画のタイトル」のことを聞く場面も見られたからである。「話題が発展して最初のテーマとずれた」という感想はFから生まれるものなのではないか、と考えられる。

## 5. 最後に

この会話の分析をする中で問題点が見えてきた。私が学習者の発話を待てないことである。彼らが何か話す前に、質問を繰り返したり、違う方法で質問しようとしていた。どうにか簡単にしなければ、と学習者の反応を見る前に行動をおこしていたのである。コミュニケーションはどちらか一方からの矢印だけではいけないとわかっていたものの、実際は私の発話が圧倒的に多くなってしまっていたのである。反省点としてあげられたことは、次回からの教室活動で特に注意して行っていかなければならない。

一方、分析をしてみてよい発見もあった。会話中にこれだけの質問の方法・会話の発展があるのだと改めて気付くことができたことである。私たちはこの多様な表現を使って、相手とコミュニケーションをはかろうとしていた。どのようにこの表現使い分けるかによ

って、相手とより理解しあうことができるのではないだろうか。

# 自分の発話の特徴

外国語学部フランス学科 小谷貴美子

## 1. 分析の動機

私が分析することは、自分の発話の特徴である。その日話したことや相手が言ったことは覚えていても、自分の発言は思い出せないことが多い。そこで私は、会話の中で自分がどのような発話をしていて、その発話は会話においてどのように機能しているのかを知りたいと考えた。クラス活動の音声全てを聞くことになるので、自分でも気づかなかった発話の特徴も見られるのではないかと思う。

## 2. 分析方法

[分析データ]

音声：2007年10月14日の入門クラス

対象者：ボランティア4名：小谷、Aさん、Bさん、Cさん、Dさん

学習者2名：P1さん、P2さん

時間：午前10時～午前11時30分（90分間）

[分析手順]

- ①クラス活動の音声記録を聞き返し、自分の発話を取り出す。
- ②自分の発話を形式ごとに分類する。
- ③前後の会話から自分の発話の機能を考察する。

## 3. 分析結果

機能から分析すると、以下のような9種類の発話に分類された。

- ア) 聞き返し…相手の発言を聞き返す
- イ) 単語の繰り返し…相手を受けて単語を繰り返す
- ウ) 文にして内容を言う…相手の発話内容を文にして言う
- エ) あいづち…相手の発話内容を受けてあいづちをうつ
- オ) コメントを述べる…相手の発話内容を受けてコメントを言う
- カ) 自分のことを言う…自分のことを言う
- キ) 質問…相手に対して質問する
- ク) 相手の理解を確認する…「(～は) わかりますか」と確認する
- ケ) 相手の状態…その時の相手の状態を述べる

ア) 聞き返し

「聞き返し」に分類した発話には、相手の発言を確認する機能と相手の話したことに関する情報を更に求める機能がある。確認の聞き返しをすることで、学習者が伝えたかったことを理解できた場面が見られた。

例)「ゴディゴ (ゲームの名前) について」

P 1 : ゴ、ゴディ、ゴディゴ。

A : 5 時ごろ？

P 1 : ゴ、ゴディゴ。

A : コーチ？

小谷 : コーチ？

P 1 : ゴディゴ。

A : ゴディゴ。

小谷 : ゴディ、ゴディゴ？ ゲームですか？

P 1 : うーん。エヴリナイト、ゴディゴ。

学習者は私たちが分かっていることを理解し、きちんと伝わるまで何度も同じ単語を繰り返した。最後にはゲームの話だと理解できた。

イ) 単語の繰り返し

「単語の繰り返し」に分類した発話は前の内容を受けたものであり、自分の中でその単語について考える機能がある。また、学習者がジェスチャーや擬音語を用いて何かを伝えようとする時に、伝えたいであろうことを単語で述べることもあった。「単語の繰り返し」は学習者の発話、特に文ではなく単語を多く用いた発話に対して多く見られた。ボランティアの発話に対しても見られた。フェジオアーダというブタのしっぽ、鼻、耳がはいっているブラジルの料理の話をしていた時に、カレーのような感覚で食べると言われ、私は「カレー、カレー。」と単語を繰り返しながら発話対象についてどのようなものか想像していた。

ウ) 文にして内容を言う

「文にして内容を言う」に分類した発話は、前の発言を受けたものであり、自分の中で相手の発言を整理するための機能がある。学習者の発話が単語である時に、単語のつながりを考え伝えたいことを推測していることもある。

エ) あいづち

「あいづち」に分類した発話は、前の発言を受けたものであり、相手に聞いていることを知らせる機能、発言に対して、驚き、共感など自分の感情を示す機能がある。

オ) コメントを述べる

「コメントを述べる」に分類した発話には、会話を発展させる機能がある。私のコメントは比較的短く、次の会話につながるものは少なかった。

カ) 自分のことを言う

「自分のことを言う」に分類した発話にも、会話を発展させる機能がある。このクラス活動で私は進行役だったこともあり、「自分のことを言う」ことから始まった。

#### キ) 質問

「質問」に分類した発話には、前の発言に関連するもの、前の発言に関係なく新しい内容のもの、同じ内容を違う相手に問うものがあり、話題を切り替える機能と会話を発展させていく機能がある。ひとつの話題に関して会話が续かなくなった時、新たな質問をすることで会話を続けることがあった。みんなのことを知るために同じ内容の質問を違う相手にした。このことによって、様々な話を聞くことができ、そこから話題も発展していった。

#### ク) 相手の理解を確認する

「相手の理解を確認する」に分類した発話には、相手の理解状況を確認する機能がある。入門クラスの学習者にとってわからない語句は多い。学習者の表情やしぐさから、よく分からないような様子を読み取れるとき、または自分が学習者にとって分かりにくいと感じる言葉を使用したときにこの問いかけをしていた。

#### ケ) 相手の状態

「相手の状態」に分類した発話には、特定の相手に注目を集める機能がある。この時の会話では、眠い様子だった学習者 P 2 さんに「眠いですか？」と聞いた。P 2 さんは発話が少なかったため、関わりをもとうとしてかけた言葉だったように思う。

### 4. 最後に

音声进行分析してみて、私は質問を多くしていることがわかった。この日は進行役だったこともあり、最初は話題を共有したいという気持ちから、意識的にみんなに同じ質問をしていた。そのことが質問が多いことにつながったのもあるかもしれない。

全体を通してみても、自分のことを話すよりも人の話を聞き、内容についての質問をすることが多かった。また、相手の発話内容を繰り返して理解していくことが多いということも分かった。

質問の仕方にも人によって違うことがわかった。年の近い学生や学習者には、「Bさんは昨日お昼何をしましたか」と聞いているのに対して、歳の離れた方には、「昨日のお昼は何をされましたか」と聞いていた。話していた時には気にしていなかったが、音声を聞き返してみると言葉の使い分けをしていることに気づいた。

90 分間のクラス活動の話の流れを聞くことができ、会話はこのように続いていたのだと思い、楽しかった。一人ひとりの発言が影響してどんどん話が進んでいく様子は興味深かった。

今回の分析から、みんながそれぞれ自分のことや意見を言う時が楽しいと感じたので、たくさんいろいろな経験をして話していきたいと考えた。振り返ることでもたくさんの発見ができた。



# 会話における学習者の聞き返しから見る話題への興味

外国語学部中国学科 坂田雪恵

## 1. はじめに 話題が入れ替わる自然な会話の中での日本語学習の特徴

音声記録分析の際に着目した点・・・「学習者の聞き返しの回数と内容」

この点に着目したきっかけは、学習者が、会話の中で何らかの反応を示した話題に着目することで、学習者の「インパクトに残った会話」を知りたいと思ったことである。そして目的は話題が入れ替わる自然な会話の中での日本語学習の特徴を見出すことである。

学習者の聞き返し、という行動から「話題への興味」「相手の伝えたいことを理解したいという気持ち」が読み取れると考える。そしてこの行動は学習者にとって「インパクトのあった話題」へとつながり、その日覚えた言葉や楽しかったという記憶、ひいては実生活で使えるようになった新たな日本語へとつながる方法のひとつではないかと考える。

聞き返しの行動には、学習者の性格などが多分に影響するので、聞き返しの回数が多かったからといってその会話が成功だった、とは思わない。しかしこの点に着目する中で、ボランティアの話題の提示の仕方や質問の仕方などから「分かりやすく伝わった」時の特徴が見えてくるかもしれないし、もしかすると「学習者の趣味、興味と合致した話題になることが一番学習者の反応を引き出す」のかもしれない。いずれにせよ、この分析を通して、受身ではなく会話に参加する中で進められる日本語教室ならではの、話題が入れ替わる自然な会話の中での日本語学習の特徴が見えてくるのではないかと考える。

## 2. 分析方法

[分析対象データ]

保見ヶ丘日本語教室 入門クラス 2007年11月4日

進行役が著者 A

日本語母語話者 2名 B、C

ブラジル人 2名 X、Y (Xは上級レベル、Yは入門レベル)

58分間のデータ

[分析手順]

ICレコーダーで録音した音声を聞き返し、今回の着目点である「学習者の聞き返し」の部分を文字起こしした。その上で、行われた「聞き返し」がどういった目的でなされたのかを分類、その回数と特徴からそれぞれの傾向を読み取った。

## 3. 分析結果

聞き返しが行われた回数は、データ中、33回だった。

[分類]

I. 確認 17回

I-i. 相手の発言内容の確認 (17回中11回、学習者X 11回、学習者Y 0回)

- I-ii. 自分の知識や記憶の確認 (17 回中 6 回、学習者 X 6 回、学習者 Y 0 回)
- II. 新規の表現に対する聞き返し 13 回 (学習者 X 9 回、学習者 Y 4 回)
- III. 新しい情報求め 3 回 (学習者 X 3 回、学習者 Y 0 回)

例) I-i. 相手の発言内容の確認 (★の発言)

|            |                      |
|------------|----------------------|
| 学習者 X      | ミラノ・・・               |
| ボランティア B   | ん？                   |
| 学習者 X      | ミラノ・・・               |
| ボランティア B   | ミリオ？あつ・・・え？ミラノですか？   |
| ボランティア A・B | へー！                  |
| ボランティア B   | ミラノって何があるんでしょ？       |
| ボランティア C   | ピザとか？                |
| ボランティア B   | ピザ？                  |
| ボランティア C   | ピザ。                  |
| 学習者 X      | <b>★ピザ？</b>          |
| ボランティア A   | あはは！うん。はは！           |
| ボランティア B   | え、お母さんよく作りますか、ピザ？へー！ |
| ボランティア A   | へー！・・・いいなー！          |
| ボランティア B   | いいなー！                |

例) I-ii. 自分の知識や記憶の確認 (★の発言)

|          |                                         |
|----------|-----------------------------------------|
| ボランティア A | 今は名古屋に住んでいます。お父さん、お母さん、私、お兄ちゃん、妹。名古屋です。 |
| 学習者 X    | あー。                                     |
| ボランティア A | 名古屋。                                    |
| 学習者 X    | <b>★・・・んー、家族。</b>                       |
| ボランティア A | そ！家族！家族、名古屋です。                          |

例) II. 新規の表現に対する聞き返し (★の発言)

|            |                           |
|------------|---------------------------|
| ボランティア A   | お寺。何かないかな？                |
| ボランティア B   | 寺・・・                      |
| ボランティア A   | 寺か。                       |
| ボランティア B   | んーとー、坊主分かる？坊主。            |
| 学習者 Y      | <b>★ぼうず？</b>              |
| ボランティア A・B | ははは。                      |
| 学習者 Y      | あー、あー、あー、あー、あー。(思い出そうとする) |
| ボランティア A   | そうそう、こうやって・・・んー。          |
| 学習者 Y      | ブッダ。                      |
| ボランティア A   | そうそう、ブッダ、ブッダ。             |

例) Ⅲ. 新しい情報求め (★の発言)

ボランティア B      あー、かわいい。  
ボランティア A      え、ちっちゃいですか？子供？・・・何だろう？  
ボランティア B      え？オウム？・・・違うなあ。  
学習者 X              ★何？ 日本語？ 名前。  
ボランティア B      何？  
ボランティア A      ブラジルは？ ポルトギス。（※ポルトギス＝ポルトガル語）  
学習者 X              パパガヨ。  
ボランティア A      かわいい！ パパ・・・？  
学習者 X              ・・・ガヨ。  
ボランティア A      パパガヨ。へー。

4. 使用状況

分類したⅠ、Ⅱ、Ⅲそれぞれにおいて、①学習者が使っている表現形、②ボランティアがどう対応しているかを見てみた。

Ⅰ. 確認 (17 回)

Ⅰ-i. 相手の発言内容の確認 (17 回中 11 回)

①学習者が使っている表現形

- ・ボランティアが発言した単語を拾い、単語での質問形にして繰り返している 6 回
- ・ボランティアが発言した単語を拾い、そのまま復唱している 5 回

②ボランティアがどう対応しているか

- ・学習者の発言した単語をそのまま復唱している 5 回
- ・学習者の発言を肯定する（例：そうです。） 1 回
- ・学習者の発言した単語を使用して話題を続ける 2 回
- ・学習者の発言した単語を使用せず話題を続ける 3 回

Ⅰ-ii. 自分の知識や記憶の確認 (17 回中 6 回)

①学習者が使っている表現形

- ・単語のみの質問形 2 回
- ・単語の肯定形 4 回

②ボランティアがどう対応しているか

- ・学習者の発言した単語を使用して話題を続ける 3 回
- ・学習者の発言した単語を使用せず話題を続ける 3 回

Ⅱ. 新規の表現に対する聞き返し (13 回)

①学習者が使っている表現形

- ・単語のみの質問形 11 回
- ・単語の肯定形 2 回

②ボランティアがどう対応しているか

- ・学習者の発言した単語（動詞）を使用して質問に答える 4回
- ・学習者の発言（動詞）を復唱するが質問に答えられない 3回
- ・学習者の発言（単語）を正しいものに直す 2回
- ・媒介語を使用して意味を伝える 3回
- ・ジェスチャーを使用して意味を伝える 1回

### Ⅲ. 新しい情報求め・・・3回

#### ①学習者が使っている表現形

- ・何？ 2回
- ・どこ？ 1回

#### ②ボランティアがどう対応しているか

- ・簡単な質問形に言い換えて聞きなおす 1回
- ・大まかに答える（どこ？に対して、いっぱいあります） 1回
- ・そのまま違う話題に移っている（質問に答えず） 1回

## 5. まとめ 日本語能力とコミュニケーション能力の鍵は聞き返し

学習者における聞き返しの特徴として、まず上級レベルの学習者 X は学習者 Y に比べて聞き返しの回数が多く、聞き返しの意図も、相手の発言内容の確認、自分の知識の確認、新規の表現に対するもの、さらなる情報を求めるものと多様であったことが挙げられる。

一方、初級レベルの学習者 Y は聞き返しの回数が非常に少なく、聞き返しの意図も、新規の表現に対する聞き返しによるもの、と限られている。

このように学習者の聞き返しの回数と内容を見ることで、学習レベルに応じて回数が増えていくこと、聞き返しの意図にも多様性が出てくることが分かった。

このことから、聞き返しは日本語能力の向上を示す一つの指標だといえる。

また、当然であるがこういった聞き返しは学習者の意図したタイミングで自然に起こすことのできる環境であればあるほど、回数を増やすことができる。要するに学習者がリラックスできる環境ということである。そのため、講義形式のような受身ではなく会話に参加する中で進められる日本語教室ならではの、話題が入れ替わる自然な会話の中での日本語学習において、聞き返しによる日本語学習のもたらす効果は大きいと考える。

一方データから、ボランティアは学習者の発言に対して、約2回に1回の割合で直後にその発言を復唱し、同じ話題で会話を続けていることが分かる。これはボランティアが、学習者の発言を話題への興味と捉え、その興味をさらに引き出そうと考えているからであると思われる。その結果、学習者は自分の発言が伝わっている、尊重されているという達成感を感じ、それが自信につながり、次の発言につながっているのではないかと考える。

また今回の着目点では見ることはできなかったが、このような聞き返しがインパクトのあった話題として学習者自身の記憶に残ることで、日本語能力の向上に役立っているとも言えるかもしれない、と感じた。

また、このように自由な会話の中で、学習者が興味のある話題に反応を示し、ボランティアがそこから話題を広げようとすることは、双方のコミュニケーション能力向上のため

に有効であると考え。なぜならお互いに伝わった、伝えられたという小さな達成感を積み重ねることが自信になり、結果的にコミュニケーション能力の向上に役立っているといえるからである。

録音データからは、様々な話題が自然に変わってゆく中で、学習者が発言する時は学習者の理解できる表現が出てきたとき、あるいは興味のある話題のとき、の二つに大分されることが分かった。今回は学習者の聞き返しに限って着目したが、コミュニケーションの上ではボランティアも学習者と同じ理由で聞き返しを行なっている。聞き返しとは相手や話題に対する興味を表す行動であるといえる。そしてその興味が受け入れられることで、次の発言へとつながり、その日のインパクトのある会話へ、そしてコミュニケーション能力の向上へと、ボランティアにとっても学習者にとっても平等に良い効果をもたらすと言えるのではないだろうか。

以上から、学習者の聞き返しは日本語への興味の表れ、そして自信につながるものであり、日本語能力の向上の鍵であるといえる。そしてコミュニケーション能力の観点からすると、ボランティア、学習者ともに聞き返しは相手への興味の表れであり、話題を続ける鍵であるといえる。

したがって、学習者の日本語能力向上だけでなく、お互いのコミュニケーション能力を向上させる効果が期待できる活動として、聞き返しの起こりやすい、自然な会話という形の中で進められる日本語教育活動は効果的であるといえる。

このように学習者の聞き返しとその回数に着目することで、まさに日本語能力向上やコミュニケーション能力向上の鍵は聞き返しであり、聞き返しの起こりやすさは会話の中で進められる日本語学習の特徴と言えるのではないだろうか、ということが見えてきた。

# どんなときに媒介語を使っているか

外国語学部中国学科 篠澤綾香

## 1. はじめに

どんなときに媒介語を使っているかを見るために、日本語のみで通じたもの、漢字を使って通じたもの、日本語から媒介語を使ったもの、漢字から媒介語を使ったものの4つに注目してみた。

## 2. 分析結果

### ①日本語のみで通じたもの

日本語のみの言い換えで通じたものには、「渋柿」「商売」「ウナギ」「爆竹」などがあった。「渋柿」は「渋い柿だから渋柿」と説明した後「渋い」を「舌がしびれる感じ」と言い換えていた。「商売」は「仕事」、「爆竹」は「花火みたいなもの」というように簡単な言葉に置き換えて説明されていた。「初詣で」も日本語のみで通じていたけど、これは「神社」と場所を言うだけでわかった。「ピラニア」は絵も描きながら、「怖い魚」「歯がとがっている」というように特徴を伝え、「おみくじ」は「大吉、中吉、小吉」などの字も書きながら、「100 円くらいで小さな紙に大吉とか小吉とか書いてあります」という説明をしていた。「お年玉」も「お年玉」と字も書いたが「大人が子供にあげます」と説明しただけでわかった。「ウナギ」の話が出てきたときは漢字を使ったけどわかっていないようだったので、「長い魚」というように言葉で説明していた。「マグロ」も漢字も使って「赤い身の魚」という説明をしてうなずいていたのでわかったかと思っていたけど、話が進んでいったあとでまた聞きなおしていたのでちゃんとわかっていなかった。聞きなおされた時に「すごく大きな魚」というように説明すると「見たことある」と言っていたので、このときにちゃんと通じたのだと思う。日本語のみで通じたものでも、口だけで伝えたものと絵も使って伝えたもの、「おみくじ」や「お年玉」のように字も使って伝えたものがある。

### ②漢字を書いて通じたもの

漢字を書いて通じたものは「養殖」「金魚」というものがあった。学習者が「何？」と聞いてきたときに言葉で説明せずに「漢字はこれ」と字を書いただけで通じたもので、そんなにたくさんは出てこなかった。「鯉」も漢字を使ったが、鯉は学習者が飼っていると言っていたので確認で漢字を使った。

### ③日本語から媒介語を使ったもの

「海南島」「漢族」「糖醋魚」などの中国のものに媒介語の中国語を使っていた。他には学習者が家に池があると言っていたので、本当に「池」なのかどうかの確認のために中国語を使った。またいろんな話が出てきて、ボランティアが話しているときに途中で中国語を入れていた。たとえば「中国にはいろんな民族の人がいて、トルコの方に近い人たちは宗教も違う」という話のときに「回族」と途中で言っている。これだけでなく他にも話し

ている途中で媒介語を単語で入れている。単語がわからなくて、媒介語を使ったものは「刺身」という言葉くらいだった。

#### ④漢字の後で媒介語を使ったもの

漢字から媒介語を使ったものは「徹夜」という言葉だけだった。「徹夜」という言葉が出てきたとき、はじめ「夜寝ない」と言い換えたり「徹夜でマージャンをする」と例を挙げたりして説明して、その後漢字を使い、それでも通じなかったので媒介語を使った。

### 3. まとめ

日本語のみで伝えることができたものは特徴をわかりやすく伝えることができたり、簡単な言葉に言い換えることができた物が通じている。「ピラニア」のようなものは漢字で書くことができなかったから日本語だけで伝えている。「お雑煮」や「福袋」、「お節」も日本語だけで伝えていたけど、ボランティア側もあまりわかりやすい説明ができなかったし、ちゃんと理解してもらえるまで説明する前に話が進んでしまったので、きちんとわかってもらえなかったと思う。学習者も見ることがあったり、経験したことがあることは簡単な説明でも通じていた。「初詣で」は行ったことがあると言っていたので通じたのだろうし、「お年玉」は中国にもあると言っていたので通じたのだと思う。

漢字を使って通じていたものは「養殖」や「金魚」のような中国と漢字が同じで、簡単なものが通じていた。「ウナギ」や「マグロ」も漢字を使っていたけど、わかりにくかったのだと思う。

日本で代表的な川魚の話が出てきたときに「鮎」を漢字を使って伝えていて学習者もわかっていただけど、後日調べて見たところ、「鮎」という字は中国語で「ナマズ」の意味になってしまい、日本語の「アユ」は「香魚」と書かないといけないということがわかった。だからこの場合は通じていると思っていても、ボランティアの思っているものと学習者が思ったものは違うと思う。学習者が「鮎」という字を見て日本語の意味でとらえていれば、きちんと伝わっているけど「ナマズ」の意味でとらえていると思う。学習者が中国の人だから漢字を使えばきちんと伝えることができるとは限らないということがわかった。それに中国と日本で漢字も意味も同じであれば伝えることはできるけど、漢字は同じでも意味が違ってしまうものもあるから注意が必要だと思った。

それに漢字を使っても伝わらないものもある。「徹夜」という言葉は漢字を使ったけど伝わらなかった。「徹夜」は中国語で「熬夜」と書くけど中国語の「熬夜」の方ではなく、「徹夜」と書いたので通じなかった。日本語での言い換えもわかりやすいことが言えなかったし、例文もわかりやすいことが言えなかったので、最終的に媒介語を使っていた。

日本語から媒介語を使ったものは「海南島」や「漢族」のような、もともとは中国にある言葉を日本語読みしたものが通じなくて媒介語を使っていた。「糖醋魚」は中国料理の名前で日本語名がわからなかったの中国語で言っている。それ以外には確認のために使っているのが多かった。「刺身」は中国ではあまり食べないと言っていたので通じなかったのだと思う。

学習者は中上級クラスの方だったので、日本語のみでの説明でも大体通じていた。また中国から来ている方だったので漢字を使えばわかるというものが多かった。でも日本語の

みで通じたものより、媒介語を使って通じたものの方がちゃんとわかっているという印象を受けた。日本語の言い換えで通じたものでも、本当に通じたのか通じてないのかわからないものもあった。

辞書は全く使っておらず、ボランティアの中の中国語ができる人が中国語を少し使っていたので、辞書を使えばもっと媒介語を使っていたのかもしれない。「お雑煮」や「お年玉」という言葉は辞書に載っていたので辞書を使っていれば、その言葉も中国語を使っていたかもしれない。媒介語を使っても「お雑煮」や「お節」が日本のものであれば見たことがないと通じないかもしれないが、日本語のみで伝えるよりは伝わる可能性はあると思った。

学習者が中上級で中国から来ていたので、普通の言葉の説明のために媒介語を使うことはほとんどなかった。媒介語を使ったのは中国のものや確認をするためが多かった。



# 話題が移り変わる際に見られる特徴について

外国語学部フランス学科 高倉由紀

## 1. はじめに

私の研究テーマは「話題の移り変わり」についてである。今回このテーマにした理由は自分が進行役として参加した保見が丘日本語教室内の活動を振り返った際、自分が話題にした「味噌キムチ鍋」からはじまり最後は「サンタクロース」の話題で活動を終了したことを不思議に思ったからだ。全く接点のない「味噌キムチ鍋」と「サンタクロース」の話題がどのようにして繋がっているのか、またそのことからわかった特徴について考えていきたいと思う。

## 2. 対象・分析方法について

### 2. 1 対象データ

日時：11月28日 保見が丘日本語教室 初級クラス

録音時間：1時間16分16秒

参加者：学習者A（ブラジル人）、学習者B（ペルー人）

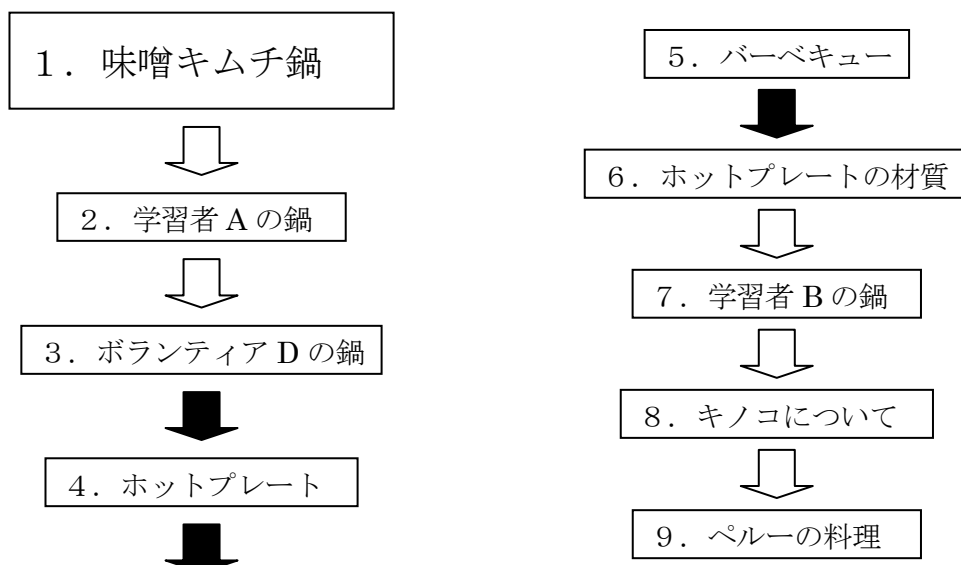
ボランティアC（高倉）、D、E、F、G

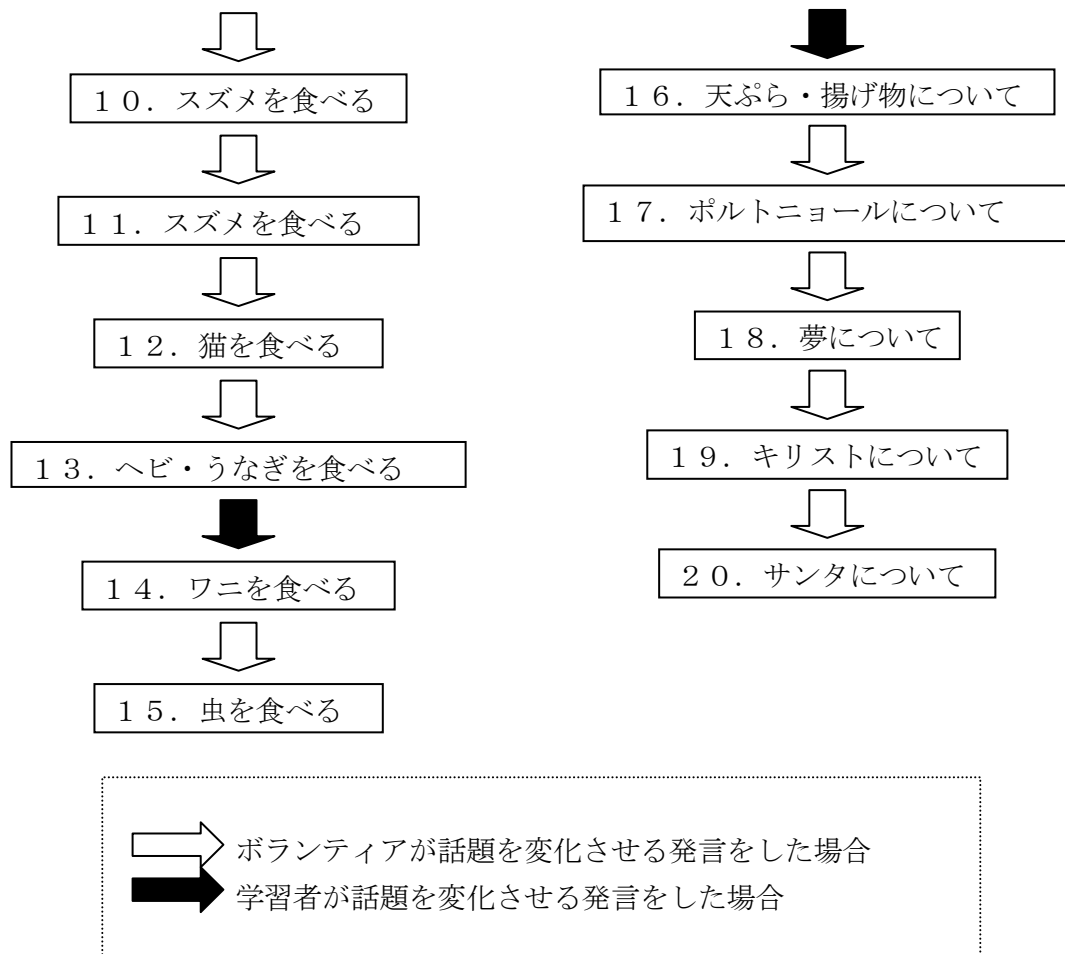
### 2. 2 分析方法

- ①対象データの文字おこし
- ②話題がかわったところに印をつけフローチャートにする
- ③話題が変わったところの特徴を見る

## 3. 分析結果

保見が丘日本語教室活動内での話題の移り変わりについて以下にフローチャートで示す。





### 3. 1. 話題の移り変わりの際の特徴

#### 3. 1. 1. 話題が変わるきっかけとなる発言の種類

##### ① 質問から話題の変換

例：話題 6 から話題 7 への移り変わり

D：え〜キノコおいしいのに。

C：鍋にきのこないのはダメですよ、じゃあキノコ食べる土地の人しか食べないってこと？

B：うん

D：じゃあペルーで有名な、コレが美味しいっていうたべものありますか？

B：料理？いっぱいあるよ。

##### ② 自分の体験について話してからの話題の変換

例：話題 13 から話題 14 への移り変わり

B：あっうなぎ？

D：食べたことありますか？

B：食べたことない・・・・・・・・

D：え～おいしいよ、でもよく考えたら気持ち悪い。

C：うなぎの裏っかわ、皮の部分が見れないです。ヒレがついてたりして・・・  
でも食べちゃう。

A：あの、ブラジルではアリゲーター食べます。

C：ワニ！？

記録データには2種類の話題の移り変わりの形があった。一つは相手の意見を聞く質問形からの話題の移り変わり、そしてもう一つはそのときの話題に関連した自分の経験を話すことによって話題が移り変わる形である。

### 3. まとめ

一見して関連のなさそうな「味噌キムチ鍋」と「サンタ」の話題も誰かの発言した言葉から発展した話題であり全ての話題には関連があったのだ。また、ある一つの話題から関連した自分の経験を話すことによる話題の移り変わりがあることにより、その場にいる人達によって話題の移り変わりが全く違う方向にいつてしまうことがあるのだ。

# ボランティアと学習者はどのように伝え合うのか？

外国語学部フランス学科 武田由佳

## 1. はじめに

我々は学校の外国語の授業で、語彙を増やすために、テキストから新出単語を抜き出し、辞書で意味を調べ、単語帳などで反復練習した覚えがある。授業の間も辞書は手放せない。しかし保見ヶ丘の日本語教室での活動は、「日本語を教える」ことではなく、「日本語でお互いに知りたいことを聞き、話す」ことである、とよく言われる。日本語教室での会話の間に、学習者が理解できない単語が出てきたとき、我々はそれをどのように解決しているのか。理解できない言葉が出てきたとき、学習者が、どのようにボランティアに助け舟を求めているのか、また、ボランティアはどのように説明しているのか、学習者、ボランティアの話し方両面から分析を進めていきたい。

## 2. 調査方法

調査日時： 2008年1月27日(日) 10:00～11:15

調査場所： 保見ヶ丘日本語教室 初級クラス

学習者： ブラジル人3人(V、H、F)

ボランティア： 日本人3人(T、Y) 中国人1人(W)

テーマ： ブラジルと日本の比較

調査手順： 1、音声データ集め  
2、文字起こし、考察

- ・学習者がどのように、自分がわからない単語について、説明を求めているか。
- ・ボランティアは、どのようにその単語を説明しているか。

## 3. 分析結果

[例1]

H：前にリオデジャネイロがありました。でも、あの一あの一、交換して…。遷都して…。

T：うん、遷都。

H：みんなブラジリアに。だから、これから…、今から、ブラジリアは、あの一…。

Y：はい、キャピタル？首都。シュ・ト。

H：シュ・ト。

ブラジルの首都の話題で、学習者Hは「首都」という単語が出てこなかった。「あの一あの一」と繰り返し、その単語が解からずにいる様子で、会話が中断した。ボランティアYは、Hが言った「遷都」という言葉からも、彼が言いたいことは「首都」でないかと推測。まず英語で確認し、日本語の単語を教えている。

[例2]

T：名古屋、どんだけ？人口。  
H：ジンコウ？  
Y：うん、人口。人の数。  
H：あの一、ジンコウは人の数…。あの、例えば、あの一。  
Y：うん、例えば、国の人口。県の人口。  
H：あの、ここ人口つかわない？  
Y：教室？  
H：はい、教室。  
Y：教室は使わないよ。国。県とか。町。

名古屋の人口の話題で、ボランティアTが「名古屋、どんだけ？人口。」と質問をした。しかし学習者Hは、「人口」という単語を聞いて、理解できないせいか、語尾を上げて繰り返す。ボランティアYは、「人の数」と、別の日本語で言い換え、「人口」の意味を説明した。

[例3]

Y：韓国のかぼちゃ、緑色です。緑っていうか、黄緑。  
V：あ、ほんと。黄緑？  
Y：うん、こういう色。

それぞれの国の食べ物の話題で、かぼちゃの話になった。ボランティアYが韓国のかぼちゃを黄緑と言ったのに対して、学習者Vは「黄緑？」と語尾を上げて繰り返した。確かに、「黄緑」は合成語で、「きいろ」と「みどり」という言葉を解かっている、「きみどり」とひとつの単語として聞くと、黄色がかった緑を想像するのは難しいかもしれない。Yはそのとき見ていた写真の中で、黄緑を指し示した。

[例4]

T：日本の鳥はなんだか知っている？国の鳥。  
F：ト・リ？トリ？トリ？  
Y：バード。

それぞれの国の国鳥の話題。ボランティアTが「日本の鳥はなんだか知っている？」と質問すると、学習者Fは「トリ（鳥）」と何度も繰り返し、意味が解からない様子だった。それに対して、ボランティアYは、英語で言い換える。さらにジェスチャーで鳥が羽ばたく動きをし、学習者は理解した。

[例5]

Y：みなさん、正座できますか？（＋ジェスチャー）  
V：足が痛くなるでしょ。

Y : うん、しびれる。

V : シビレル？

Y : しびれる。痛くて動けなくなること。

書道の話で、ボランティアYは「正座できますか？」と質問。正座という言葉が理解してもらえるかどうかわからなかったので、実際に正座をしてみせると、学習者Vはすぐ「足が痛くなる」返事をした。しかしVは、それに対してYが言った「しびれる」という単語の意味は解からなかったようで、「しびれる？」と語尾を上げて繰り返し、意味を尋ねた。Yは「痛くて動けなくなること」と、日本語の別の言葉で説明した。

[例6]

Y : ブラジルに、すいかは一年中ある？

F : ん？

Y : いつもある？

F : ある。

Y : いつも甘い？

F : いつも、おいしい。

ブラジルの果物の話題で、ボランティアYが尋ねた「ブラジルに、すいかは一年中ある？」という質問を聞くと、学習者Fは「ん？」と言って、首をかしげ、会話が止まってしまった。「ブラジル」、「すいか」、「ある」という単語はすでに会話内で使用されており、「一年中」という言葉が理解できないのではないかと考え、「いつも」と違う日本語で言い変えた。

[例7]

Y : 馬、おいしいよ。

W : だめ、食べれない。でも、牛肉はOK。たぶん感覚。馬だから、どうかなってゆう。食わず嫌い。

V : 食わず嫌いは何？

W : 食べたことないけど、嫌い。ダメ。

V : それはだめだよ。食べたことないから、知らない。わからないでしょ？

W : 日本語で、そういう言葉がある。食わず嫌い。

V : くわずぎらい。 食べたら、おいしいっていうかも知れませんね。食べないから…、わからないですね？

食べ物の好き嫌いのお話。ボランティアWが言った「食わず嫌い」という言葉に対して、学習者Vは意味が解からないため、「食わず嫌いは何？」と疑問文で質問。その質問に対してボランティアWは、日本語で説明した。

#### 4. 結論

自分の外国語学習の経験から、意味が解からない言葉が出てくる時、学習者は「…は何

ですか」、「どんな意味ですか」と疑問文で質問することが多いだろうと予想していた。しかし、実際わからない言葉が出てきたとき、彼らは疑問文で質問することは非常に稀で、首をかしげたり、同じ言葉を何度も繰り返したり、話すスピードが遅くなったり、止まったりする傾向にあった。それに対して、ボランティアは、日本語で説明したり、単に別の言葉で言い換えたり、また英語を使ったりして伝えようとしていることが確認できた。また、近くに写真や本などの資料があり、実際にそのものを指で指し示し、伝えようとした場面もあった。さらにジェスチャーも効果的である。

こうしたコミュニケーション・ストラテジーは、自分達の言いたいことや伝えたいことを理解するのに非常に有効である。さらに沈黙を回避し、会話しやすい雰囲気を作り出すことにもつながっていると思う。

コミュニケーション・ストラテジーの分析において、ティーチングとの区別が難しい箇所があった。今回の分析では、学習者が困っていないのに、ボランティアが説明を入れていることをティーチングとし、その例は除いた。しかし学習者が言葉の理解に困った時だけでなく、この言葉はわかるだろうかと推測し、言い換えや説明などを加えている部分も多くあった。

# 学習者にわかるように伝える方法

外国語学部英米学科 中山由美

## 1. はじめに

日本語教室の中で、学習者がよく理解できない語彙や表現にぶつかることがある。その場合、ボランティアは学習者がわかるようにどのような方法をとっているのか。実際クラス内容を録音し、どのように対処しているのか考察して今後のボランティア活動に活かしたいと思う。

## 2. 分析

### 2. 1 調査方法

調査場所： 名古屋工業大学日本語ボランティアクラス（以下、名工大）

学習者： 5 人（国籍内訳：インド 2 人 I1、I2、アフガニスタン 2 人 A1、A2、イギリス 1 人 E、中国人 1 人 C）

ボランティア： 3 人（VA、VB、VC）

調査時間： 90 分 （12 月 3 日 10：30～12：00 テーマ：料理）

手順：①音声データを集める。

②文字起こしをし、考察する。

（注：学習者には、研究の意図を伝え、事前に録音の許可を得た。）

### 2. 2 分析結果

学習者に説明する方法として大きく 3 つの方法があった。1 つ目は日本語で分かりやすく説明、言い換えをする。2 つ目は媒介語を使う。3 つ目は視覚情報（イラストやジェスチャー）の使用である。

また、会話途中で学習者がわからない語にぶつかって、説明をするパターンと学習者が分からないとボランティアが予想して先に説明を加えるパターンと 2 つあった。タイプは異なるが、ここでは学習者に説明する方法に注目しているので、区別しない。

実際どのように対処しているのか、例をあげて説明したい。

#### 例 1. 言葉で説明 + 視覚情報

| 話者 | 発話                                 | 状況等、気づいたこと     |
|----|------------------------------------|----------------|
| E  | 昨日、たくさんの人はロトの切符を買いました。<br>どうしてですか？ |                |
| VA | 年末ジャンボ宝くじ？                         |                |
| E  | Lucky day?                         |                |
| VA | 『年末』分かりますか？                        | 『年末』が分からないと予想。 |
| E  | いいえ                                |                |



|    |                                                    |          |
|----|----------------------------------------------------|----------|
| VA | 年末…なんだろう？                                          | カレンダーを使用 |
| VA | クリスマスのあとくらいかなあ？<br>クリスマスのあとから New Year's Eve までが年末 |          |
| E  | Big Lotto?                                         |          |
| VA | 一番有名です。                                            |          |

上の例はクラスに入る前の雑談の中で、年末ジャンボ宝くじの話が出たときのものである。ボランティアは「年末」という語を学習者がわからないだろうと予想し、説明をした例である。まずは、「年末」を言い換えて説明し、次にカレンダーを使って視覚的に「年末」の期間を示すことで説明している。

## 例 2. 言葉で説明 + 媒介語

| 話者 | 発話          | 状況等、気づいたこと             |
|----|-------------|------------------------|
| VA | 簡単 分かりますか？  | プリントの中で『簡単』という言葉が出てきた。 |
| E  | いいえ。        |                        |
| VA | 難しいは？       |                        |
| E  | Difficult?  |                        |
| VA | はい。Opposite |                        |
| E  | Oh～! Easy!  | 簡単の意味がわかる。             |

上の例は、プリントを使ってサツマイモの蒸しパンの作り方を説明している時である。「簡単」という単語を学習者が分からないのではないかとボランティアが予想し、反対語を使って説明をした例である。この場合、学習者が「難しい」という単語を知っていたので、「難しいの反対です」と説明できたが、抽象概念、形容詞は、言葉だけでの説明は難しい。例えば、英語の抽象概念、形容詞を英英辞書で調べて、調べた結果その説明の中にまたわからない語があつてまた調べなくてはならない、という状況に似ている。媒介語や視覚情報を使った方がさっと意味が浸透しやすい。

## 例 3. 視覚情報

| 話者 | 発話                                                      | 状況等、気づいたこと                                                                                                                   |
|----|---------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| VC | 卵・牛乳（または水）を入れる。粉がなくなるように混ぜる。・・・A<br>サツマイモを、A の中に入れて混ぜる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントを使いながら説明。実際のプリントでは、ローマ字でルビがつけてある。</li> <li>・『入れる』『混ぜる』のところでジェスチャーをする。</li> </ul> |

上の例は、プリントを使って説明している時のものである。学習者が分かる、分からないということは関係なく、最初から分かりやすく説明しようとして「入れる」や「混ぜる」という時、ジェスチャーをまじえた例である。

#### 例 4. 言葉で説明 + 視覚情報 + 媒介語

| 話者 | 発話                                                     | 状況等、気づいたこと              |
|----|--------------------------------------------------------|-------------------------|
| VC | まずは道具です。                                               |                         |
| E  | 道具？ Food?                                              |                         |
| VC | 道具は、Food じゃないです。包丁、お鍋、泡だて器、計量カップ、そういうものを道具といいます。Tools! | 例をあげる。→イラストを指す。→媒介語を使う。 |
| VB | Cさんの家には何がありますか？                                        |                         |
| C  | ナイフ、包丁、まな板                                             |                         |

会話途中で、学習者が分からない単語にぶつかった場面である。道具の種類、下位語を例にあげ、「道具」を説明。そして事前に用意していたイラストを使って道具を示した。最後に媒介語も使い、段階を踏んで説明をしている。

事前準備がしてあったことと、「道具」という言葉が比較的言い換えしやすい語であったため、まごつかずに説明ができた。

### 3. まとめ

学習者に説明する方法として大きく 3 つの方法があった。1 つ目は日本語で分かりやすく説明(言い換え)する。2 つ目は媒介語を使う 3 つ目は視覚情報(イラストやジェスチャー)の使用である。名工大では、クラス的话题をあらかじめ決めており、その内容にあわせて教材(プリントや絵カード)を用意している。よって、その話題に出てきそうな語彙、表現などはあらかじめプリントを作成しているので学習者の理解を助けていると考える。それでも分からない語にぶつかった時、ボランティア側がこの語はわからないかなと感じた時には、上記の方法で学習者に説明した。

言葉を説明する時には、1 つの方法ではなく、言い換えと視覚情報、説明と媒介語のように組み合わせて説明することが多いことが分かった。また名詞は、言い換えや視覚情報で、抽象概念や形容詞といったものは媒介語や視覚情報、動詞はジェスチャー、視覚情報などで説明する方法が多くみられた。ことばの言い換えは、慣れていないので難しく、事前準備がないとまごつくことが多々あり、媒介語に頼る傾向があった。

このような傾向を踏まえ、ことばの言い換えは、日頃から練習するようにし、自身のスキルアップを図りたいと思う。また説明の組み合わせ方や方法を考察することで、今後の活動や事前準備の効率化につなげ、実践の場でもまごつくことなく説明できるようにしたいと考える。

# コミュニケーション・ストラテジーの使用について

外国語学部フランス学科 夏目寿三代

## 1. はじめに

私は、日本語教員課程の実習に参加することで、それまであまりなかった「外国人と話す」という機会を多く持つようになった。活動の中で、「日本語が通じない」という場面は数多くあった。しかし、だからといって会話が進まない、楽しくないということは実感しなかった。それは、日本語や相手の言葉が分からないときには、会話を中断するのではなく、なんとか相手に自分の言いたいことを伝えよう、相手の伝えたいことを聞き取ろうと、無意識にコミュニケーション・ストラテジーを駆使していたということが重要だったのではないかと考える。

そこで、活動を通じて私自身がどのようにコミュニケーション・ストラテジーを用いて学習者と会話をしているのか調べてみようと思った。

## 2. 分析手順

名古屋工業大学家族向け日本語教室で行われた教室活動の音声データをICレコーダーで録音し、聞きかえす。そして、私が学習者との会話中に行っているコミュニケーション・ストラテジーに注目し、文字おこしし、分析する。

[データ]

① 2007年10月29日 テーマ「買い物」 90分間

会話データ中の人物

学習者…Eさん（中級レベル・イギリス）、Mさん（中級レベル・インド）

ボランティア…Kさん、夏目寿三代

② 2007年12月17日 テーマ「年末年始」 90分間

会話データ中の人物

学習者…Pさん（中級レベル・アフガニスタン）、Jさん（中級レベル・アフガニスタン）

ボランティア…夏目寿三代

③ 2008年1月7日 テーマ「おしるこ」 90分間

会話データ中の人物

学習者…Mさん、Pさん、Jさん

ボランティア…Kさん、夏目寿三代

## 3. 分析結果

私が会話中で頻繁に用いているコミュニケーション・ストラテジーは、「例示」、「置き換え」、「媒介語（英語）使用」、「ジェスチャーの使用」であった。

### 3. 1 例示

#### 用例1 (データ①)

| 時間   | 発話者 | 発話                                                |
|------|-----|---------------------------------------------------|
| 7'28 | K   | 薬局、分かりますか？薬局                                      |
|      | E   | Medicine.                                         |
|      | 夏目  | 日本語で説明できますか？んー、medicine. 日本語、日本語                  |
|      | K   | 薬です                                               |
|      | 夏目  | 薬を買うところです。                                        |
|      | K   | 薬局は…薬を買います。薬局で。                                   |
|      | 夏目  | ドラッグストア。ドラッグストア。<br><u>んー、白沢ドラッグとか、アマノドラッグとか。</u> |

#### 用例2

アフガニスタンでも、新年に子どもにお金をあげる習慣があると聞いて (データ②)

|       |    |                                                                                                             |
|-------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 45'07 | 夏目 | お年玉、お年玉は子どもにいくらぐらいあげますか？<br>いくら、お金、How Money…<br><u>1000 円？2000 円？お金。</u><br>子どもにお金を上げます。<br><u>1 万円とか？</u> |
|       | J  | No!! (「高い」と驚いている)                                                                                           |

#### 用例3

写真を見ながらおせち料理の説明 (データ②)

|       |       |                                                                                        |
|-------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 59'16 | 夏目    | 私はこれが好きです。栗きんとん                                                                        |
|       | J     | くりきんとん                                                                                 |
|       | 夏目    | 栗は…マロン<br>あと、 <u>さつまいも、あの一、ケーキの。こないだもらった。</u><br>(この数週間前のクラス活動中、みんなでさつまいもの蒸しケーキを食べました) |
|       | J と P | ああ。                                                                                    |

例示として出す単語は、用例1、用例2では具体的な店名、値段を挙げ、学習者がこれまで耳にしたことがある日本語を探し出そうとしている。用例3では、共通の経験を持ち出し、以前に学習した単語を思い出してもらおうとしている。

### 3. 2. 置き換え

#### 用例1 (データ②)

|      |    |                            |
|------|----|----------------------------|
| 1'31 | 夏目 | 二人 (P さんの子ども) は、幼稚園は行きますか。 |
|      | P  | ん…？                        |

|  |    |                             |
|--|----|-----------------------------|
|  | 夏目 | 幼稚園は…<br><u>小学校の前に行く学校。</u> |
|  | P  | <u>んー…ほいくえん？</u>            |
|  | 夏目 | 保育園！！                       |

## 用例 2

P さんには小学生の子ども(p ちゃん)がいます (データ③)

|      |    |                                     |
|------|----|-------------------------------------|
| 0'33 | 夏目 | p ちゃんは宿題をしました。<br>全部終わりましたか。Finish. |
|      | P  | Finish?                             |
|      | 夏目 | <u>全部、ちゃんと、宿題全部終わり、全部完成、全部OK？</u>   |
|      | P  | いえいえいえいえ                            |
|      | 夏目 | まだ？                                 |
|      | P  | まだ、日本語、ちょっと                         |

用例 1 では、「幼稚園」という単語の説明のために、「小学校の前に行く学校」という置き換えをしたところ、学習者から「保育園」という単語が発せられたため、置き換えが成功したといえる。用例 2 では、媒介語として使用した英語が通じず、それを説明するため、学習者の知っている「終わる」を表す言葉を探して、置き換えている。

## 3. 3 複合使用

用例 1 例示+媒介語(英語)使用、ジェスチャー(データ①)

|       |    |                                                                                                                                                  |
|-------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 47'59 | 夏目 | 最近は涼しいです                                                                                                                                         |
|       | E  | さいきん？                                                                                                                                            |
|       | 夏目 | 最近は、these days 最近は涼しいです。涼しいは…<br><u>夏は暑い。summer は暑い。(手で顔をあおぐジェスチャー)</u><br><u>冬は寒い。winter は cold。(寒がるジェスチャー)</u><br>冬は寒い。夏は暑い。秋は、autumn は、涼しいです。 |
|       | M  | すずしいは nice? good?                                                                                                                                |
|       | E  | Nice cold.                                                                                                                                       |
|       | 夏目 | そう、nice cold。そうそう、nice cold。                                                                                                                     |

用例 2 ジェスチャー、媒介語使用、置き換え(データ②)

|       |    |                                                                                 |
|-------|----|---------------------------------------------------------------------------------|
| 20'43 | 夏目 | この日(大晦日)は、大掃除をします。大掃除。掃除。<br><u>掃除は…拭いたり、拭いたり、ここをこう拭いたり…(床、机、扉を雑巾で拭くジェスチャー)</u> |
|       | J  | ああ、OK。クリーニング。クリーニング。                                                            |
|       | 夏目 | <u>クリーニング。</u>                                                                  |
|       | P  | <u>きれい</u>                                                                      |

|  |    |                                       |
|--|----|---------------------------------------|
|  | 夏目 | そう、きれいにします。部屋の中、全部きれいにします。きれいに掃除をします。 |
|--|----|---------------------------------------|

### 用例3 置き換え、媒介語使用（データ③）

|       |    |                                                   |
|-------|----|---------------------------------------------------|
| 21'16 | E  | Over the winter…何をしましたか？                          |
|       | 夏目 | 私は、冬休み、winter vacation、冬休みは、パソコンで卒論、卒業論文を書いていました。 |
|       | E  | …(分からない様子)                                        |
|       | 夏目 | んー…、私は今4年生です。大学の4年生。graduationのために…               |
|       | E  | ああ。                                               |

### 用例4 媒介語使用+置き換え+ジェスチャー（データ③）

|       |    |                                                                    |
|-------|----|--------------------------------------------------------------------|
| 41'20 | 夏目 | Rice cake はインドの料理やイギリスの料理でよく食べますか？                                 |
|       | E  | 日本で。<br>Rice cake,for me,これ <u>dry, round</u> …                    |
|       | 夏目 | ラウンド？丸い？ああ、あんこ入ったやつ？                                               |
|       | E  | <u>I think…んー、しよ、しよ、しよ、しよ？しよっばい</u><br><u>like…(せんべいを焼くジェスチャー)</u> |
|       | 夏目 | ああ、おせんべい、おせんべいか！                                                   |

会話の中で、コミュニケーション・ストラテジーの複合的な使用が多く見られた。例示や置き換えなど、日本語によって学習者に分かりやすく説明しようとしながら、日本語だけではなく、ジェスチャーと媒介語である英語の使用によってコミュニケーションをより円滑にしようとしていることがわかった。

## 4. おわりに

名古屋工業大学家族向け日本語教室における3回の活動の音声データの分析によって、私がどのようにコミュニケーション・ストラテジーを用いて学習者と会話をしているのかが分かった。

置き換え、例示、ジェスチャー、媒介語(英語)の使用が頻繁に使われ、それらを複合して使用していることが明らかになった。また、発話速度を遅くし、会話内容を学習者の生活に身近なものにしようとしているということも分かった。

教室活動の音声データの分析は当初、私自身が使用するコミュニケーション・ストラテジーの特徴の調査を目的としていた。しかし、調べていくと、私だけではなく、学習者も様々な手段を使って私の発言を理解してくれようとしたり、自らの意見を伝えようとしてくれていることが分かった。

実習を重ねるうちに私は、相手の言いたいことをきちんと聞くことの大切さを改めて知った。「コミュニケーション」とは、一見簡単なように思えるが、そこには互いの「伝えたい、理解したい」という気持ちがあって、初めて互いに理解できるということを実感した。

分からない単語で会話が滞ってしまうことが、それをなんとか共有しようという両者の働きを生み、互いに理解するという共通体験を持つことで信頼関係を築くことができるのではないかと思う。

# 使う人と対象・状況によって生じる語尾の違い

外国語学部中国学科 長谷川知南

## 1. はじめに

わたしたちが日本語を話すときにどのような語尾を使っているのかに注目した。いつも何も意識せずに会話をしているが、自分がどのように一つ一つの発言をしているのか、人によってどんな特徴があるのかを、語尾に注目して見ていきたい。

わたしが、日本語学習者に対して「この人日本語がうまいなあ」と感じる時、その人の語尾が自然であるような気がする。それで学習者がどんな語尾を使っているかも調べてみたい。さらに、日本を母語とするボランティアが、ボランティアに対して話すときと学習者に対して話すときとは、使う語尾にどのような違いがあるのかを見ていきたい。あまり、日本語に日常会話に慣れていない学習者にとっては、ボランティアが何も意識せずに友達同士などで使っている語尾は、結構分かりにくいものだと思う。語尾について分析することは、日本語教室で、話し手と聞き手が互いの気持ちを伝え合うための助けとなると思い、このテーマにした。

## 2. 分析方法

2007年11月18日に行なった、保見が丘日本語教室の初級クラスのデータをもとに分析を行なった。「鍋料理について」をテーマにして始まった、90分間の会話をICレコーダーで録音した。この日の学習者は2名、ボランティアは5名であった。学習者の一人は、通常は上級クラスだが、この日は初級クラスに参加した。会話を録音したものを文字に起こし、ボランティアと学習者の発言に分け、さらにそれが誰に対する発言なのかを考えて分類した。そして語尾に注目し、説明する内容の表現なのか、尋ねる表現なのかを考えて形式別にし、それぞれを細かく分析した。

## 3. 結果

### 3. 1 学習者の語尾

まず、学習者の発言について考える。2名の学習者をそれぞれ、学習者1、学習者2とする。学習者1は初級クラス、学習者2は中上級クラスである。

[学習者1]

- ・ 鍋、ブラジルある。
- ・ 30分くらい寝る。
- ・ 辛い。
- ・ 家の外で。
- ・ 食べ物はとてもおいしいです。
- ・ ご飯作って、後で野菜作ります。
- ・ でも、あなたは食べてもうすぐ寝たいです。



→ 学習者 1 は丁寧語を用いることが多い。

学習者 1 が普通体を使うときは次のような場合である。

- ・「辛い？ 辛くない？」とボランティアに尋ねられて「辛くない」と答えている。
- ・「家の中で？」とボランティアに尋ねられて「家の外で」と答えている。

→ ボランティアに尋ねられてそれにそのまま繰り返して答えるとき

- ・「食べ物はちょっとおなかに気持ちいい。あなたは寝たい、眠たい。30 分くらい寝る。」

→ より感情を込めて発言しているとき

学習者 1 の尋ねる表現

ア) ボランティア対して

- ・食べ物作ってみんなは食べます？
- ・バーベキュー何で作ります？

→ イントネーションが、普通体と同じ下降調であるという特徴がある。

[学習者 2]

- ・ 野菜は食べたことがあります。野菜、魚は。
- ・ 肉でしょ、肉。

→ 繰り返して強調をしている。

- ・ ない、こういう鍋は。(倒置)
- ・ 初めて、これ。こんな色、きのこいっぱい。
- ・ 牡蠣も入ってるね。
- ・ ペルーはこういうやり方はない。
- ・ あんまり今まで見たことない。
- ・ でも、田舎の人は食べる。

→ 文が短いのが特徴である。

学習者 2 の尋ねる表現

- ・ これ店で？
- ・ この入れ物何？ 鉄？ セラミック？
- ・ 入れながら食べるでしょ？(確認)
- ・ 重たいでしょ？

→ 文が短いのが特徴である。

[学習者同士の会話]

学習者 1 : バーベキュー？

学習者 2 : いろいろな料理がある、その町。

学習者1：おいしい？

学習者2：わからない。

→言葉が簡潔で、必要な情報だけを述べている。語尾に助詞がつかない。

### 3. 2 ボランティアの語尾

5人のボランティアを、それぞれボ①、ボ②、ボ③、ボ④、ボ⑤と記す。

[参加者全員、またはボランティアに対して]

ボ① ・キムチ鍋ってのがあって。

・私がきのこ好きだったから、きのこ。

・春菊は入れてないです。

・夏はよくこれでお好み焼き作って。

ボ② ・鍋が日本料理かな、たぶん。(倒置)

・鍋しました、この前。(倒置)

・抵抗感、別にないですよね、みんなで箸で取るけど。(倒置)

・日本人も食べるじゃん。

ボ③ ・チゲは鍋だもんねえ。

・鍋食べるって変だよね、日本語として。

ボ④ ・聞いたことない。

・フランス料理でありそう。

ボ⑤ ・そうなんだ、フランス。(倒置)

・お祭りとかで食べた。

[学習者に対して]

ボ② ・もう入れて、ぐつぐつ煮てる状態で、みんなではーっと食べるんですよ。

ボ③ ・ホットプレートは電気で暖めます。コンロはガスで温めます。ガスは火ですよ。

日本の鍋料理は2種類あって、ホットプレートを使うものと、ガスコンロを使うもの。私のうちはガスコンロ。

ボ③ ホットプレートもあります。ホットプレートは電気で。

ボ④ 鍋にコンセントがついてる。で、ピッとするとあったかくなって

ボ④ 焼かない。おいしい。

尋ねる表現

[参加者全員、またはボランティアに対して]

ボ① ・日本と韓国のミックス？

・鍋しましたか？みなさんは、今年の冬っていうか。

- ・やっぱりそういうのってあるんですか？
- ・すごいいっぱい入れたんだよね、なんだっけ？
- ・今までこういう鍋料理はしたことないんですか？
- ・それは愛知？

- ボ②
- ・向こうもなんかチゲとかありますよね？
  - ・これは最初っからミックスされてるものなんですか？
  - ・最近っていろいろ売ってるじゃないですか？(意見を述べている)

- ボ③
- ・日本料理だよ？たぶん。(確認)
  - ・これは最高 150 度くらい？
  - ・だいたいいくくらい？

- ボ⑤
- ・これは何鍋？
  - ・キムチ鍋って味噌入れるよね？(確認)
  - ・入れるものじゃないの？
  - ・春菊って硬いよね？(確認)
  - ・どこで売ってんの？

[学習者に対して]

- ボ①
- ・みんなで突っついて食べるのがないんですか？
  - ・今までこういう鍋料理はしたことないんですか？
  - ・田舎のスーパーには売ってないんですか？
  - ・安いんですか？

→ボ①は、そのときに会話に参加している全員に向けての発言、学習者に向けての発言、年上のボランティアに向けての発言の場合に、丁寧体を用いる。

- ボ②
- ・分かりますか、ホットプレート？(倒置)
  - ・生で？

- ボ③
- ・こういうやり方はどう思いますか？
  - ・田舎？山？山ですか？
  - ・きのこ食べるのは田舎の人？

- ボ④
- ・古い食べ物がおいしい？(聞き返し)
  - ・ペルーで有名な、これがおいしいって食べ物ありますか？
  - ・どんなのですか？
  - ・都会の人は何で食べないんですか？

→ボランティアの発言の中で、ボランティアに対する発話のときと、学習者に対する発話

のときとでは、表現の特徴に違いがあることが明らかである。

#### 分析1 ボランティアが用いる語尾の違い

ボランティアに対しての場合、「～よね?」「～んじゃない?」「～じゃないの?」を使うことが多い。学習者に対しては、「～ますか?」「～ましたか?」の形を用いることがほとんどである。ただし、年上のボランティアに対しても、尋ねるときも「～ますか?」「～ましたか?」を使う場合が多い。しかし、驚いたときなどは、学習者や年上のボランティアに対するときも「～ますか?」などをつけずに、「(名詞)?」や、「～ってこと?」なども用いる。

学習者の言ったことで、聞き取れなかったり、意味がわからなかったりする場合は、学習者の言ったことをそのまま繰り返して聞き返す形をとる。一方、ボランティア側の発言に対しては、「どういう意味?」「どういうこと?」と尋ねる。

ボランティアに尋ねる場合は、倒置を使ったり、後で付け足したりして、体言で文が終わっていることが多い。倒置を用いるのは、「たぶん。」などをつけておかしたいときや、説明は後にして強調するときである。それに対して、学習者に対する発言では、後で付け加えても、述語をつけることが多い。

ボランティアが学習者に何かを説明する際は、丁寧体か、普通体、体言止めで、ボランティアに対する場合のように、「～よね。」などの助詞を付けないことが多い。

#### 分析2 学習者が用いる語尾の特徴

学習者1は、普通体か、「～ます。」「～ました。」を用いることが多い。しかし、自分の感情を表現するときは普通体になることが多い。人に尋ねるときは、「～か。」という助詞を用いることがなく、「～ます。」を用いており、イントネーションも下がり調子である。

学習者2は、語尾が自然であることが多い。一文が短く、倒置を使うことが多い。

### 4. まとめ

語尾は、ボランティアも学習者も個人の癖があることがわかった。

ボランティアが学習者に対して何かを尋ねるときは、「～ますか?」の形が圧倒的に多いが、これは、相手が年上であることやまだ慣れていないことも関係している。また、ボランティアが学習者に尋ねるとき、最後の述語まで省略せずにはっきり言っていることがわかった。学習者が理解しやすいように語尾を使い分けていることが分かった。

学習者の場合、普段どのような人と日本語で会話をしているかによって、使う語尾に違いが生じてくるようである。

グループ全体で会話をされていてその中に学習者も含まれているのに、ボランティアの語尾は、グループ全体に対する発言と、個人的な学習者に対する発言では変化があったので、興味深かった。学習者に対する発言の際は、とても意識して分かりやすく伝えようとしていることが分かった。

# 日本語実習の音声分析

## ー訂正の必要性和そのデメリットー

外国語学部英米学科 波多野敦子

### 1. はじめに

豊田市保見ヶ丘にある保見教室は日系ブラジル人が多く住む居住地域で、県大実習生はここにある保見ヶ丘日本語教室を日本語実習の主な現場として活動している。今回、普段の実習の音声を録音して、文字起しを行い、そこから得られた情報をもとに、各自が設定した異なる注目点で分析を試みた。保見教室では入門、初級、中上級と3つのレベル分けが設定されているが、この日は学習者が少なく、3つのクラスが合同で活動を行うことになった。時期的にはボランティアが実習を始めて9ヶ月になろうとしている時期である。

### 2. 分析の目的と手順

[データについて]

12月2日 保見ヶ丘日本語教室中上級クラス

テーマ : 年賀状とTVドラマ

ボランティア : Kさん、Hさん、波多野、他 計5人

学習者 : 女性2人(中国) 男性1人(ブラジル)

時間 : 90分 (TVドラマの会話50分)

実際会話が始めると、学習者、実習生ともに録音されていることを忘れてしまうほど、会話自体に神経が集中していたというのが私の印象である。

今回の分析は、学習者の日本語に誤りがある場合のボランティア側の訂正の有無に注目した。保見教室は日本語教育の現場であり、単におしゃべりをする場ではない以上、訂正は必要であるというのが私の基本的な考えである。ただ注意したのは、いかにその場の雰囲気や流れを壊さず、訂正が会話の流れに影響することのない訂正ができるかという点だった。

分析しようと思った理由は、1) 訂正の必要性の有無の判断をどのようにしているか、2) 訂正することにより会話に溝が入るのではという疑問、3) 訂正しない場合、そのまま間違いに気づかず、誤った文法が身につくのではという恐れを感じていたという3点である。

訂正された後にどのように会話が進むかに関する仮説として A) そのまま無視され会話が継続する。B) 相手にプレッシャーを与え、会話が滞る。C) 間違いが矯正され、会話の流れには影響しない。の3つを想定し、自分の仮説は B) とした。

### 3. 分析結果

想定と結果を音声の分析を通して見ていきたいと思う。年賀状をテーマとして会話が始

まった。次の会話は、身内に不幸があった場合、新年の挨拶をするかしないかという点に関してであった。音声分析に使用したのは、初級レベルの中国出身の学習者 C さんと自分（ボランティア波多野）の会話例である。

（データ 下線 → 訂正（言い換え）★ 網かけ部分 → 相手のレスポンス）

C さん：でも地方違います。

波多野：その場所によって？ ← 1)

C さん：ふしゅう。

波多野：あっ、風習？

場所によって違います？

写真ですね？はないですか？

C さん：ないです。

C さんの「地方違う」という表現に対し、私が「その場所によって違う」と表現したところ、訂正されることなく C さんは、風習ということばに言い換え、そのまま会話は流れた。

理由として「～によって」という言い回しが学習者にとって分かりにくいものであったと考えられる。

今回のテーマは年賀状であったが、普段と同じく話はどんどん別の方向へと向かっていくこととなった。話題は転換され、C さんが昨夜見たドラマの話が次々と展開されていった。次の抜粋は、ボランティア側の訂正が学習者にリピートされた例である。

波多野：消した？

C さん：消したじゃない。これ。はやくの。← 2)

波多野：あー。はや送りとか？

C さん：はや送りとか。はい。

波多野：あの。どんな、内容でしたか？どんなふうでしたか？

C さん：はやおくり？（紙に書く）

はや送り。はやおくり、しました。

波多野：しました。（紙に書く）

1) の例とは異なり、「はやくの」を「早送り」と訂正したところリピートされただけでなく、C さんからの再確認があり、記述することで覚えようとしていた。明らかに彼女にとって新しい使える表現として認識されたものと考えられる。

次に単純な訂正例を示したいと思う。

波多野：どんな人がでてくるドラマですか？

C さん：おんな？

波多野：女の人。← 3)

C さん：女の人が、面白い人。

ここでは自然に訂正されている。間違いではない学習者の表現であるが、適切な日本語としての重要な部分と判断し、訂正の必要性を感じた。

次に示す例は、ボランティアが学習者の表現を中断する形で続けたものである。

波多野：あっ。トランプ？

Cさん：うん。トランプ。遊ぶときお金払う人。←4)

波多野：あっ。賭け事？賭け事。賭け事。わかりました。賭け事。

Cさん：はい。かけごと。自分のうち自分のうちあるときも。

学習者の「遊ぶときお金かける人」に対し、こちらが「賭け事」と言い換えたところ、すんなりと受け入れられ、リピートされたが、Cさんにとって、2)の「早送り」のときのように確認もなく会話が流れたことで、このことばが既習でことばであったかどうかは不明瞭である。ボランティアが先走り、賭け事と断定したことで学習者も同意したようにもとれる。Cさんが、「賭け事」ということばを知っていたかどうかは定かではない。

同じく不明瞭である会話例を次に示したいと思う。

波多野：で、どうなりましたか？そのひと。最後。

Cさん：さいごは、さいごまであのひと、うち、あのひとはいばいお金かけて。

波多野：もうけましたか？←4)

Cさん：もうけました。

だから自分のいっばいのひと、自分のむすめ。いつもどこいった？

波多野：ついていく？

「お金をかけて」に対し、こちらが先に「もうけましたか」と続けたため、結果Cさんがこのことばを知っていたかどうかの判断はできず、もう少し待つべきであったと思われる。

次の例は日本語特有の分かりにくい促音の提示例である。

Cさん：ついていく、かな？

あのひとおいていく。おいていく。

波多野：追っていく？ちいさな“っ”。おっっていく。←5)

Cさん：あー。いっばいひと。おっっていく。

この場合音声のみでは理解が難しく、こちらから小さな“っ”という表現をしたところ正しいリピートが行われた。

最後に示す2つの例は、共に提示した訂正が行われなかった例である。

波多野：買うことも

Cさん：買うことのお金もない←6)

波多野：食べるものを買うお金もない。

Cさん：だから

波多野：だから？

この場合、全く無視される形で会話が継続された。

波多野：つぶした。

Cさん：つぶした あー でもあのひとは とまった。 おろした←7)

波多野：まどの窓ガラスをおろしました。

Cさん：おろしました。 あのおとこ へーありがと ありがと。

ここでも“おろしました。”のみのリピートとなり主語は無視された。

6)と7)を比較してみると、共通点は共に文章の前半の訂正は無視されていること、相違点は、6)の場合、全くリピートされることがなかったのに対し7)では後半の“おろしました”がリピートされていることが挙げられる。理由として“食べるものを買うお金もない”の“買うお金もない”はすでにCさんは表現しており、訂正の必要性を感じなかったこと、また初級の学習者にとって難しい言い回しであったことが考えられる。

6)ではボランティアが“窓ガラスを”に焦点を当てたつもりが、学習者は“おろした”を“おろしました”と後半に焦点をあてていることがわかる。このことから、学習者は文レベルになると後半に焦点を当てる傾向があるのではないかという仮説を立てることが可能であるように思われる。また短い言葉のリピートは可能であるが、正解が不明瞭な場合、またセンテンスが長い場合、学習者は訂正して繰り返そうとせず、そのまま話が継続される傾向にあると想定される。

#### 4. まとめ

今回の会話において、訂正による影響はあまり見られなかった。理由として、私自身、無意識的に優先順位を会話の継続に置いたこと、無視された場合、再度訂正を行うことはなく、訂正するかしないかは学習者の判断に任せたことが考えられる。

保見での活動は、雑談の場ではないが、教師から生徒への通常の授業とは明らかに異なる。ここで使用される話題シラバスは、文法の習得よりも相互理解にあり、会話の反復を通じた自然習得を目指すものである。そうした場合相手のレベル、性格などを考慮した臨機応変な対応が非常に重要となってくる。

今回の活動において苦労した点は、その場の空気を読み、会話の継続に支障のない訂正という点だった。気づいた点は、相手のレベルに応じた適切な長さのセンテンスの提示の必要性だった。そうした配慮を欠くと今回のように訂正してほしいボランティア側の箇所と学習者の訂正にズレが生じることとなる。今回の反省点として、ボランティア側が先にことばを提示したことにより相手の理解度の判断が不明慮となってしまったことと、ことばの言い回しの難易度や文の長さを考慮に入れなかったことにより、訂正されることなく会話が流れてしまったことである。

この分析の正当性に関しては、さらなる分析の必要性を感じるが、今後は、学習者に提示した訂正の定着についても見ていきたいと思う。



# 入門クラスにおける交流活動

## ー失敗から見えてくるものー

外国語学部英米学科 藤森優

### 1. はじめに

保見ヶ丘日本語教室のクラスは、入門、初級、中上級の3つのクラスに分かれている。その中で入門の活動は、一番難しい。入門クラスの学習者は、日本語が少しわかる人から、全くわからない人まで様々である。

一年間の日本語実習の中で、私は入門クラスの活動が一番多かった。その中で数多くの失敗をした。進行を行なったことも何度かあるが、納得いく活動ができたことは一度もない。そんなの数々の失敗を後悔だけで終わらせることなく、それらを内省することで、今後の活動に生かしていきたいと思う。これまでの活動を振り返り、どのような失敗があったのか、どうすれば良かったのかを考える。

### 2. 調査の概要

本調査は、保見ヶ丘日本語教室の入門クラスでの活動を録音した音声を聞き返し、分析する。分析は、以下の記録より行なった。

| 月／日    | テーマ   | 学習者（国籍・性別）         | ボランティア |
|--------|-------|--------------------|--------|
| 10月7日  | 家族    | 2名（ペルー男2）          | 2名     |
| 11月18日 | 昨日のこと | 4名（ペルー男2、ブラジル男女各1） | 3名     |
| 12月2日  | 音楽    | 5名（ペルー男4、ブラジル男1）   | 2名     |
| 2月3日   | 節分    | 2名（ブラジル男2）         | 6名     |

### 3. 会話分析

#### ①ボランティアの発話量過多

ボランティアの発話量が、学習者に比べて圧倒的に多かった。

用例1（2月3日 節分の豆まきの話をしている）

（ブラジル：ブ、ボランティア：ボ、藤森：藤）

|    |                                           |
|----|-------------------------------------------|
| 藤  | この節分の日には・・・。<br>（プリントの鬼の絵を指して）これわかります？    |
| ブ  | ・・・？                                      |
| 藤  | 鬼と言います。鬼はなんですかね？ 悪いもの、良くない、悪い、う～ん、なんだ・・・？ |
| ボ1 | 病気とか、怪我とか。                                |

|     |                          |
|-----|--------------------------|
| 藤   | そう、自分の中の悪い気持ち、意地悪とか、う～ん。 |
| ボ 2 | その悪いもの・・・鬼に豆を投げてやっつけます。  |
| 藤   | 豆を投げる時に「鬼は外！ 福は内！」と言います。 |
| ブ   | ・・・(うなづく)。               |

この日は、クラス活動終了後に豆まきをすることになっていたのですが、入門クラスの学習者にも、節分や豆まきのことを理解してもらおうと必死になりすぎてしまった。会話クラスであるのに会話というよりほとんど節分の説明をしていたこと、入門クラスに相応しくない語彙や文を羅列していたこと、コミュニケーション・ストラテジーの「言い換え」を気にしすぎて、伝わらない時にはボランティア全員でなんとか伝えようと次々に言い換え、学習者に言葉のシャワーを浴びさせてしまったことなどの失敗が挙げられる。

これらを失敗だと感じた理由は、学習者とボランティアが対等に学び合っておらず、「ボランティアが教えるー学習者が教えられる」の関係になってしまったことにある。お互いのことを伝え合う相互学習とはかけはなれた活動であった。こちらからの一方的な情報の提供で、伝え合うことを無視した、学習者にとっては不快な時間だったのかもしれない。学習者の発言が増えるような会話を模索することが必要であった。

その他に、ボランティアの発話量過多になる理由を「沈黙」と「発問」という観点からみてみよう。

会話中、沈黙になると、私は焦ってしまい間を置かずに話し続けてしまうことがよくあった。「沈黙」の中には、本当に何も話すことがない、今考えている最中である、何の話をしているかわからない、質問の意味がわからない等、様々な要素が含まれている。あるボランティアが「話題が変わる時って、ほとんどボランティアから話を始めるよね。」と言った。当初私は沈黙が怖くて、「次は何を話そうか」と常に考えていた。しかしそれでは私が話しすぎてしまうと思い、その場に任せようと、沈黙になっても、話さずに待ってみた。すると、学習者からの発話があった。

徳井 (2007) は、「いつも話し続けるのがコミュニケーションではない。沈黙し、「待つ」という行為も時には大切であろう。もう少し話したい、と思うところで一歩ひいてみることで、相手が言おうとすることを引き出すことができるのである。」と述べている。

「学習者の発話量が少ない、もっと発話してほしい。」と思っていた私は、自ら学習者の発話量を抑圧していたのかもしれないと思った。

### ③ 通訳を介する

どうしても伝わらない、もしくは伝えることを諦めて、ボランティアが通訳できる人に頼む場合と、学習者自身が母語話者に通訳を求める場合があった。

用例 2 (11 月 18 日昨日の話をしています)

(ブラジル人女性：K、ブラジル人男性：N、藤森：藤)

|   |                      |
|---|----------------------|
| 藤 | K さんは、起きてから、何をしましたか？ |
| K | ん？                   |

|   |                                                          |
|---|----------------------------------------------------------|
| 藤 | あ、私は電車で名古屋に行きました。買い物に行きました。<br>Kさんは、何をしました？              |
| K | ・・・。                                                     |
| 藤 | 家にいました？何をしましたか？                                          |
| K | う～ん・・・。(学習者 N さんに助けを求める。)                                |
| N | はい、はい？                                                   |
| 藤 | 私は 1 2 時から電車で名古屋に行きました。                                  |
| N | (K さんに「電車で名古屋に行った」ということをポルトガル語と絵で説明。)                    |
| K | ふ～ん。<br>(K さんは掃除をして、テレビを観た。それは全て、N さんをの通訳を介して知り得た情報である。) |

これは、私の伝え方がいけなかったのかもしれない。この日、通訳をしてくれた N さんは、始めから K さん母語で通訳するのではなく、日本語で言って「これわかる？」と聞いて、分からないと母語で話していた。そして、それだけで終わるのではなく、また日本語に戻って、「(日本語では) こういう言うんだよ」というやりとりをしていた。私は分かってもらいたいという気持ちから、何度も繰り返したり、声が大きくなってしまいうことがよくある。また、その場で起きていることを全員に理解してもらいたいと思い、通訳をしてもらったこともある。

通訳を介することは、話の内容を理解することができる反面、日本語の習得には繋がらないことがある。私の失敗は、通訳に頼りすぎてしまったことにある。また、伝わらずに諦めて流してしまった会話もみられた。もっと伝え合うよう努めなければいけないと感じた。

### 3. 失敗という学びの場

徳井 (2007) は、失敗とは重要な学びの場であるとして、以下のように述べている。

失敗し、試行錯誤を重ねている時期に様々な戦略が生み出される可能性を秘めているのではないかと思う。そういう意味で、失敗というのは新たな戦略を生み出す好機の場合ともなりうる場でもあり、重要な学びを成長の場合でもあると言えるだろう。人は最初から器用にできていないが、様々な失敗から学んでいく力を持っている。自分や他者の不器用さや失敗から背を向けずにつきあっていくことが、まず大切ではないだろうかと思う。(中略) 失敗の後、内省から学んでいくことが大きいのではないか。ただ失敗という行動だけで終わらせるのではなく、「なぜなのだろう」と原因を考えたり、「別の方法もあるのかな」と様々な方法に新たにチャレンジしてみる中で様々な学びが生まれる。

また、「失敗」や「成功」も極めて主観的な捉え方である。一見「うまくいっていない」と感じていることがあったら、「失敗だ」と決めつける前に、なぜ、どんな部分を「う

まくいっていない」と感じているのかを振り返ってみよう。広い視野から長期的に試行錯誤の一段階と捉えることができれば、悲観的にならずにすむかもしれない。「うまくいかない」ことから、多くのアイディアや学びが生まれる可能性があるのだ。(pp.115-116より引用)

私は、入門クラスで「あのやり方は悪かった。あの行動は失敗だった。」と思うことが多かった。徳井(2007)を読んで、今の私は、試行錯誤の段階なのだと思うようになった。それまでの私は失敗したら落ち込むだけだったが、内省することの大切さを学んだ。

## 5. おわりに

入門クラスにおける交流活動にマニュアルなど無い。「ボランティアとして、このように振舞うのが正解だ。」というのも無い。

ボランティアの数だけ接し方があり、また学習者にも同じことが言える。入門クラスの学習者は、母語の使用や辞書の使用が時々みられるが、私はそれを抑制したくはない。実際、「ポルトガル語でもいいよ」「スペイン語でもいいよ」という場面が何度かあった。日本語での発話が少ない学習者が、「日本語を話さなくては…。でも恥ずかしくて話せない。」と思っているのか、「わからないから話せない」のかは私にはわからないが、母語で話すのも良いと思う。口を開かずに帰っていくよりも、何か話したら、そこからコミュニケーションは生まれる可能性があるからだ。ここが日本語教室である以上、もちろん日本語が話せるようになるのが一番良いのだが、入門クラスはその前段階というか、学習者が「ここにまた来ようかな。」と思えるような雰囲気作りも必要ではないかと思う。

私は、これからいろんな「うまくいかない」ことに遭遇するだろう。失敗しては反省し振り返りながら、どんな学びが生まれるのだろうか。「失敗は成功のもと」になる日を目指して、今後も活動していきたい。

引用文献：

徳井厚子(2007)『日本語教師の「衣」再考—多文化共生への課題—』くろしお出版

# 話題の移り変わり

文学部日本文化学科 堀江春奈

## 1. 分析の目的

話題の移り変わりに着目し、90 分の活動の中でどんな話題を提供し会話しているのか、話題が変わった時の状況を分析することで、クラス活動を行うに当たって、ボランティアが提供する話題や話を続けるためにできる工夫を考察していきたい。

## 2. データについて

1月16日 保見が丘日本語教室

学習者：ブラジル人1名（上級レベル）

ボランティア：5名

## 3. 分析結果

[話題の大まかな移り変わり]

| 話題        | 話題提供者（→会話が向けられた先） |   |
|-----------|-------------------|---|
| 旅行、その国の言葉 |                   |   |
| 学校        | ボランティア2（→ボランティア4） |   |
| お正月       | ボランティア1（→学習者）     | ① |
| ブラジル      | ボランティア2（→学習者）     | ② |
| 旅行、言葉     | ボランティア3（→ボランティア）  | ③ |
| 会社        | ボランティア3（→学習者）     |   |
| 食べ物       | ボランティア2（→学習者）     |   |
| 楽器        | 学習者（→ボランティア）      | ④ |

この中から①、②、③、④の場면을分析していく。

### 3. 1 話題が変わった状況・会話の流れの分析

① 沈黙から違う話題に（ブ：ブラジル人学習者、ボ：ボランティア）

旅行→その国の言葉からお正月の話題へ

ブ：あ、違う科？

ボ4：（うなづく、皆笑う。その後しばらく沈黙）

ボ1：お正月何かしましたか。

ブ：お正月…

ボ1：お餅食べたりとか。

学校の話は皆の笑いで終了し、ボ1が話題を変えた。

## ② 自分の興味関心と引き付けた話題への転換

### お正月→ブラジルの話題へ

ボ２：いつもお正月何してるんですか。

ブ：日本で？ ブラジルで？

ボ２：ブラジルで。

ボ３：食べる？

ブ：ケーキとか…ブラジルは今夏だから、お祭りとか。

ボ１：ああそっか！ 逆かあ。

ブ：バーベキューしたりとか。

ボ１：いいですねえ。

ブ：家族と一緒に。

ボ２：雨季っていつですか。

ブ：雨季？

ボ２：雨がザーって

ブ：ああ、えっとねえ…（続く）

その後の会話でボランティア２は近々ブラジルに行くことが分かった。ブラジルの話題から次の旅行、言葉に変わるまでにブラジルを中心に出た話題は以下の通りである。

|                                   |       |
|-----------------------------------|-------|
| ボ：８月とかが寒いのか？（→学習者）                | 気候    |
| 学：イルミネーション雪のイメージだけど、ブラジルでは違う。     | クリスマス |
| ボ：出身はどこですか？（→学習者）                 | サンパウロ |
| 学：リオデジャネイロは綺麗な町だけど、危ない            | 治安    |
| ボ：ブラジルまで行こうと思うといっぱい経由しなきゃいけないくて…  | 行き方   |
| ボ：ポルトガル語しかダメだから、スペイン語ダメですか？（→学習者） | 言葉    |
| ボ：美味しいレストランとかありますか？（→学習者）         | 食べ物   |
| ボ：サンパウロのどこに行くんですか？（→ボランティア）       | 観光地   |

ブラジルという話題から引き出された会話が以上である。気候・クリスマスの話題などは前の雨季やお正月という季節の話とも関連があり、その他の会話の流れも、ブラジルという話題から派生したものであっても、ボランティア２が行く予定であるというブラジル旅行の話と関連付けて進められていった。

## ③ 話を進める中心者の変更

### ブラジル→旅行・言葉へ

ブ：あとは？ 私だけ？（皆笑い）

ボ 2：ほかの人は卒業旅行とか…？

ボ 5：私今年卒業なんですけど、カナダに行こうかなと思っています。

前のブラジルの話題では学習者中心とした会話の流れになることが多かった。学習者の指摘に対し、ボランティアがボランティアに質問をした。このあと、カナダや言語についての話へと流れていく。

#### ④ 学習者からの話題提供

### 食べ物→楽器へ

ブ：あの人はお金持ちと結婚すればいいと思う。

（皆笑い）

ブ：みなさん楽器は弾けますか。

前の会話が終了し、学習者からボランティアへの質問で新しい話題へと変わる。

## 3. 2 分析のまとめ

### （1）話題提供者

- ・ボランティアが学習者に質問をする形を取ることが多い。
- ・ボランティアからボランティアへの質問
- ・学習者からボランティアへの質問

### （2）話題が変わる状況

- ・前の話題終了による沈黙
- ・自分の興味関心と繋がる話題があった時

### （3）どんな話題に変わるか

- ・前の話題と関連がある
- ・前の話題から話を広げる
- ・話題提供者の興味関心と関連がある
- ・前に出た話題をもう一度（回答者を変える）

## 4. 考察

学習者が少ないクラス活動では、その学習者に質問が集中し、学習者が会話の中心になってしまうことがある。保見が丘日本語教室でのクラス活動は、学習者に日本語を話してもらうことを目的とするため、学習者が会話の外に置かれている状況は避けなければならないが、特に今回ように学習者が日本語上級話者で、ボランティアの数が多い場合は、学習者に質問が集中すると学習者の負担になることがある。これは、学習者の「あとは？ 私だけ？」という発言からも言えることである。自己表現型話題シラバスは相互学習・相互理解を深めるものなので、そういった点からも、ボランティアがボランティアへ質問をす

ることや、前に出た話題を再度取り上げることも、クラス活動として意味を持つ。

学習者への質問内容は、学習者が出身国ということもありブラジルの話が多く挙がったが、これはブラジル出身者として答えられる質問である。それに対して、お正月や会社の話は学習者個人の話であり、学習者本人のことを聞く質問、学習者本人にしか答えられない質問である。自分の興味関心に引き付けた話題を出すことは、聞きたい事を聞くという点から間違いではないし、学習者が一人の場合、その人の国の話題になることも多い。

ブラジルの話題では、そこから気候・ブラジルでのクリスマス・サンパウロ・治安・行き方・言葉・食べ物・観光地と会話が進んだように、一つの話題から様々な話題が引き出せる。その話題から自分が引っかかりを見つけると、新たな話題提供が可能となり、話を広げていくことができる。

ボランティアが話題を提供するときの工夫としては、以上の点が考えられる。



# ボランティアのコミュニケーション・ストラテジー

外国語学部ドイツ学科 三品よし子

## 1. はじめに

ボランティアのコミュニケーション・ストラテジーに着目して、教室活動を分析していこうと思う。

## 2. 分析の動機

ボランティアのストラテジーに着目したのは、自分はちゃんとストラテジーを使って、学習者の理解を助けられているのかを知りたかったためである。また、どのような特徴があるのか知り、自らの言語使用に関して内省していこうと思う。その際、他のボランティアとの比較をすることで、より特徴が明らかになると考えた。

また、自由に会話が展開していく教室内での日本語習得の過程を見てみたいと思う。

## 3. 目的

自分の言語使用にどのような特徴があるのかを認識し、他のボランティアの特徴を知り、自分に取り入れられるものはそうして、自らのストラテジー能力の向上を目指す。また、日本語習得の過程を見ることで、教室の効果や働き、または今後につながるような改善点の考察を図ることである。

## 4. 分析方法・対象

分析方法は、12月26日の中上級クラスの活動中10:00～11:30の会話(テーマ:食料自給率/進行役N1)をICレコーダーで録音した後、録音データを聞き返して時系列化した。そして、コミュニケーション・ストラテジーが起こっている箇所の文字起こしを行った。その際、次の3点に着目して分析を進めた。

- ・ どんな時にストラテジーを使用しているか
- ・ 使用したストラテジーの種類
- ・ ボランティア別、ストラテジーの使い方、特徴

### [分析対象]

日本人4人、中国人1人（日本人はそれぞれN1～N3、三品、中国人はCで表す）

N1: 男性 50代 長いボランティア経験を持つ

N2: 女性 40代 ボランティア歴1年

N3: 男性 50代 長いボランティア経験をもつ

三品: 女性 20代 ボランティア歴1年

C: 中国人女性 20代

## 5. 分析結果

使用されていたストラテジーの分類は以下のように分類できた。

- i 言い換え (a.見えるもの b.指示物 c.定義)
- ii ジェスチャーの使用
- iii ひらがなで表現
- iv 文字の使用
- v 媒介語の使用 a 文字 (漢字)、b 音声 (中国語)
- vi 擬態語で表現
- vii 他の用法の提示

i-a 言い換え：見えるもの

例「ネット」

N3：ポリエチレンの、昔あの、あなた達若いからわかるかな、JRのみかんがはいって  
るような…。[言い換え：見えるもの]

C：分かった。

i-b 言い換え 指示物 実例

例「オレンジ」

C：日本のカキは色は黄色、何色なると食べられる？

N3：黄色は早い。赤くならないと…

N2：オレンジ。

C：(理解できないという表情)

三品：あっこの色。[具体物を指さしながら]

N2：ちょうど今日 (Cさんが着ている) 服の色です。[言い換え：見えているもの (指示物)]

i-c 言い換え 定義

例「家は魚屋」

三品：Cさんの家は魚屋さんですか。

C：えっ、何て？

三品：魚を売っていますか。売って育てている商売ですか。

N2：うちの職業、お父さん、お母さんが…

三品：魚を売るのが商売ですか。他にも仕事していますか。[言い換え：定義]

C：してる

ここでは、はじめに言い換えた言葉が伝わらなかったため、言い換えた言葉をさらに言い換えて説明している。「家は魚屋」という言葉を、「商売」→「職業」→「仕事」と言い換えている。

例「福袋」

三品：福袋は買いますか。

C：何？

三品：福袋。袋…何が入ってるか分からない [言い換え：定義]

N2：これはお正月だけ。お正月しか売ってません。例えばスーパーで、3000 円、5000 円と決まっています。でも中に、何が入って るかわかりません。選べない。その代わり、3000 円よりもっとたくさんの服が入っています。 [言い換え：定義]

三品：例えば、5000 円の服が入ってるのに 3000 円で売っています。だからお得なんです。でも、嫌いなものも入っているかもしれないです。 [言い換え：定義]

C：(うなづく)

## ii ジェスチャーの使用

例「うなぎ」

N2：うなぎもありますか。

C：うなぎ？

N2：ながーい魚です。 [言い換え：定義+ジェスチャー] にゆるにゆるにゆる… [擬態語+ジェスチャー]

C：ああ。

## iii 文字の使用

## iv 絵の使用

例「ピラニア」

N3：ピラニアって知ってる？

C：ん？

N4：ぴ ら に あ (紙に書く) [文字の使用]

N4：これは怖い魚です。 [言い換え：定義]

三品：こんなまるっこくて、こうなって歯がこうなって… [言い換え：見えているもの+絵の使用]

N2：歯がとがってる。 [言い換え：見えているもの+絵の使用]

N3：黄色い色してる。 [言い換え：見えるもの]

三品：薄くて、何か、口が怖い感じの… [言い換え：見えるもの+ジェスチャー]

C：あー、そうそう

一つのストラテジーで伝わらないときは、二つ目、三つ目のストラテジーを使って説明している。ここでは、文字の使用→言い換え→言い換え+文字の使用、ジェスチャーと、一つの言葉を説明するのに4種類のストラテジーを使っており、同時に2種類のストラテジーを使っている箇所もある。

## v-a 媒介語使用 文字 (漢字)

例「おみくじ」

三品：おみくじとか引きました？

C：おみくじ？

三品：うん、おみくじは、吉とか凶とか書いてある。[言い換え：定義]

N1：あれは中国からきたものでしょ。ねえ。[言い換え：定義]

N2：大吉、中吉あります。[言い換え：定義＋媒介語使用：文字]

C：やりました。

#### v-b 媒介語使用-音声

例「海南島（カインントウ）」

N2：中国の海南島でも、バナナできるでしょ？

C：できない。

N2：海南島、カインントウ（中国語で言う） [媒介語の使用：音声]

C：ああ。

☆N2は中国語を学習しているため、中国語での説明が可能である。

#### vi 擬態語使用

例「うなぎ」

N2：うなぎもありますか。

C：うなぎ？

N2：ながーい魚です。[言い換え：定義＋ジェスチャー] にゆるにゆるにゆる… [擬態語＋ジェスチャー]

#### vii 他の用法の提示

例「徹夜する」

C：徹夜？

N2：夜、寝ません。[言い換え：定義] 徹夜踊り。徹夜でマージャンをするとか、[他の用法の提示]（皆笑い）

### 6. 他に音声を聞きなおす中で気づいたこと

- ・ ボランティアがストラテジーを使うときは、学習者がはっきり「分からない」と意思表明したときだけでなく、黙っていたり、表情を見ながら判断している。そのように、すぐに説明を始めるため、沈黙になったり、会話がとぎれることはほとんどなかった。
- ・ N1 は、大きな声でゆっくり、意味の区切れでポーズを入れて話している。
- ・ N2 は、すぐに何でも書いて説明する、という特徴を持っている。
- ・ N2 は、必ず「です」「ます」をつけ、文章で説明することを意識しているようであった。
- ・ N3 は、具体例を多く取り入れて説明しているのが特徴だと言える。
- ・ 三品は、学習者に発言を促すような質問をよくしている。

## 7. まとめ・感想

今回の分析により、経験が豊富であったりするボランティアの話し方の特徴を知ることができた。それを今後自分の中にも活かしていきたいと思う。また、自分自身に関して、劣等感を多く持っていたが、学習者の話を多く聞きだすような質問をしていたことが分かった。そういった長所はさらに伸ばしていきたいと思う。

学習者の日本語の習得では、実例に挙げたように最初は分からなかった言葉が、ストラテジーを使用し、説明し、最終的に理解に至ったことから、習得できていると言える。ボランティアは、ひとつのストラテジーが伝わらなくても、そこであきらめず、粘りつよく伝えようとする様子が見られた。そのことから、ストラテジーの能力はもちろん、伝えようとする意思の重要性を改めて感じた。また、教室の改善点、というより今回は学習者1人に対してボランティアが4人いたので、ひょっとすると、学習者に圧迫感を感じさせていた可能性がある、と感じた。この教室は毎回、ボランティアの人数も学習者の人数も一定ではないので、その時その時に合せて臨機応変に配慮することが大切だと考える。

ストラテジーの分類に関しては多くの迷いが出てきて、思っていたよりも自分が理解できていないことを感じた。今後、さらに勉強する必要があると考える。

残り少ない実習期間ではあるが、今回の分析結果をこれからの活動に生かし、さらなる教室活動の充実を目指していきたいと考える。

# 入門クラスにおける話題シラバスによる進行

外国語学部英米学科 宮崎愛

## 1. はじめに

私は入門クラスによる話題シラバスの進行についてはまだわからないことが多くある。本来の日本語の教え方は構造シラバスから始まるが、保見ではまったくの話題シラバスによる授業を実行している。いい点としては、各自関心のあることや、自分自身についての話をするため、話が進みやすく、教室の雰囲気はすぐに和やかになることが挙げられる。また、ボランティアは常に話し言葉で授業を進行し、学習者は普段の生活ではよく使う言葉を聞きなれることができる。さらに、各種の行事（例えば、七夕、節分、夏祭り）が行われ、学習者は日本文化に触れる機会が多くある。最終的に、学習者は以上の活動により、自然な日本語を身につけていくことが望まれている。

しかし、教室の開催は週に2時間だけの限られた時間であり、日本語の学習も限度がある。特に、入門クラスでは、まったく日本語が話せない方がほとんどのため、話題シラバスで進行するには、言葉がなくてもある程度伝えられるほどの話題が必要になると思う。または、どうしても伝えられないときのための媒介語や辞書の使用も必要になるだろう。

本レポートでは、入門クラスによる話題シラバスの進め方について考察することが目的である。話題の内容自体から着手したいと思う。

今回扱う対象は、入門クラスの学習者Aさん（来日1年2ヶ月、日本語がほとんど話せない）とBさん（来日3ヶ月、広い範囲での自己紹介ができる）。

今回のやり方は、まず自己紹介をしてもらう。名前、出身、来日期間を最初に聞き出す。次に、百円ショップで手に入れた、絵カードになっているひらがな表をばらばらにして、同じカテゴリのものを取り出し分類する。作業をしながら会話を交わし、話題が広がっていく。

## 2. 分析

① 入門クラスでは、なるべく易しい話題にすると進めやすく、楽しい雰囲気が作られる。

以下は、文字起こしの一部である（M：ボランティア）。

| 話者  | 発話内容                                                     |
|-----|----------------------------------------------------------|
| M   | はい、え〜と、さっきかわいいものさがしてました。ねこかわいい、これもねこ、かわいいです。はい、これはなんですか。 |
| A、B | ねこ                                                       |
| M   | ねこ好きですか。                                                 |
| A,B | （ポルトガル語）好き、じゃない。                                         |
| M   | じゃないです。                                                  |
| A   | いらない。                                                    |

|     |                                                        |
|-----|--------------------------------------------------------|
| M   | えー。                                                    |
| A   | これ、(犬の絵を指して)                                           |
| M   | 犬がすき？                                                  |
| A,B | (ポルトガル語)                                               |
| M   | いぬ？                                                    |
| A   | いぬ。                                                    |
| M   | これはいぬ。                                                 |
| A   | い・ぬ？                                                   |
| M   | そう、いぬ。いぬがすきですか。猫好きじゃない。                                |
| A   | じゃない                                                   |
| M   | えー。じゃ今かわいいって言ったけど、かわいいと思わないですね。                        |
| A   | かわいい、かわいい                                              |
| M   | あ、そう                                                   |
| A   | 好きじゃない。                                                |
| M   | 好きじゃない、えー。Bさんは？                                        |
| B   | うん？                                                    |
| M   | どっちですか。                                                |
| B   | ふたり                                                    |
| M   | ふたつ、りょうほう？                                             |
| B   | でも、*+&%うるさいよ、だめね。                                      |
| M   | あ、うるさい。うるさい、わかります？ ニャ〜って…なるほどね<br>…わたし猫大好きです。猫だーいすきです。 |
| B   | あります？                                                  |
| M   | いや、いないんです。                                             |

これまでの会話は、「猫と犬のどっちが好き？」を相手に尋ねる簡単な内容だが、日本語入門レベルのAさんとBさんにわかってもらい、答えてもらうまでに1分30秒もかけた。まったく同じ内容を日本人同士が対話すると、質問することから回答するまでに、5秒で無理なく済むことができるはずだ。時間差は18倍だ。例えば、質問を「今日の日本社会をどう思う？」のような抽象的な質問にして、同じ倍率で計算し、ある日本人が1分間話してくれたとする。これに相当する内容を日本語初心者に話してもらうと、18分ほどかかるかもしれない。18分の間、ボランティアも学習者も一所懸命わかろう、伝えようと努力する。そうしている過程で、ボランティアは難しい言葉をどうやって易しい表現にできるかを考え、学習者は自分の考えを日本語にしたいが、言葉もわからないし、抽象的なことをジェスチャーにも絵にもできないままで沈黙する。または途中で挫折し話題を変えたりすることも考えられる。けっして効率のよい学習にはならないだろう。学習者は日本語を話すのは無理だと消極的になり学習が続けられない。結局楽しくない、言いたいことが日本語にできないことで終わってしまう。

よって、入門クラスでは、なるべく易しい話題にすることがひとつのポイントになると思う。短時間（1、2分程度）でひとつの話題をクリアし、そこから広がった話題もできるだけ易しい内容に止める。状況によってひとつの話題が長く延び、伝えることが難しくなると、辞書などの媒介手段を使う。

## ②学習者の話を聴く

| 話者  | 発話内容                                 |
|-----|--------------------------------------|
| A,B | (ポルトガル語)                             |
| M   | 何言ってますか。私に言ってください。                   |
| A   | 今週、勉強じゃない。                           |
| M   | 勉強じゃない？                              |
| A   | じゃない。                                |
| B   | (ポルトガル語)                             |
| A   | ここ、勉強、                               |
| M   | ここで勉強…                               |
| B   | いま                                   |
| B   | いつもや&\$%、                            |
| M   | いつも休み？ いつも何をしていますか。え～、いつも、え～、        |
| B   | いつも休み学校、学校休み。                        |
| M   | 学校休み？ 学校を休んで、ここに来た？                  |
| B   | ここ、いつも、行かない。                         |
| M   | いつも来ない。あ、いつも来てないんだ。Bさんは？             |
| B   | ちょっと、                                |
| M   | ちょっとだけ、えー、私も来てないですよ（笑）。私もここに来てないんです。 |
| B   | 来てない、何？                              |
| M   | ここ、私、8月にきました。                        |
| B   | 毎日？                                  |
| M   | 毎日じゃない。日曜日。                          |
| B   | 日曜日だけ？                               |
| M   | え、ここ日曜日だけでしょう？                       |
| B   | 学校、毎日ない？                             |
| M   | 学校は行ってます。私は大学生です。                    |
| B   | びっくり…                                |



以上の文字起こしの中に多くの誤解や勘違いがある。まず、「今週、勉強じゃない」、「ここ、勉強」や「いま」などの発言から、AさんとBさんが言いたいことは「今日の教室は、日本語の勉強じゃないですか」だった。しかし、自分はそれがわからないままで終わってしまった。入門クラスでのやり方として、みなさんがよくしていることは、当日覚えてほしいフレーズや文型をプリントにし、学習者に渡す。それに慣れたAさんとBさんは私がしていることは勉強ではないと理解し、戸惑ったことが考えられる。そこから話がずれて、後の会話が互いによくわからないことになってしまった。

片言でわかりにくいかもしれないが、学習者の言葉を最後まで聴くことが大切だと思う。また、そこから、今までの話の流れや話している人の雰囲気から、その人が言いたいことを常に推測しようとする心構えが必要だとわかった。

⑤ 入門クラスに参加しているボランティアは週ごとに変わっているが、話の内容がある程度まとまると進みやすいと思う。

②で触れたことだが、学習者には私がしていることは「教える」ことではないと理解された。なぜかという、いつもの教室でしていることと違うからだ。このように勘違いされたのは、ふたつの原因が考えられる。まず、保見の授業形式は最初から学習者に伝わっていないことが考えられる。また、入門クラスでは、よく構造シラバスのやり方を取り入れながら実施していることから、授業の形が変わると学習者は戸惑うことになる。実際、学習者は保見の会員になる前からクラスの活動を参加している方が大半だと思う。保見の主旨もよく伝わっているはずだ。そうすると、後者が原因になる可能性は高い。

入門クラスに参加しているボランティアが週ごとに変わっているが、授業内容を定期的に打ち合わせし、ある程度まとめておくと進みやすいだろう。統一性があると、学習者も授業の形式をよく理解してくれて、受け入れやすいし、日本語の学習自体が効率的になる。

ここでは、一つの提案をしたいが、話題シラバスによる授業をテキストの形にするといいいのではないと思う。テキストで話題を多く挙げ、前後の順序を考え、つながりのよさを考慮に入れる必要がある。

実際、学生自主研究では、一度話題についてのアンケートが行われたが、一番進めやすかった話題となかなか進まないものが挙げられた。同じ要領で、進めやすい話題を取り上げ、進めやすい順の授業を元にテキストが作れる。また、一つの話目がどこまで広がっていったこともまとめて、そこから多く使える話題が考えられる。

入門クラスにおける話題シラバスの進め方については、私の文字起こしから以上の三つのことがまとめられた。これから話題シラバスのテキストを作るチャンスがあれば実際に試したいと考えている。

# 創作活動をメインとした教室活動

文学部日本文化学科 森本久美子

## 1. はじめに：実践の背景

11月25日 保見が丘日本語教室入門クラス

学習者：N・M・H・J・I・S

ボランティア：森本久美子・岩原朋美・河口美緒・北島由衣

## 2. 実践内容

日本で迎えるクリスマスを1カ月後に控え、華やかなクリスマス飾りを自分で作ることに  
よって、クリスマスを楽しみに待つという気分を盛り上げ、かつ日本語による作り方の  
説明を理解し、実際に作業することが語彙・表現の習得に繋がるのではないかという期待  
から、創作活動をメインとした進行を試みた。

いつものように、先ず自己紹介から始めた。この時、最初の人「私は〇〇です」「私の  
名前は〇〇です」と言ってしまうと何故か他のボランティアも学習者も全員それに倣って  
「私は〇〇です」「私の名前は〇〇です」の、「…は～です」のワンパターンの言い方にな  
ってしまう。自己紹介の時は主語を省略した「〇〇です」のほうが自然だと思いつつも、  
習得語彙の少ない入門クラスでは、つい文型に頼ってしまい、後になって後悔することが  
少なくない。

「今日は11月25日です」「12月25日はクリスマスです」というような、自分の誕生  
日や記念日など、日付を使って表現する時にも「…は～です」の文型が使えるということ  
を示すために例文として用意したのだが、うまく取り入れられなかった。

次に実際に作業に入る。入門クラスにおいて「日本語で作り方の説明」をするには先ず、  
簡単な語彙をできるだけ少なく用いなければならない。道具類は、普段よく使うであろう  
と思われる「鉛筆」と「はさみ」、そして教材は、たぶん見たことはあるだろうと思われる  
「折り紙」、その三点だけを準備した。

最初に、予め作っておいた雪飾りを提示し、今日使う表現と言葉をプリントした用紙を  
配布した。これから何をしようとしているかを知らせることによって不安を取り除くため  
である。次に、必要な道具、教材（鉛筆・はさみ・折り紙）を提示し、名称と発音を確認  
した。そして、道具や教材をどのように使うか、（折る・書く・切る・広げる）の手順を実  
際に見せ、その後、作業に取りかかった。

隣に座ったボランティアと会話しながらの作業の中で、作り方通りの折り方、切り方で  
なく、それぞれの工夫によってオリジナルの雪飾りが出来上がり、それを見せ合うこと  
によって、作業を楽しむことができた。作業が飽きて来たと思われる頃、作業をやめ、ボラ  
ンティアとの自由会話に入った。その時の会話の糸口を探るヒントになることを期待し、  
自宅から何種類かの新聞の折り込み広告を準備し、それぞれの会話グループごとに数枚、  
配布した。クリスマス前ということもあり、洋菓子、衣類、靴、玩具店等の広告はカラ  
フルで購買意欲をそそるレイアウトがされており、それを見ながら「どれが好き?」「何が欲

しい？」とか、値段の読み方・店の開店と閉店時間等の会話から、色々な話題に発展した。

終了時間が近づき、もう一度今日使った表現・言葉（動詞4つ、名詞3つ）を復習した。完成させた多くの雪飾りは希望者にプレゼントし、残ったものは1ヶ月後に教室で予定されているクリスマスパーティーで使用するため、イベントスタッフに託した。

いつもとは違う趣向での学習形態をとることによって、先ず緊張をほぐし気分転換を図った。私自身も含め、外国語を習得する際、名詞、動詞、形容詞などの語彙を増やすことに集中してしまう傾向があるようだが、自分が表現したいことを正しく伝えるには格助詞が必要である。しかし、日本語の動詞文には「が・を・に・へ・と・から・より・まで・で」という9つの格助詞があり、この使い方を苦手とする学習者は多い。

今回、格助詞の使い方については、特に強調せず文法的な説明は敢えてしなかったのも、実際に作業する中で彼らが、名詞（折り紙・鉛筆・はさみ）と動詞「折る・書く・切る・広げる」の間にある、格助詞「で」「を」の存在を意識したかどうかはわからないが、「鉛筆」「で」「書く」、「はさみ」「で」「切る」を、「名詞」＋「格助詞」＋「動詞」として理解するより、作業を通し「鉛筆で書く」「はさみで切る」というように、ひとつのかたまりとして捉えたほうが、印象に残りやすいのではないかと私は考えた。学習者に、ただ漠然と「道具を使った動作をする時は『で』なんだ」とか、「対象に変化を与える（形を変える）時は『を』なのかな」と思わせることができれば、この創作活動は成功だといえる。

もちろん、『で』には、他にも「教室で作る」（場所）、「折り紙で作る」（材料）、「1時間で作る」（範囲）、「バスで行く」（手段）、「仕事で行く」（内容）、「三人で行く」（まとめり）、のように、道具だけでなく様々な意味を持つ名詞の後につき、周知的な状況を詳しく述べるための働きがあるが、自分の日常の動作を伝える会話の中で、「名詞・格助詞・動詞」をひとつのかたまりで捉え、覚えていくほうが、記憶に残りやすいのではないだろうか。

今回のこの活動には、今後の活動の参考になりそうな反省点がいくつかあった。まず、「箸で食べる」「パソコンで検索する」等の、道具を使う時の『で』の例文をもう少し提示したほうがより理解が深まったかもしれない。そして、作業時間が長すぎた。進行役である私が、もう少し早めに作業を切り上げ、自由会話に移るべきだった。作業に夢中になるあまり無口になってしまった人、作業そのものに早々に飽きてしまった人、会話が苦手、または会話をしたくないと見受けられる人が、作業に逃げてしまった等の報告が他のボランティアからあり、私もそれを実感している。女性には概ね好評だったように見受けられたが、男性にはやや退屈だったかもしれない。総じて、作業と会話の同時進行は入門クラスには無理があったようだ。会話はやはり相手の目をみながら、ジェスチャーやイラストを交えながらしたほうが、お互いを知り、伝え合うことができるということを実感した。

# 保見が丘日本語教室の会話分析

外国語学部ドイツ学科 山田めぐみ

## 1. はじめに

友達に「保見でどんな活動をしているの」と問われたとき、「おしゃべり」と答えたことがある。授業中に皆で保見の活動を一言で表す言葉を考えた際にも「喋ること」を表した文句が多く出た。確かに私たちは保見が丘日本語教室でボランティアとして学習者と喋っている。コミュニケーションをとっていると言えば聞こえがいいかもしれないが、その中身が、私たちが普段友達と話すような単なるおしゃべりとなっていては「日本語教室」でないように思う。

ここではボランティアの会話への割り込みを分析することによって、ボランティアが教室活動は単なるおしゃべりの場ではなく、日本語教室であるとの認識を持てているのかを確認し、また、その認識を促し、今後の活動に生かせるようにしていきたい。

分析する活動記録は 2007 年 10 月 28 日、学習者 3 名（H さん・ブラジル、A さん・中国、C さん・中国）、ボランティア 4 名（Y、K、F、M）、活動テーマ「ハロウィンについて」である。

## 2. 分析結果

[例 1] 学習者に対して

〈ホラー映画について〉

学 H：この怖い映画だけレンタルします。でも友達はこの怖い映画だけレンタルします。あと、

ボ F：えー、でも友達、H さん一緒に見ようよって。

学 H：いや、違う。

ボ F：言わない？

[例 2] 学習者に対して

〈好きな映画について〉

ボ F：どんな映画が好きですか。ラブ、ロマンス、アクション？

学 A：中国の映画は手を挙げて大好き。

ボ F：手を挙げて大好き。

学 A：うん。

ボ Y：すごい大好き？

学 A：喜劇好き。

[例 3] 学習者に対して

〈テレビ番組について〉

ボ F：テレビって見ますか。

学 C：日本語の…

ボ F：日本語の勉強になるから。

学 H：今夜は夜 9 時にあの、バイオハザード、映画。

[例 4] 学習者に対して

〈ブラジルの「お化け」について①〉

学 H：他のお化け、えっとー、子どものお化け、男の人、あ、男の子、あの一、一つ足ない。(絵を描きながら)

ボ Y：うん。

学 H：あー、足、でもこれ中にタバコ入れます。

ボ Y：ここですか。(絵を指で指して)

学 H：はいはい、えっとー、子どもの子はタバコ吸います。えっとー

ボ Y：足がなくて？

学 H：足ない。

[例 5] 学習者に対して

〈ブラジルの「お化け」について②〉

学 H：えっと、ブラジルには、あの、馬は火が頭ないので、でもあの首は火があります。あの馬えー、あの、頭ない、でも火があります。えー、でも、(絵を描きながら)

ボ Y：えー、体があって、ここが火ってこと？ (絵を指差して)

[例 6] ボランティアに対して

〈ハロウィンについて〉

ボ M：ちっちゃい子どもとかがやってて。

学 H：あ、な、な、何歳まで？

ボ M：あー、でも決まってるはないんだけど、ほんとに 2、3 歳の子が。

ボ F：お菓子あげるん？ たくさん？ いっぱい？

ボ M：一つかみ。飴とか。

[例 7] ボランティアに対して

〈火の玉について〉

ボ K：(学習者と会話中) …夜、なんか部屋で勉強してて

ボ F：え、何それ、見たことある話！？

ボ K：はい。

ボ Y：え、見たことあるんですか、幽霊！？

ボ K：幽霊じゃないけど、火の玉。

例 1 から例 5 までは学習者の発言に対して、ボランティアが割り込みを行なったものである。それぞれを見ていくと、例 1 では学習者が続けて発言をしようとしているところに、

ボランティアが言いたいことを述べたため、学習者が本来、言いたかったであろう内容が引き出されなかった。例2は学習者が誤った日本語を使用していたために、会話を聞いていたボランティアが訂正を行った。例3、例4は学習者の発言よりも先に、ボランティアが会話の流れから学習者が発言すると予想される語を先に述べている。その結果、例3ではそのテーマでの会話が終了しており、例4では学習者が、ボランティアが先に述べた語を繰り返すことになった。その語は本来学習者が言おうとしていたものとは異なっていた可能性もある。例5は学習者のその時点までの発言を整理するため、ボランティアが確認を取ったものである。例1、例3、例4の割り込みは、それに続く学習者の発話量や内容について、例2、例5よりも大きな影響を与えている。

例6、例7はボランティアの発言に対し、他のボランティアが割り込みを行なった例である。両者の違いは、その会話を学習者が聞いているかどうかボランティアが意識しているか、いないかである。例6は学習者が会話に参加していることを意識しているため、ボランティアの発言スピードがゆっくりで、かつ、単語の繰り返しが見られる。例7は全体的に発話と発話の間の間が短く、スピードが速かった。

### 3. まとめ

ボランティアによる会話への割り込みは学習者に対するものと、ボランティアに対するものとに分けられる。学習者に対するものは、更に自分の意見（例1）、訂正（例2）、先取り（例3）、誘導（例4）、確認（例5）に分けられる。ボランティアに対するものは、学習者の会話への参加の有無（有（例6）、無（例7））とに分かれる。

また、例1～例6と例7は誰を聞き手と考えているかという点で分けられ、発話スピードとの関連性が見られる。

このように場合分けができることより、ボランティアは保見の活動を「おしゃべりの場」ではなく「日本語教室」との認識を持てていると考えられる。一方、学習者の発話が終わることを待てないこともあり、これは改善すべき点である。ただ、保見が丘日本語教室の活動が、教科書などを使わない「会話」によるものだということを考えると、「割り込み」は会話の中で行われるものであり、排除すべきものとは言えない。私たちはそのことを理解した上で、ボランティアとして自分たちがどのような会話をすればよいのかを考えていくことが大切であると思う。この、自分の役割や、その場ですべきことを考えることは日本語教室の活動に限らず、多くの状況で役立つであろう。

## 【第3部】 学生自主企画研究報告

相互学習型日本語活動が生み出すもの  
ー日本語教育実習の活動から考えるー

『平成 19 年度愛知県立大学学生自主企画成果報告書』

pp.591-631 より転載

## 平成 19 年度学生自主企画研究成果レポート

|             |                                                                                                                                                                                           |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 研究課題        | 相互学習型日本語活動が生み出すもの<br>—日本語教育実習の活動から考える—                                                                                                                                                    |
| 研究代表者       | 外国語学部 フランス学科 3 年 畔柳 友香                                                                                                                                                                    |
| グループ<br>構成員 | 外国語学部 フランス学科 3 年 畔柳 友香<br>外国語学部 フランス学科 3 年 小谷 貴美子<br>外国語学部 フランス学科 4 年 夏目 寿美代<br>外国語学部 ドイツ学科 4 年 三品 よし子<br>外国語学部 中国学科 4 年 坂田 雪恵<br>外国語学部 英米学科 4 年 藤森 優<br>以上 6 名を含む「日本語教育実習」実習生 25 名（別紙参照） |

### はじめに

私たち研究メンバーは今年度、日本語教員課程の一環で、毎週日曜日に豊田氏の保見団地内で開かれている保見ヶ丘日本語教室でボランティアとしてクラス活動に参加している。

保見ヶ丘日本語教室は、外国語のクラスで行っているような、先生が説明をして、学生が練習をする、という方法ではなく、ボランティアと外国人の学習者がトピックに基づいておしゃべりすることを通して、外国人が日本語を学ぶという形態をとっている。1つのコースの期間は設定されているが、いつでもだれでも参加できるオープンな教室である。

以前、この教室に初めて来た見学者の中に、「学習者はこの方法で本当に日本語を学んでいるのか？」という質問をした人がいた。

そこで、私たちは交流中心の活動が学習者の日本語学習を促しているのかどうか客観的に見てみたいと思ったのがこの研究のきっかけである。

### 目次

はじめに

第 1 章 研究目的

第 2 章 これまでしてきたこと



## 第3章 コミュニケーション・ストラテジーの調査

### 3. 調査の概要

- 3.1 調査目的
- 3.2 調査対象
- 3.3 分析方法
- 3.4 使用していたコミュニケーション・ストラテジーの種類
- 3.5 分析結果からの考察
- 3.6 今後の課題

## 第4章 アンケートについて

### 4. 調査概要

- 4.1 アンケートの調査目的、実施期間、対象者
- 4.2 アンケート内容
- 4.3 アンケート結果
- 4.4 アンケート結果からの考察

## 第5章 コミュニケーション・ストラテジー、アンケートからの考察

## 第6章 名古屋工業大学日本語ボランティア教室

### 6. 調査概要

- 6.1 名古屋工業大学日本語ボランティア教室の活動内容
- 6.2 ストラテジーの特徴について
- 6.3 教室全体の特徴、保見との比較
- 6.4 学習者について～アンケート結果とボランティアの感想を踏まえて～
- 6.5 考察

## 第7章 日本語教室見学記

### 7. 見学概要

- 7.1 長久手町国際交流協会ウェルカムにほん語教室
  - 7.1.1 教室の概要
  - 7.1.2 見学概要
  - 7.1.3 クラス活動を見学して
- 7.2 AULA DO KYUBA 九番団地日本語教室
  - 7.2.1 教室の概要
  - 7.2.2 見学概要
  - 7.2.3 クラス活動を見学して
- 7.3 見学のさいごに

## 第8章 名古屋工業大学日本語ボランティア教室での活動、 日本語教室見学からの考察

## 引用・参考文献一覧

## おわりに

## 別紙 日本語教育実習生 25 名

## 第1章 研究目的

本研究の目的は、学習者にとってより意味のある教室活動を目指すことである。学習者が効果的に日本語を上達できれば、もっと地域の人々とつながることや助け合うことができるようになるだろうと考えている。そうすれば、私たちの活動が、地域を活性化させ、貢献することにさらにつながっていくのではないかと考える。

## 第2章 これまでしてきたこと

平成 19 年 7 月 13 日 研究開始

8 月 5 日 保見ヶ丘日本語教室にて教室活動の録音開始

10 月 8 日～10 月 16 日 日本語教育実習生へのアンケート実施

10 月 15 日 名古屋工業大学日本語教室にて教室活動開始

11 月 11 日 保見ヶ丘日本語教室にて学生自主企画研究中間報告

11 月 14 日 学生自主企画研究中間発表会

12 月 9 日～平成 20 年 1 月 13 日 保見ヶ丘日本語教室の学習者・ボランティア（日本語教育実習生含む）へのアンケート実施

平成 20 年 1 月 20 日 保見ヶ丘日本語教室にて学生自主企画研究最終報告

1 月 23 日 学生自主企画研究発表会

1 月 19 日 日本語教室見学(長久手町国際交流協会ウェルカムにほん語教室、九番団地日本語教室)

毎週日曜日 保見ヶ丘日本語教室での活動

毎週火曜日 日本語教育実習講義（5 限、6 限）内での話し合い

毎週火曜日 7 限の話し合い

毎週月曜日 名古屋工業大学日本語ボランティア教室での活動

その他、不定期で保見ヶ丘日本語教室や大学内にて話し合いを行った。

## 第3章 コミュニケーション・ストラテジーの調査

### 3. 調査の概要

私たちは保見ヶ丘日本語の教室活動を IC レコーダーに録音し、自分たちのコミュニケーションのとりかたの特徴を洗い出すことからはじめた。そして、私たちは一つの特徴に気づいた。それは、学習者よりボランティアの発話が多いということである。そして、

普段私たちがおしゃべりしているときと違って、学習者の人が分かるようにいろいろな説明のしかたを工夫しているということもわかった。そこで、私たちはこのような話し方について、コミュニケーション・ストラテジーの観点から見てみることにした。田中望はコミュニケーション・ストラテジーについて次のように述べている。

コミュニケーションは常にうまくいくとは限らない。相手が伝えようとしていることがわからず、また自分の言いたいことが相手にうまく伝わらないことがある。コミュニケーションを円滑に進めるための方略を「コミュニケーション・ストラテジー」と呼ぶ。(田中、1984)

私たちがコミュニケーション・ストラテジーを見る理由は、コミュニケーションの中で、自分の言いたいことを伝えたい、相手の言いたいことを分かりたいというときに、ボランティアが様々な方法で学習者と意思疎通を図ることができればコミュニケーションをより活性化させられると考えるからである。

コミュニケーション・ストラテジーが多く用いられると、学習者が理解できるインプットが増える。そうすると学習者の日本語学習が促進されることが考えられる。また、学習者が理解できる日本語でのコミュニケーションが増えると、学習者の自信につながり、学習意欲が向上すると考えられる。

そこで、コミュニケーション・ストラテジーが多く使われていれば、学習者の日本語習得に効果的な教室活動ができていると考え、実際にどんなコミュニケーション・ストラテジーを私たちが用いているか調査することにした。

### 3.1 調査目的

本調査の目的は、私たちが実際にどんなコミュニケーション・ストラテジーを用いているかを知ることである。

### 3.2 調査対象

調査は、保見ヶ丘日本語教室に参加している全学習者を対象に行った。入門・初級・中上級クラス、それぞれ IC レコーダーで音声を録音し、記録した。

調査を行ったのは、以下の通りである。

|   | 日時    | クラス | テーマ    | 学習者 | ボランティア |
|---|-------|-----|--------|-----|--------|
| 1 | 10/7  | 入門  | 家族     | 2 名 | 2 名    |
| 2 | 10/14 | 入門  | 昨日したこと | 2 名 | 5 名    |
| 3 | 10/28 | 中上級 | 年中行事   | 4 名 | 7 名    |
| 4 | 11/4  | 入門  | 好き嫌い   | 3 名 | 1 名    |
| 5 | 11/18 | 入門  | 昨日したこと | 4 名 | 3 名    |
| 6 | 11/18 | 初級  | 鍋      | 2 名 | 5 名    |
| 7 | 11/25 | 入門  | クリスマス  | 7 名 | 5 名    |
| 8 | 11/25 | 初級  | 趣味     | 1 名 | 2 名    |
| 9 | 12/2  | 入門  | 音楽     | 5 名 | 2 名    |

|    |           |     |     |      |
|----|-----------|-----|-----|------|
| 10 | 12/2 初中上級 | 年賀状 | 3 名 | 5 名  |
| 11 | 1/6 クラス合同 | 書初め | 6 名 | 15 名 |
| 12 | 2/3 入門    | 節分  | 2 名 | 6 名  |

### 3.3 分析方法

分析方法は、録音した音声を聞き返し、ボランティアのコミュニケーション・ストラテジーが使用されている部分を抽出する。そして、それらをカテゴリー分けし、文字化する。

### 3.4 使用していたコミュニケーション・ストラテジーの種類

\_\_\_\_\_の部分が該当するコミュニケーション・ストラテジーである。

#### ① 置き換え

単語レベルで、別の言語を用いる。

用例（教室活動後の予定について話している）

|      |                                                                          |
|------|--------------------------------------------------------------------------|
| N1 : | この教室は 1 2 時に終わります。そのあと何をしますか？                                            |
| P1 : | ・・・？                                                                     |
| N1 : | <u>家に帰ります？</u>                                                           |
| N1 : | （家の絵を見せながら）「 <u>ただいま〜</u> 」って<br>家に帰って、ただいま〜って。<br>ただいまってわかる？ただいまって、わかる？ |

#### ② 例示

例えを出す。

用例（アルバイトの話をしていて）

|      |                             |
|------|-----------------------------|
| N1 : | お昼の 3 時まで、アルバイト、アルバイトをしました。 |
| N2 : | アルバイトは何ですか？                 |
| N1 : | アルバイトはパン屋さんです。              |
| N2 : | パンは焼きますか？                   |
| N1 : | 焼きません。 <u>売ります</u> 。        |
| B1 : | 売ります？                       |
| N1 : | <u>いらっしやいませ〜</u> 。          |
| B1 : | あ〜。                         |

#### ③ ジェスチャーの使用

動作に変えて、表現する。

用例（レジを動作で表現）

|      |                      |
|------|----------------------|
| N1 : | アルバイトは何をしていますか？      |
| N2 : | <u>レジ</u> の仕事をしています。 |
| N1 : | レジ、わかります？            |

|      |                                                            |
|------|------------------------------------------------------------|
| P1 : | ・・・？                                                       |
| N2 : | 買い物かごを・・・(買い物かごを運んでその中から商品を取りだしバーコードにレジの機械をあてるジェスチャーをしながら) |
| N1 : | <u>ピッてやってピッてやる</u> (商品のバーコードにレジの機械をあてるジェスチャーをしながら)         |
| P1 : | ふ～ん。                                                       |

#### ④ 絵の使用

言語から、絵を描くことに切り替える。

#### ⑤ 聞き返し

相手が理解できるまで、聞き返す。

|      |                                          |
|------|------------------------------------------|
| N1 : | <u>お国はどこですか？どこから来ました？</u> 日本に。ブラジル？      |
| B1 : | う～ん？                                     |
| N1 : | 違います？え～と、 <u>どこからですか？</u> ここは日本。日本わかります？ |
| B1 : | はい。                                      |
| N1 : | 私は日本から・・・日本人です。 <u>どこからですか？</u>          |
| B1 : | どこから？                                    |
| N1 : | うん、国。私、日本。Aさんは？                          |
| B1 : | う～ん、どこから・・・？あ～、保見、日本。                    |
| N1 : | うん。 <u>今は日本。</u> むかしは？                   |
| B1 : | あ、ブラジル。サンパウロ。                            |

#### ⑥媒介語（母語／外国語）の使用

日本語以外の言語を使用する。

外国語使用（母語以外）

用例（夢をポルトガル語と英語で説明）◆辞書使用もみられる

|      |                                                       |
|------|-------------------------------------------------------|
| N1 : | ゆめ。                                                   |
| B :  | <u>ゆめ</u> …                                           |
| N1 : | ゆめは…えーっと、 <u>ドリーム</u> 。イン イングレス、エ、エン エングレス、ゆめ エ ドリーム。 |
| B :  | ドリーム…。……ポルトゲス？                                        |
| N1 : | ポルトゲスで…                                               |
| B :  | ドウリ？                                                  |
| N1 : | ゆめ…しらべて…すいません。(N2に辞書で調べてもらうよう頼む)                      |
| B :  | ドウリ、ドウリ？……ドウリ。                                        |
| N2 : | <u>ソーニョ</u> 、ソーニョ。                                    |
| B :  | ソーニョ、あー、 <u>ソーニョ</u> 。                                |

### ⑦ 辞書の使用

わからない言葉が出てくると、学習者が自ずと辞書を引く。

用例（季節の行事の話で）

|     |                           |
|-----|---------------------------|
| N1： | 日本の文化です。習慣です。             |
| B1： | 習慣？う～ん。（辞書で引く）            |
| N2： | 日本の伝統みたいな。文化。             |
| N3： | でも、文化っていうと意味が広くなっちゃうからね～。 |
| B1： | あ、習慣あった。これね。              |

### ⑧ 通訳

学習者の中の誰かに通訳をしてもらう。

用例（アルバイトの話をしていて）

|     |                                      |
|-----|--------------------------------------|
| N1： | 9時にアルバイトに行きました。                      |
| B1： | アルバイト、わかる？                           |
| B2： | ううん。（首を横にふる）                         |
| N2： | アルバイト e （B1 が B2 にポルトガル語でアルバイトを説明する） |
| B2： | あ～。                                  |

## 3.5 分析結果からの考察

コミュニケーション・ストラテジーの使用は、人によっては特定のストラテジーを頻繁に使うなどの傾向も見られたが、ストラテジーを使っても学習者が理解できなかった場合に、他のストラテジーを試して、学習者が理解できるまであきらめずに話続けていることもわかった。例えば、ジェスチャーで伝わらなかったら、絵を描いたり、辞書を使ったり、と別の方法に切り替えるという行動である。このように、ボランティアは、クラスで、量／種類ともに数多くのコミュニケーション・ストラテジーを使って活動を進めているということが明らかになった。

このように、ボランティアは、クラスで、量／種類ともに数多くのコミュニケーション・ストラテジーを使って活動を進めているということが明らかになった。

## 3.6 今後の課題

⑦辞書の使用や⑧通訳は、コミュニケーション・ストラテジーの最終手段である。しかし、それらをボランティア側から促すことはほとんどなく、学習者の自発的行動によるものである。辞書を引くことや通訳することで、学習者の日本語理解や習得に繋がるかもしれない。ボランティアがそれを制止してまで、「私のコミュニケーション・ストラテジーを」と言うわけにはいかない。

しかし、ここが日本語教室である以上、日本語で伝え合い、学習者には日本語を話す勇氣を持ち、自信をつけてもらいたいという思いもある。そのジレンマを抱えつつ、活動を行っている。

また、コミュニケーション・ストラテジーを意識するあまり、私たちの伝えたいという

思いが強くなってしまい、学習者自身のこと学習者が話したいことをもっと知りたいという考えが遠くに行ってしまったこともあった。「どうすれば、これを理解してもらえるのか。」に重きを置きすぎる危険性も考えなければならない。一度に大勢のボランティアがコミュニケーション・ストラテジーを使って、学習者に伝えようとする行為は、言葉のシャワーとも言えるべき、苦痛以外の何者でもないかもしれない。それはもはや、保見ヶ丘日本語教室のめざす、対等な立場での相互学習ではないのである。

私たちボランティアは、コミュニケーション・ストラテジー能力を身に付けるだけでなく、学習者に応じて柔軟な対応をするように心がける必要がある。

## 第4章 アンケート

### 4. 調査概要

私たちは、研究に取り組む中で、保見ヶ丘日本語教室のクラス活動が参加者にはどのように捉えられているのかを知りたいと考えた。第3章では、保見ヶ丘日本語教室の教室活動を、ボランティアの取り組みを通して振り返った。第4章では、アンケートを行い参加者の教室に対する評価を見てみることで、クラス活動における日本語学習の効果について考えていく。

#### 4.1 アンケートの調査目的、実施期間、対象者

アンケートの調査目的は、保見ヶ丘日本語教室の参加者の、教室参加の動機と教室に来てからの変化を調べることである。

実施期間：2007年12月9日～2008年1月13日

対象者：保見ヶ丘日本語教室の学習者 14名

保見ヶ丘日本語教室のボランティア 31名

#### 4.2 アンケート内容

保見ヶ丘日本語教室の学習者の母語を考え、アンケートは、ポルトガル語、中国語、スペイン語訳を用意し、対象者にそれぞれ実施した。また、ボランティアには、「いつ日本に来ましたか？」という問いを除き、その他は学習者版と同じ質問項目で実施した。

#### 4.3 アンケート結果

アンケート結果

対象者：保見ヶ丘日本語教室の学習者 14 名とボランティア 31 名

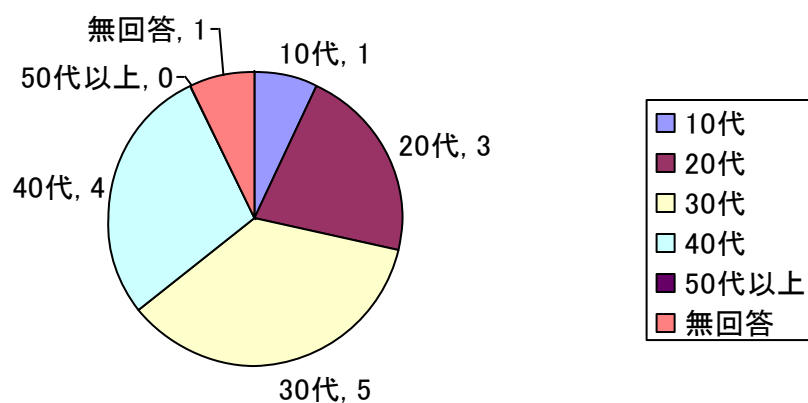
実施日：(学習者) 2007 年 12 月 9、16、23 日、2008 年 1 月 6、13 日

(ボランティア) 2007 年 12 月 9、16、18、23 日

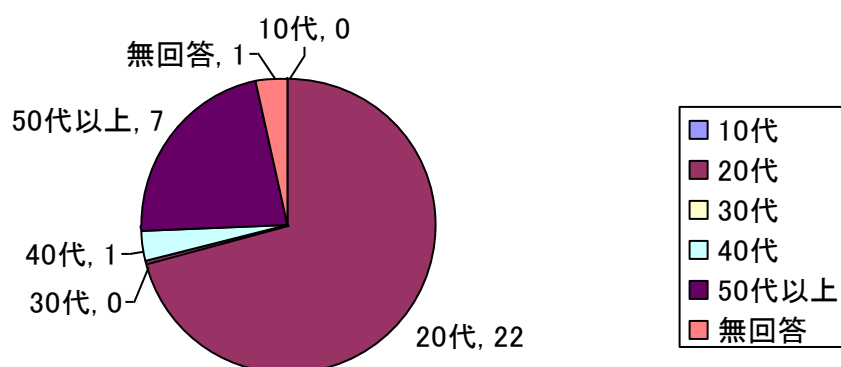
学習者の性別 男：8 名 女：6 名

ボランティアの性別 男：5 名 女：26 名

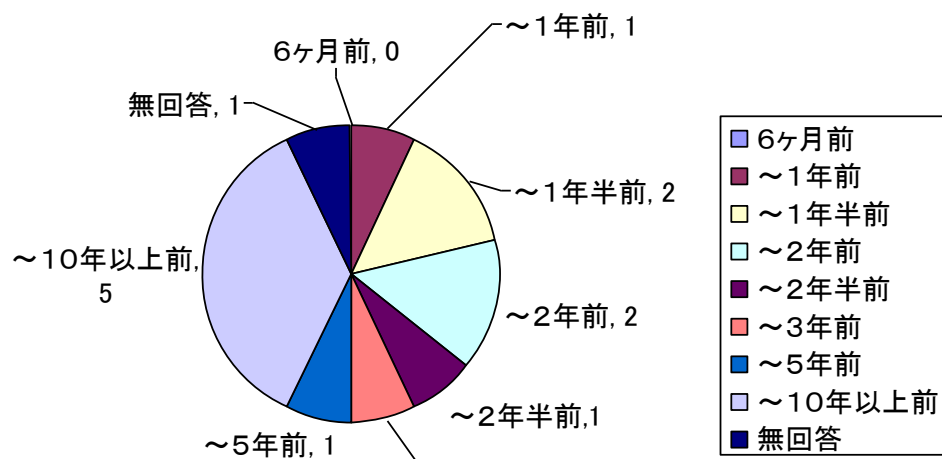
学習者の年齢



ボランティアの年齢

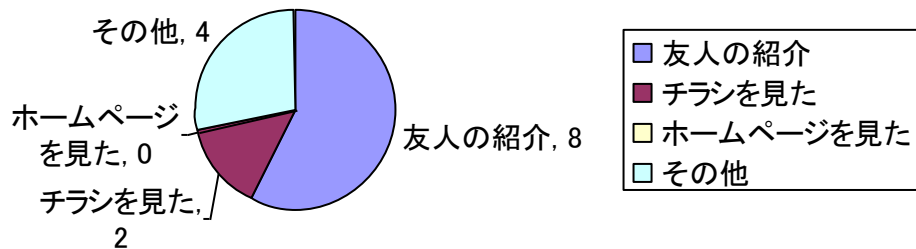


学習者の来日時期





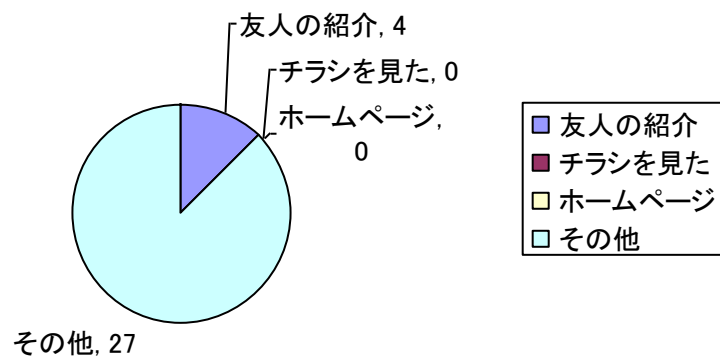
保見ヶ丘日本語教室に来たきっかけは何ですか？  
(学習者)



※その他回答

- ・ 豊田国際交流協会から
- ・ 教室の前を歩いて見つけた

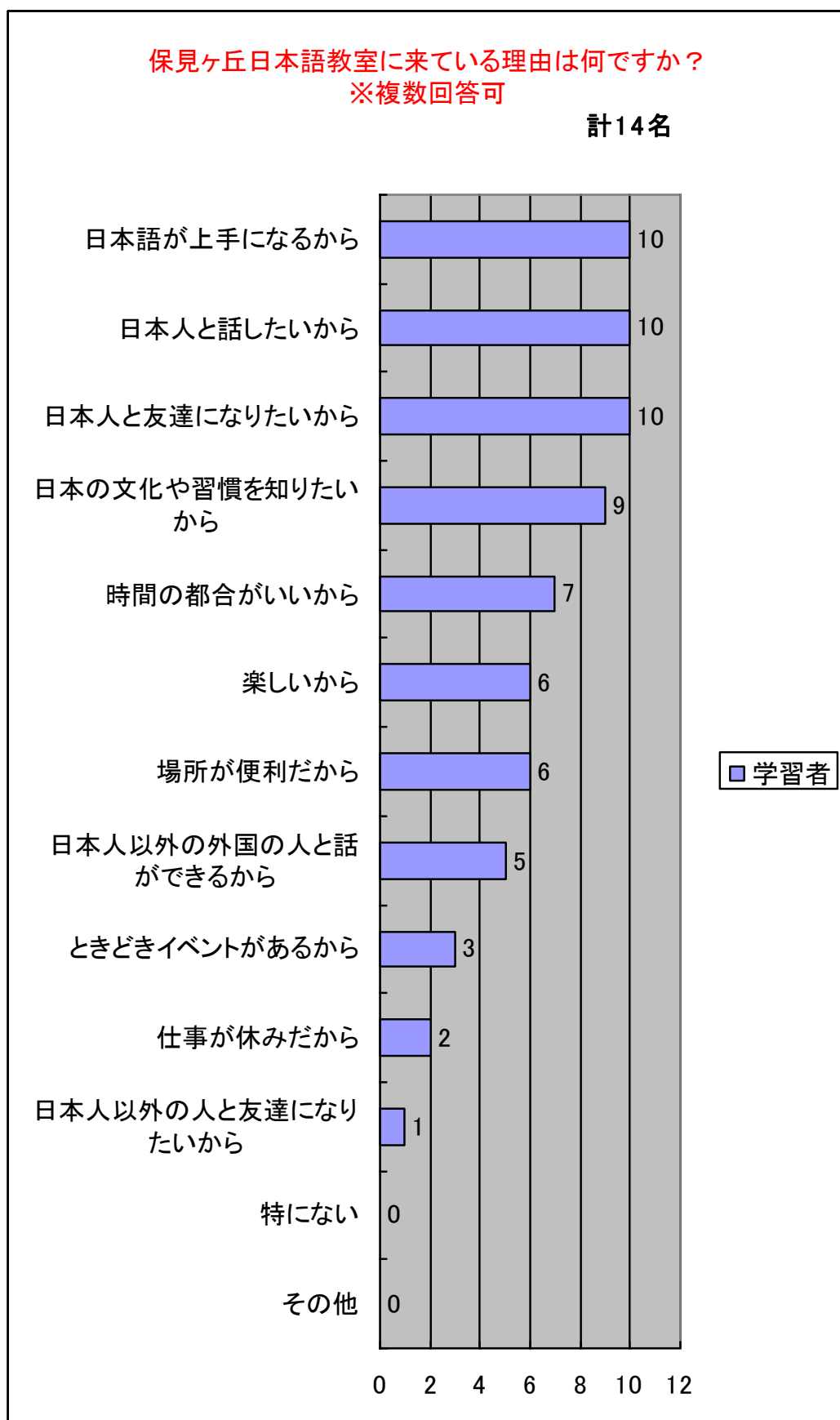
保見ヶ丘日本語教室に来たきっかけは何ですか？  
(ボランティア)



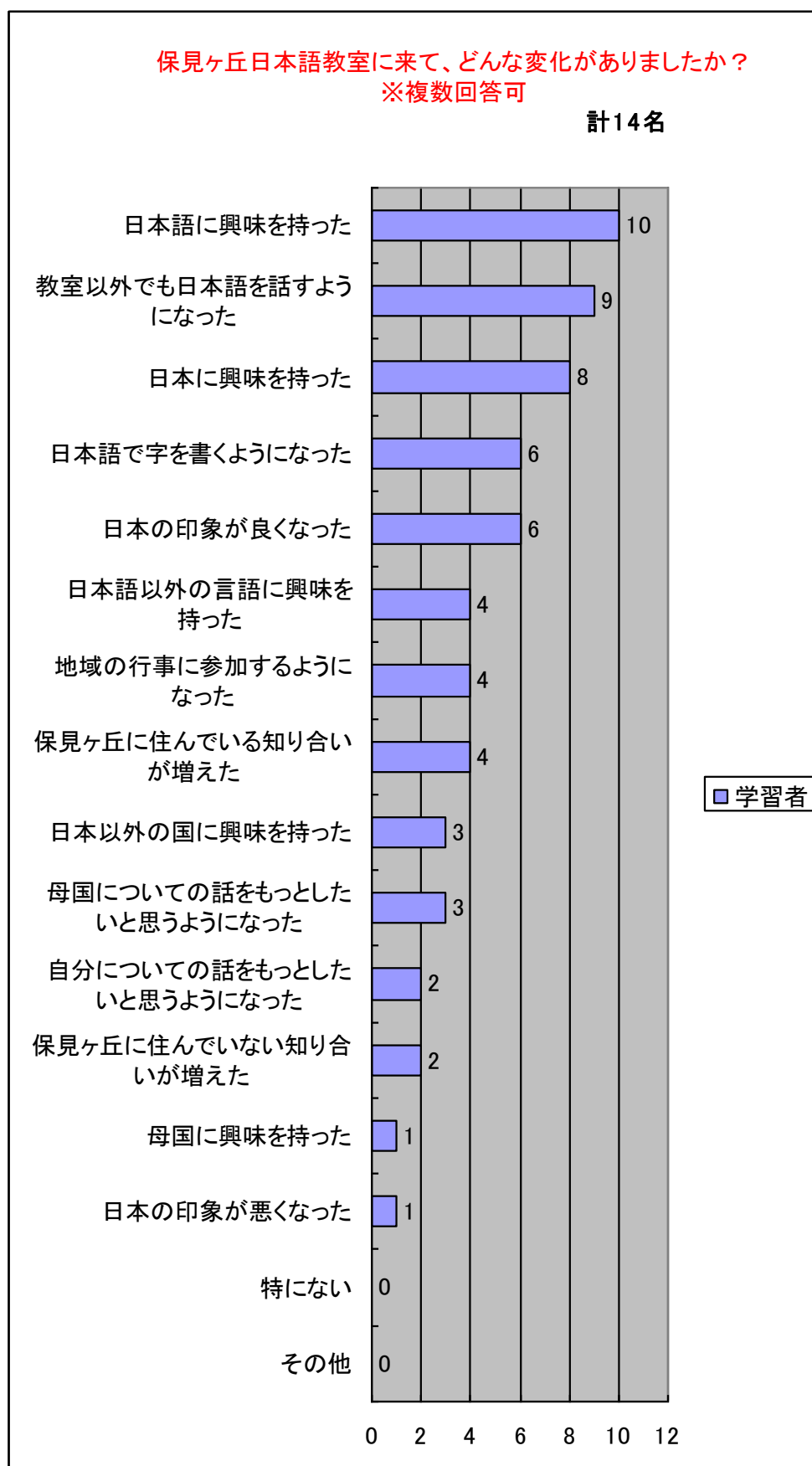
※その他回答

- ・ Aさんに活動内容を聞いて興味を持った
- ・ 以前から知っていて
- ・ 立ち上げに関わった
- ・ 大学の授業で
- ・ 日本語ボランティア募集を見た

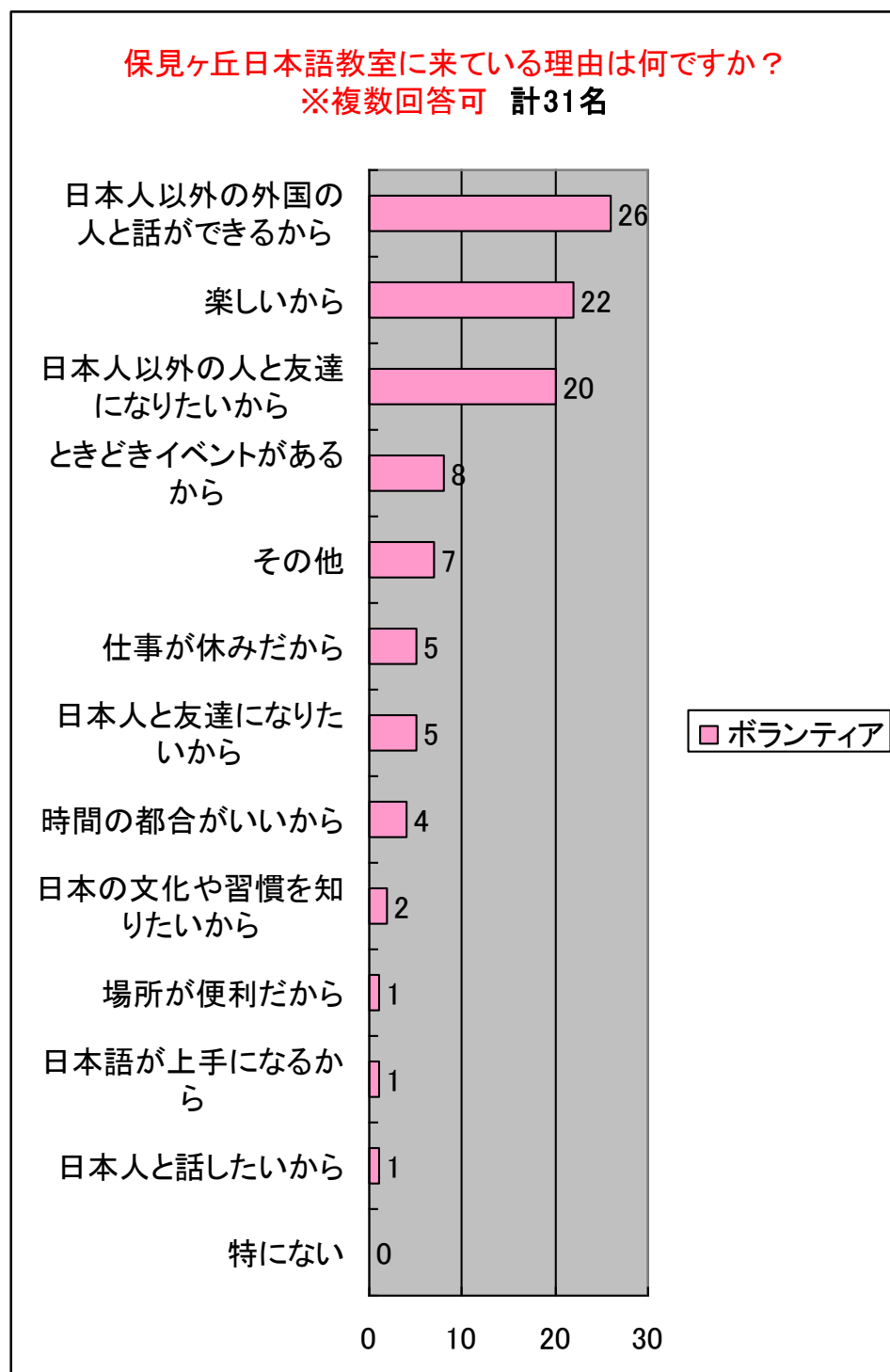
グラフ 1 (学習者)



グラフ 2 (学習者)



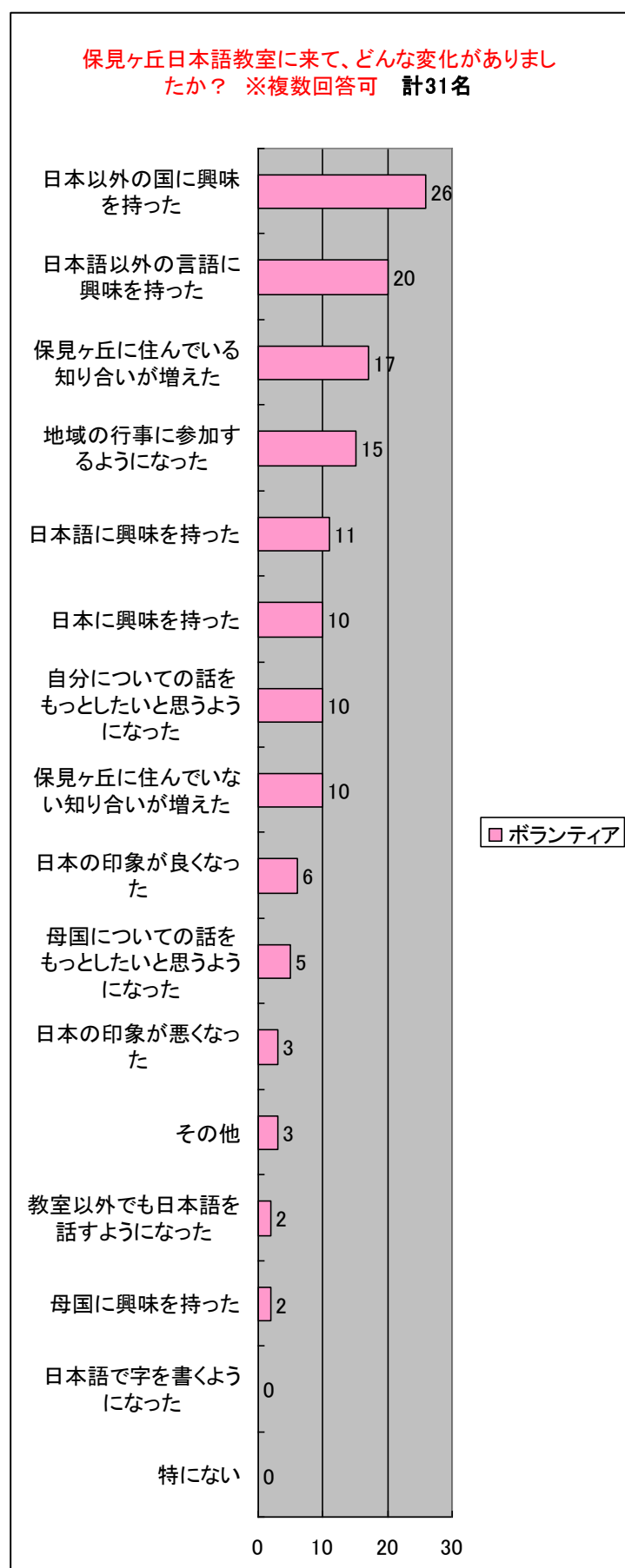
グラフ 3 (ボランティア)



※その他回答

- ・勉強になるから。
- ・仲間がいるから。
- ・新しい出会いを求めて。
- ・実習だから。
- ・他国の話が聞けて楽しいから。
- ・日本人とかに限らず、たくさんを知れるから。

グラフ 4 (ボランティア)



### ※その他回答

- ・外国人集住地域の問題の深刻さに気づかされた。又、楽しい、新しい発見もたくさん体験した。
- ・忙しくなった。
- ・日本に住む外国人の方の問題をより身近に考えるようになりました。
- ・保見以外でブラジル人とかに会って話しかけてみようかな、と思うようになった。

### それぞれの質問についての自由回答欄の回答

(学習者) ※学習者の回答は翻訳したものに統一

「保見ヶ丘日本語教室に来て、どんな変化がありましたか？」

- ・いろいろ考えることができてよかったです。
- ・教室以外でも日本語を話すようになったことに関してはいいことだと思います。でも、実習生が1年たつと教室に来なくなってしまうのはなぜだろうと思います。
- ・作業員以外の社会人に会って、とても良かったと思います。日本語教室に参加したおかげだと思います。
- ・以前から日本語を覚えたかったです。もっと文化を知って、もっと多くの人と会話したかったです。
- ・とてもうれしいです。もっとコミュニケーションがとれるように日本語を覚えたいです。時々他の人に話しかけられるのに、答えることができずショックだからです。

「保見ヶ丘日本語教室に来ている理由は何ですか？」

- ・お祭とかいろいろな行事など、日本人と外国人と一緒に参加して楽しかったです。
- ・教室を少なくとも週に2回はやってほしいです。水曜と日曜などです。もっと勉強したいです。
- ・読み書きを覚えることで、自分の可能性が広がり、仕事や旅行にしろ、買い物にしろ、国内を旅するにしても役に立ちます。私は日本がとてもきれいな国だと思います。だから日本中を旅したいです。

(ボランティア)

「保見ヶ丘日本語教室に来てどんな変化がありましたか？」

- ・私にとっては、外国人住民の方と交流することのできる貴重な場です。
- ・保見ヶ丘国際交流センターにもボランティアとして参加して、多くの人と出会っていろいろなことを学びました。日本でのマナーや生き方などです。
- ・ブラジルの方だけでなく中国、韓国、ベトナムの方にもお話ができました。
- ・日本語の分からない人たちのお手伝いできればと思いましたが、言葉以上のものを私の方が得ているのが現状です。

- ・日本語は思いの外難しかったです。
- ・何回も通ううちに学習者の人たちに顔を覚えてもらえるようになり、あいさつすることに幸せを感じています。
- ・学習者の人の方が、自分より日本に詳しいことが多くあります。
- ・保見の中で、積極的に活動している日本人とそうでない人がいるということです。前に役所の人 came 時に「日本語を話せるブラジル人」を探していたことに幻滅したこともありましたが。でも逆に消防署の人がラジオ講座でポルトガル語を勉強したり、ポルトガル語で挨拶したりしたいと言っていたことに感心したりしていました。（日本の印象について）
- ・人の話を聞くことを、意識的にできるようになりました。
- ・普段も日本語でわかりやすく相手に伝えるということを意識するようになりました。自分の会話する時の特徴について考えるようになりました。ポルトガル語で挨拶する言葉を教えてもらい、ときどきアルバイト先で、外国の方に使ってみたりします。
- ・初めて自分が提案したことが活動で採用されて学習者、ボランティアに喜んでもらえて嬉しかったです。自分自身の気持ちの変化が一番ありました。外国人と話すのは、はずかしい、怖いと思っていたけど、教室に来る人は初めて（初対面）でも自然に話しかけられるようになりました。
- ・アルバイト先などで、外国の方に対しても日本語を使って伝えようとするためにためらいを感じなくなりました。（保見に参加するまでは、相手の使用言語や英語を使わなければ、と何となく感じていました。）

「保見ヶ丘日本語教室に来ている理由は何ですか？」

- ・日本にいながら外国に接するチャンスが多くあり、楽しんでいます。
- ・大学の実習が終わっても時間の許す範囲で行きたいと思います。
- ・いろいろな人との出会いで自分が変わっていきます。
- ・顔や名前を覚えてくれて、声をかけてもらえると行く励みになります。
- ・最初は「実習」という理由だったのですが、次第に自分が楽しいから、みんなに会いたいからと自主的にくるようになりました。
- ・長い間中国で住んでいないため、教室の中国人の方と中国での出来事を話したりして楽しかったです。
- ・大学だと学科内でしか友達は作りにくいですが、保見で学習者・ボランティアともども知り合いが増えました。
- ・はじめは大学の単位のため、月に1回くらい（もしくはそれ以下）で行けばいいかなと思っていました。でも、自主研究をするため、意地でも行かなければならず、いつのまにか楽しいから、みんなに会いたいから行くようになりました。

#### 4.4 アンケート結果からの考察

学習者の結果を見ると、まず、保見ヶ丘日本語教室に来ている理由は何ですか？という質問に対して一番多かったのは、日本語が上手になるから、と日本人と友達になりたいからという理由だった。続いて多かったのは、日本人と話したいから、日本の文化や習

慣を知りたいからだった。

次に、保見ヶ丘日本語教室に来て、どんな変化がありましたか？という質問に対しては、日本語に興味を持ったという回答が一番多かった。二番目には、教室以外でも日本語を話すようになった、三番目には、日本に興味を持った、であった。ここで注目したいのは、教室以外でも日本語を話すようになったという点である。日本語を話すようになったということは、日本語が上達していることと、周りの人との交流、地域の人とつながるきっかけができている表れだと考えられる。学習者がこの教室に来ることで日本語が上手になると感じていることが明らかである。

次にボランティアの回答を見てみる。保見ヶ丘日本語教室に来ている理由は何ですか？という質問で最も多かった回答は、日本以外の国に興味をもったという項目で、二番目は日本語以外の言語に興味を持ったという項目であった。このことより、学習者だけでなくボランティアもこの教室で学んでいることがある、と考えられる。

## 第5章 コミュニケーション・ストラテジーの調査とアンケートからの考察

第3章のコミュニケーション・ストラテジーの調査と第4章のアンケート結果から、私たちは保見ヶ丘日本語教室のクラス活動では、学習者もボランティアも日本語でのコミュニケーションのとり方を学んでいる、と考える。

話すということは、相手の事を聞き、自分のことも伝え、コミュニケーションをとることである。最初にも述べたが、保見ヶ丘日本語教室のクラス活動の特徴はトピックに基づいておしゃべりすることを通して日本語を学ぶという形態をとっていることである。

今日はこれを教える、教わるという感覚で参加するのではなく、今日は何を話そう、聞こうという気持ちで参加している。「伝える」ということにおいては、学習者もボランティアも同じである。また、分かりたい、伝えたいという気持ちがあれば、日本語は学べると考える。

伝え方は人それぞれですが、この教室で交わされるのは、相手のことを知り、自分のことを伝える日本語なので、教室以外でも同じように使えるのではないかと考える。

アンケート結果より、この教室では日本語が上手になるから、という意見が多かったということは、実際に日本語が上手になっていると感じているのではないかと考える。その実感は日本語を学んでいるということを示していると考ええる。

保見ヶ丘日本語教室には『日本人に話しかける勇気を持とう』『分からないことは聞いてみよう・災害が起きても声掛けができ、たくさんの情報が得られるようになる』という考え方があある。学習者がこの教室で日本人に話しかける機会に触れ、日本語を話すことに自信をつけてくれるならば、実生活で役に立つと思う。



## 第6章 名古屋工業大学日本語ボランティア教室

### 6. 調査概要

名古屋工業大学では、研究者の家族を対象に日本語ボランティア教室が開催されている。名古屋工業大学国際交流センターがそのコーディネートの任にあたっており、そのクラスひとつを本学の日本語教育実習生が担当させていただいている。

本研究では、保見ヶ丘日本語教室同様、活動内容を IC レコーダーで録音し、分析した。その中で見えてきた、保見ヶ丘日本語教室と名古屋工業大学の日本語教室活動を比較し、相違点等に言及する。

#### 6.1 名古屋工業大学日本語ボランティア教室の活動内容

期間：10月15日～2月4日

時間：毎週月曜日 午前10時半～12時

担当者：中山由美・河口美緒・夏目寿三代

特別参加：桑原知恵（11月5日）・伊藤萌（11月19日）

藤森優（1月28日）

学習者：8人（インド人2名、アフガニスタン人2名、中国人3名、イギリス人1名）

#### 6.2 ストラテジーの特徴について

名古屋工業大学（以下、名工大）でのストラテジーの一番の特徴は、媒介語（英語）を多用していることである。これは、学習者の出身国がインド、アフガニスタン、中国などみんなバラバラであるためや、英語を理解できる方が多いためだと考えられる。

ここで、ストラテジーに媒介語（英語）を使った例を1つ挙げる。

[小児科の説明]（学：インドの学習者、ボ：ボランティア）

|    |                            |
|----|----------------------------|
| 学： | This means Child? しょうに・・・。 |
| ボ： | うーん、 <u>For child.</u>     |
| 学： | For child                  |
| ボ： | 科は・・・。                     |
| 学： | 小児科に行きます、Child.            |
| ボ： | <u>Child go to this...</u> |
| 学： | Child hospital.            |

この場面では、小児科を For child, Child go to this の2段階の英文で説明し、理解を得られている。

#### 6.3 教室全体の特徴、保見との比較

名工大では、学習者は研究者の家族（配偶者）で、参加人数は毎回4、5名と少人数であり、ほぼ固定されている。

シラバスは様々で、構造中心の場合、場面の場合、保見と同じ話題の場合もあった。活動内容や学習者のレベル、ボランティアの意向などでシラバスは自由に変更が可能であったが、最近では保見と同じように話題シラバスの形になる傾向があった。

進行役はいるものの、大抵すぐに2、3人のグループに分かれてしまうので、進行役のすることはプリント作成、日本語教育実習用 ML に教案を流す、活動時最初の10分くらいの導入程度である。

この活動の大きな特徴としては、進行役が毎回作成する教案に沿って、進めることである。そして、学習目標がはっきりと定められていることもいえる。自作のプリントを配布し、語句やイディオム、定型文を学習する時間も設けられている。また、学習者が限定されているため、実際に日常で使う表現、場面を想定でき、それに沿ったテーマが多く取り上げられている。具体的には、買い物（割引）、料理、病院、災害などである。もちろん、話が展開していき、教案通りに進まない場合もあるが、ボランティアは臨機応変に対応し、学習者の日本語支援を行っている。

少人数で同じ顔ぶれということで、学習者とじっくり向き合え、変化も把握でき、信頼関係も強いと感じる。

#### 6.4 学習者について～アンケート結果とボランティアの感想を踏まえて～

イギリス人の学習者が、名工大の教室について「他の日本語教室よりも日常で使う日本語を学べるのがいい」と答えていることから、進行役が考えるテーマは学習者に適合するものだということが分かる。そして、アフガニスタンと中国の学習者各2名ずつにアンケートを行ったところ、「日本語がちょっと分かるようになった。」、「教室以外でも日本語を話すようになった。」と答えており、学習者の日本語能力は向上していると言える。

また、「教室では日本語だけではなく、カルチャーやいろんなことを知ることができた良かった。知り合いも出来た。」という意見から、名工大の教室は、日本語を学ぶ場所だけではなく、学習者にとって楽しく、大切な場所のひとつだと言える。そのことは、「教室に来てからよく笑ったり、積極的になった学習者がいる」と、ボランティア自身が感じていることから分かる。

ボランティアの感想の中には以下の意見があった。

「学習者が日本人と接する機会が少ないと思った。お子さんが学校に行っていれば学校関係者と接点があるが、お子さんがいない人もいるし、妊娠していても病院は英語で対応している。それに旦那さんの方が日本語ができる。外に出る機会買い物などの日常生活だと思う。でも自転車に乗って毎週遠出する方もいた。」

「今日、特別に参加させていただいた。留学生の奥さんの集まりなので、話題もみんなが興味のある料理などにして工夫されているのかなと思った。実際に音声を聞いていて、（私みたいに）せかせかしておらず、じっくり学習者の話を聞いて、お互いに質問しては返す、発話量もだいたい半々かなと感じた。」

また、ボランティアへの以下の質問をした。

Q、学習者の日本語習得や自分のコミュニケーション・ストラテジーの変化などを感じたことはあるか？

A、「Cさんという3人のお子さんがいる方の日本語が伸びたと思う。旦那さんが日本語ができるのと、子どもの小学校の教科書や歌などでも日本語を学ぶ機会が多いからだと思う。あと、Bさんという平仮名も書けず、挨拶も知らなかった方が最後は積極的になってくれた。ルビをローマ字にして、平仮名を無理に覚えなくてもよいようにしたり、一緒にご飯を食べに行ったり、活動内容も「勉強」で日本語をたくさん話そう！といった感じではなく、ちょっと気を抜いた感じにしたのがよかったのかなと思った。

自分のコミュニケーション・ストラテジーの変化は、日本語初心者の方でも緊張しなくなったことである。英語という媒介語はあるが、基本的に辞書は使用せず、その中で毎週活動してきたので、何とかなるものなのだと思った。それから、人の話をよく聞くようになった。大半の学習者が保見の初級～入門レベルくらいだったので、発話や言葉を思い出すのに時間がかかるので、よく待つようになった。」

## 6.5 考察

名工大の日本語教室では、特定の学習者に対し、文法や話題、語彙などできること全てを使って最大限の日本語の支援をしている。より学習者にとって意味のある教室活動になるのかを常に考え、試行錯誤してきたことが、学習者からの評価にも現れる結果となったのではないかと考える。

# 第7章 日本語教室見学記

## 7. 見学概要

私たちは、副専攻課程として愛知県立大学の日本語教員課程を履修しており、教育実習として、豊田市の保見ヶ丘日本語教室（以下、保見）でボランティア活動を行っている。

今年は、実習をしている学生が自主的にグループを作り、大学から助成を受けて「自主研究」を行っている。この研究では、私たちが参加している保見ヶ丘日本語教室での交流活動について、アンケート調査や活動分析を行っている。

私たちは、実際に活動していく中で、日本語ボランティア教室の活動とその意義について、さらに興味を持つようになった。そして、ボランティアとして参加している教室だけでなく、名古屋近辺にある他の日本語ボランティア教室ではどのような活動が行われているのか、見学し、活動している人から直接話を聞きたいと考えるようになった。

そこで、長久手町国際交流協会ウェルカムにほん語教室と、名古屋市港区にある AULA DO KYUBA 九番団地日本語教室に見学依頼をしたところ、急なお願いにも関わらず快諾してくださった。

以下、見学内容について述べる。

## 7.1 長久手町国際交流協会ウェルカムにほん語教室

### 7.1.1 教室の概要

長久手町国際交流協会ウェルカムにほん語教室は、9年前に発足した。発足当初は、学習者1人からの出発だったそうだが、現在は多くの学習者やボランティアが在籍し、活発に活動している。

本教室の基本方針は次のようになっている。(以下、引用)

長久手町国際交流協会

『ウェルカムにほん語教室のご案内—基本方針と教室のあらまし』

(2008年1月改訂)

#### 1.活動の目的

長久手町、および周辺に住む外国人に対して、

- 1) 日本語学習の手伝いをする。
- 2) それを通じて、日常生活が円滑にできるように支援する。
- 3) 同じ地域に住む仲間として、お互いが理解しあう交流の場を提供する。

#### 2.ウェルカムにほん語教室の活動内容

##### 1) 教室の開催

- ・月3回土曜日(原則第1, 2, 3) 午前10時～11時30分
- ・長久手町役場西庁舎3階公民館で行なう
  - ・学習者は、長久手町国際交流協会会員の外国人
  - ・指導者は、長久手町国際交流協会にほん語教室ボランティア

##### 2) 日本語学習や交流を目的とした行事の開催

教室独自の行事を企画し実施すると共に、当協会の行事に積極的に参加する。例：学習発表会、研修会参加、町民まつり参加など

##### 3) 他のボランティア団体との交流

教室運営についての情報交換や勉強を目的に、他の組織と交流の機会を持つ。

#### 3.ボランティアについて

- ウェルカムボランティア：月1回のウェルカムミーティング(火)に参加し、教室運営にも携わる
- 土曜ボランティア：月1回の土曜ミーティングに参加する

両者共、教室運営に関する作業を分担して行う

#### 4. ボランティアの心構え

- ①単に教えるだけではなく、学習者からも学ぶという姿勢で接する。
- ②日本語学習の場として、学習者の学習意欲に対して、誠意を持って指導にあたる。
- ③日本語指導に関して、常に研鑽を怠らず、研修会やセミナーに参加するなど、向上心を持ちつづける。
- ④他のボランティアと協調しながら、クラスをよりよくするよう努める。
- ⑤クラスでの指導だけでなく、教室運営に関する作業にも協力する。

#### 5. ボランティアに求められるもの

- ①日本語教育について、関心を持ち、努力をしている人
- ②外国人と積極的に交流し、支援する行動ができる人
- ③偏見や差別意識を持たないで、広い視野を持って外国人と接することができる人
- ④活動の目的を理解し、他のボランティアと協調しながら、教室運営に協力していける人

(以上、引用終わり)

### 7.1.2. 見学概要

日時：1月26日（土）10:00～11:30

場所：長久手町役場西庁舎3階公民館

見学者(3名)：小谷貴美子（外国語学部フランス学科3年）

森本久美子（文学部日本文化学科4年）

藤森 優（外国語学部英米学科4年）

### 7.1.3. クラス活動を見学して

クラスは日本語能力別に8クラスに分かれており、そのうちのひとつは識字クラスである。主となる進行役が授業を進め、その他のボランティアは学習者をサポートしている。

初級レベルのクラスでは、テキストとして『みんなの日本語』を使用しているが、入門クラスは本教室自作のテキスト（NICのテキストを使いやすいようにまとめたもの）を使用している。また、上級クラスでは今回は教科書を使用していないようであった。上級クラスは、日本語能力試験一級の対策もしている。各クラスの授業内容は、構造シラバスによるものだった。

学習者及びボランティアは、原則として全日程出席することになっている。学習者の学習意欲は高いように感じた。ボランティアが、教材などの活動準備が完璧にされていたのには驚いた。

見学者の感想を以下に記す。

森本 久美子

26 日(土曜日)に、長久手公民館で開かれている日本語教室の見学をさせていただいた。教室は建物の 3 階で、広い窓からの景色もよく、明るい教室だった。

地図や広告、手作り教材など、学習者の理解を助ける為、様々な工夫がどのグループにも見られた。例えば、学習者に示すための、「話してください」という大きいカードの裏には英語・中国語・韓国語・ポルトガル語の 4 カ国語に訳した言葉が書いてあり、学習者にチラチラと見せながら会話をしていた。数字の練習のため、「どこに電話しますか?」「何番ですか?」という会話もしていた。構造シラバスの活動はもっとかたくりしいイメージだったが、結構雑談も多く、趣味や仕事の話で盛り上がっていて楽しそうであった。

日本語教室の代表者の方から、教室の運営、ボランティアの募集方法、イベント開催などの話を伺った。各地にある日本語教室を、また見学させてもらいたいと思った。ボランティアの方達の工夫には、色々なヒントがいっぱいあると思う。

小谷 貴美子

教室に入ると机が 8 つ並べられており、すでに何人かのボランティア、学習者がいた。お話を伺ったところ、クラスは全部で 8 つあるようだった。一つは識字クラスといって読み書き専門のクラスだった。あとは入門クラスが一つ、初級クラスはレベルごとに四つにクラス分けがされていた。それから中級クラスが一つ、上級クラスが一つあった。中級クラスのテキストは現在「みんなの日本語Ⅱ」を使用しているが、「みんなの日本語Ⅱ」を終了した人もいる。会話中心のクラスである。

私は上級クラスを見学させてもらった。ボランティアが 2 名、学習者が 2 名だった。最初は相撲の話をしていた。学習者の日本語会話レベルはとても高く感じた。それから日本語の助詞の話になった。「は」と「が」の違いや「に」と「で」の違い、また「に」と「へ」の違いを話し合った。「に」と「へ」の違いでは、「中国へ行きます。」と「中国に行きます。」では何が違うのかということで、視点が違うのだということを教えてもらった。その他にも、漢字の読み方がたくさんあって難しいこと(例:「生」の読み方は何種類あるか)や世界の言語の数はいくつあるかということ話をした。一人の学習者の方が日本のビジネスマナーを学びたいということで、その話もした。

日本語や日本に関することでも私自身知らないことが多かったのでとても勉強になり、楽しく参加できた。言語的な説明を分かりやすくする方法を学び、また日本の文化や社会についても幅広い知識があれば話題も広がることを感じた。

他のクラスは見学することができなかったが、教材がたくさん使われているようだったので参考になると思った。今回の見学はとてもよい経験になった。

藤森 優

私はまず入門クラスに参加した。はじめに進行役の方が座席表をホワイトボードに書き、「私は〇〇です。どうぞよろしくお願いします。」と自己紹介をした。それから「〇〇さん、(この方は) 誰ですか?」と進行役が聞き、「〇〇さんです。」とほかの人を紹介する活動をした。

その後、前回の復習に移った。「今日は、何月何日ですか?」「何時に起きましたか?」

と聞き、学習者が答えた。答えに詰まった時は、英語で聞き直したり、他のボランティアの方がサポートしていた。小さなホワイトボードも使用し、「昨日・今日・明日」を直線で分かりやすく図示したり、「今日は1月26日です。昨日は1月25日でした。」と現在・過去の使い方を説明されていた。教室活動で前回の復習ができるのはいいなと思った。そして、そういった学習が日本語習得につながっていくのではないかなと思った。

入門の学習者やボランティアが次々に増え、座席が埋まってしまったので、私は別のクラスに移った。次に参加したのは、初級クラスだ。『みんなの日本語初級』を使用し、「敬語」を学習していた。「おVください」「Nなさいます」、言葉の前に「お」や「ご」をつける(例:お茶やご飯)等、テキストに沿って問題を解いていき、時々プリントを使用し、確認を行っていた。学習者の方はどの問題もパーフェクトに答え、日本語能力の高さが窺えた。

「何か質問はありますか？」という進行の方の言葉に、『お休みになります』はいろんな使い方がありますよね？」とおっしゃった。進行の方は、少し休む時も言うし、横になっているだけで目をつぶっていない時も言うし、ぐっすり寝ている時も言うことを説明された。

私は例文を読む時や、ペアの相手役になる時に、テキストを音読した。初級クラスであるし、学習者の方も早いスピードで読んでいたのに、私一人だけフォーリナートークで、ゆっくりはしっかり読んでいた。この学習者には、早いスピードで読んだ方が良かったのかもしれないと後で反省した。初級レベルの学習者にはフォーリナートークで話さなければならないという考えに固定されているかもしれないと感じた。

私は長久手在住で、勤めている会社も長久手町内にある。私の職場には外国人労働者が多く、同じ課内の同僚や、他の部署にも様々な国籍の方がいる。以前同じ課にいた中国人の女性から、長久手町ウェルカムにほん語教室に通っていると聞いたことがある。彼女の話から、参加を楽しみにしている様子が窺えた。彼女は昨年中国に帰国してしまったが、大学の第二外国語で中国語を履修していた私は、彼女に中国語を教わり、大変お世話になった。彼女は日本語能力2級程度だったので、私が日本語を教えることはほとんどなかった。彼女は当時、ビジネス日本語のテキストで勉強していた。(それが日本語教室で使用しているテキストなのか、自習用のテキストかはわからなかった。)

ウェルカム日本語教室の存在は以前から知っていたが、なかなか訪れる機会がなかった。大学の日本語教育実習として保見でのボランティア活動をするうちに、地域の共生について深く考えるようになった。そして、自分の住んでいる地域を無視するわけにはいかないと思った。

今回の見学は大学の自主研究の一環でもあったが、私にとっては地域住民として活動する大きな一歩となった。3月から、この教室にボランティアとして参加することにした。本教室はボランティア研修等にも力を入れている。私自身、ボランティアとして、ここで何ができるか考えながら活動していきたいと思う。

## 7.2 AULA DO KYUBA 九番団地日本語教室

### 7.2.1 教室の概要

『九番団地日本語教室 AULA DO KYUBA ボランティア・ガイド』（2007.12 第6版）より引用

周辺に自動車部品工場や鉄工所、倉庫会社などが散在するこの団地に、外国人住民が増え始めたのは1995年頃からで、2005年12月末で入居世帯1475戸、うち外国籍住民547戸です。団地に隣接して市立保育園、小学校、中学校があり、ブラジル人を中心に多くの外国人の子どもたちが通っています。

2001年11月から始まった「九番団地日本語教室」は、九番団地で暮らす外国人住民が日本語や日本文化に慣れ親しむとともに、外国人住民同士そして日本人住民との交流がより活発になるような場を提供することを目的とします。そして、名古屋市の多文化共生まちづくりの拠点となるような活動の展開をめざしています。この目的を実現するために、市民と学生のボランティアによって運営される「地域日本語教室」がこの教室の基本的な特徴です。

「アウラ・ド・キュバ AULA DO KYUBA」というポルトガル語名称は、ブラジル人の総意で名付けられました。「九番」という言葉には居住地としての親しみがあり、ポルトガル語風にはKYUBAという表記になります。「九番（団地）の教室」という意味です。

2002年7月に第2期日本語教室が終了した後の夏期休暇中には、ボランティアが学習者に、学習者がボランティア講師にという逆の関係になって、ポルトガル語教室が特別に開かれました。

大好評につき、その後3回のポルトガル語教室を開催、また、文化交流教室（アミーゴス・ド・キュバ）や日本語能力試験対策講座など適宜開催しています。

## 2. 運営

### （1）運営主体

本教室は、開設当時、名古屋大学の今津研究室が運営の全面協力の立場をとっていましたが、2004年4月より地域住民主体の市民と学生ボランティアにより運営されています。

### （2）運営方法

〔時間・時期〕土曜日の夜7:00-9:00の2時間。15回程度を一区切りとして、第1期、第2期、・・・と積み上げる。第12期は、2006年9月9日～2006年12月16日（全15回）、第13期は、2007年1月13日～3月31日（全12回）、14期は、4月21日～7月28日（全15回）、第15期は9月15日～12月22日（全15回）の予定。第16期は2008年1月12日～3月29日（全12回）の予定。第17期は4月19日～7月26日（全15回）の予定です。



### 〔クラス分け〕

日本語能力と学習者の希望による「入門」「初級」「中級」の三クラス制。期間中、クラスの変更は自由。期間が終れば、次期のクラス進級などを検討。毎回の学習者には変動がある。

〔ボランティア〕申し込みは随時受け付け。教室を1～2度見学したあと、希望者はボランティア登録。事務局からの連絡は、基本的にメーリングリスト（ML）による。ボランティア同士の連絡もメールによる。メール・アドレスを持っていない場合は、ファクスによるが、事務局の負担増を考え、ボランティア登録する場合は、アドレスを取得してもらうことが望ましい。

### 3. ボランティアの役割

ボランティアの役割は以下の四つです。それぞれ特定の人に固定するのではなくて、だれもが順繰りにそれぞれの役割を経験します。

#### （1）ボランティア・コーディネーター

コーディネーターは、当日担当クラスの講師役として授業を進める役目です。コーディネーター役は、個人の希望や、クラス内での役割調整、事務局からの依頼などによって柔軟に決められます。経験者はすぐにでもこの役目を担当しますが、未経験者は（3）ボランティア・スタッフを何度か経験し、（2）記録係も経たあとで、この役割を担うことになります。コーディネーターは事前にクラスでの授業の内容を計画しておきます。

#### （2）ボランティア・スタッフ

ボランティア・スタッフは、講師役であるボランティア・コーディネーターの補佐役であり、指導助手のような立場です。コーディネーターによる指導の学習者役を演じたり、学習者の個別指導にあたります。

#### （3）記録係

記録係は受付で受け取った記録用紙に、授業の内容やミーティングの内容を記録し、MLで報告します。この報告は、次回以降に同じクラスを担当するボランティアが教室の状況を把握する重要な情報となります。

#### （4）受付

受付は、新規入会者やボランティア希望見学者などに応対します。通常は7時前から8時頃までが主な対応時間帯です。来訪者が無くなったら、適宜各クラスに入って、ボランティア・スタッフ役になります。

### 4. 学習の内容・方法

#### （1）内容

学習内容は、基本テキスト（『はじめのいっぽ』ポルトガル語版、スリーエーネットワーク）の主題に沿いながら、生活にもとづいた身近なトピックスからテーマを選び、実生活に役立つ日本語学習をおこなっています。新聞、雑誌、折込広告、ファーストフードのメニュー、年賀状、クリスマスカード、七夕飾りなど身近にあるものを使って、楽しく役立つ学習をしてきました。毎回の教室を独立的に考えて、あくまで日本語を身近に感じながら、日本語を学び続けたいという関心や意欲を高めてもらうように、学習者を支援していくことが基本的な指導方針です。

## （2）方法

学習方法は、コーディネーターの裁量に任されています。わりと多いのは、最初にコーディネーターが中心となってその日の学習内容について説明し、その後、ボランティア・スタッフを中心に個別あるいは2～3人のグループ学習を行い、最後に、全体で学習した事を発表し合い、確認するという、一斉授業と個別指導を合わせた方法です。

### 5. ボランティア・ミーティング

#### （1）毎回のミーティング

〔合同ミーティング〕

学習の後に、全体のミーティングを行います。感想や気づいたことなど各クラスごとに報告したあと、質疑応答、意見交換、そして事務局連絡などをおこないます。

#### （2）期間のミーティング

〔全体ミーティング〕

期間終了後に懇親会をかねて全体ミーティングを行います。反省を踏まえ、次期へ向けた課題を討議します。

（以上、引用終わり）

### 7.2.2. 見学概要

日時：1月26日（土）18:30～21:30

場所：九番団地一棟 第一集会所

見学者（3名）：畔柳友香（外国語学部フランス学科3年）

小谷貴美子（外国語学部フランス学科3年）

藤森 優（外国語学部英米学科4年）

### 7.2.3. クラス活動を見学して

見学の感想を以下に記す。

畔柳 友香

名古屋市にある九番団地日本語教室には、保見ヶ丘日本語教室で見かけるようなブラジ

ル人やペルー人、中国人の学習者の他にも、ベトナム人やバングラデシュ人の学習者がいた。九番団地の外から来ている学習者もいた。

レベルは入門、初級、中級に分かれてはいたが、中にはクラスを自由に行き来している人もいた。私が参加した初級クラスの参加者にも、すでに複雑な例文を作れる人が何人かいた。初級クラスはボランティア1人につき学習者2～3人で学習者が多いな、と感じた。

私が見学した日のテーマは「私たちの生活」で、布団、ポストといった単語から始め、休憩を挟んで後半は二語文を学習した。二語文を作る時、主語と述語、動詞を説明するのが難しかった。分からない言葉が出たとき、中国人学習者には漢字で説明できるからよい、と思っていたが、日本の漢字と中国の漢字の意味が一致しないことがあり、説明するのは思ったよりも難しかった。また、学習者に「文章を作る」という指示がうまく伝わらず苦労した。先に発表した学習者の文章を進行役のボランティアが復唱したり、他の学習者に「今〇〇さんは何と言いましたか？」というように確認を重ねていて、私の隣の学習者も理解していた。私は中国人学習者とブラジル人学習者の間に座り、分からない単語が出たときサポートに回ったが学習者同士で助け合う場面も見られた。

今回の見学では、私が普段活動している日本語教室とは国籍や人数の異なる学習者、異なる方法での活動を見ることができ、地域の日本語教室にはそれぞれのやり方があることを学んだ。

#### 小谷 貴美子

私は中級クラスに入った。19時になると学習者がだんだんと集まってきた。学習者が9名、ボランティアは私を入れると3名だった。教室は黒板を前に、机をコの字にして向き合うように座った。

進行役の方が作成されたプリントをもとに、活動を進めた。テーマは「占い」だった。プリントの文章には全てルビがふられており、難しい言葉には説明が加えられていた。

占いにも種類を説明しているときに、風水も占いなのかという質問が出た。私の隣の学習者の方に「風水」ってなに？と聞かれたので、「方角を書いて西に黄色いものを置くとお金がたまる」などと一生懸命説明した。難しかった。学習者はひらがなの読み書きできるようで、質問に対して自分の意見を書くこともあった。「あなたは占いを信じますか？それはなぜですか？」という問いだった。そしてその意見をみんなの前で発表した。また、日本語の文章を区切りながら読む練習もした。

8時過ぎに休憩が5分ほどあり、隣のブラジル人の学習者と少し話した。春、夏、秋、冬のポルトガル語を教えてもらった。

それから授業を再開し、動物が象徴しているものは何か？を考えた。そこで「知恵」という言葉が出てきて、使い方を隣の方に聞かれたが、うまく答えられなかった。

授業後にボランティアのミーティングがあった。連絡事項を伝え、次にクラスごとでミーティングをした。授業の感想と次の打ち合わせを話すものであった。

クラスを見学して、2時間分の内容がプリントにまとめられていたのすごいなと思った。言葉の説明の仕方や、学習者との関わり方、プリントの工夫、テーマに沿った学習の仕方など参考になった。クラス活動もとても楽しかった

見学をして、保見の教室とは違うところもたくさん発見した。いい体験をさせていただ

いた。

## 藤森 優

九番団地は保見団地と同じく外国人集住地域で、街並みも保見団地と似ていると思った。日本語教室が行われている第一集会所の場所がわからず困っていた私たちに、外国籍の団地の住民の方は親切に道を教えてくださった。おかげで、無事に教室にたどり着いた。

少し早く教室に着いたので、ボランティアの方や学習者の方とお話することができた。本教室には団地内だけでなく、他の地域からも来ている人がたくさんいるそうである。参加者は、学習者・ボランティア合わせて毎回 50～60 名で、国籍もブラジル・ペルー・ベトナム・バングラディッシュ・中国と様々であるという。活気あるクラス活動になるのだろうと想像できた。そして、その通りの活動であった。

教室活動が始まってから、広い室内はアコーディオンカーテンで仕切られ、入門と初級クラスが行われた。中上級クラスは、隣の部屋で行われていた。

私は入門クラスに参加した。保見での活動でも、入門クラスが私の中での課題なので、他の日本語教室へ行っても、入門クラスに興味を持ってしまう。

入門クラスは学習者 9 名、ボランティア 6 名、計 15 名。テーマは、数字とものの数え方、「こそあど」だった。進行役が用意したプリント 3 枚に沿って活動が行われた。ひらがなの上にローマ字が書かれ、絵も描いてあり、わかりやすく作られていた。

進行役の方は今回初めて進行をするとのことで、少し緊張されていたが、活動が始まると堂々としていて、学習者に伝えようと一生懸命だった。隣にはポルトガル語の通訳の方がいて、進行役の話や説明を通訳したり、ポルトガル語で質問した学習者にポルトガル語で答えるということをされていた。学校の授業で言えば、チームティーチングのようだなと感じた。しかし、通訳に頼りきっているというわけではない。通訳が毎回授業に出席することは可能なのか気になったので、後で質問したところ、ほとんど毎回出席しているそうである。

また、学習者同士でも分かる人が分からない人に教えたり、一緒に考えたりしていた。みんなで日本語を学習しているという雰囲気だった。進行の方も学習者のレベルに合わせて、出題するなどの配慮が見られた。

私はブラジルの女性 2 人の間に座り、一緒に学習した。2 人とも、入門クラスの中では日本語のレベルは高いようであった。はじめの自己紹介で「私の趣味・特技は〇〇です。」というところで、趣味と特技の意味がわからないようだったので、私が「上手なことです。好きなことです。」と言ってみたり、学習者本人が辞書を引いたりして、理解していた。「あ～hobby ね！」と学習者 2 人で言い合っていた。

「これは何ですか？」「それは〇〇です。」というクイズを出している時に、私が鬼やウサギの絵を描いたら、理解してくれたのでほっとした（私は絵が苦手だ）。以前、保見で「鬼」の話をしている時、「ファンタズマ」というポルトガル語が出てきたことを思い出し、学習者に「ファンタズマ！」と言ったら、「あ～おばけね。」と言われた。どうやら私は「鬼」＝「ファンタズマ」と勘違いして覚えていたことも判明した。

クラス活動終了後は、ボランティアのみ残ってミーティングが行われた。はじめに合同ミーティングがあり、「来週は豆まきをしましょう。」という話から、役割が次々に決まっ

ていき、後は連絡事項の確認等を行った。私たち見学者は今日の感想を述べた。その後、クラス別のミーティングがあった。再び入門クラスのメンバーで集まった。全員で活動を振り返り、良かった点やこうすればもっと良かったと思う点、学習者の様子等について話した。『こそあど』は日本語とポルトガル語では一致しない点があるから、難しい。だから混乱してしまう。」という話をはじめて聞いた。反省会というよりは、前向きな振り返り会といった感じだった。保見でも今後このような機会が増えれば、よりよい活動になるのではないかと思った。

### 7.3 見学のさいごに

今回このような機会を与えて下さった、長久手町国際交流協会ウェルカムにほん語教室と AULA DO KYUBA 九番団地日本語教室の関係者の皆様に、心よりお礼申し上げます。

## 第8章 名古屋工業大学日本語ボランティア教室での活動、日本語教室見学からの考察

第6章、第7章では保見ヶ丘日本語教室以外の教室活動に目を向けた。一言で日本語教室と言っても、学習者の国籍、性別、年齢層、来日理由は様々であった。同時に、教室活動のやり方には様々なやり方があることが分かった。その教室の特徴にあった日本語教室が開かれているのだと思った。

### 引用・参考文献一覧

外国人に日本語を教える本 田中望（1986） アスカビジネス p.62

長久手町国際交流協会

『ウェルカムにほん語教室のご案内—基本方針と教室のあらまし』（2008年1月改訂）

『九番団地日本語教室 AULA DO KYUBA ボランティア・ガイド』（2007.12 第6版）

### おわりに

この研究を通し、私たちは保見ヶ丘日本語教室だけでなく、色々なところへ出向き、活動に参加させていただくことで見聞を広めることができた。学部や学年を超えた仲間や、地域の住民の皆さんと共に悩み、考えた中で得たものは知識だけではない。他人や自分と向き合うこと、内省することは難しくもあり楽しくもあった。受身の机上の学習ではなく、体験を通して学び得たものは、私たちの今後により影響を与えてくれると信じている。

この研究を進めるに当たり、保見ヶ丘国際交流センター代表の楓原和子様をはじめとするボランティアの皆様、保見ヶ丘日本語教室の学習者の皆様、名古屋工業大学国際交流センターの山本先生、名古屋大学日本語ボランティアクラスの学習者の皆様、長久手町国際交流協会ウェルカムにほん語教室の吉田和子様をはじめとするボランティアの皆様、学習

者の皆様、AULA DO KYUBA 九番団地日本語教室代表の早川聡子様をはじめとするボランティアの皆様、学習者の皆様には貴重な研究の場を頂きました。

学習者へのアンケート作成の際には、本学英米学科の伊木ロドリゴさんにポルトガル語訳をしていただきました。

また、日本語教員課程の担当教員である宮谷敦美先生、東弘子先生、そして前期日本語教育実習講義担当の米勢治子先生にはいつも研究活動を力強くサポートして頂きました。

この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

(別紙) 日本語教員養成課程「日本語教育実習」実習生 25 名

|       |        |     |     |     |
|-------|--------|-----|-----|-----|
| 外国語学部 | 英米学科   | 4 年 | 岩原  | えり奈 |
| 外国語学部 | 英米学科   | 4 年 | 河口  | 美緒  |
| 外国語学部 | 英米学科   | 4 年 | 中山  | 由美  |
| 外国語学部 | 英米学科   | 4 年 | 波多野 | 敦子  |
| 外国語学部 | 英米学科   | 4 年 | 藤森  | 優   |
| 外国語学部 | 英米学科   | 4 年 | 宮崎  | 愛   |
| 外国語学部 | フランス学科 | 4 年 | 伊藤  | 萌   |
| 外国語学部 | フランス学科 | 4 年 | 岩井  | 朋美  |
| 外国語学部 | フランス学科 | 4 年 | 金丸  | 和可奈 |
| 外国語学部 | フランス学科 | 4 年 | 北島  | 由衣  |
| 外国語学部 | フランス学科 | 4 年 | 高倉  | 由紀  |
| 外国語学部 | フランス学科 | 4 年 | 武田  | 由佳  |
| 外国語学部 | フランス学科 | 4 年 | 夏目  | 寿三代 |
| 外国語学部 | フランス学科 | 3 年 | 畔柳  | 友香  |
| 外国語学部 | フランス学科 | 3 年 | 小谷  | 貴美子 |
| 外国語学部 | スペイン学科 | 3 年 | 桑原  | 知恵  |
| 外国語学部 | 中国学科   | 4 年 | 坂田  | 雪恵  |
| 外国語学部 | 中国学科   | 4 年 | 篠澤  | 綾香  |
| 外国語学部 | 中国学科   | 4 年 | 長谷川 | 知南  |
| 外国語学部 | ドイツ学科  | 4 年 | 三品  | よし子 |
| 外国語学部 | ドイツ学科  | 4 年 | 山田  | めぐみ |
| 文学部   | 日本文化学科 | 4 年 | 森本  | 久美子 |
| 文学部   | 日本文化学科 | 3 年 | 堀江  | 春奈  |
| 文学部   | 児童教育学科 | 4 年 | 王   | シン  |
| 文学部   | 児童教育学科 | 4 年 | 神谷  | 美法  |

## 【第4部】 私たちの思い

第4部は、実習生が自主的に作成したページです。

1年間の思い出が綴られています。

# 実習をふりかえって

平成20年3月 希望に満ちた門出の日 この良き日に 私は日本語教育実習を修了します。長いようで短かった がむしゃらだった一年間 本当にたくさんの思い出ができました。

## ～保見ヶ丘日本語教室編～

不安も少しあったけれど 期待に胸を膨らませ訪れた 保見ヶ丘日本語教室

地域行事に初参加 草もち大会 餅つきや 出店のお手伝いで 大忙しでした

初めての流しそうめん 七夕祭り 短冊に願いをこめて

浴衣美人と甚平王子の笑顔がキラリ☆

長蛇の列で大盛況だった ブラジルのお肉シュハスコ出店 夏祭り

最後まで諦めなかった 富士登山 みんなで拝んだ御来光 忘れないよ あの景色

自分や誰かの言動を 振り返ることの大切さを学んだ ボランティア研修会

防災に関することを体験から学んだ 防災フェスティバル

初めての餅つき体験にエキサイト 自治区祭り

『私の想い』をテーマに 学習者Hさんがスピーチした TNNシンポジウム  
見事受賞したユーモア賞 どこぞの追っかけ並みの応援団も出動しました

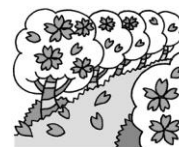
歌や演奏 出し物が盛り沢山 テーブルにはごちそうが並んだ クリスマスパーティ

『夢』『愛』『就職するぞ』好きな言葉や目標を何度も練習した 書初め

鬼は外 福は内 一年健康に過ごせるように豆を巻いた 節分

志望校に見事合格したU君ファミリーからご招待された バーベキュー

桜舞い散る道をみんなで散歩した お花見@鞍ヶ池公園  
立ち寄ったお店で 花より団子な 私たち





## ～その他の活動編～

シラバスで悩み 教案を何度も練り直した 名古屋工業大学  
女性ならではの会話で 親しくなれた 楽しい活動でした

見学とクラス活動に参加させていただいた AOTS  
研修生の皆さんには 言語を学ぶ姿勢を教わりました



外国籍児童が多数在籍する現場を見学させていただいた 東保見小学校  
子ども達の笑顔と 勉学にいそしむ姿が印象的でした

意外と厳しい日本語教員課程の授業の数々  
みんなボランティアと課題、卒論の両立大変だったよね  
特に自主研究で中心となった人達には感謝です！  
ああでもない こうでもない 白熱した議論  
答えが一つではない難問に 頭を悩ませたこともありました



コミュニケーションの難しさと楽しさを実感し  
忘れた頃にやってきた カルチャーショックとジェネレーションギャップ  
違いを認め合うことが大事なんだなあ

「もうダメだ」と諦めかけたけど 苦楽と共にした仲間だから乗り越えてこれたんだよね  
振り返ればきりがなほどの すてきな思い出の数々  
これから先の人生で この実習で身についたことは きっと役に立つでしょう  
継続して保見ヶ丘日本語教室に残る人 地域の教室に参加する人もいます



時に厳しく 時に優しく 指導して下さった先生方 本当にありがとうございました  
知的好奇心で自主的に取り組み 本当の学問を学べたこと とても嬉しく思います

「会うは別れの始まり」とよく言いますが 離れていても私たちの絆は永遠に不滅です！  
この実習でお会いした 全ての皆様に感謝いたします  
そして これからもよろしくお願いします

今日は旅立ちの日 希望に満ちた未来に向かって 大きく羽ばたきます！

愛知県立大学 日本語教員養成課程 日本語教育実習生一同



# 私の異文化体験

学習者やボランティアからいろんなことを教わりました。

「百聞は一見にしかず。」一度でいいから見てみたい！

教わった文化や習慣を紹介します。

(もちろん個人的な意見もあります。ご了承ください。)

- ・ ブラジルではバーベキューは肉だけである。
- ・ ブラジルのサンタは夏服。
- ・ ブラジルのお米は、日本のお米より大きい。
- ・ ブラジルでは、家族・親戚の誕生日は盛大にパーティをすること。結果、毎月パーティをしているとのこと。
- ・ ブラジルでは、歯磨きは歯ブラシを使わず、手で磨く。
- ・ ブラジルの家庭料理は、豆を煮込んだ料理。
- ・ ブラジルでは、5月に結婚するのが良いとされている。
- ・ ブラジルでは、友達の付き合いは親戚の付き合いのように深い。
- ・ ブラジルでは、思ったことははっきり言う。
- ・ スペイン語とポルトガル語はよく似ていると言われるけど、ブラジルでスペイン語があまり好まれていないと聞いて驚いた。
- ・ ペルーでは、きのこはあまり食べない。
- ・ アフガニスタンでは、イカは食べるけど、タコは食べない。海老、海草も食べない。
- ・ イギリスでは、みかんを「さつま」とよぶ。
- ・ インドでは、ホロスコープで物事を決める習慣がある。
- ・ インド料理の「ビリヤニ」の作り方を教えてもらった。
- ・ 韓国では、「初雪セール」がある。
- ・ 韓国には月に一度「恋人の日」がある。
- ・ 中国の正月は、日本より賑やかで踊ったり歌ったりする。
- ・ 中国の年賀状には、有名人を載せる（スポーツ選手等）。日本のように、右から左ではなく、左から右に書くらしい。
- ・ アフガニスタンの新年は3月である。
- ・ タイでは、4月に「水かけ祭り」がある。近所の人や周りの人みんなを巻き込んでベタベタになるまで水をかけまくるらしい。理由は「暑いから」とのこと。かけまくるらしい。
- ・ 保見団地では、8月に盛大な夏祭りが行われる。シュハスコ（肉）の屋台は長蛇の列。

## 実習生川柳 ～よみがえる記憶～

苦しんだ ことほどずっと 忘れない  
保見が丘 最後までやれ 実り多々  
簡単な ことほどきつと 難しい  
駅からの 道のりなければ いいのにな  
何のため？ あなたのことが 知りたくて  
保見までの 長い道のり 耐えぬいた  
「伝え合い」 シンプルだけど 奥深い  
たくさんの 笑顔に会える 保見ヶ丘  
気がつけば あっというまの 一年間  
保見が丘 笑顔あふれる 出会いの場  
バイト先 意外と来ていた 学習者  
受信箱 ほみにほメールが 盛りだくさん  
その笑顔 あなたとともに 素敵だね  
長い列 気づけば足らず シュハスコ焼いて

完売したよ 暑い夏の日

## 実習生に聞きました

### 「この1年の実習を漢字一字で表すと？」

変

- 新しい世界に飛び込んで、たくさん考えて、考え方が変わった。
- たくさんの人に出会い、自分が持っていた考えや気持ちが変わっていった。何かに挑戦すれば、うまくいかないこともあるが、それ相応の何かが得られると実感した一年間だった。

悩

- 実習は全てのことが初めてで、どれについても悩んでいた。でもなれてくると、失敗してもいい！伝え合うっていう姿勢が大事！と思って取り組めるようになった。

驚

- 毎回新しい発見（文化の違いとか、学習者が変な日本語を知っているとか）があること。

得

- 色々な体験をして、色々得た一年だった。
- いろんなことを学び得たし、こういう実習の場があり、参加することができて得したなあと思ったから。

多

- 実習先で知り合い、友達になった人が多くなった。教案で悩むことも多ければ、楽しいことも多かった。自主研究で悩むことも多ければ、学ぶことも多かった。

柔

- 実習生、学習者、実習先の方と会話や話し合いを重ねる中で様々な考え方に会ったので、私も少しは柔軟な考え方ができるようになったかな、と思うから。

絆

- 学習者とはもちろん、ボランティア同士でもいろんなことを話して、強いつながりができたと思う。私自身は、「ことばの教室」を通して、子ども達との関係が生まれ、教室の先生方とも様々な話をして、強いつながりができたと感じている。

知

- 自分の新しい面を知った。日本語活動の現場を知った。大変さ、楽しさ、感動があることも知った。たくさんのことを知った。

会

- この実習で多くの人と出会えたから。

学

●先生、他の実習生、ボランティア、学習者など多くの人に教えてもらうことが多かったから。それらの出会いから多くを学ばせてもらったと思う。

共

●学習者に教えるだけでなく、いろんなことを教えてもらって、実習をおしていろんなことを学んだから。

●「共生」について考えた。「共に」何かをする楽しさを感じた。

実

●実習の「実」。実りのある1年だった。

肉

●保見に行く度、BBQのいい香りがして、毎回お腹を空かせていたから。

宝

●この一年間、本当にいろんなものを吸収できた。私にとっては素敵な思い出にもなり、宝物にもなる。

耐

●忍耐力の「耐」。実習で大変なことがあって、耐える力が必要だと思った。

親

●保見は親しみやすく、親近感のある場所だった。

楽

●いろいろ考えたり、悩んだりしたが、やっぱり「楽」。

●楽しかった。保見は毎回行く度にいろんな人との会話を楽しむことができたし、授業は大変だったけど、みんなで議論したり、考えたりするのも楽しかったから。

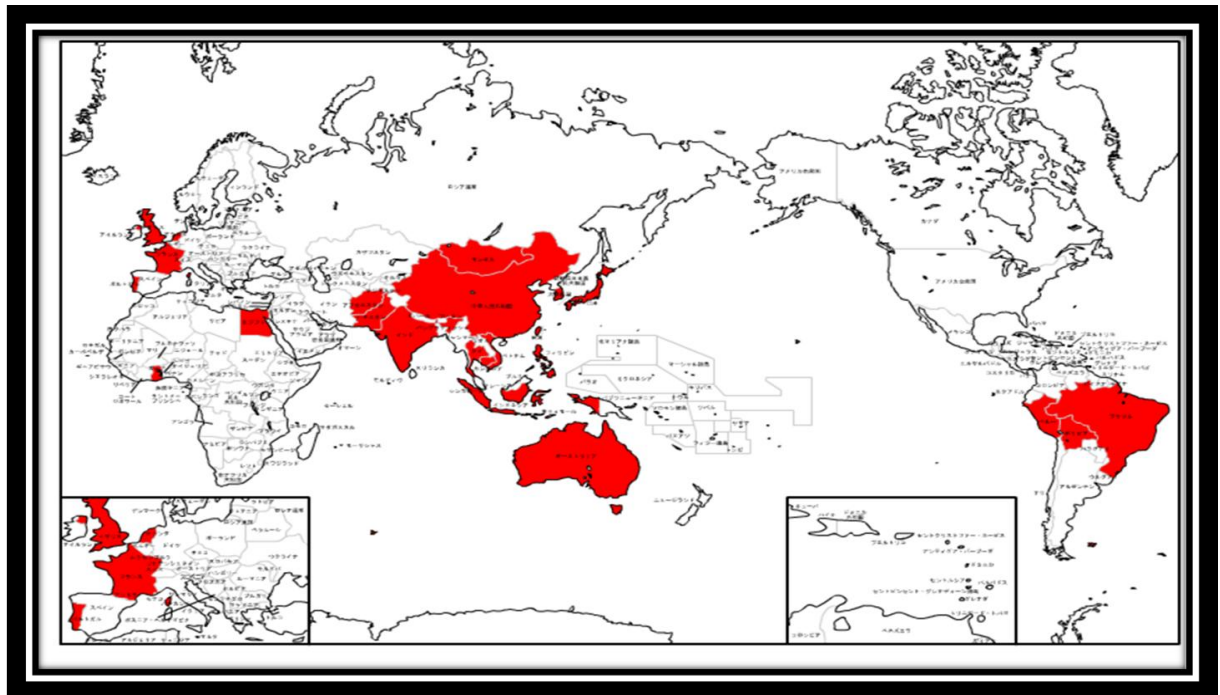
彩

●この実習は、私の人生の彩りになった。

繋

●すべてがつながってる、っていう実感！

この実習で出会った学習者やボランティアの出身**は？**



|         |         |       |        |
|---------|---------|-------|--------|
| アフガニスタン | イギリス    | インド   | インドネシア |
| エジプト    | オーストラリア | オランダ  | ガーナ    |
| 韓国      | カンボジア   | タイ    | 台湾     |
| 中国      | 日本      | パキスタン | フィリピン  |
| ブラジル    | フランス    | ベトナム  | ペルー    |
| ボリビア    | ポルトガル   | モンゴル  |        |

# 2007 年度日本語教育実習報告書

2008 年 3 月 27 日発行

愛知県立大学日本語教員課程  
東弘子・宮谷敦美

〒480-1198 愛知県立大学外国語学部  
Tel. +81-561-64-1111

印刷 株式会社コームラ

本報告書は、愛知県立大学諸実習経費により刊行された。